

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 12

TAKI SITE  
滝遺跡第20・21地点

NAGAMIYA SITE  
長宮遺跡第41地点

MATSUYAMA SITE  
松山遺跡第62地点

NAEMAHIGASHIKUBO SITE  
苗間東久保遺跡第26地点

2014年3月

ふじみ野市教育委員会

ふじみ野市文化財調査報告 第13集

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 12

TAKI SITE  
滝遺跡第20・21地点

NAGAMIYA SITE  
長宮遺跡第41地点

MATSUYAMA SITE  
松山遺跡第62地点

NAEMAHIGASHIKUBO SITE  
苗間東久保遺跡第26地点

2014年3月

ふじみ野市教育委員会



## はじめに

ふじみ野市は平成17年10月の合併により新たな歴史を歩みはじめました。

市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの長い歴史をみることができます。それぞれに特色のある地域の歴史も、一つの大きな流れとして捉えると、改めてこの地域の繋がりや関係の深さを感じます。そして、現在のふじみ野市も歴史的に大きな画期にあるといえます。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きな変化をしてきました。そして今、合併により更なる変貌を遂げようとしています。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることができました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。長い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本報告書は、民間の開発業者からの委託を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁・埼玉県教育委員会生涯学習文化財課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会

教育長職務代理者 高山 稔

## 例　　言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、発掘調査5件の報告書である。
2. 民間開発を原因として行なった5ヶ所の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となつて行った。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業、報告書刊行に伴う費用は各開発原因者の委託費により行つた。

遺跡名・地点名	委託者	協定期間
滝遺跡第20地点	星野正巳・吉野長	平成24年5月17日～平成27年3月31日
滝遺跡第21地点	横山誠治	平成24年6月18日～平成26年3月31日
長宮遺跡第41地点	代表 宮寺聖治	平成24年6月11日～平成26年3月31日
松山遺跡第62地点	柳川嗣嗣	平成24年7月23日～平成26年3月31日
苗間東久保遺跡第26地点	柳川井不動産	平成22年6月22日～平成26年3月31日

### 3. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	
担当課	生涯学習課文化財保護係（～2013年3月31日）	
教　育　長	矢島秀一（2010.3.19～2014.3.18）	文化財保護係調査担当者 高崎直成（～2013.3.31）
教育長職務代理者	高山 稔（2014.3.19～3.31）	鍋島直久
生涯学習部長	綾部 誠（2012.4.1～2013.3.31）	庶　務　担　当 岡健二（2013.4.1～）
教　育　部　長	高山 稔（2013.4.1～）	国分英良
生涯学習課長	桜井信枝（2012.4.1～）	柳澤健司
生涯学習課主幹	坪田幹男（2013.4.1～）	発掘調査員補 越村 篤
文化財保護係長	橋本鶴人（2011.4.1～2013.3.31）	嘱　託　員 配島結華（2012.4.1～2013.3.31）
	高崎直成（2013.4.1～）	臨時の任用職員 高橋京子

4. 本書作成の作業分担は事実報告及び遺構の執筆を高崎、遺物の執筆を笹森健一（ふじみ野市文化財保護審議会委員）が行つた。また図版作成の一部と石器実測の一部を㈱東京航業研究所に委託した。報告書作成全般にわたり、鍋島、越村の協力を得た。

本文・挿図割付：高橋けい子 遺物接合・復元：中田藤子 土器実測・拓本：石垣ゆき子 石器実測：大久保明子  
遺構・遺物トレス：小林登喜江 遺構写真：高崎直成、越村篤 遺物写真：大久保明子  
図版作成：石垣ゆき子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、鈴木千恵子、青山奈保美 松平静

5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜つた。（敬称略）

会田明、阿部常樹、天ヶ嶺岳、荒井幹夫、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、加藤秀之、樋原勝、樋原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、酒井智晴、笹森健一、佐藤啓子、佐藤良博、塙野賀一、鈴木清、田中信、丹治剛、角田史雄、中村愛、原口雅樹、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松本富雄、柳井章宏、埼玉県教育委員会市町村支援部生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館、㈲文化財C.O.M.、㈲アルケーリサーチ、㈱東京航業研究所

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉（敬称略） 明石千とせ、新井和枝、飯塚泰子、壹岐久子、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、臼井孝、金子君子、川中ひろみ、菊口繁子、小林こすい、西城満朗子、坂本民子、佐久間ひろ子、佐竹里佳、篠崎忠三（故人）、杉本佳久、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、沼澤岩男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、増沢勝実、山内康代、米田昇三、若林紀美代

〈整理作業参加者〉（敬称略） 青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、松平静

7. 出土土器について、下記の皆様から貴重な御教示を賜りました。記して謝意を表する次第です。(敬称略)  
新井和之、大矢道則、金子直行、鈴木徳雄、高野博光、塚本師也、早坂廣人、和田晋治

## 凡　例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60, 1:30 炉などの詳細図 1:30

土器実測図 1:4 土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4, 2:3 銭 1:1

(2) 遺構断面図の水系高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

擾乱 地山(ローム) 焼土 粘土 朱 煤

土器 ● 石器★ 黒曜石・チャート▲ 磨○

(4) 土器断面図は、■が纖維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

(5) 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180 度回転させて復元実測したことを示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

## 埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群 12 目次

はじめ	1	第 4 章	長宮遺跡第 41 地点の本調査	36
例　言	ii	I	遺跡の立地と環境	36
凡　例	iii	II	本調査に至る経過と調査の概要	36
目　次	iii	III	遺構と遺物	42
挿図、表、写真図版目次	iv	第 5 章	松山遺跡第 62 地点の本調査	71
第 1 章	ふじみ野市の遺跡	I	遺跡の立地と環境	71
I	ふじみ野市の立地と環境	II	本調査に至る経過と調査の概要	71
II	市内の遺跡	III	遺構と遺物	80
第 2 章	滝遺跡第 20 地点の本調査	第 6 章	苗間東久保遺跡第 26 地点の本調査	84
I	遺跡の立地と環境	I	遺跡の立地と環境	84
II	本調査に至る経過と調査の概要	II	本調査に至る経過と調査の概要	84
III	遺構と遺物	III	遺構と遺物	92
第 3 章	滝遺跡第 21 地点の本調査	写真図版		97
I	本調査に至る経過と調査の概要	抄録		128
II	遺構と遺物			

## 挿 図 目 次

第1図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	1	遺物出土状況図(1/30・1/60)	45
第2図	ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000)	3	長宮遺跡第41地点J11号住居跡(1/60)	46
第3図	淹遺跡の地形と調査区(1/4,000)	5	長宮遺跡第41地点J11号住居跡炉(1/30)、 遺物出土状況図(1/60)	47
第4図	淹遺跡遺構分布図(1/2,000)	7	長宮遺跡第41地点J12・J13号住居跡(1/60)	48
第5図	淹遺跡第20点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)	8	長宮遺跡第41地点J12・J13号住居跡遺物出土状況 図(1/60)、J13号住居跡炉(1/30)	49
第6図	淹遺跡第20地点H30号住居跡 掘方・土層図(1/60)	9	長宮遺跡第41地点J14号住居跡遺物出土状況 図(1/60)、炉(1/30)	50
第7図	淹遺跡第20地点H30号住居跡遺物出土状況 図(1/60)、竈・掘方(1/30)	10	長宮遺跡第41地点H31号住居跡出土状況図(1/60)	51
第8図	淹遺跡第20地点H30号住居跡遺物出土状況図 (1/30)、井戸・土坑・ピット(1/60)	11	長宮遺跡第41地点燒土・炉穴・井戸・ピット(1/60)	53
第9図	淹遺跡第20地点H30号住居跡出土遺物(1/4)	12	長宮遺跡第41地点落とし穴・土坑・ピット(1/60)	54
第10図	淹遺跡第21地点遺構配置図(1/300)、ピッ ト拡大図(1/200)	14	長宮遺跡第41地点土坑(1/60)	55
第11図	淹遺跡第21地点H31A号住居跡(古住居) ①(1/60)	16	長宮遺跡第41地点土坑・ピット(1/60)	56
第12図	淹遺跡第21地点H31A号住居跡上層図(古 住居)②(1/60)	17	長宮遺跡第41地点ピット①(1/60)	57
第13図	淹遺跡第21地点H31B号住居跡(新住居) ③(1/60)	18	長宮遺跡第41地点ピット②(1/60)	58
第14図	淹遺跡第21地点H31B号住居跡(新住居)④ (1/60)、炉・鍛冶炉・ピット(1/30)	19	長宮遺跡第41地点ピット③(1/60)	59
第15図	淹遺跡第21地点H31号住居跡・住居内ピッ ト土層説明	20	長宮遺跡第41地点土坑・ピット・溝(1/60)	60
第16図	淹遺跡第21地点H31号住居跡遺物出土状況 図(1/60)	21	長宮遺跡第41地点土層説明	61
第17図	淹遺跡第21地点H31号住居跡竈(1/30)	22	長宮遺跡第41地点10号住居跡出土遺物①(1/4)	64
第18図	淹遺跡第21地点H31号住居跡竈2(1/30)	23	長宮遺跡第41地点10号住居跡出土遺物②(1/4)	65
第19図	淹遺跡第21地点H32号住居跡遺物出土状況 図・溝1(1/60)	24	長宮遺跡第41地点10号住居跡出土遺物③(1/4)	66
第20図	淹遺跡第21地点井戸・土坑・ピット(1/60)	25	長宮遺跡第41地点J11号住居跡出土遺物(1/4)	67
第21図	淹遺跡第21地点土坑・ピット(1/60)	26	長宮遺跡第41地点J12・J15号住居跡出土遺物(1/4・2/3)	68
第22図	淹遺跡第21地点土層説明	27	長宮遺跡第41地点炉・穴・土坑・落とし穴・ピッ ト・溝・構造外出土遺物(1/4・2/3)	69
第23図	淹遺跡第21地点掘立柱建物跡(1/60)	28	松山遺跡の地形と調査区(1/4,000)	71
第24図	淹遺跡第21地点ピット①(1/60)	29	松山遺跡分布図(1/3,000)	74
第25図	淹遺跡第21地点ピット②(1/60)	30	松山遺跡第62地点遺構配置図(1/300)、 土層図(1/150)	75
第26図	淹遺跡第21地点溝・ピット(1/60)	31	松山遺跡第62地点J1号住居跡遺物出土状況 図(1/60)	76
第27図	淹遺跡第21地点H31号住居跡出土遺物 (1/4)	33	松山遺跡第62地点炉・掘方・トレチ7中央部单独出 土器・溝・遺構外出土遺物(1/4・1/1)	77
第28図	淹遺跡第21地点H31・32号住居跡・井戸・ 土坑・溝出土遺物(1/4・1/1)	34	松山遺跡第62地点溝1・5・6(1/60)	78
第29図	長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000)	36	松山遺跡第62地点溝2・3(1/60)	79
第30図	長宮遺跡遺構分布図(1/3,000)	38	松山遺跡第62地点J1号住居跡出土遺物(1/4・2/3)	81
第31図	長宮遺跡第41地点遺構配置図(1/300)、 土層図(1/150)	40	松山遺跡第62地点トレチ7中央部单独出土 器・溝・遺構外出土遺物(1/4・1/1)	82
第32図	長宮遺跡第41地点土層図(1/150)、土層説明	41	苗間東久保遺跡第26地点土坑(1/60)	88
第33図	長宮遺跡第41地点J10号住居跡(1/60)	44	苗間東久保遺跡第26地点ピット①(1/60)	89
第34図	長宮遺跡第41地点J10号住居跡炉(1/30)		苗間東久保遺跡第26地点ピット②(1/60)	90
			苗間東久保遺跡第26地点ピット③・風倒木・ イモビツ(1/60)	91
第73図	苗間東久保遺跡第26地点出土遺物①(1/4)		苗間東久保遺跡第26地点出土遺物②(1/4・2/3)	94
第74図	苗間東久保遺跡第26地点出土遺物③(1/4)		苗間東久保遺跡第26地点出土遺物④(1/4)	95
第75図	苗間東久保遺跡第26地点出土遺物⑤(1/4)			96

## 表 目 次

第1表	ふじみ野市遺跡一覧表	2
第2表	淹遺跡調査一覧表	6
第3表	淹遺跡古代住居跡一覧表	6
第4表	淹遺跡第20地点遺構一覧表	9
第5表	淹遺跡第21地点H31号住居跡ピット一覧表	30
第6表	淹遺跡第21地点遺構一覧表	30
第7表	淹遺跡第21地点ピット一覧表	32
第8表	長宮遺跡調査一覧表	37
第9表	長宮遺跡住居跡一覧表	39
第10表	長宮遺跡第41地点J 10号住居跡遺構一覧表	47
第11表	長宮遺跡第41地点J 11号住居跡遺構一覧表	51
第12表	長宮遺跡第41地点J 12号住居跡ピット一覧表	51
第13表	長宮遺跡第41地点J 13号住居跡遺構一覧表	52
第14表	長宮遺跡第41地点J 14号住居跡遺構一覧表	52
第15表	長宮遺跡第41地点J 15号住居跡ピット一覧表	52
第16表	長宮遺跡第41地点遺構一覧表	52
第17表	長宮遺跡第41地点ピット一覧表	62
第18表	長宮遺跡第41地点出土石器一覧表	70
第19表	松山遺跡調査一覧表	72
第20表	松山遺跡住居一覧表	73
第21表	松山遺跡第62地点J 1号住居跡ピット一覧表	80
第22表	松山遺跡第62地点遺構一覧表	80
第23表	苗間東久保遺跡調査一覧表	85
第24表	苗間東久保遺跡住居一覧表	85
第25表	苗間東久保遺跡第26地点遺構一覧表	93
第26表	苗間東久保遺跡第26地点出土石器一覧表	96

## 写真図版目次

写真 1	淹遺跡第20地点(1)	97
写真 2	淹遺跡第20地点(2)	98
写真 3	淹遺跡第20地点(3)	99
写真 4	淹遺跡第21地点(1)	100
写真 5	淹遺跡第21地点(2)	101
写真 6	淹遺跡第21地点(3)	102
写真 7	淹遺跡第21地点(4)	103
写真 8	淹遺跡第21地点(5)	104
写真 9	淹遺跡第21地点(6)	105
写真10	淹遺跡第21地点(7)	106
写真11	長宮遺跡第41地点(1)	107
写真12	長宮遺跡第41地点(2)	108
写真13	長宮遺跡第41地点(3)	109
写真14	長宮遺跡第41地点(4)	110
写真15	長宮遺跡第41地点(5)	111
写真16	長宮遺跡第41地点(6)	112
写真17	長宮遺跡第41地点(7)	113
写真18	長宮遺跡第41地点(8)	114
写真19	長宮遺跡第41地点(9)	115
写真20	長宮遺跡第41地点(10)	116
写真21	長宮遺跡第41地点(11)	117
写真22	長宮遺跡第41地点(12)	118
写真23	長宮遺跡第41地点(13)	119
写真24	松山遺跡第62地点(1)	120
写真25	松山遺跡第62地点(2)	121
写真26	松山遺跡第62地点(3)	122
写真27	苗間東久保遺跡第26地点(1)	123
写真28	苗間東久保遺跡第26地点(2)	124
写真29	苗間東久保遺跡第26地点(3)	125
写真30	苗間東久保遺跡第26地点(4)	126
写真31	苗間東久保遺跡第26地点(5)	127



## 第1章 ふじみ野市の遺跡

### I ふじみ野市の立地と環境

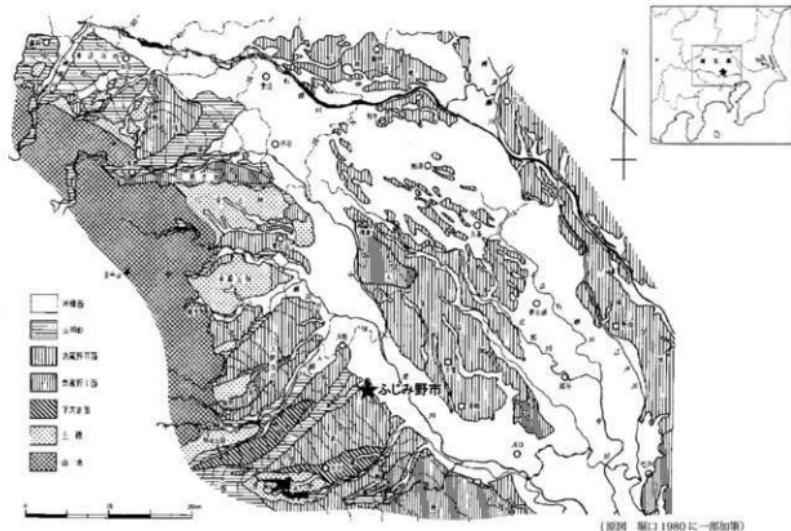
ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畠地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地縁辺部と荒川低地の沖積地に大きく分かれる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15~20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地

(大井台)がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れさかい川、淨禪寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は從来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

## Ⅱ 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれている。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れ、台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が

丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期閑山期の集落跡が確認されている。

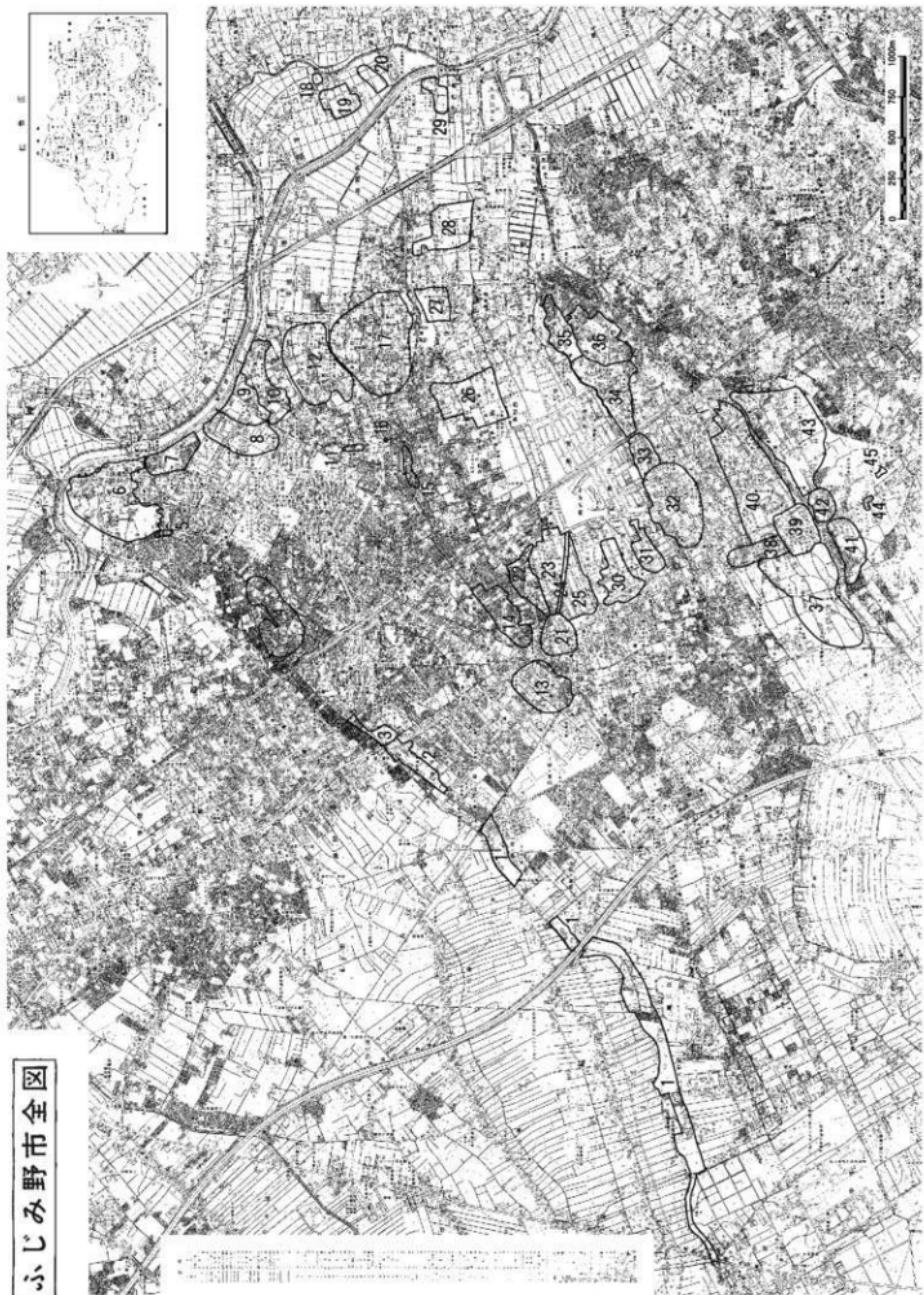
川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保塙跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10

第1表 ふじみ野市遺跡一覧表

番	遺 路 名	主 な 時 代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西 遺 路	縄文中期の集落跡	25-001
4	北 野 遺 路	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川 崎 遺 路	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハ ケ 遺 路	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005
8	上 福 岡 貝 塚	古墳前期・古墳前中期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権 現 山 遺 路 (古 墓 群)	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落	25-007
10	滝 遺 路	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西 ノ 原 遺 路	縄文の散布地	25-025
12	長 宮 遺 路	縄文前期・中・近世の集落跡	25-009
13	亀 居 遺 路	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ舞 遺 路	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富 士 見 台 (横 穴 墓 群)	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福 遺 路	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松 山 遺 路	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天 神 堀 遺 路	古墳中期の散布地	25-018
19	城 山 遺 路	中・近世の館跡	25-019
20	川 袋 遺 路	奈良・平安の散布地	25-020
21	江 川 南 遺 路	旧石器、縄文中期・中・近世の集落跡	30-007
22	江 川 東 遺 路	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東 久 保 遺 路	旧石器、縄文中期・近世の集落跡	30-009
24	亀久保塙跡遺跡	中世の館跡	30-006

番	遺 路 名	主 な 時 代	遺跡番号
25	東 久 保 西 遺 路	旧石器、縄文早期・中期・近世の集落跡	30-042
26	駒 林 遺 路	近世の館跡・中世の墳墓	25-013
27	福 岡 新 田 遺 路	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	費 森 遺 路	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊 佐 島 遺 路	古墳前・平安の集落跡	25-021
30	東 中 学 校 西 遺 路	縄文早期・中期・近世の集落跡	30-008
31	東 久 保 南 遺 路	旧石器、縄文早期・中期・近世の集落跡	30-032
32	西 ノ 原 遺 路	旧石器・縄文早期・中期・後期、奈良・平安・近世の集落跡	30-001
33	中 沢 前 遺 路	旧石器、縄文早期・中期・近世の集落跡	30-044
34	神 明 後 遺 路	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安・近世の集落跡	30-041
35	苗 田 東 久 保 遺 路	旧石器、縄文早期	30-020
36	淨 空 寺 遺 路	旧石器、縄文早期・中期・中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小 田 久 保 遺 路	旧石器、縄文早期～中期・中・近世の集落跡	30-040
38	大 井 宿 遺 路	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大 井 氏 館 遺 路・大 井 戸 遺 路	旧石器、縄文前期・中期・中・近世の集落跡	30-037
40	本 村 遺 路	旧石器、縄文早期～後期・中・近世の集落跡	30-034
41	西 台 遺 路	旧石器、縄文中期・奈良・平安・近世の集落跡	30-039
42	大 井 戸 上 遺 路	旧石器、縄文前期・中期・近世の集落跡	30-014
43	東 台 遺 路	旧石器、縄文早期～後期・奈良・平安・近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
44	大 井 宿 戸 遺 路	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石 塔 番	中世の散布地	30-027



第2図 ふじみ野市道路分布図 (1/30,000)

遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狹山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるAT降灰前（立川ローム第Ⅶ層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在するのみである。

【弥生・古墳時代】荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、淹遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、淹遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、淹遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現わ

れ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。

またハケ遺跡からは匂帶金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶昆跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、淨禪寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である淨禪寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などまとまった遺構と遺物が確認されている。また鶯森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である造兵廠東京工廠福岡工場（通称火工廠）の跡地で、防爆土壁・防空壕・水溜・消火栓・排水栓などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。

## 第2章 滝遺跡第20地点の本調査

### I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中・近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を

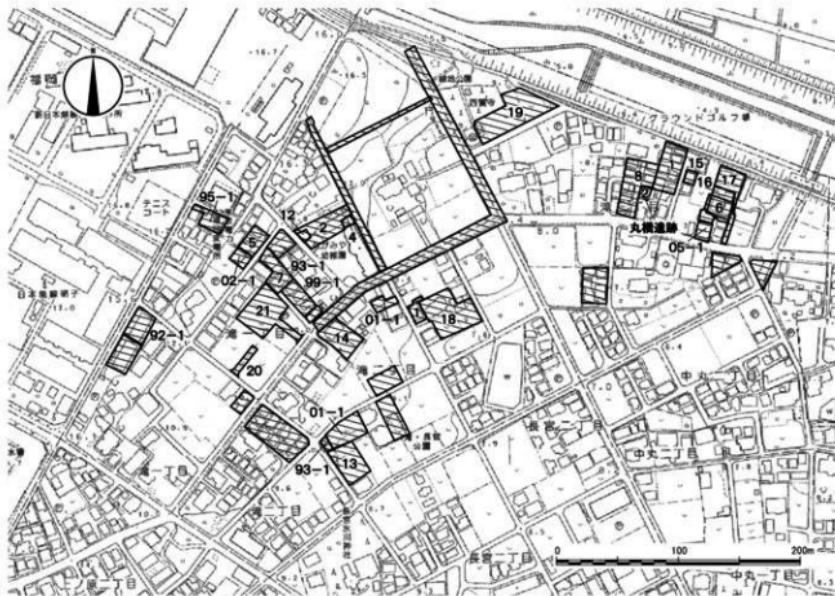
検出以来21ヶ所で調査が行われている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査、2002年度試掘調査（1）は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り造構（集石を伴う）である。

### II 調査に至る経過と調査の概要

調査は道路築造に伴うもので、原因者より2012年4月10日付けて「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」（以下「埋蔵文化財事前協議書」）がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構等の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年5月9日から11日まで行った。幅約3mのトレーン1本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、平安時代の住

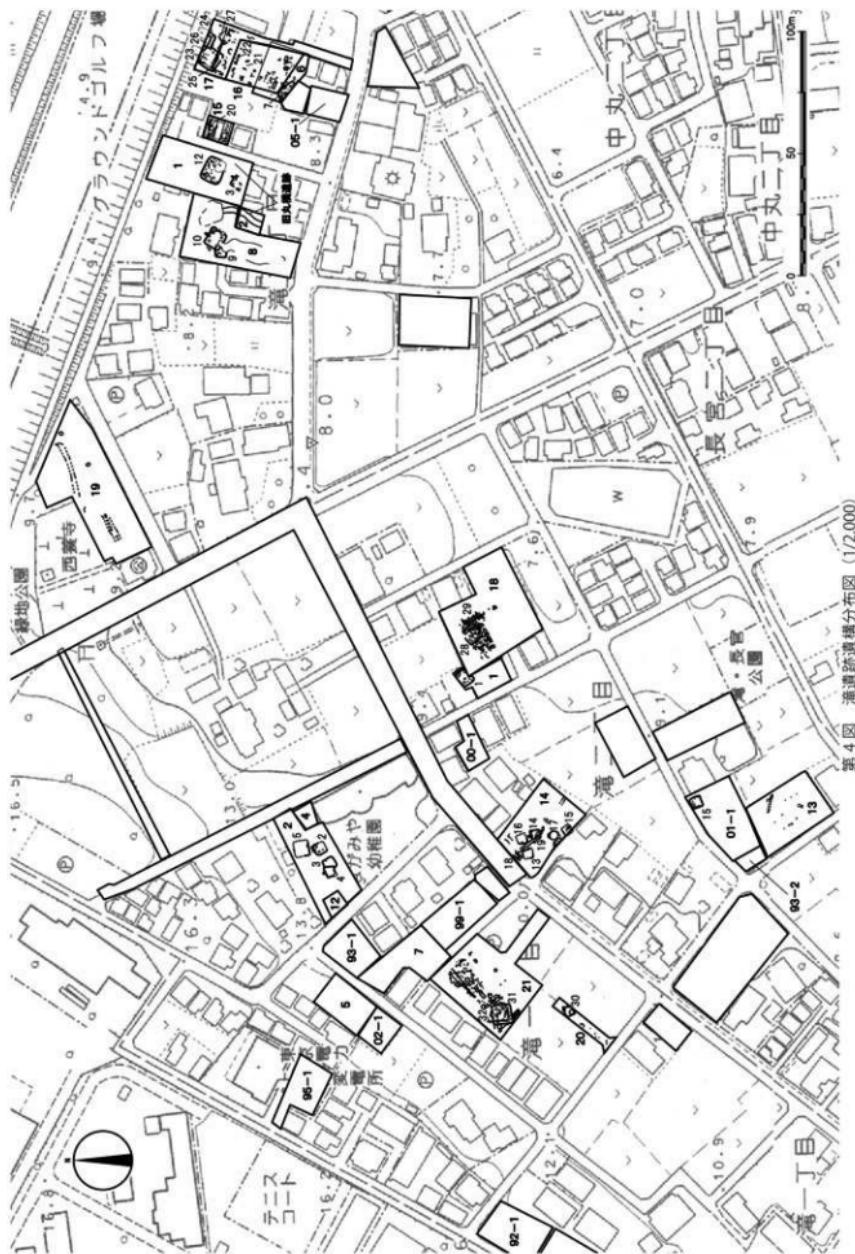


第2表 滝遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 (平成20年調査)	面積(㎡)	調査原因	確認された遺構と位置	所見報告書	備考
丸塚1次	道3-3-77-81	[1876.6.26.-27] [1978.7.24.-8.12]	543	既往住宅	古墳的住居跡・後・後和室1室	上野同市透視写真報告書	丸塚透視跡・丸塚遺跡 一結合
丸塚2次	道3-3-12	[1978.7.24.-8.12]	210	住居跡	古墳的住居跡・後・後代満・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚3次	道3-6-11	[1978.10.7.-11]	129	住居跡	古墳的住居跡・後・後代満・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚4次	道3-4-2	[1979.4.15.-5.7]	278	住居跡・炉	古墳的住居跡・後・後・土器・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚5次	道3-4-15	[1980.5.17.-13]	76	住居跡	古墳的住居跡・後・後・土器・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚6次	道3-4-15	[1980.7.7.-12]	108	住居跡	古墳的住居跡・後・後・土器・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚7次	道3-3-21	[1980.7.20.-31]	350	住居跡	古墳的住居跡・後・後・土器・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚8次	道3-3-6	[1980.11.30.-12.2]	166	住居跡	古墳的住居跡・後・後・土器・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚9次	道3-1-19	[1981.7.30.-31]	400	個人住宅	透視写真的跡・後・後・土器・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚10次	道3-3-15-他	[1983.11.14.-26]	990	住居跡	古墳的住居跡・後・後・土器・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚11次	道3-4-4	[1984.5.11.-22]	466	住居跡	古墳的住居跡・後・後・土器・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚12次	道3-3-17	[1984.6.1.-12]	363	住居跡	古墳的住居跡・後・後・土器・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚13次	道3-4-2	[1984.6.28.-30]	33	住居跡	古墳的住居跡・後・後・土器・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(1)	
丸塚14次	道3-4-2	[1984.12.22.-24]	94	住居跡	古墳的住居跡・後・後・土器・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(1)	
93(試1)	道3-2-14-5-他	[1992.7.6.-8)	400	既往建築	GL	透視写真的跡の報告書(15)	
93(試2)	道3-1-4	[1993.4.23.-28)	313	既往建築	GL	透視写真的跡の報告書(16)	
93(試3)	道3-2-7	[1993.8.25.)	99	個人住宅	GL	透視写真的跡の報告書(16)	
95(試1)	道3-3-13	[1995.11.12.-30)	462	既往建築	透視山澤跡14地点・後・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(18)	
95(試2)	道3-1-6	[1999.10.21.-26)	511	可逆地盤・土地付帯	透視山澤跡14地点・後・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(22)	
00(試1)	道3-5-20	[2001.6.23.-24)	154	個人住宅	GL	透視写真的跡の報告書(23)	
01(試1)	道3-2-8	[2001.4.17.-20)	519	共同住宅	透視初跡地消削跡	透視写真的跡の報告書(24)	
02(試1)	道3-3-49	[2002.5.29.-30)	165	個人住宅	透視山澤跡17地點・後・瓦器・石器・	透視写真的跡の報告書(25)	
05(試1)	道3-3-5-3-143	[2005.6.4.-27)	350	個人住宅	GL	市内透視跡1	
立会	道3-4-1-27	[2006.4.15-27)	2492	幼稚園	GL	市内透視跡2	
12(調1)	道3-5-3-9-4の一部	2007.2.6	472	個人住宅	GL	市内透視跡3	
13(調2)	道3-2-6	[2007.10.24.-11.1]	737	共同住宅	透視山澤跡2第6号・BL-Y8	市内透視跡4	
14	道3-9-11-17	[2007.11.18.-19) 11.20.-12.6]	692	分譲住宅	透視跡2・3・5・6・8号・瓦器・土器・瓦・BL-Y8	市内透視跡5	
15	道3-3-84	[2009.9.2-14)	100	分譲住宅	8世紀透視跡1・井戸1・土坑1・BL-Y8-20、南北壁、土器蓋	市内透視跡7	
16	道3-145	[2009.12.3-14)	434	分譲住宅	BL-Y8	市内透視跡8	
17(調3-6-3-144)	[2010.5.6.-11.8)	331	分譲住宅	8世紀透視跡2・透視跡5・井戸1・土坑1・4号・2号・石器	市内透視跡10		
18	道3-0-4、6-6	[2011.6.6-13)	1164	個人住宅	透視時代跡・透視1・6号・土器・瓦器・石器・透視跡	未報告	
19	道3-4-2	[2011.10.17.-24)	1277	分譲住宅	GL	未報告	
20	道3-1-9	[2012.5.9-11)	124	道路整備	透視跡1・井戸・透視前消削井戸・土器・BL-Y8	市内透視跡12	
21	道1-1-7、1-26、1-31	[2012.5.17.-21) 7.7-8.25]	1.176	共同住宅	透視半永久代跡付地透視1・井戸1・土器・瓦器・BL-Y8 透視井戸跡(H23.2)・透視前消削井戸・土器・瓦器・BL-Y8 透視前消削井戸	市内透視跡12	

指標：上福岡市教育委員会総務課文化部・調査報告書、上選議、上福岡市選挙評議会報告書、教委、上福岡市教育委員会、市内各公民館、市内選挙評議会報告書。

第3表 漢遺跡古代住居跡一覽表 (單位 cm)



居跡、井戸、土坑、ピット等を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

地表面から遺構確認面までの深さは約110cmであるが、雨水浸透井戸等の掘削で開発による遺跡への影響が避けられないため原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は2012年5月17日から5月24日まで行い、検出した奈良時代住居跡1軒、時期不明の井戸2基、土坑2基、ピット7基を調査した。

### III 遺構と遺物

#### ① H 30号住居跡

【位置】遺跡の南西部に位置し、住居跡全体の約3/4を検出した。北東角を土坑1に、南西部を井戸2によって壊されている。

【形状・規模】南東角部分は調査区域外に張り出す。

主軸方位はN-75°-E、東壁の南側に竈を備える。

平面形態は隅丸方形、規模は主軸の東西方向4.1m ×南北3.9m、確認面からの深さ5cmである。

【竈】住居跡東壁の南側に構築される。南半分は調査区域外である。左側の袖は灰褐色粘土で構築され、壁から40cm突出し、幅45cm、高さ18cmを測る。煙道部分は壁から奥へ20cm粘土が伸びている。竈中央は深さ10cmほどの窪みがあり、奥が良く焼け焼土面がみられる。竈の左側手前には平面楕円形で93×64cm、深さ10cmの浅い窪みがあり、土製の支脚が出土している。

【貼床・周溝】厚さ1~4cmの貼床がみられる。周溝

は北東壁の一部と竈の前部分で途切れる。幅5~15cm下幅2~6cm深さ2.8~8.2cmである。

【遺物出土状況・出土遺物】竈内と竈周辺部の床面から出土する。

【時期】出土遺物から9世紀。

#### ② 井戸

井戸1は調査区中央北側に位置する。南側半分を検出したが試掘調査のため全容は不明である。検出部の平面形態は半円形で、規模は確認面径140cmで、深さは地表面から約1.6m、確認面からは50cmまで確認した。時期は不明。

井戸2はH30号住居跡の南東部に位置し、住居を壊して構築されている。道路築造に際し確認面より下は保護されるため、井戸の半分を掘り下げたに留めた。底面は確認していない。平面形は東側がやや突出した円形を呈し、中段の形は隅丸の方形を呈するようである。212×188cm、深さは地表面から約2.2m、確認面からは120cmまで確認した。

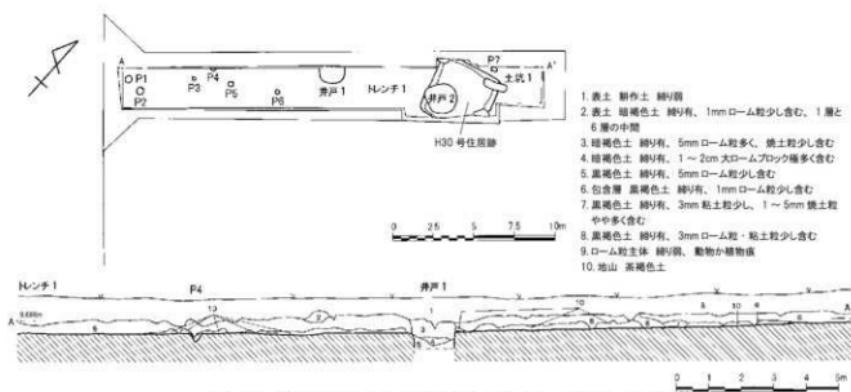
#### ③ 土坑

土坑1は調査区の西端、H30号住居跡を壊して構築される。145×46cmの長円形、深さは確認面から5~10cmと浅い。

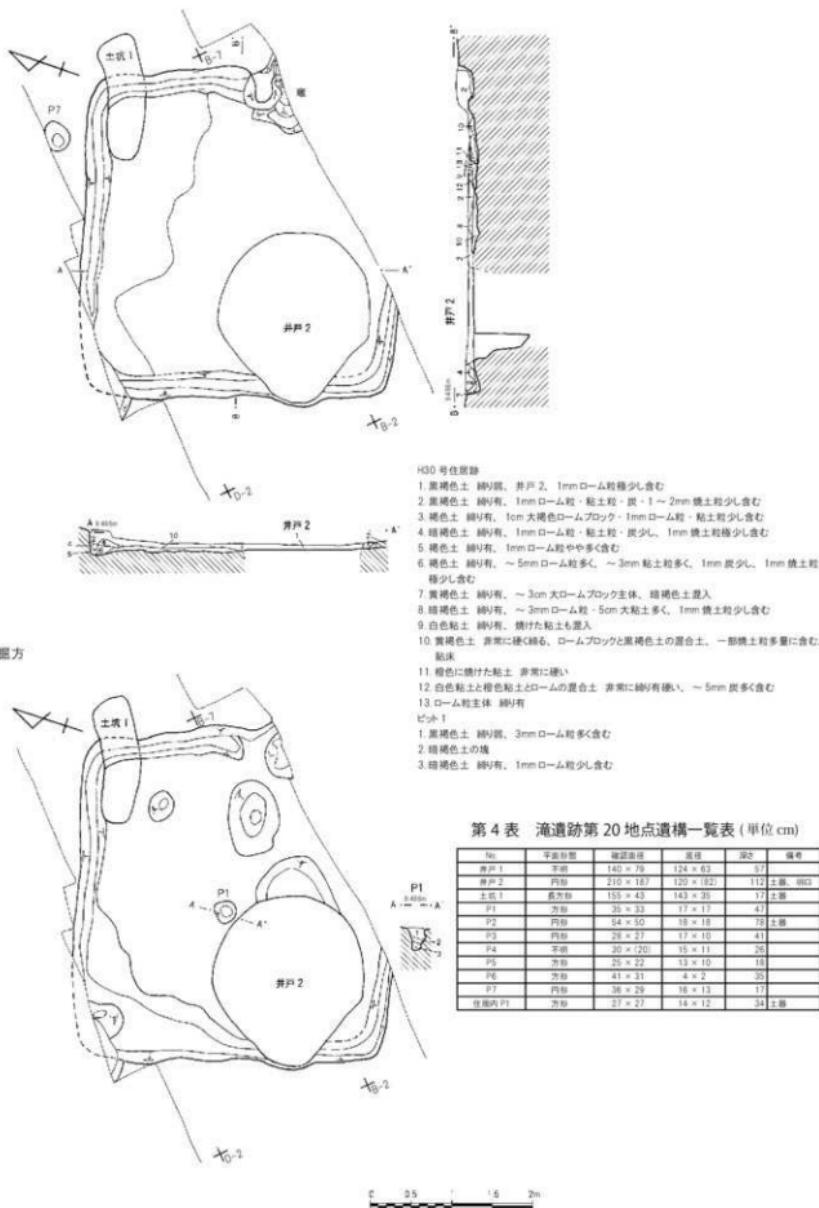
土坑2は調査区の北西側、H30号住居跡を壊して構築される。大部分は調査区外で形態不明。深さは32cmある。

#### ④ ピット

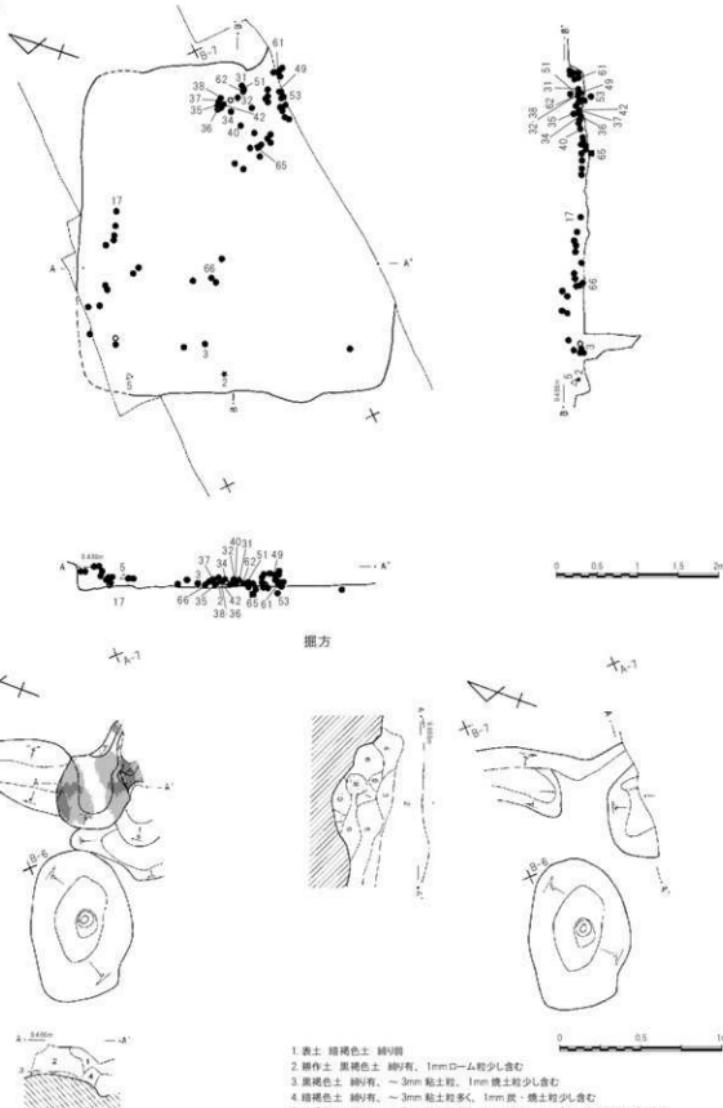
7基検出した。計測値等の詳細は第4表参照。



第5図 滝遺跡第20地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)



## 遺物出土状況図

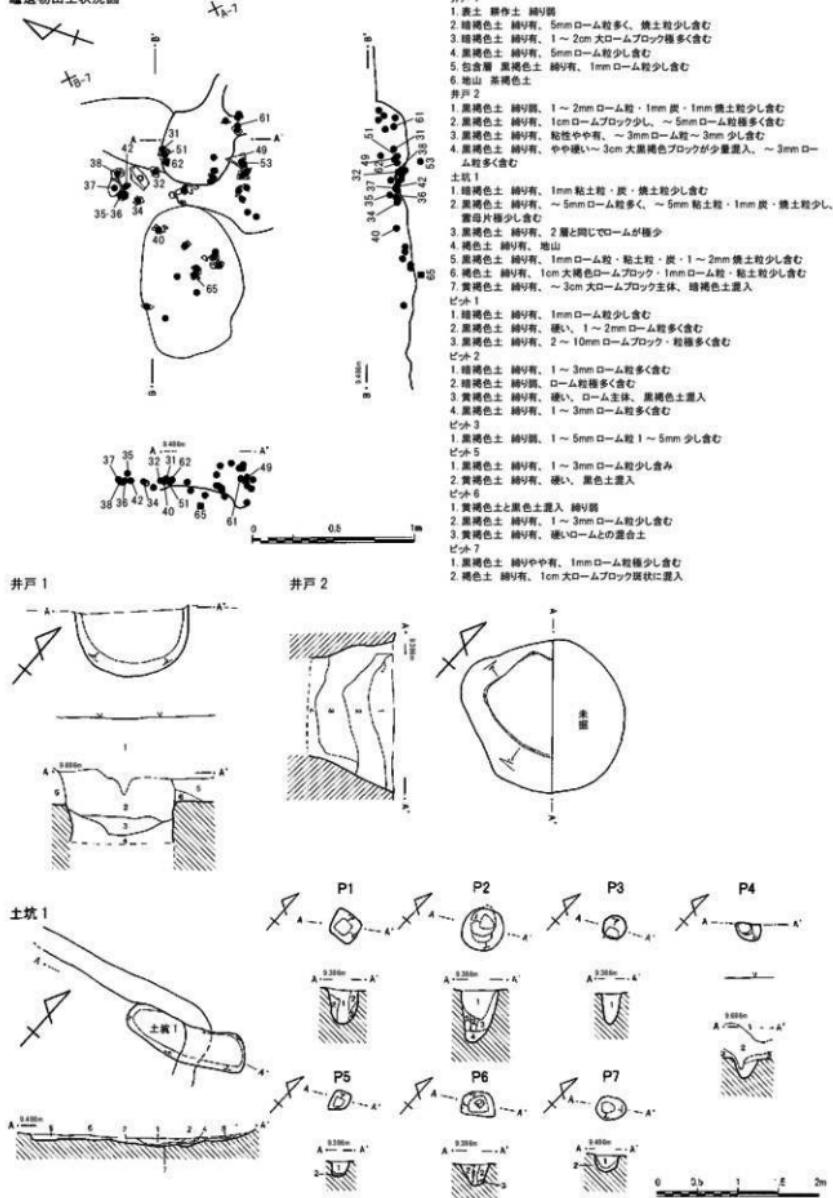


1. 黒土 硬く締まる。灰白色粘土に褐色に焼けた粘土粒が多量に入る
2. 黒土 硬く締まる。灰白色粘土
3. 黒色土 細V有。灰山ロームに粘土粒が多量に混入
4. 灰褐色土 細V有。褐色土が混入。粘土と燃土の混合土

2. 細粒土 黒褐色土 細V有、1mmローム粘少し含む
3. 黒褐色土 細V有、~3mm 粘土粒。1mm 燃土粒少し含む
4. 緑褐色土 細V有、~3mm 粘土粒多く、1mm 粘・燃土粒少し含む
5. 緑褐色土 細V有、~5mm 粘土粒多く、1mm 粘少し、~3mm 燃土粒や多く含む
6. 緑褐色土 細V有、~3mm 粘土粒多く、~3mm 粘少し、~1cm 燃土粒多く含む
7. 緑褐色土 細V有、硬い、~3mm 粘土粒多く、~1cm 燃土粒多く含む
8. 燃粘土 ブロック 硬い
9. 緑褐色土 細V有、~3mm 粘土粒多く、~3mm 燃土粒多く含む
10. 緑褐色土 細V有、~3mm 粘土粒少し、~3mm 燃土粒少し含む
11. 黒褐色土 細V有、~3mm 粘土粒、~1mm 燃土粒少し含む

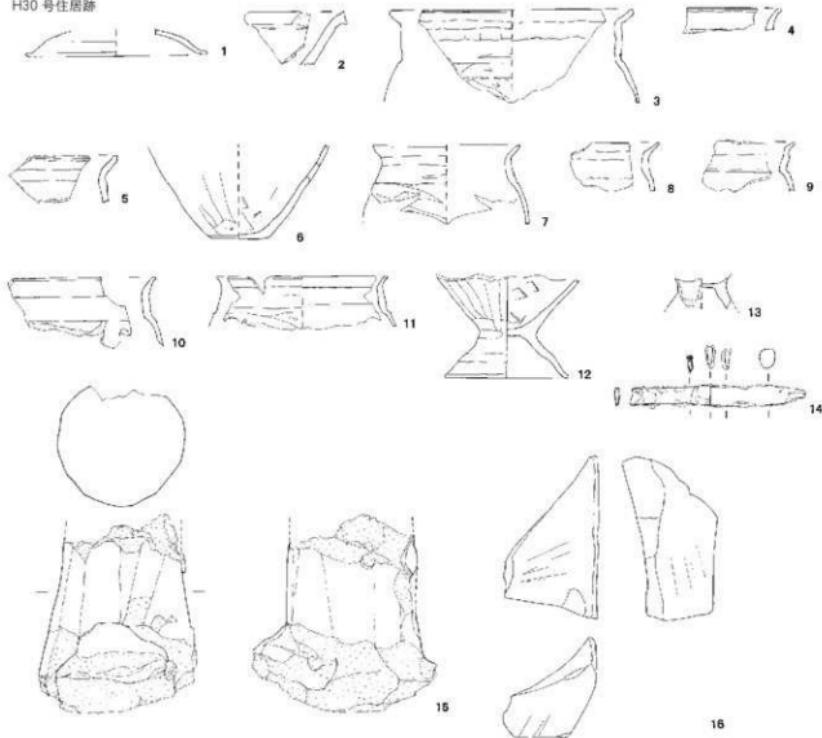
第7図 滝遺跡第20地点 H30号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竪・掘方 (1/30)

遺物出土状況図

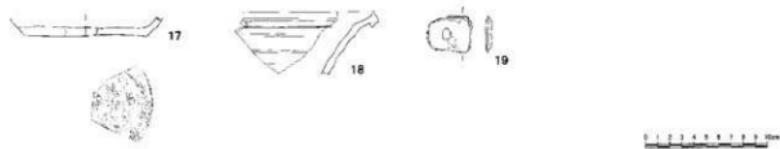


第8図 滝遺跡第20地点 H30号住居跡遺物出土状況図 (1/30)、井戸・土坑・ピット (1/60)

## H30号住居跡



## 遺構外



第9図 滝遺跡第20地点 H30号住居跡出土遺物(1/4)

#### ⑤ H 30号住居出土遺物

1は、須恵器皿形土器。2は、須恵器壺の口縁部破片。1/10現存、推定口径20cm。内面に自然釉がかかる。1mmほどの小砂利を多量に含み、白色針状物質を多量に含む。3は、コの字状甕の口縁部、現存1/4口径20cm。内面に輪積み痕。口唇部先端に一条の沈線を加える。4・5も同類の口縁部破片で、1/10以下の破片。4は口唇部先端は丸く処理され、5は一条の沈線が加えられている。6は上記の底部。7は、1/4現存の小形台付き甕、口径12cm。8～11も小形台付き甕、8は口唇部内面に強い押圧痕がある。9は口縁部外面に強い押圧痕があり、口唇部は短い。10は、現存1/10、口径推定15cm弱。口唇部外湾は少ない。11は、現存1/7、口径推定14cm。カマド出土。12は、小形台付き甕、現存1/3、底径10.2cm。13は、小形台付き甕の台部破片。

14は鉄製の刀子。切先が欠ける。柄部には木質部が残存する。長さ14.3cm、刃巾1.39～1.64cm、厚さ0.5cm、ナカゴ長さ7.7cm。15は、支脚の破片、上半が欠損。円形になるように巾3～4cmで上方から下方に面取りをし、下端に粘土を残し、カマド燃焼部に埋置したもの。

16は砥石。鉄器の研磨用と思われ、図示した上面・両側面の3面は同じような湾曲をしている。

#### ⑥ 遺構外出土遺物

17は須恵器壺の底部破片。1/3現存、底径推定10cm。底部全面回転ヘラ切り。底部側面も回転ヘラ削り。18は須恵器壺の口縁部破片。1/10現存、推定口径20cm。白色針状物質を多量に含む。後円部コの字状甕の口縁部。19は鉄製鍛造品。右側は破断しているが、左側は縁が弧を描く。幅2.9cm、厚さ0.35cm。

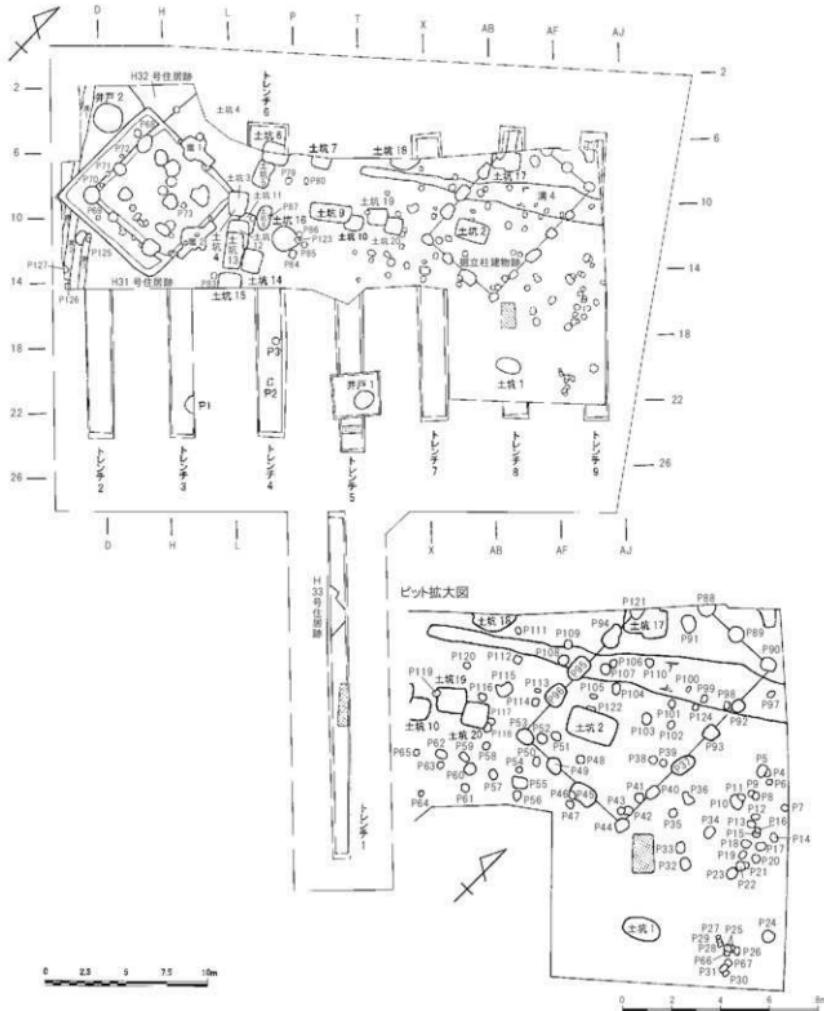
### 第3章 滝遺跡第21地点の本調査

#### I 本調査に至る経過と調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2012年4月11日付けで「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」(以下「埋蔵文化財事前協議書」)がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲

内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構等の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年5月11日から21日まで行った。幅約1~1.5m幅のトレンチ9本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、奈良・



平安時代の住居跡 3軒、掘立柱建物跡 1棟、井戸 2基、土坑 20基、溝 4条、ピット 105基を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

地表面から遺構確認面までの深さは約 70 ~ 80 cm であるが、基礎の深さが 1m 以上におよび、開発による遺跡への影響が避けられないため原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。なお、道路や駐車場については 30cm 以上の保護層が確保できるため、遺構保存の措置を取った。

本調査は 2012 年 7 月 17 日から 8 月 25 日まで行い、奈良・平安時代の住居跡 1軒、掘立柱建物跡 1棟、井戸 2基、土坑 20基、溝 4条、ピットを調査した。なお、検出した住居跡 3軒のうち 2軒は保存の措置をとった。

### III 遺構と遺物

#### ① H 31 号住居跡

**【位置】** 遺跡の西部に位置し、住居跡全体を検出した。北西角で H32 号住居と重複し、壊している。また、北東角を土坑 3 に、南西部を溝 1・2 によって壊されている。住居は途中で南西部分を一部埋め戻し、規模を縮小している。初期の住居跡を H 31 A 号住居跡、縮小後住居跡を H 31 B 号住居跡として報告する。

#### H 31 A 号住居跡

**【形状・規模】** 主軸方位は N - 92° - E、北壁と東壁の中央に竈を 2 基備える。東壁の竈は途中で廃棄され（おそらく住居縮小の時点）竈の袖を壊して周溝が構築されている。

平面形態は方形、規模は主軸の東西方向 7.8 m × 南北 7.7 m、確認面からの深さ 50 cm である。

**【柱穴】** P 1、P 6、P 7、P 8 の 4 本を主柱穴とし、主柱穴間にほぼ中間に P 19、P 11、P 20、P 21 の柱が配置される。主柱穴間の距離は柱の中心で P 1 - P 6 が 4.5 m、P 6 - P 7 が 4.7 m、P 7 - P 8 と P 8 - P 1 は 4.6 m を測る。P 19 は P 1 から 2.7 m、P 6 から 1.8 m に位置し、P 11 は P 6 から 2.9 m、P 7 から 1.8 m に、P 20 は P 7 と P 8 の中間、P 21 も P 8 と P 1 の中間に位置している。

**【貼床・周溝】** 壁際から 1.6 ~ 1.8 m ほどまで深さ 20 ~ 30 cm の掘り方があり、厚さ 5 ~ 10 cm の貼床がみられる。なお、住居跡の北西部は工事による影響がなく保存できるため、床面下の調査はしていない。周溝は竈 2 を埋めて構築されており、北側にある竈 1

の前部分で途切れるほかは、全周する。幅 25 ~ 42 cm、下幅 5 ~ 30 cm、深さ 18 ~ 20 cm である。

**【竈 2】** 当該住居の竈は竈 1・竈 2 いずれも可能性はあるが、竈 2 は前述のとおり裾部が削られ周溝も廻っていることから、H 31 B 号住居跡の時には使用されておらず、当該住居の竈と思われる。

竈の袖はないが、壁からの奥行きは 95 cm、幅 130 cm、内幅 45 cm、粘土は 10 ~ 25 cm の厚さがあり、表面は焼けて赤化している。堀方は奥行き 85 cm、幅 82 cm、確認面からの深さ 69 cm を測る。

竈の両側には長方形の浅い棚状遺構が備わり、白色粘土が充填している。右（南）側は横 117 cm、奥行き 45 cm、深さ 10 cm。左（北）側は横 100 cm、奥行き 47 cm、深さ 15 cm であるが、底面レベルは左右同じである。竈手前部分の焚口は、壁から手前に 80 cm、幅 140 cm、深面からの深さ 19 cm を測る。灰白色粘土で埋まつた後、周溝が作られている。周溝内には棚状遺構の両端と竈の両端に径 20 ~ 30 cm、床面からの深さ 57 ~ 62 cm のピットが並んでいる。

#### H 31 B 号住居跡

**【形状・規模】** 主軸方位は N - 2° - E、北壁の中央に竈を備える。H 31 A 号住居跡の西と南を埋めて周溝を掘り直し縮小している。

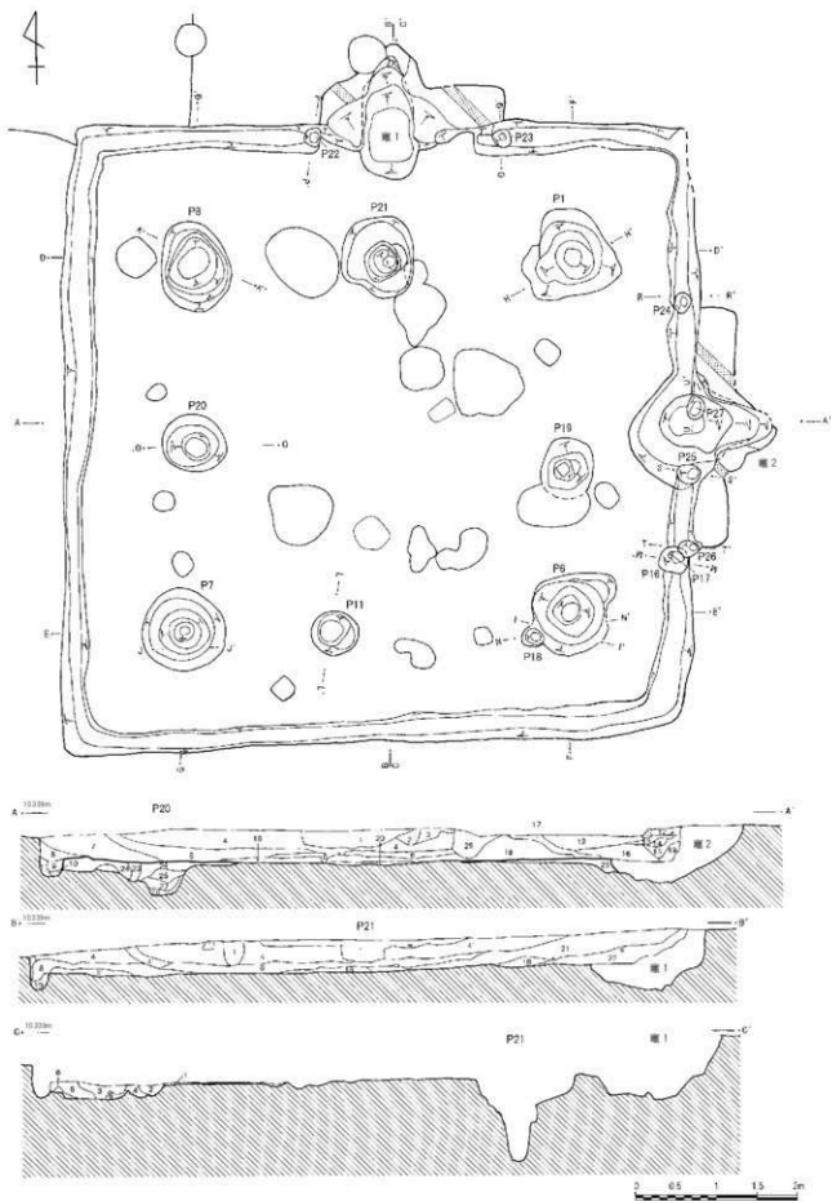
平面形態は方形、規模は主軸の南北方向 6.4 m × 東西 6.4 m、確認面からの深さ 50 cm である。

**【柱穴】** H 31 A 号住居跡の P 1 はそのまま使用し、新たに P 2、P 3、P 4 の 4 本を主柱穴としている。主柱穴間の距離は柱の中心で P 1 - P 2 が 3.1 m、P 2 - P 3 が 3.3 m、P 3 - P 4 が 3.2 m、P 4 - P 1 は 3.3 m を測る。

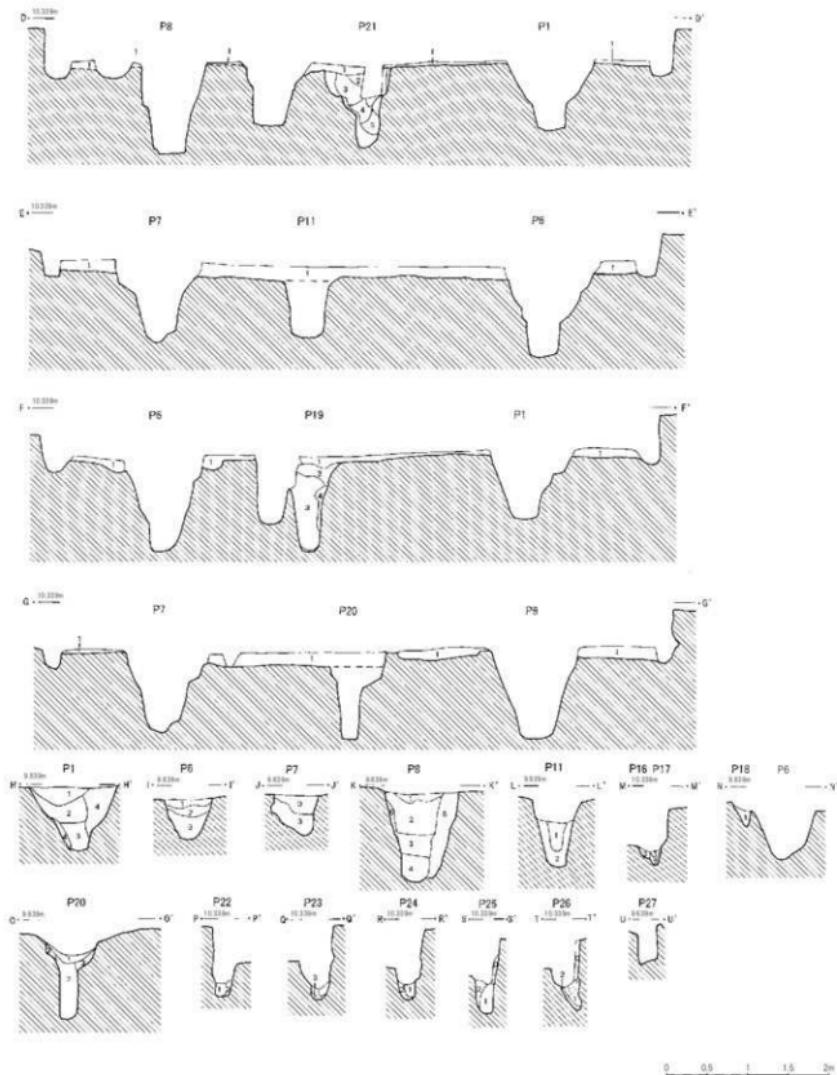
**【貼床・周溝】** 厚さ 5 ~ 10 cm の貼床がみられる。周溝は西壁と南壁の 1.3 m 内側に掘り直されており、竈 B も埋めて構築されている。竈 A の前部分で途切れるほかは全周する。幅 30 ~ 45 cm、下幅 15 ~ 25 cm、深さ 15 ~ 18 cm である。

**【竈 1】** 当該住居の竈は竈 1と思われる。保存のため、竈の半蔵調査はしていない。

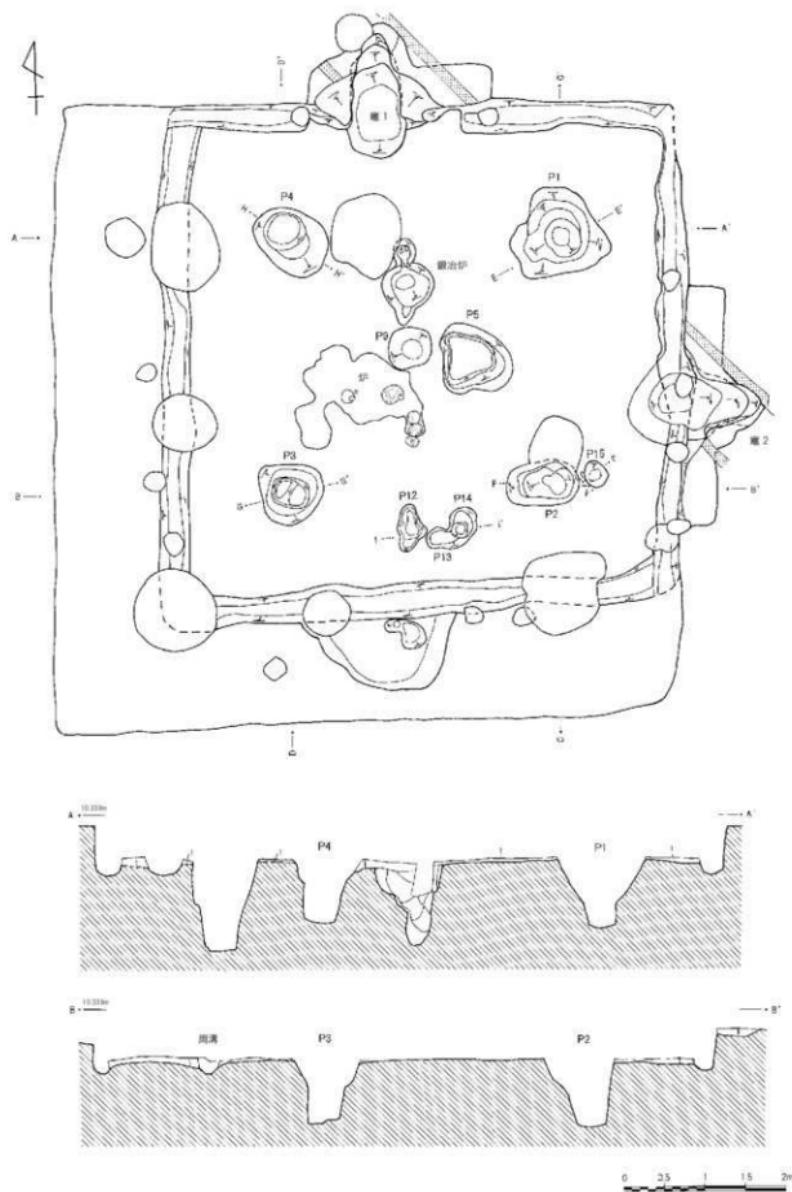
竈は袖が残る。袖端からの奥行きは 135 cm、壁からの奥行きは 115 cm、幅 170 cm、内幅 60 cm、粘土は 20 cm 以上の厚さがあり、表面は焼けて赤化している。焚口は奥行き 90 cm、幅 73 cm、確認面からの深さ 75 cm、床面からの深さ 27 cm を測る。竈の右（東）



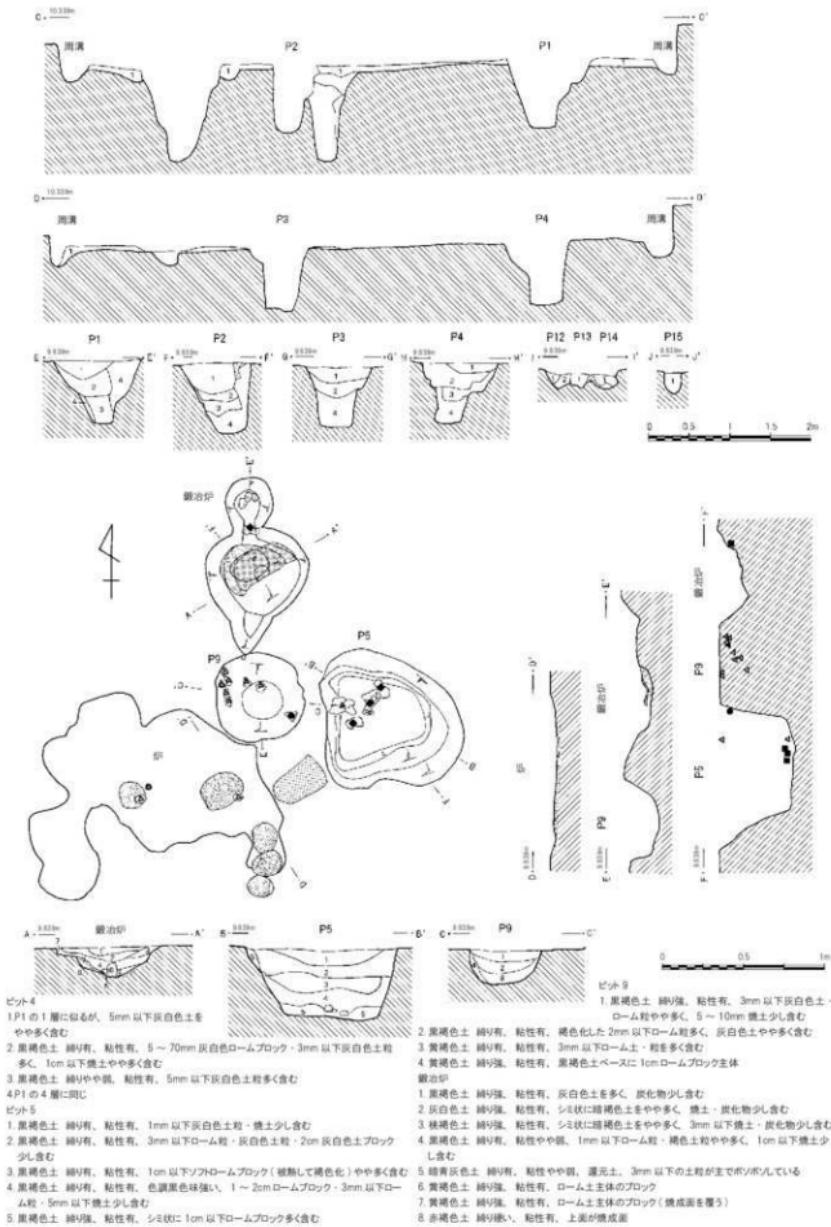
第11図 滝遺跡第21地点 H31A号住居跡(古住居)①(1/60)



第 12 図 滝遺跡第 21 地点 H31A 号住居跡土層図(古住居)②(1/60)



第13図 滝遺跡第21地点 H31B号住居跡(新住居)③(1/60)



第14図 滝遺跡第21地点 H31B号住居跡(新住居)④(1/60)、炉・鍛冶炉・ピット(1/30)

側には長方形の浅い棚状遺構が備わり、白色粘土が充填している。横 100 cm、奥行き 55cm。竈左（西）側も 55cm と幅広く粘土がある。周溝端部は棚状遺構の端と竈の端にそれぞれ径 25 cm、床面からの深さ 41 ~ 45 cm のピットがある。

**【鍛冶関連造構】**当該住居には鍛冶炉が作る。H 31 A号住居跡のP 10を埋めた床面に鍛冶炉が造られている。鍛冶関連の造構はa鍛冶炉b作業坑c小穴d作業場で構成され、小穴を中心に鍛冶炉と作業坑がL字形に配置し、作業場が小穴の南西に広がる。また小穴はH 31 B号住居跡のほぼ中心に位置する。

a 鋼冶炉 炉は平面円形の東西両側に溝状の浅いピットが付随する。東側の溝から羽口が出土しており、送風口と思われる。西側には鉄滓が出土する浅いP9が隣接しており、西側の溝は搔き出し口と思われる。炉の底には厚さ4cmの還元土が堆積し、底面は硬く焼

け赤化する。炉内の土は炭化材や焼土を含む土の上に灰白色粘土が堆積するが、埋土と思われる。規模は溝を含めた南北長は 110 cm、炉部分の上端南北 55 cm × 東西 65 cm、下幅 48 × 45 cm、還元面までの深さ 18 cm、掘り方の深さ 21 cm、焼土面 45 × 30 cm、還元面 31 × 20 cm。東側溝は上端 32 × 29 cm、下端 25 × 15 cm、深さ 11 cm。西側溝は上端 25 × 24 cm、下端 15 × 12 cm、深さ 6 cm。鉄滓が出土する。

b 作業坑 鍛冶がの南東 45 cm に作業坑 (P 5) がある。炉とピットの中心間距離は 120 cm である。平面形態は西側が幅広の台形を呈し、北西隅の方向に鍛冶炉、南西隅の方向に焼土面のある作業場が広がる。上端南北 85 × 東西 90 cm、下端南北 50 × 東西 52 cm、深さ 46 cm。壁はほぼ垂直で、底面も平坦である。羽口が出土した。

「小穴」P.9は鍛冶炉の南に接し、炉とピットの中心

- | H1) 号付       | 特徴   |
|--------------|--|
| 1 黒褐色土 細少粒。  | 粘性有。2mm以下ローム粒・燒土少し含む   |
| 2 黒褐色土 細少粒。  | 粘性有。5~10mmロームブロックや多く含む   |
| 3 黒褐色土 細少粒。  | 粘性有。1層間に、1~3層は根巣   |
| 4 黒褐色土 細少粒。  | 粘性有。2mm以下ローム粒・灰白色土粒や多く、5~15mmロームブロック・燒土ブロック少し含む                  |
| 5 黒褐色土 細少粒。  | 粘性有。2mm以下灰白色土粒多し含む   |
| 6 黒褐色土 細少粒。  | 粘性有。4層より黒褐色多く、3mm以下ローム粒・灰白色土粒、5~10mmロームブロック・灰白色土ブロック少し含む         |
| 7 黒褐色土 細少粒。  | 粘性有。5層より2mm以下ローム粒多く含み。色認明るめ                                      |
| 8 黒褐色土 細少粒。  | 粘性有。7層より黒褐色強め。2mm以下ローム粒少し含む                                      |
| 9 黒褐色土 細少粒。  | 粘性有。5mm以下ローム粒少しや多く含む   |
| 10 黒褐色土 細少粒。 | 粘性有。5mm以下ローム粒や多く含む   |
| 11 黒褐色土 細少粒。 | 粘性有。5mm以下ローム粒多し含む  |
| 12 黒褐色土 細少粒。 | 粘性有。黒褐色土ベースに、5mm以下ローム粒生体   |
| 13 黒褐色土 細少粒。 | 粘性有。3mm以下ローム粒・灰白色土粒・2~5mm燒土や多く含む。4mmに似る                          |
| 14 黒褐色土 細少粒。 | 粘性有。12層より黒褐色が有り。3mm以下ローム粒・燒土やや多く含む                               |
| 15 黒褐色土 細少粒。 | 粘性有。シラミに黒褐色燒土多く含む  |
| 16 黒褐色土 細少粒。 | 粘性有。13層に似る。3mm以下灰白色土粒も含む   |
| 17 黒褐色土 細少粒。 | 粘性有。6層に似る。3~5mm燒土多く含む  |
| 18 黒褐色土 細少粒。 | 粘性有。2mm以下ローム粒多く。5~10mmロームブロックや多く含む                               |
| 19 黃褐色土 細少粒。 | 粘性有。黒褐色土ベースに、5mm以下ローム粒主体   |
| 20 黃褐色土 細少粒。 | 粘性有。灰白色土粒と黒褐色土が混ざる。2cmロームブロック・1cm燒土少し含む                          |
| 21 暗褐色土 細少粒。 | 粘性有。質地ある3mm以下灰白色土粒多く。5~40mm灰白色土ブロック・3~30mm燒土や多く。3~8cmロームブロック少し含む |
| 22 黑褐色土 細少粒。 | 粘性有。3mm以下灰白色土粒・燒土やや多く含む  |
| 23 黑褐色土 細少粒。 | 粘性有。3mm以下ローム粒・燒土。3mm以下灰白色土粒やや多く含む。鉄鉱を伴う                          |
| 24 暗褐色土 細少粒。 | 粘性有。灰白色土ベースに3mm以下ローム粒・燒土やや多く含む。鉄鉱を伴う                             |
| 25 黑褐色土 細少粒。 | 粘性有。5mm以下黒褐色・ローム粒・燒土・1cm以下灰白色土をやや多く含む5mm厚層有。鉄鉱を伴うなど複数種量重なる       |
| 26 黑褐色土 細少粒。 | 粘性有。黒褐色土ベースに1.5cm以下ロームブロック・粒主体                                   |
| 27 黑褐色土 細少粒。 | 粘性有。5~20mmロームブロック・3mm以下ローム粒多く含む                                  |
| 28 黑褐色土 細少粒。 | 粘性有。ローム土ベースに2cm以下ロームブロック主体                                       |
| 29 黑褐色土 細少粒。 | 粘性有。ロームブロック・灰白色土ブロック含む   |
| H1) 号付隣内ビット  | 1~3  |
| 1 黒褐色土 細少粒。  | 粘性有。2mm以下ローム粒・灰白色土粒・3mm以下燒土や多く含む。5mm以下灰白色土含む                     |
| 2 黒褐色土 細少粒。  | 粘性有。5~10mmロームブロック・3mm以下ローム粒や多く含む。                                |

3. 黒褐色土 細りや粗。粘性有。1cm以下下部ローム層多く含む

4. 黄褐色土 細り有。粘性有。ロームを含む黄褐色土ベースに、5mm以下ローム粒主体、3cm以下ロームブロック多く含む

ビット6

1. 黒褐色土 細り強。粘性有。0.5mm以下ローム粒少し含む

2. 黑褐色土 細り強。粘性有。2mm以下ローム粒多く含む

3. 黄褐色土 細り強。粘性有。黄褐色土ベース、5 ~ 10mmロームブロック多く含む

4. 黄褐色土 細りや粗。粘性有。2cm以上ロームブロックやや多く含む

ビット8

1. 灰白色土とローム・褐色土の混合土 細り強。粘性有。1.5 ~ 5cmロームブロック、灰白色土ブロック多く含む

2. 黒色土上1 ~ 3cm 大きなロームブロック ~ 5mmローム粒の混合土 細りやや粗

3. 細り強。5 ~ 10mmローム粒主体上に黒色土混入、2 ~ 3cm大塊土ブロック少く含む

4. 5 ~ 10mmローム粒主体上に褐色土混入、1cm以上ロームブロック少く含む

5. 褐色土 細りやや粗。3mmローム粒多く含む

6. 細りやや粗。5 ~ 10mm 黄褐色土ローム主体

ビット10

1. 黒褐色土 細り強。1 ~ 3cmロームブロック ~ 5mmローム粒多く含む

2. 褐色土 細り強。ローム粒と褐色土の混合、入口(内側)のビットか

ビット12 ~ 14

1. 混合土 細り有。1mmローム粒多く含む

2. 褐色土 細り有。ローム粒と褐色土の混合、入口(内側)のビットか

ビット15

1. 褐色土 細り弱。~ 5mmローム粒多く、粘土粒・鐵土粒多く含む

2. 黑褐色土 細り有。~ 3mmローム粒多く、~ 3mm鐵土粒・粘土粒少し含む

ビット16 ~ 17

1. 白色土とロームブロック

2. 黑褐色土 細り有。~ 3mmローム粒多く、~ 3mm鐵土粒・粘土粒少し含む

3. 黑褐色土 細りやや粗。~ 3mmローム粒多く、~ 3mm鐵土粒少し含む

ビット18

1. 黑褐色土 細り有。1mmローム粒少し含む

ビット20

1. 黑褐色土 細り強。1cmロームブロック多く含む

2. 褐色土 細り強。ローム粒主体。黒色土・1cm 大きなロームブロックとの混合土

3. 黄褐色土 細りやや粗。ローム主体

ビット22 ~ 26

1. 黑褐色土 細り有。粘性有。1cm以下灰白色土やや多く、しみ状に5 ~ 20mmロームブロック少く含む。P25では5mm以下鐵土・黃褐色土少く含む

2. 黑褐色土 細りや粗。粘性有。3mm以下灰白色土粒やや多く、2cm以下鐵土ブロック3cm以下同様少く含む

1' 色調精

2. 黑褐色土 細り有。粘性有。3mm以下ローム粒やや多く、P25では5mm以下鐵土・3mm以下灰白色土少く含む

3. 黑褐色土 細り強。粘性有。5 ~ 10mmロームブロックやや多く

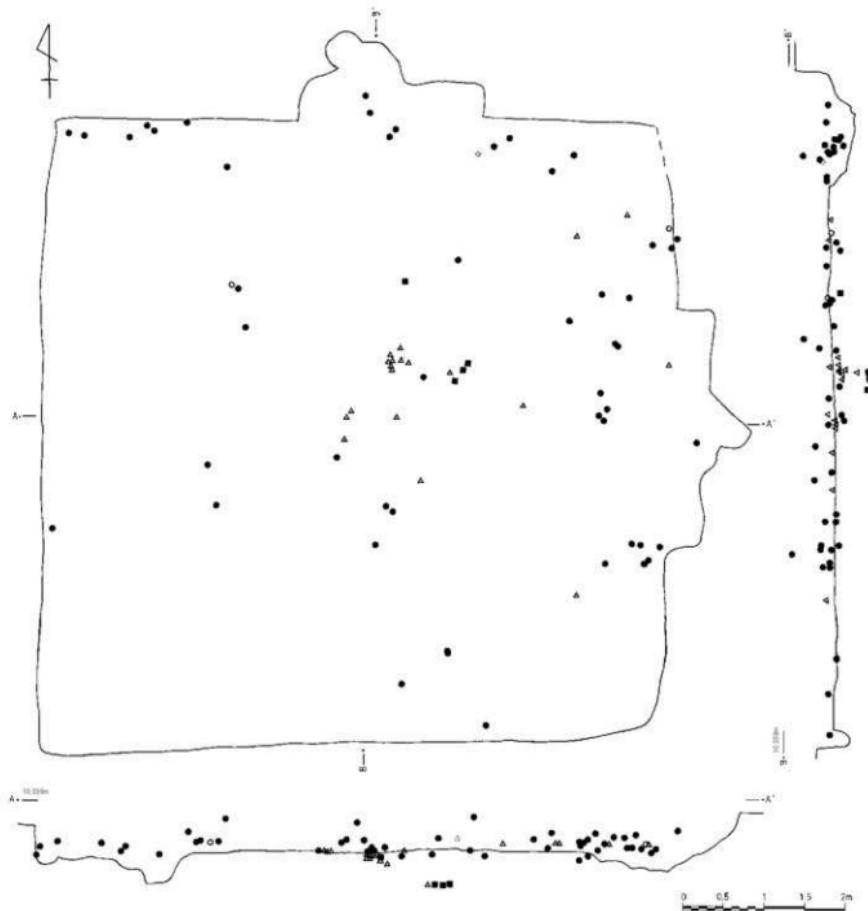
ビット27 褐土

1. 黄褐色土 細りやや粗。粘性有。3mm 鐵土少く含む

第15図 滝遺跡第21地点 H31号住居跡・住居内ピット土層説明

間距離は 75 cm である。10 cm 東に作業坑があり、中心間距離は 80 cm である。住居跡の中心に位置する。平面形態は円形で上端南北 50 × 東西 55 cm、下端南北 25 × 東西 25 cm、深さ 25 cm。

d 作業場 鍛冶炉の南西 160 ~ 200 cm、作業坑の西 100 ~ 160 cm の距離の床面に焼土面が点在する。径 15 ~ 25 cm の楕円形を呈し、周囲 160 cm ほどの範囲に鍛造薄片や焼土粒を含む土が硬く堆積する。



第 16 図 滝遺跡第 21 地点 H31 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)

## ②H 32号住居跡

調査区の西端F-1～J-1グリッドに位置する。H 31 A号住居跡の北西部分と壁が一部接しており、当住居跡の方が新しい。また、当住居南東角とH 31 B号住居跡の北西角が接し、直交する。保存のため未調査であるが、確認のための試掘では床面まで確認面から25cmの深さがある。

## ③掘立柱建物跡

調査区西側に位置する。主軸方位はN=0°～E、5間×3間で桁行9m×梁行5.5mの規模がある。桁行・梁行ともに柱の中心間は1.75～2.0mである。

## ④井戸

2基検出した。井戸1は調査区中央に位置する。井

戸底はローム層であるが、底から70cm上まで酸化面が確認できる。深さは確認面から295cmあり、中世陶磁器を検出した。

井戸2は調査区西端、H 31 A号住居跡の15cm西、H 31 B号住居跡の130cm西、H 32号住居跡の130cm南に位置する。H 31 B号住居跡とH 32号住居跡からは等距離である。保存のため南半分の途中までの調査である。堆積層や出土遺物から時期は古代。

## ⑤溝

4条検出した。溝1～3は調査区の北西隅、南北方向に並行して位置し、H 31号住居跡より新しい。溝1は11m検出し、上幅35～65cm、下幅15～48cm、確認面からの深さ5～15cm。溝2は4.5m検出

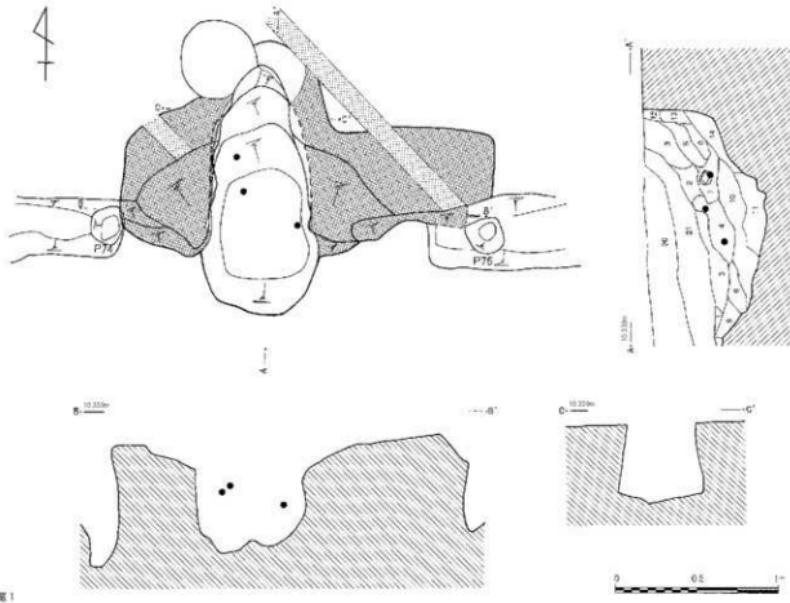


図1

1. 黒褐色土 細い強、粘性有、シミ状に3mm以下灰白色土粒をや多く、3mm以下  
鐵少しあむ
2. 黄色土有る灰白色土 細い強、粘性有、シミ状に黒褐色土をや多く含む
3. 黄色土有る灰白色土 細い強、粘性有、シミ状に黒褐色土を少し含む
4. 黑褐色土 細い強、粘性有、灰白色土、赤褐色土、黒褐色土が混ざる
5. 黑褐色土 細い強、粘性有、2層土にしまじらの赤褐色土が多く混ざる
6. 黑褐色土 細い強、粘性有、4層土に似る
7. 黑褐色土 細いやや弱、粘性やや弱、シミ状に赤褐色土を含む
8. 黄色土有る灰白色土 細い強、粘性有、黒褐色土をシミ状に、3～10mm鐵土  
や多く含む
9. 黄灰色土 細い強、粘性有、5～10mm鐵土・シミ状に5～10mm灰白色土やや多く含む
10. 黄灰色土 細い強、粘性有、灰白色土、黄灰色土、3～10mm鐵土が混ざる、斑状を呈する
11. 黄灰色土 細い有、粘性有、10層土に似るが細引けめ、暗褐色のローム土を少し含む
12. 黄灰色土 細い有、粘性有、13層土にシミ状の黒褐色土が混ざる
13. 黄灰色土 細い強、粘性有、灰白色土に黒褐色土が混ざる
14. 蓝褐色土 細い強、粘性有、シルト質、シミ状の3mm以下鐵土やや多く含む
15. 蓝褐色土 細い強、粘性有、3mm以下ローム粒、鐵土、5mm以下シミ状の灰白色土やや多く  
含む、鉄序を伴う
21. 黑褐色土 細い強、粘性有、黄色味ある灰白色土（繩構築土と同じ）3mm以下れ多C、同5  
～40mm灰白色土ブロック・3～30mm鐵土やや多く、3～8cmロームブロック少しあむ

第17図 滝遺跡第21地点 H31号住居跡竈 1(1/30)

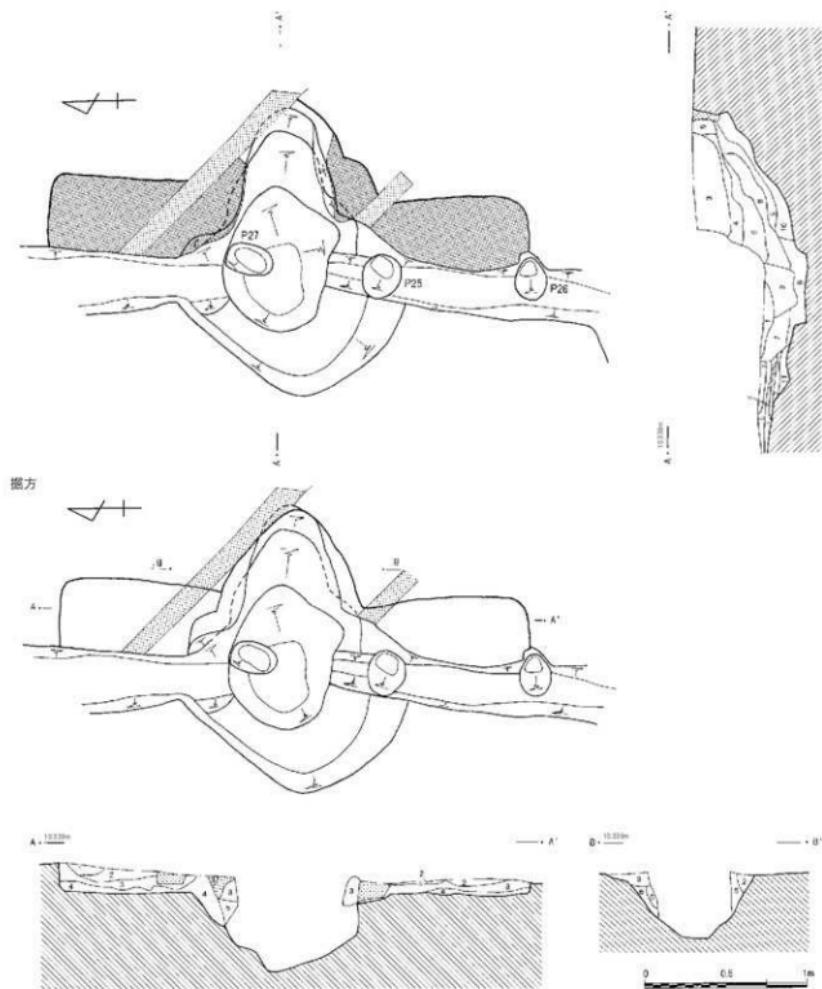


図 2 A-A'

- 1 黄灰色土・紳り強。粘性有、15mm 黒褐色土斑状に多く、5mm 以下ローム粒・2mm 以下灰白色土粒・3mm 以下鐵土粒や多く含む
- 2 黄灰色土・紳り強。粘性有、ローム粒・鐵土粒・灰白色土粒多く、各 1cm 以下ブロックや多く含む
- 3 黄色味有る灰白色土・紳り強。粘性有、シモ状に黒褐色土・鐵土少し含む
- 4 黄色味有る灰白色土・紳り強。粘性有、鐵土をシモ状に含み、赤褐色味が有る、1cm 以下鐵土ブロック・粒や多く含む
- 5 赤褐色土・紳り強。粘性やや弱、黄灰色土ベースにスサ入の鐵土ブロック主体
- 6 赤褐色土・紳り強。粘性有、黄灰色土と鐵土が混在る、1cm 以下鐵土ブロックし含む
- 7 黄灰色土・紳り強。粘性有、3mm 以下灰白色土粒多く、同 5 ~ 10mm ブロック・5mm 以下鐵土や多く含む
- 8 黄灰色土・紳り強。粘性有、色調褐色味が有る、5mm 以下鐵土やや多く、1cm 以下灰白色土・3mm 以下黒褐色土粒少し含む
- 9 黄色味有る灰白色土・紳り強。粘性有、空隙に似る、鐵土をシモ状に含み、赤褐色味が有る、1cm 以下鐵土ブロック・粒や多く含む
- 10 黑褐色土・紳り強。粘性有、3mm 以下ローム粒や多く、5mm 以下鐵土少し含む
- 11 黄灰色土・紳り強。粘性有、色調褐色味が有る、3mm 以下鐵土やや多く含む

粘床

- a 5mm 内外層の黒褐色土と灰白色土が互層を成す
  - b 黑褐色土・3mm 以下ローム粒・灰白色土粒少く含む
  - c 黄褐色土・5mm 以下ローム粒・鐵土多く含む
  - d 黑褐色土・5mm 以下鐵土や多く含む
  - e 黑褐色土・2mm 以下ローム粒多く、2mm 以下鐵土少しく含む
- 断面 A-A' - B-B'
- 1 黑褐色土・紳り有、～5mm 鉢土粒、鐵土粒含む
  - 2 白色粘土主張・紳り有、黒褐色土層入り、～3mm 鉢土粒多く含む
  - 3 白色粘土・紳り有、やシルト質
  - 4 黄褐色シルト土・サクサツする、紳り有、硬い
  - 5 鉢土層が赤化したものの、橙白色を呈する、紳り有
  - 6 白色粘土層に赤化粘土が混入する

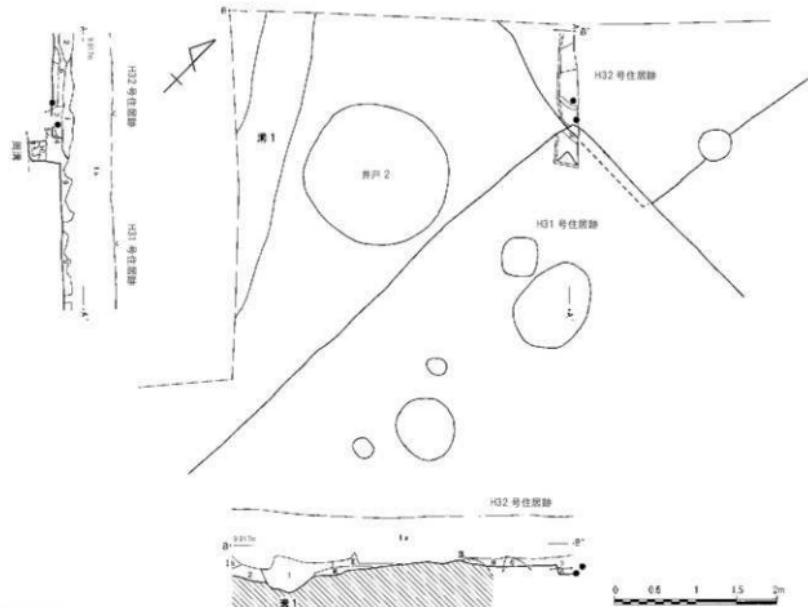
し、上幅 50 cm 前後、下幅 8 ~ 20 cm、確認面からの深さ 12 ~ 18 cm。溝 3 は 3.3 m 檜出し、上幅 35 cm 前後、下幅 20 ~ 25 cm、確認面からの深さ 4 cm。

溝 4 は調査区の北東部、東西方向に位置する。15 m 檜出し、西から東に向かって、幅広く深くなっている。上幅 50 ~ 195 cm、下幅 10 ~ 15 cm、確認面からの深さ 6 ~ 45 cm。断面は緩やかな「V」字形を呈する。

#### ⑥土坑

20 基検出した。土坑 1 と土坑 8 は平面楕円形で浅く、堆積土層から時期は古代。土坑 16 は円形で出土遺物から近世。土坑 18 は溝状遺構の集合で不整形で時期不明。

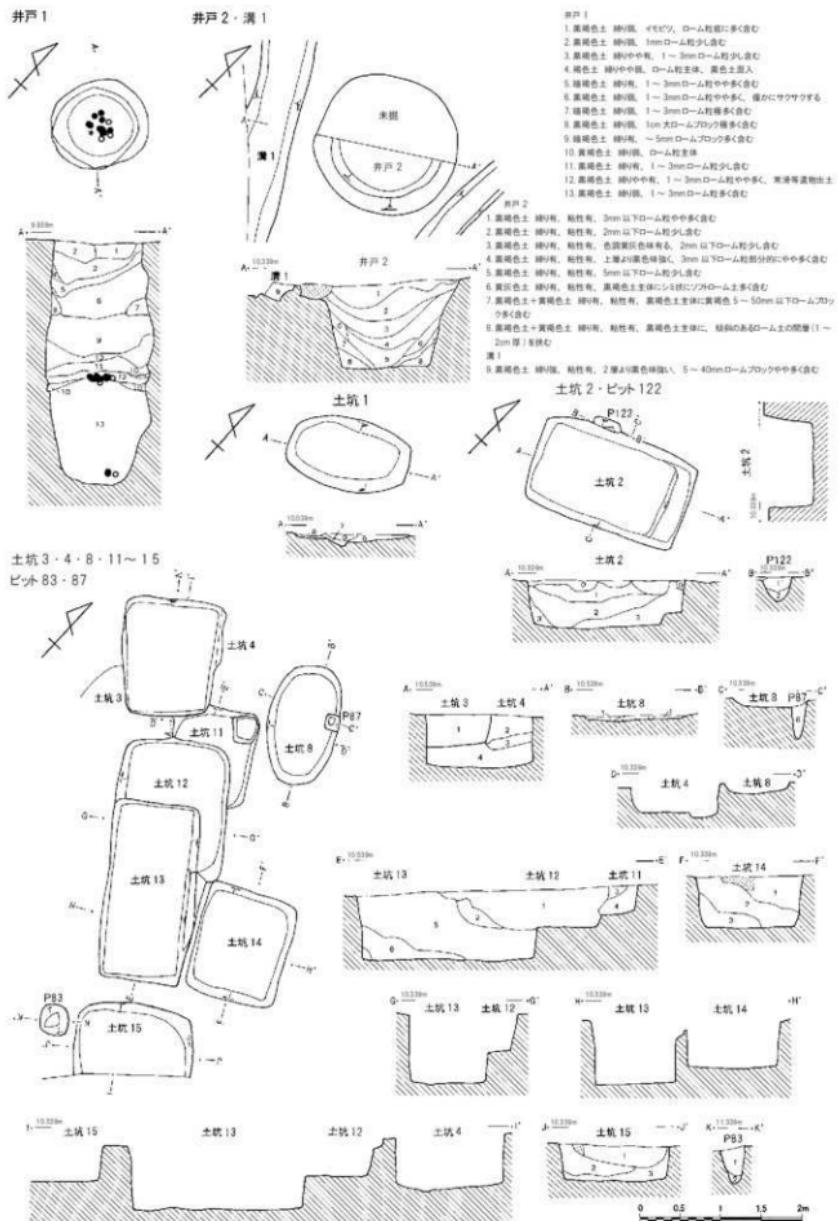
残りの土坑は方形か長方形を呈し、重複しあう。土坑 4 ~ 6、11 ~ 15 は主軸方位が北北西、土坑 2、7 ~ 10、17、19、20 は東北東を示し、直交する。土層からは一方向から一気に埋められた形跡が伺われる。出土遺物はないが、堆積土層から時期は古代ではなく中世以降。



H32号住居跡

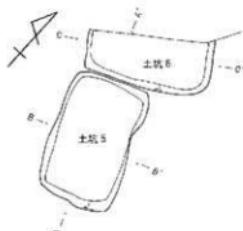
1. 黒褐色土 細り強。粘性有。2mm以下ローム粒や多く、2mm以下漂土・黄白色土少し含む
  2. 黒褐色土 細り強。粘性有。1層より黄色味がかる。2mm以下ローム粒・漂土少し含む
  3. 黑褐色土 細り強。粘性有。5mm以下黒褐色土やや多く含む
  4. 黑褐色土 細り強。粘性有。色調黒色味強く、混入物が少ない
  5. 黑褐色土 細り強。粘性有。最大 5mm、平均 2mm以下の細粒のローム粒多く含む
  6. 黑褐色土 細り強。粘性有。0.5mm以下の細粒ローム粒、3mm以下漂土、1mm以下黄白色土粒や多く含む
  7. 黑褐色土 粘性有。2mm以下ローム粒や多く、2mm以下漂土・1mm以下黄白色土粒少し含む。全体の色調は6層より黄色味がかる
  8. 黑褐色土 細り強。粘性有。色調は3層に似る。5mm以下ローム粒やや多く含む
  9. 黑褐色土 細り強。粘性有。最大 3mm、平均 1mm以下漂土粒やや多く含む。色調は黑色味強い
  10. 黑褐色土 細り強。粘性有。混入物はない。1mm以下ローム粒・漂土僅かに含む
  11. 黑褐色土 細り強。粘性有。2mm以下の細粒ローム粒・漂土・黄白色土粒やや多く含む
- 1a. 黒褐色土 細り強。粘性有。表層(厚さ15cm)は現在の耕作土だが、シミ状に灰褐色土を多く含む。3mm以下ローム粒少し含む
- 1b. 黑褐色土 細り強。粘性有。色調は住居の土より褐色味が有り、混入物は少なく、1cmロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む
- 自然堆積
- II. 黑褐色土 細り強。粘性有。3mm以下ローム粒・粘土粒・漂土粒少し含む  
(住居跡の上層よりローム粒は認め)
- III. 黑褐色土 細り強。粘性有。シミ状に黒褐色土を含む
1. 黑褐色土 細り強。粘性有。5~40mmロームブロックやや多く含む。2層上り黒色味強い
2. 黑褐色土 細り強。粘性有。1層より色調明るい。5mm以下ローム粒少し含む

第19図 滝遺跡第21地点 H32号住居跡遺物出土状況図・溝1 (1/60)

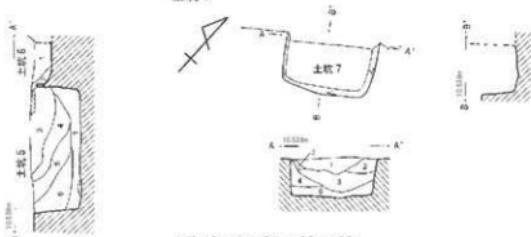


第20図 滝遺跡第21地点井戸・土坑・ピット(1/60)

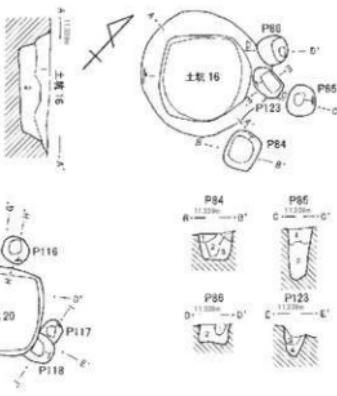
土坑5・6



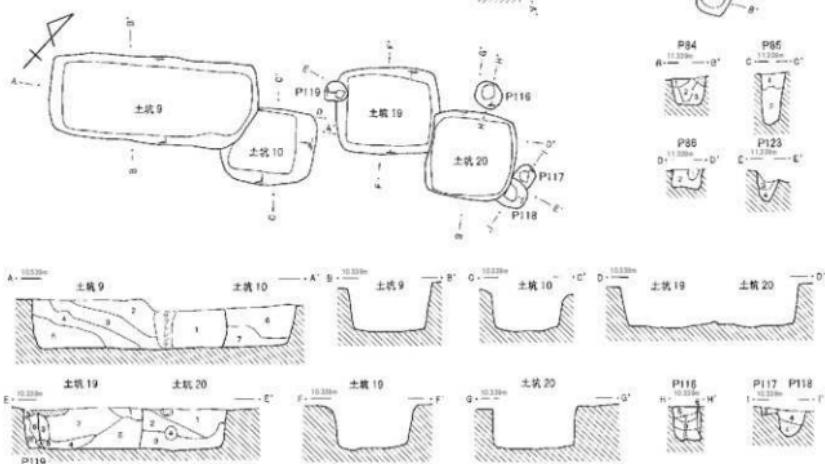
土坑7



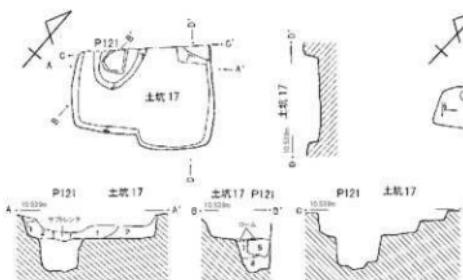
土坑16・ビット84～86・123



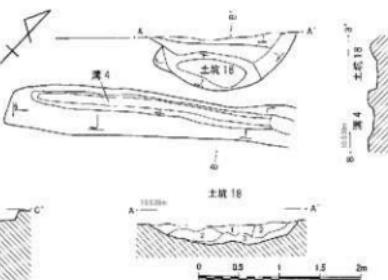
土坑9・10・19・20・ビット116～119



土坑17・ビット121

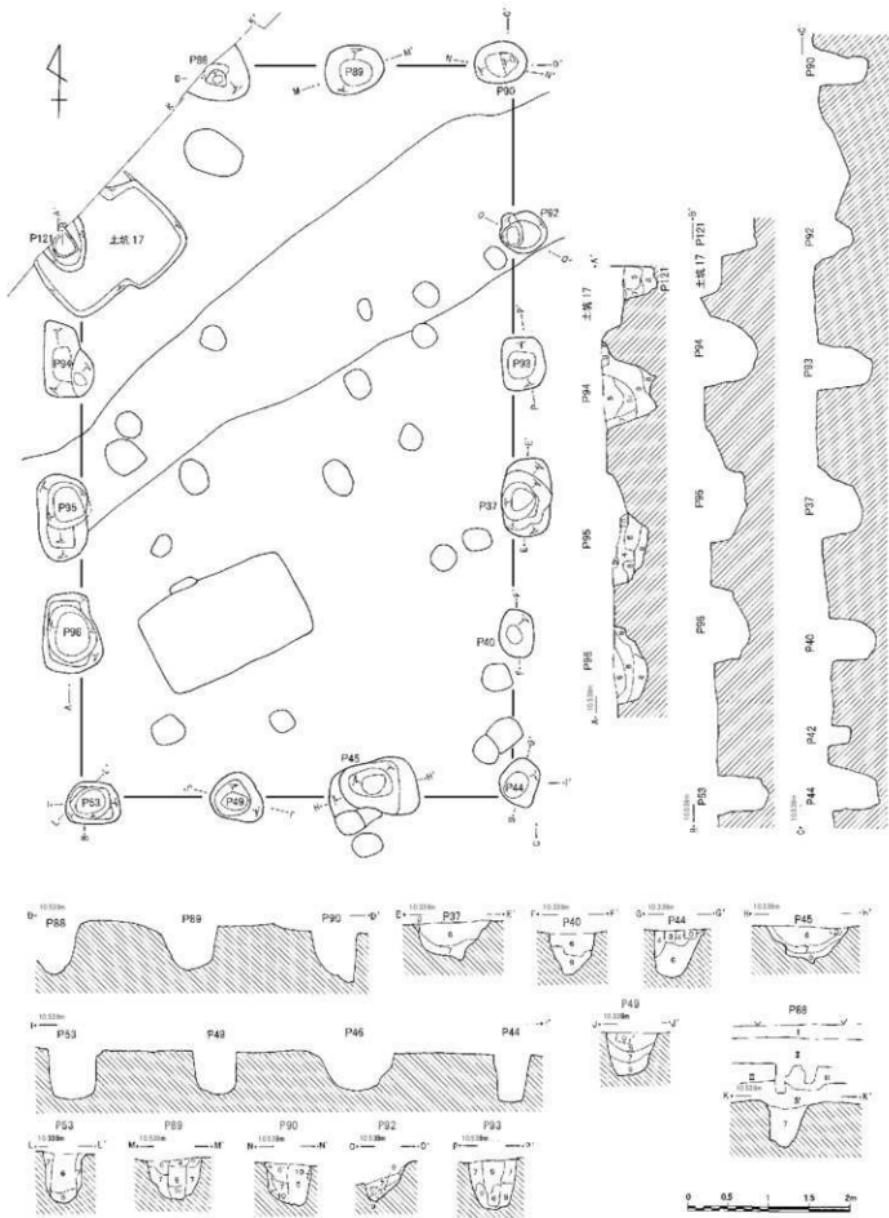


土坑18・溝4

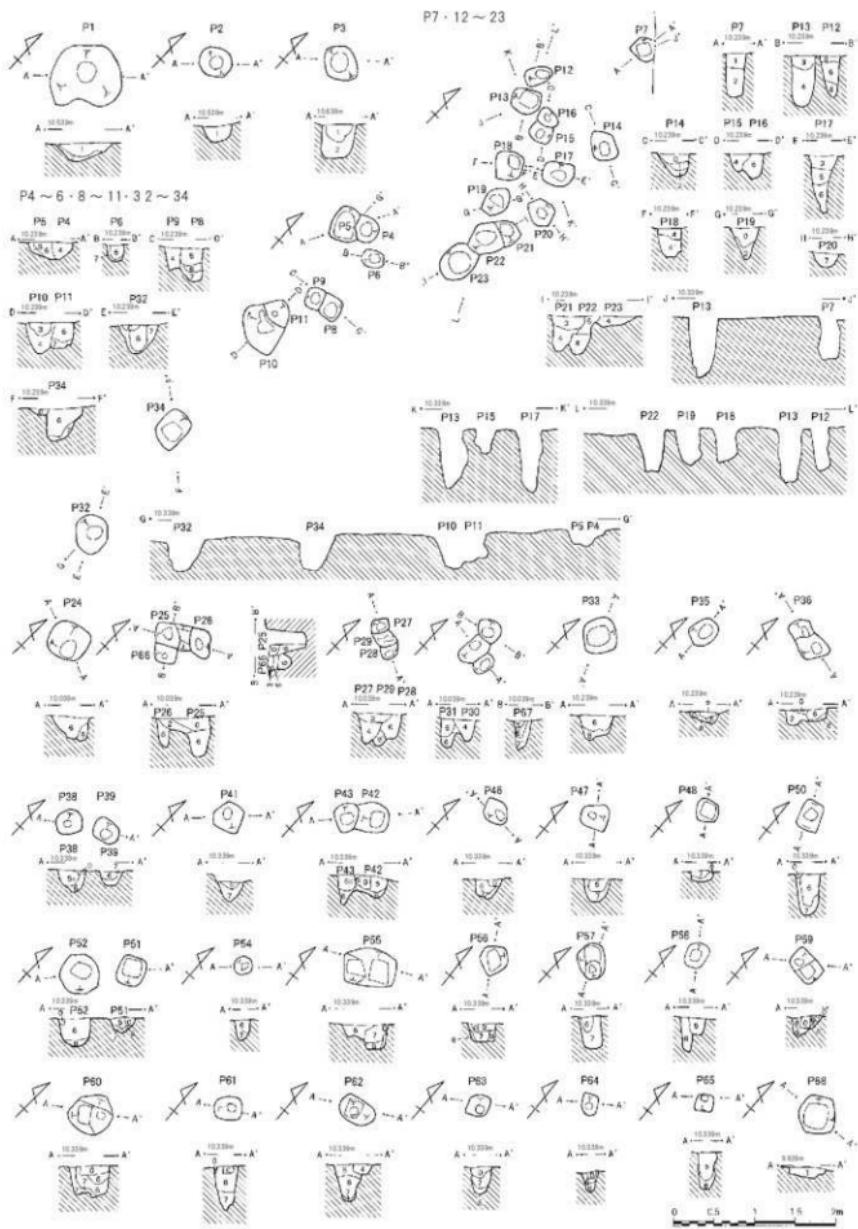


第21図 滝遺跡第21地点土坑・ビット (1/60)

## 第22図 滝遺跡第21地点土層説明



第23図 滝遺跡第21地点掘立柱建物跡 (1/60)



第24図 滝遺跡第21地点ピット① (1/60)

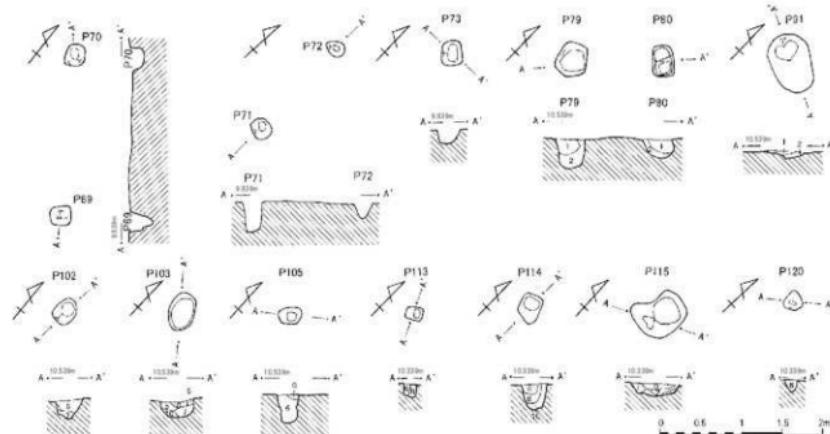
第5表 滝遺跡第21地点 H31号住跡ピット一覧表(単位:cm)

No.	平面形状	縦横面	深度	層号
P1	不規則	109 × 154	21 × 11	97 土層
P2	楕円形	59 × 49	30 × 12	96 土層、陶器層
P3	楕円形	77 × 74	25 × 12	97 土層
P4	円形	87 × 73	35 × 35	79 土層
P5	円形	99 × 95	55 × 52	47 H31 土層、陶器層
P6	円形	120 × 103	25 × 21	117 土層
P7	円形	103 × 97	11 × 9	102 土層
P8	円形	104 × 92	42 × 31	111 土層、陶器層
P9	円形	54 × 49	23 × 23	25 土層、陶器層
P10	円形	97 × 96	14 × 13	106 土層
P11	円形	16 × 55	26 × 28	88 土層
P12	不規則	57 × 35	35 × 15	27 土層
P13	不規則	(32) × 26	(20) × 15	15 土層
P14	不規則	(38) × (37)	12 × 11	28 土層
P15	円形	32 × 26	14 × 12	36 土層
P16	不規則	32 × (19)	8 × (5)	26 土層
P17	不規則	30 × (16)	15 × 12	24 土層
P18	円形	24 × 23	11 × 9	32 土層
P19	不規則	52 × (50)	15 × 14	118 土層
P20	円形	78 × 70	26 × 23	112 土層
P21	不規則	102 × 87	13 × 13	106 土層
P22	円形	23 × 20	13 × 12	29 土層
P23	円形	28 × 25	11 × 7	27 土層
P24	円形	21 × 19	8 × 8	29 土層
P25	円形	27 × 22	15 × 11	61 土層
P26	円形	25 × 19	10 × 10	36 土層
P27	楕円形	30 × 19	21 × 11	29 土層

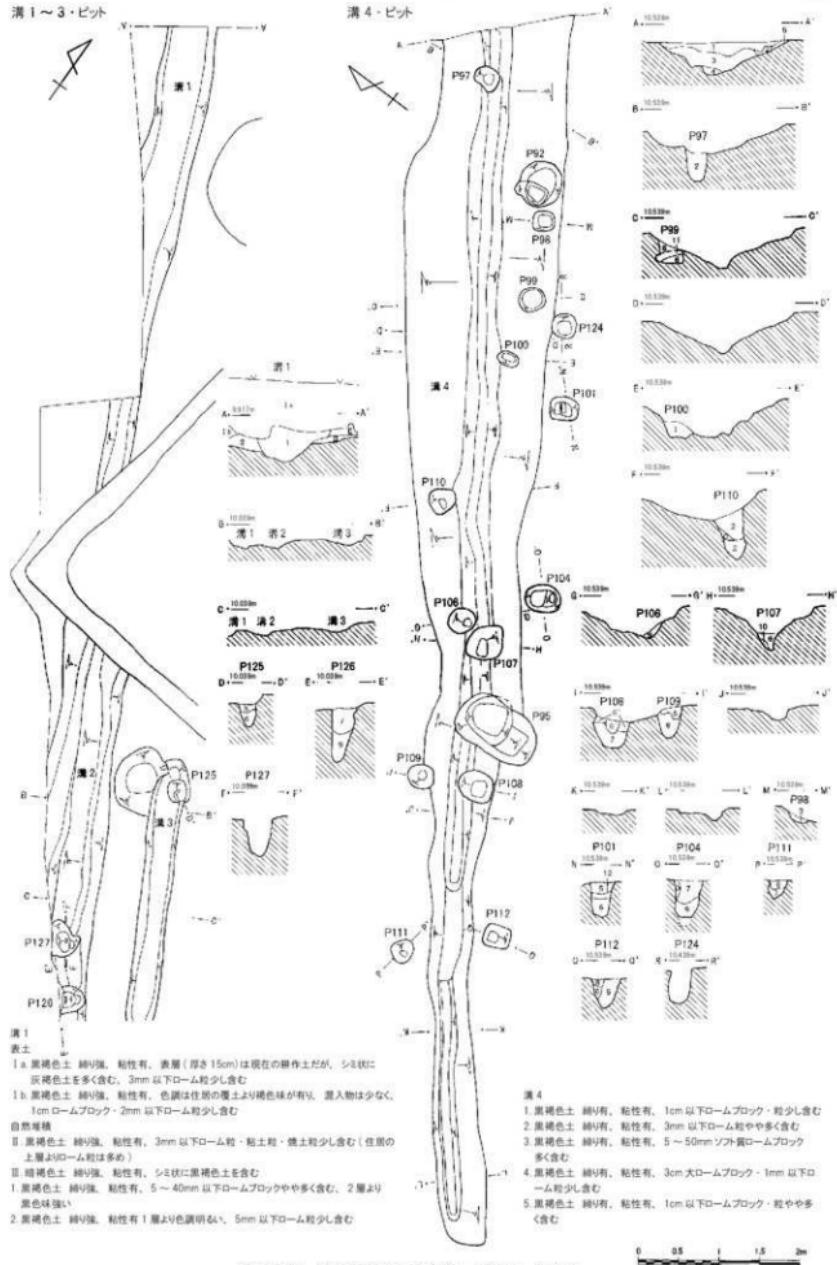
No.	平面形状	縦横面	深度	層号
P28	円形	120 × 110	80 × 74	299 土層、石器、陶器層、磚
P29	円形	120 × 110	75 × 70	109 土層
P30	円形	88 × 73	23 × 23	23 土層
P31	円形	49 × 37	17 × 17	26 土層
P32	円形	43 × 39	24 × 31	446 土層
P33	円形	32 × 20	18 × 18	23 土層
P35	円形	43 × 20	40 × 16	16 土層
P36	円形	27 × 22	10 × 10	26 土層
P37	円形	31 × 28	18 × 16	53 土層
P38	円形	30 × 26	18 × 15	45 土層
P39	円形	27 × 22	15 × 11	30 土層
P40	不規則	64 × (38)	29 × 20	43 土層
P41	円形	38 × 31	7 × 7	37 土層
P42	楕円形	25 × 22	18 × 12	53 土層
P43	円形	25 × 32	22 × 19	75 土層
P44	円形	37 × 32	18 × 11	30 土層
P45	円形	29 × 21	13 × 10	29 海底層
P46	円形	27 × 21	10 × 7	32 土層
P47	円形	39 × 30	18 × 14	78 土層
P48	方形容	34 × 34	15 × 15	39 土層
P49	円形	40 × 27	18 × 14	43 土層
P50	円形	33 × 31	15 × 11	22 土層
P51	不規則	33 × (23)	15 × 14	46 土層
P52	円形	41 × (38)	22 × 20	50 土層
P53	円形	30 × 26	27 × 26	14 土層
P54	円形	50 × (45)	23 × 18	21 土層
P55	半円形	43 × 30	18 × 13	50 土層
P56	方形容	35 × 35	18 × 18	25 土層
P57	方形容	27 × 17	11 × 9	41 土層
P58	方形容	23 × (14)	11 × 9	33 土層
P59	不規則	23 × (20)	12 × 7	41 土層
P60	円形	26 × 18	17 × 10	29 海底層
P61	不規則	(40) × 26	13 × 10	50 土層
P62	円形	49 × 39	20 × 17	38 土層
P63	円形	42 × 41	21 × 24	29 土層
P64	方形容	46 × 35	23 × 21	44 土層
P65	円形	38 × 30	20 × 14	17 土層
P66	方形容	50 × 30	14 × 12	25 土層
P67	圓方形容	95 × 60	29 × 25	53 土層
P68	円形	32 × 30	10 × 7	33 土層
P69	円形	32 × 28	13 × 13	21 土層
P70	円形	58 × 43	21 × 16	58 土層
P71	円形	35 × 34	14 × 11	29 土層
P72	円形	38 × 35	20 × 17	28 土層
P73	円形	34 × 30	16 × 14	30 土層
P74	円形	56 × 49	34 × 26	61 土層
P75	圓方形容	109 × 73	30 × 24	49 土層、磚
P76	円形	39 × 30	15 × 10	29 土層
P77	円形	35 × 32	10 × 8	35 土層
P78	円形	28 × 27	18 × 18	16 土層
P79	円形	67 × 60	29 × 21	57 土層
P80	円形	35 × 28	15 × 12	53 土層
P81	圓方形容	A (11.2m) — A'	—	—

第6表 滝遺跡第21地点遺構一覧表(単位:cm)

No.	平面形状	縦横面	深度	層号
土1	楕円形	150 × 88	123 × 63	11 土層
土2	長方形	198 × 120	160 × 96	62 土層
土3	不規則	75 × —	— × —	40 土層
土4	方形容	145 × 118	130 × 112	67 土層
土5	長方形	156 × 103	145 × 88	67 土層
土6	不規則	157 × (67)	145 × (60)	30 海底層
土7	不規則	113 × (61)	101 × (56)	49 土層
土8	楕円形	147 × 87	124 × 70	13 土層
土9	不規則	257 × 105	235 × 85	63 土層
土10	方形容	112 × 95	85 × 73	52 海底層
土11	不規則	118 × 104	110 × 92	36 土層
土12	長方形	164 × 135	152 × 118	49 土層
土13	長方形	218 × 119	210 × 91	87 土層
土14	不規則	137 × 116	125 × 103	63 土層
土15	不規則	137 × 120	125 × 107	49 土層
土16	不規則	180 × 153	165 × 97	45 土層、海底層
土17	不規則	118 × (125)	163 × (120)	24 土層
土18	不規則	160 × (63)	95 × 30	34 土層
土19	方形容	127 × 110	103 × 87	55 土層
土20	方形容	108 × 106	95 × 95	34 土層、海底層



第25図 滝遺跡第21地点ピット②(1/60)



第 26 図 滝遺跡第 21 地点溝・ピット (1/60)

第7表 滝遺跡第21地点ピット一覧表 (単位cm)

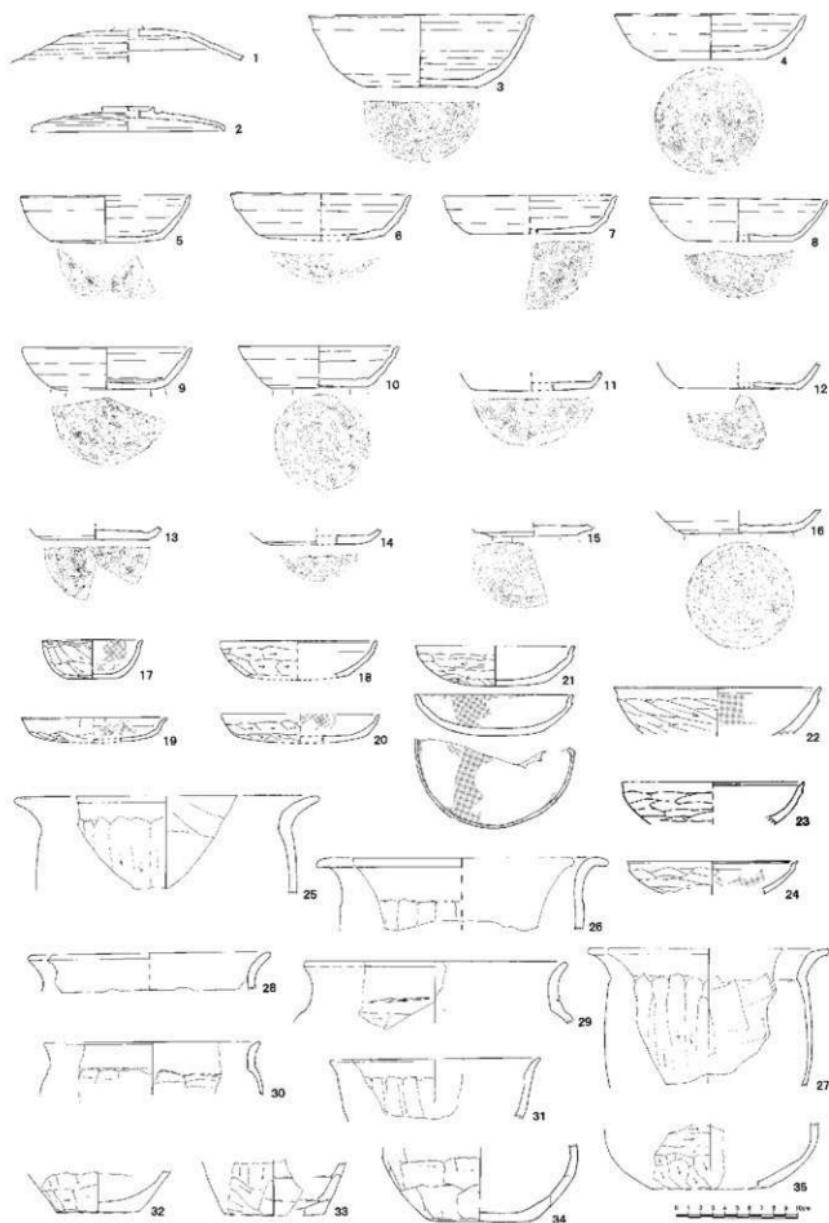
No.	平面形態	横径	底面	深さ	備考
P51	円形	26 × 34	25 × 22	13	
P52	円形	49 × 47	23 × 19	41	
P53	方形	67 × 52	35 × 27	68	
P54	円形	23 × 22	8 × 8	25	
P55	円形	65 × 45	27 × 24	35	
P56	円形	37 × 33	23 × 18	24	
P57	円形	42 × 33	10 × 9	44	
P58	方形	47 × 47	13 × 14	46	
P59	長方形	43 × 29	9 × 8	28	
P60	円形	55 × 49	10 × 9	47	
P61	円形	34 × 30	11 × 10	57 土層	
P62	円形	45 × 31	13 × 10	58	
P63	方形	23 × 26	11 × 11	36	
P64	方形	25 × 20	9 × 9	31	
P65	方形	22 × 21	9 × 7	51	
P66	方形	27 × 22	7 × 7	44	
P67	円形	30 × (25)	14 × 12	54	
P68	円形	47 × 45	32 × 29	21	
P69	方形	25 × 23	6 × 3	30	
P70	円形	28 × 22	13 × 10	11	
P71	円形	26 × 23	12 × 9	38	
P72	円形	25 × 19	9 × 7	19	
P73	円形	31 × 25	22 × 12	22 土層	
P74		H-31号地盤P22に変更			
P75		H-31号地盤P23に変更			
P76		H-31号地盤P24に変更			
P77		H-31号地盤P25に変更			
P78		H-31号地盤P26に変更			
P79	円形	40 × 38	33 × 27	40	
P80	方形	38 × 25	15 × 12	25	
P81		H-31号地盤P27に変更			
P82					
P83	円形	29 × 25	15 × 16	48	
P84	方形	30 × 25	22 × 28	29	
P85	円形	26 × 34	14 × 13	70 土層	
P86	円形	37 × 36	13 × 12	32	
P87	方形	19 × 13	6 × 9	48	
P88	方形	53 × (56)	15 × 8	67	
P89	円形	32 × 60	39 × 32	53	
P90	円形	65 × 51	7 × 6	68	

## H 31号住居出土遺物

1は、先端が欠損。宝珠状つまみのつく須恵器蓋。口径は19cm以上になる大型。白色針状物質を混入。2は、環状つまみのつく須恵器蓋。口径15.8cm。白色針状物質を少量混入。3、須恵器椀形。口径1/2現存で18.3cm、器高5.8cm。底径9.4cm。底部全面回転ヘラ削り。底部体部下端二重に回転ヘラ削り。白色針状物質多量に混入。石英(3mm大)を多量に含む。体部表面のろくろ痕はほとんどられない。内面のろくろ痕は著しい。口唇部先端を外溝に作出。4は、須恵器坏。2/3現存15.7cm、器高3.8cm、底径9.1cm。底部全面回転ヘラ削り。白色針状物質を多量に含む。石英2mmの小粒を含む。内面に底部から体部へ移行箇所に爪立ての浅い窪みあり。5は、須恵器坏。口縁部1/2、底部1/5現存。口径14cm、器高3.7cm、底径9.3cm。底部全面回転ヘラ削り。口唇部は内湾気味に立ち上がり、底部から体部へ移行箇所に爪立ての浅い窪みあり。胎土は精鍛され、砂粒は1mm以下で、非常に滑らかである。6は、須恵器坏。口縁部1/2、底部1/4現存。口径15cm、器高3.8cm、底径9.0cm。底部にはろくろ円柱痕が残る。全面回転ヘラ削り。胎土は精鍛され、砂粒は1mm以下。

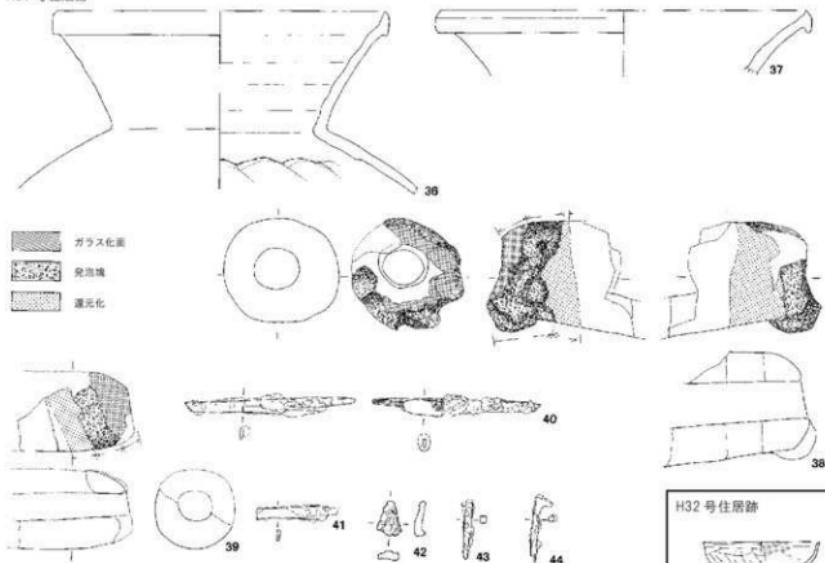
No.	平面形態	横径	底面	深さ	備考
P91	円形	74 × 52	30 × 20	12	
P92	円形	56 × 55	22 × 14	37 土層	
P93	方角	64 × 53	35 × 24	69	
P94	菱形	44 × 35	11 × 9	56 土層	
P95	楕円形	105 × 80	42 × 26	49	
P96	扇形	100 × 71	54 × 41	42	
P97	円形	21 × 25	14 × 12	34	
P98	方形	24 × 24	11 × 11	3	
P99	円形	39 × 29	25 × 22	33	
P100	楕円形	26 × 16	15 × 7	24	
P101	方形	36 × 28	13 × 6	54	
P102	円形	33 × 26	17 × 16	27	
P103	円形	47 × 39	37 × 26	26	
P104	円形	45 × 36	11 × 6	55	
P105	円形	29 × 21	10 × 9	36	
P106	円形	33 × 30	11 × 10	27	
P107	円形	43 × 41	20 × 12	42	
P108	円形	44 × 37	19 × 19	48	
P109	円形	32 × 28	12 × 10	41	
P110	円形	32 × 31	13 × 7	60	
P111	円形	38 × 26	10 × 7	24	
P112	方形	33 × 29	12 × 11	39	
P113	方形	20 × 15	10 × 6	18	
P114	方形	34 × 26	19 × 14	31	
P115	半楕円	63 × 47	17 × 11	18	
P116	円形	34 × 32	18 × 15	45 土層	
P117	半円	(35) × 24	15 × 10	12 土層	
P118	不明	34 × (27)	17 × 14	26	
P119	円形	28 × 24	12 × 10	40	
P120	円形	23 × 21	9 × 4	17	
P121	半円	63 × (47)	25 × 25	40	
P122	半円	35 × (12)	13 × (3)	29	
P123	円形	42 × 27	27 × 16	24	
P124	円形	36 × 27	17 × 11	41	
P125	円形	27 × 24	12 × 4	29	
P126	半円	45 × (30)	10 × 2	69	
P127	半円	43 × (38)	5 × 4	54	

7は、須恵器坏。口縁部1/2、底部1/4現存。口径14.2cm、器高3.2cm、底径10.0cm。底部全面回転ヘラ削り。白色針状物質と石英1mm前後の小さい粒子を多量に含む。8は須恵器坏。口縁部1/2、底部1/3現存。口径14.4cm、器高3.3cm、底径8.8cm。底部全面回転ヘラ削り。内外面ともに滑らかでろくろ痕の凹凸はない。白色針状物質多量に混入。9は須恵器坏。口縁部1/2、底部1/3現存。口径14cm、器高3.3cm、底径9.1cm。底部手持ちヘラ削りの後、周縁部回転ヘラ削り。外面は滑らかで、内面口縁を強く押している。底部に墨書あり。10は、須恵器坏。完形。口径13.2cm、器高3.5cm、底径8.0cm。底部回転糸切り後、周辺回転ヘラ削り。体部下端に手持ちヘラ削り。白色針状物質多量に混入。石英8mm～13mmを多量に含む。内外面に細い線状の火薬痕あり。底部から体部へ移行箇所に爪立ての浅い窪みあり。11～12は須恵器椀の底部破片。底径約10cmで、全面回転ヘラ削り。白色針状物質を含む。13～16は須恵器坏の底部破片。いずれも白色針状物質を含む。13は全面回転ヘラ削り。14は底部中央部が欠落して不明であるが、回転ヘラ削り、体部下端は手持ちヘラ削り。15・16は回転糸切りの後、周辺部回転ヘラ削り。



第27図 滝遺跡第21地点H31号住居跡出土遺物(1/4)

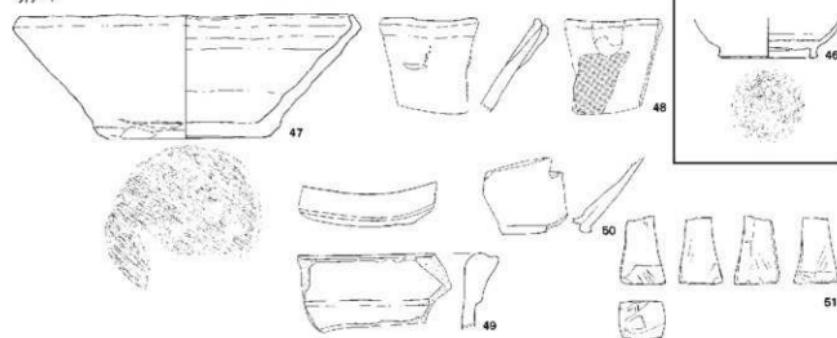
## H31号住居跡



## H32号住居跡



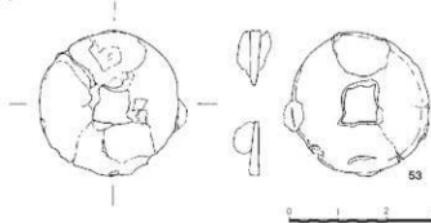
## 井戸1



## 土坑4



## 溝4



第28図 滝遺跡第21地点 H31・32号住居跡・井戸・土坑・溝出土遺物 (1/4・1/1)

17は、完形の土師器小形壺。口径8.4cm。器高3.2cm。内面は良好に磨かれている。内面に煤が付着し、灯芯の残骸が付着している。外面はヘラ削りで整形されている。18土師器壺。底部を欠。口径12.8cm。体部外面横ヘラ削り。内面は平滑。底部と体部に稜がある。19は土師器壺。口径現存1/8。口径推定12.0cm。口唇部は「く」の字状に外湾。体部下端から底面にヘラ削り。内面に煤が灯芯をうかがわせる線状に付着。20は、土師器壺。口縁部1/6現存。体部中央は横ヘラ削り、底部全面にヘラ削り。内面に煤。21は、土師器壺。現存1/2。口径13cm。器高3.4cm。底面にヘラ削りで丸底。口唇部を外湾。図示したように底部中央から口縁部にかけて煤が付着し、口唇部には全面煤が付着。22から24はいずれも1/4から2/5程度の破片であるが、口唇部内面に一条の沈線を巡らすものである。21と同じように口唇部直下から体部のヘラ削りにより丸底にするものである。内面は平滑で、22と24には煤が付着している。

25から28は、長胴の斐形土器で、口縁部の径1/5から1/10程度の破片で、体部を縱ヘラ削りで調整。口唇部の整形に違いがある。26は水平方向に、25と28は、「く」の字状に作り出す。27は体部の器厚は、3mm程度で非常に薄くなる。29は土師器でいわゆる丸胴の土器。口縁部の湾曲部に、胴部横ヘラ削りの工具先端があたっている。30は、土師器台付き壺になろう。口唇部先端は短く外湾。胴部は横ヘラ削り。内面には工具を当てた痕跡。31は土師器壺である。32・33は、上気27の底部になろう。34・35は上記25・26の底部でやや厚めで横ヘラ削りがある。36・37は、須恵器の大型壺。36は口径現存1/6で、33cm。肩部に平行たたき痕が一周している。内面には押さえ痕がある。37は、現存1/8。口径36cm位。38・39は鍛冶炉羽口。38は外径10.1cm、内径3.4cm、12.2cm残存する。先端は融解し、一部発泡する。スガが混入する。酸化部分と還元部分の境目から推定する羽口の装着角度は85度。39は外径6.6cm、内径2.9cm、9.2cm残存する。先端はガラス状に融解する。スガが混入する。40・41は鉄製の刀子。41は切先から基部まで残存し、柄部には木質部が残存する。長さ13.9cm、刃渡り8.1cm、刃巾0.85～1.35cm、厚さ0.38cm、ナカゴ巾0.95cm。41は6.75cm残存し厚さ0.38cm。42は用途不明の鉄製品。43・44は角釘。43は長さ4.6cm、0.7cm角、頭部を欠く。44は長さ5.6cm、0.55cm角、

頭部長1.0cm。

#### H 32号住居跡出土遺物

45は、土師器小形壺、9.7cm、器高2.9cm、現存1/2。大略完形。口唇部先端が、鋭く尖り外湾。口唇部ヨコなで、体部外面はヘラ削りを施し、底部との区別がある。内面は湾曲しなだらかに丸い。内面に煤が付着。

46は、須恵器高台付き壺。底径8cm。外面はなめらか、内面はロクロ巻き上げ痕がある。高台の内面に回転糸切り痕あり。

回転糸切りの後、周辺部回転ヘラ削り、高台を貼付。石英等の小砂利(5mm～3mm)、白色針状物質を多量に含む。

#### 井戸1

47・48は瓦質土器の片口鉢。47は約1/3現存。口径27.4cm、器高10.4cm。砂礫(10mm～3mm)を多量に含む。「了」字状の口縁で口縁内面が僅かにくぼむ。内外面とも滑らかな横撫で。底部は木質工具による横撫で。48は片口部分。49は常滑大甕口縁部片。50は須恵器高台付壺(表)底部。51は凝灰岩製の砥石。表裏側面4面が砥面で中央部が括れ破断する。常滑甕は中野編年の10型式。(1450～1500年)、瓦質土器は荒川編年で15世紀段階にあたる。

#### 土坑4

52は、小形高台付き壺。口径1/8現存、11.5cm。器高4.4cm。胎土は非常によく精鍊され畿内産の土師器に似る。色調は黄褐色で、外面は強い回転台で整形したものである。内面は、中心から外側に向かって直線的に密なヘラ磨きを施している。底部から体部に移行している箇所はヘラ磨きの工具が当たらず空白の無施文部となっている。

#### 溝4

53は鉄鉗。径2.75cm、孔径0.75cm。

溝21次調査の出土遺物は上記のとおりであるが、この中で、H 31号住居跡の須恵器蓋の環状つまみや底部の調整手法から、8世紀中葉に近い第2四半期にあたろう。また、覆土から出土した土師器壺に灯明皿が多いが、隣接して掘立柱建物の存在等や土坑4から出土した高台付き小形壺も畿内産という点に注目しておきたい。

## 第4章 長宮遺跡第41地点の本調査

### I 遺跡の立地と環境

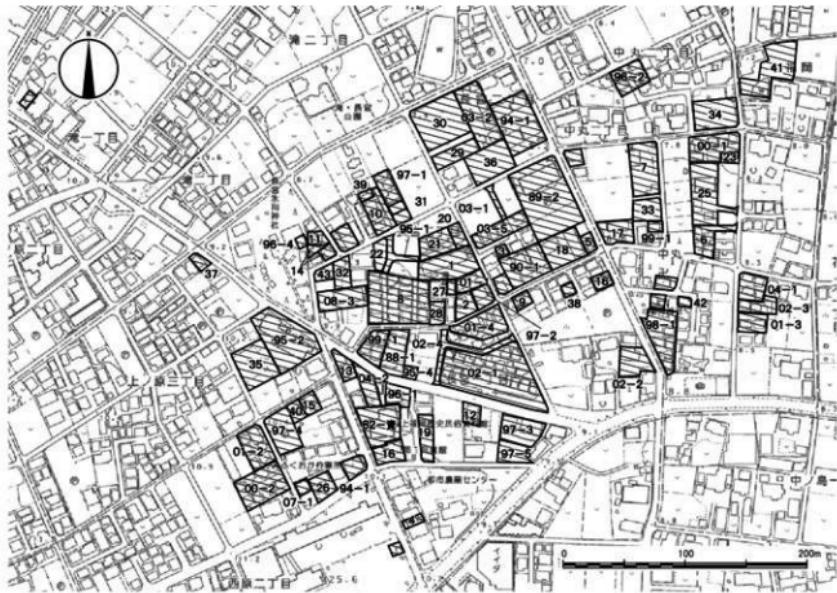
長宮遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に煙が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期・古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中・近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる

遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2013年9月現在46ヶ所で調査を行っている。主なる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に関係のある溝跡などである。

### II 本調査に至る経過と調査の概要

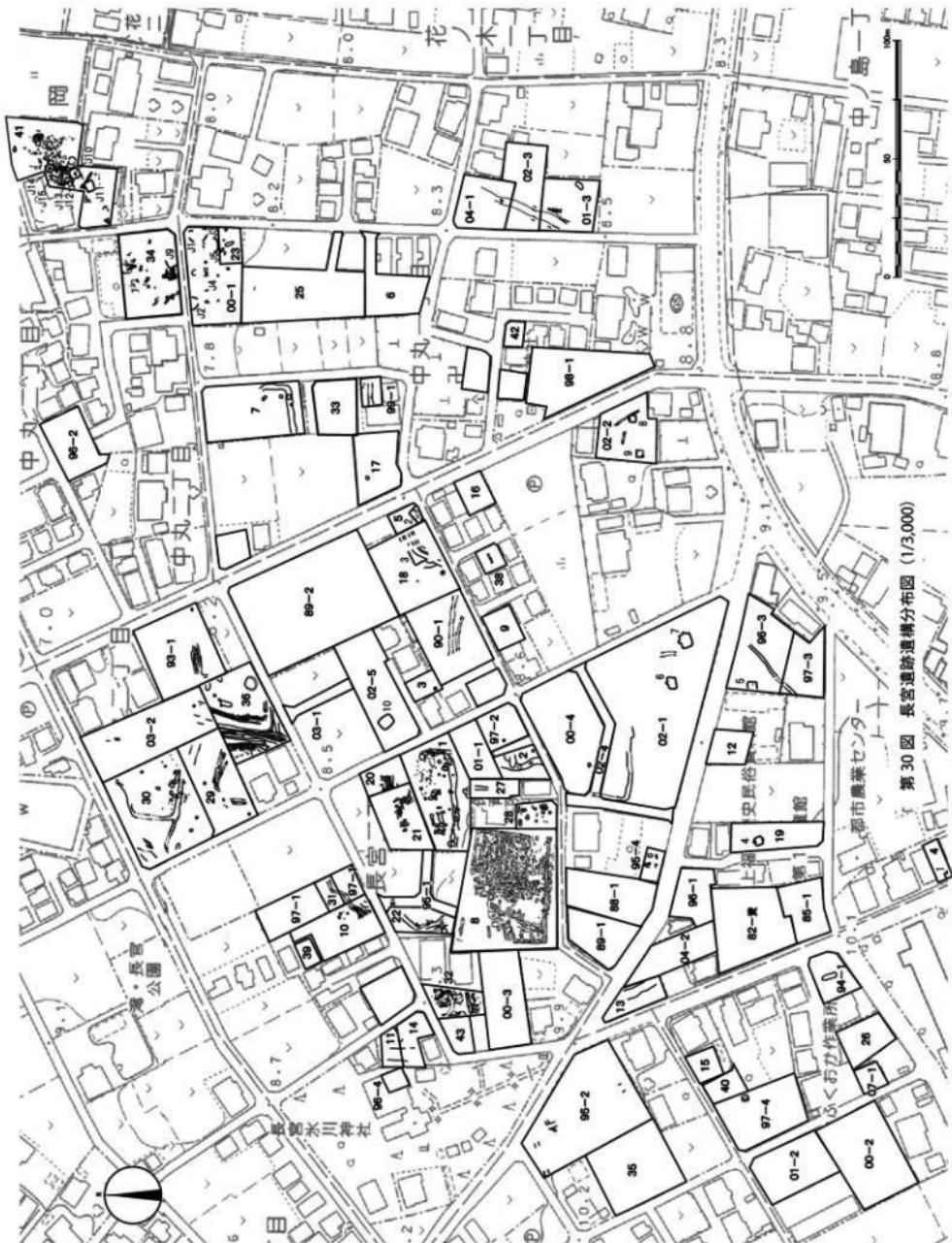
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2012年4月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外だが、1,000mを超える開発のため指導要項により事前協議書の提出を求めた。また、隣接する箇所で縄文時代前期の住居跡を検出したため、原因者と協議の結果、遺跡範囲の確認のため試掘調査を実施した。試掘調査は2012年4月17日から4月25日まで行なった。幅約3mのトレンチ1本、1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、土坑、ピット、炉穴、溝等を確認し



第8表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間(月)・日(西暦)	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1 例	長宮 2-1-23	1977.10.3 ~ 30	1,000	歴史探査	遺構なし、土坑4、柱穴6	川崎遺跡(第3回)・長宮遺跡
2 例	長宮 2-1-27	1978.5.24 ~ 5.15	226	民衆宅地	遺構2、土坑4、石壙4、棒縄、柘臼、古鏡、陶器、馬具	埋(1)
3 例	長宮 2-1-11	1978.7.24 ~ 30	117	民間宅地	土坑1	埋(1)
4 例	長宮 1-1-14	1978.10.6 ~ 9	37		台形跡1、土器類、瓦器類、鉢形器	埋(1)
5 例	長宮 2-1-2	1979.4.16 ~ 20	116		鍛冶的柱坑遺構1、鍛土土器片	埋(2) (N)
6 例	中丸 1-4-13	1980.4.21 ~ 30	915		遺構なし、中台山周縁部	埋(2)
7 例	中丸 1-2-6	1980.5.13 ~ 31	969		井戸跡、鍛文土器、牛糞以陶器片	埋(2)
8 例	長宮 2-1-10 ~ 13	1980.9.8 ~ 10.8	1,909	中台山造成	中台山、井戸1、船形罐、柘臼、石壙、海螺貝、瓦器、馬具	調査(集)
9 例	長宮 1-4-10	1980.9.21 ~ 30	485		鍛冶場、中台山周縁部	埋(1)
10 例	長宮 1-1-15	1980.9.21 ~ 10.15	485		鍛冶場、中台山周縁部	埋(1)
11 例	長宮 2-1-16	1980.12.18 ~ 22	113		鍛冶場、中台山周縁部	埋(1)
12 例	長宮 1-2-7	1981.5.26 ~ 30	149		土器類、鍛土土器片	埋(2)
13 例	長宮 1-2-13	1981.6.3 ~ 11	293	個人住宅	遺構なし、中台山周縁部	埋(2)
82 例	長宮 1-2-12		1,000	松原河川整備調査	遺構2	37年定期、59年定期(2)
14 例	長宮 2-1-3	1985.9.24 ~ 27	156	個人住宅	DL	埋(1)
15 例	西原 2-1-8	1985.10.22 ~ 31	116	個人住宅	DL	埋(1)
83 例	長宮 1-2-13	1986.3.8 ~ 15	402	李家所有	遺構2	60年定期
16 例	長宮 1-2-7	1986.6.5 ~ 17	172	個人住宅	鍛冶土器片	埋(1)
17 例	中丸 1-2-11	1987.6.18 ~ 20	594	個人住宅	鍛冶的柱坑遺構	埋(1)
88 例	長宮 1-2-8	1988.9.13 ~ 18	657	佐野建設	DL	埋(1)
89 試(3)	長宮 1-2-9	1989.9.20 ~ 30	448	佐野建設	DL	埋(12)
89 試(2)	長宮 2-1-18	1989.11.14 ~ 24	1,778	佐野建設	DL	埋(12)
90 例	長宮 2-1-4	1990.11.27 ~ 30	919	個人住宅	DL	埋(12)
18 例	長宮 2-1-3	1992.10.6 ~ 12	925	個人住宅	鍛冶用土器1、中台土器2、鍛5	埋(15)
19 例	長宮 1-2-21.35	1993.12.17 ~ 1994.1.22	461	駐車場	古墳未定形遺構	埋(15)
93 例	長宮 2-4-21の他	1994.2.10 ~ 28	1,502	個人住宅	遺構2、土坑1、中台像形鉢	5年定期
94 例	西原 2-1-5	1994.7.25 ~ 8.2	314	個人住宅	新田井戸1	埋(17)
20 例	長宮 2-1-22の他	1995.4.10 ~ 5.9	176	個人住宅	中台井戸4	埋(16)
21 例	長宮 1-2-63.65	1995.6.19 ~ 8.8	361	個人住宅	中台井戸1、井戸2	埋(16)
95 例(1)	長宮 2-1-20.55	1995.8.9 ~ 28	421	市営散策	DL	埋(16)
95 例(2)	JR線3-1-6.6.4.集	1995.10.4 ~ 12	1,529	共同所有	遺構	埋(16)
95 例(3)	長宮 2-1-20.55	1995.10.23 ~ 25	269	駐車場	中台井戸1、井戸4	埋(16)
22 例	長宮 2-1-80	1995.10.27 ~ 11.9	269	駐車場	中台井戸1.2.3.4.、廻1、船形罐、板鏡片、かわづ	調査(集)
95 例(4)	長宮 1-1-12	1995.12.12 ~ 25	120	駐車場	DL	埋(16)
95 例(5)	長宮 1-2-18	1996.7.12 ~ 18	349	中台造成	DL	埋(16)
95 例(6)	長宮 1-2-18.3.3.集	1997.1.1 ~ 15	349	中台造成	DL	埋(16)
95 例(7)	長宮 1-2-14	1997.11.14 ~ 21	794	内閣文庫	古墳→般若住跡1	埋(16)
95 例(8)	長宮 7-7-4	1997.12.24	250	内閣文庫	DL	3年定期
97 例(1)	長宮 2-1-7	1998.7.48 ~ 91	611	農業実習施設	遺構(初期段階)	埋(2)
97 例(2)	長宮 2-1-2	1998.7.49 ~ 111	289	個人住宅	土坑1(初期不明)	埋(2)
97 例(3)	長宮 1-2-6.7.37	1998.8.4 ~ 51	423	駐車場	遺構	埋(2)
97 例(4)	西原 2-5-6	1998.7.35 ~ 231	753	駐車場	中台井戸穴式遺構1	埋(20)
98 例	中丸 1-2-7	1998.11.24 ~ 27	1,014	宅地造成	DL	埋(21)
99 例	長宮 1-2-12	1999.11.8 ~ 18	95	個人住宅	遺構1、鍛文土器鉢石2	埋(22)
00 例(1)	中丸 1-4-7	2000.7.4 ~ 11	932	中台造成【土地分譲】	鍛冶的柱(山陽)、往復跡1、土坑13	埋(23)
00 例(2)	西原 2-4-3.8.10	2000.7.17 ~ 24	1,081	宅地造成【土地分譲】	DL	埋(23)
00 例(3)	長宮 2-1-21.23	2000.8.21 ~ 23	687	個人住宅	DL	埋(23)
00 例(4)	長宮 1-2-17.3A.4A	2001.1.17 ~ 23	1,119	内閣文庫【土地分譲】	近世以土坑1	埋(23)
23 例	中丸 1-4-17	2001.7.18 ~ 26	137	個人住宅	土坑6(鍛文早期後1)、鍛文前期4、近世以土坑1	埋(24)
01 例(1)	長宮 2-1-21.24	2001.4.20 ~ 24	330	個人住宅	DL	埋(24)
01 例(2)	西原 2-4-7	2001.5.25	634	共同所有	DL	埋(24)
01 例(3)	中丸 1-1-3	2001.8.7 ~ 24	513	個人住宅	油絞状遺構1、鍛文前期土坑1	埋(24)
01 例(4)	長宮 2-8-8	2001.11.6	130	個人住宅	DL	13年定期
02 例(1)	長宮 1-2-9.2-5	2002.6.6 ~ 11	3,536	内閣文庫【土地分譲】	台形跡2【土器保存】	埋(25)
02 例(2)	長宮 1-4-3	2002.6.20 ~ 7.2	575	中台造成	台形跡2、遺構2	埋(25)
02 例(3)	中丸 1-1-1	2002.9.5 ~ 11	622	宅地造成【土地分譲】	油絞状遺構1	埋(25)
02 例(4)	中丸 1-3-21	2002.9.20 ~ 25	362	中台造成	遺構	埋(25)
24 例	長宮 1-2-4	2003.1.30 ~ 2.14	72	個人住宅	台形跡2	14年定期
02 例(5)	長宮 2-1-10.30.32	2003.9.16	827	中台造成	台形跡1【土器保存】	14年定期
03 例(1)	長宮 2-4-7	2003.12.16 ~ 18	1,123	宅地造成	井戸跡1	埋(26)
03 例(2)	長宮 2-4-7	2004.1.26	488	中台造成	DL	埋(26)
04 例(1)	中丸 1-1-11	2004.1.26	1,181	個人住宅	DL	埋(27)
04 例(2)	長宮 1-2-15	2004.12.7 ~ 91	1,181	個人住宅	DL	埋(27)
25 例	中丸 1-4-1	2005.1.35 ~ 16	1,181	個人住宅	DL	埋(28)
26 例	長宮 2-5-2.6-9の他	2005.1.35 ~ 16	594	個人住宅	DL	埋(28)
27 例	長宮 2-1-4	2005.9.30 ~ 31	175	個人住宅	遺構、併合遺構	埋(28)
28 例	長宮 2-1-11	2005.9.31 ~ 6.5	188	個人住宅	中台井戸5、土坑10、ビット13他、鍛文土器、石器、中台井戸5	埋(28)
29 例	長宮 2-5-11	2005.10.19	129	個人住宅	DL	埋(28)
30 例	長宮 2-4-6	2007.11.20 ~ 12.3.12.4 ~ 5	618	其同住宅	上坑1、井戸2、埴輪1、塗1、ビット3、塗2、博美土器、石器、中台井戸5	埋(28)
31 例	其同		1,362	老人福祉施設	中台井戸10、ビット142、塗2、博美土器、石器、中台井戸5	埋(28)
32 例	長宮 2-1-18	2010.1.35 ~ 25.2011.2.4 ~ 26	271	分譲住宅	DL	埋(28)
33 例	中丸 1-3-2	2011.1.19 ~ 5.31	534	分譲住宅	DL	未報告
34 例	中丸 2-2-24.6	2011.6.27 ~ 7.16.2011.11.2 ~ 12.1	914	分譲住宅	鍛冶時代早期伊弉諾、稻荷、開闢(山陽)、往復跡、近世遺跡、焼土器	埋(29)
35 例	JR線 3-1 ~ 4	2011.9.8 ~ 27	1,157	長宮住宅	鍛冶井戸1.2.3	未報告
36 例	長宮 2-6-6	2011.16.4 ~ 17.10.21.2011 ~ 11.14	981	個人住宅	中台井戸13、土坑5、塗15、ビット多頭、鉢形器	埋(29)
37 例	JR線 3-6 ~ 6	2011.11.19 ~ 26	108	個人住宅	DL	未報告
38 例	長宮 2-1-27	2011.11.24 ~ 25	101	分譲住宅	DL	未報告
39 例	長宮 2-2-23	2012.2.23	130	個人住宅	DL	未報告
40 例	西原 2-7-7の他	2012.4.16	201	個人住宅	遺構なし、鍛文土器片	未報告
41 例	福岡市九塊 903.1-3.2	2012.4.17 ~ 5.31.6.11 ~ 7.23	1,152	分譲住宅	沙引1、井戸2、埴輪1、塗1、ビット3、塗2、博美土器、石器、中台井戸5	未報告

注: 上記は、上級河川水質改善管理水質汚染調査報告書、上級河川水質調査報告書、長宮市水質監視報告書、長宮市水質監視報告書を合めた。



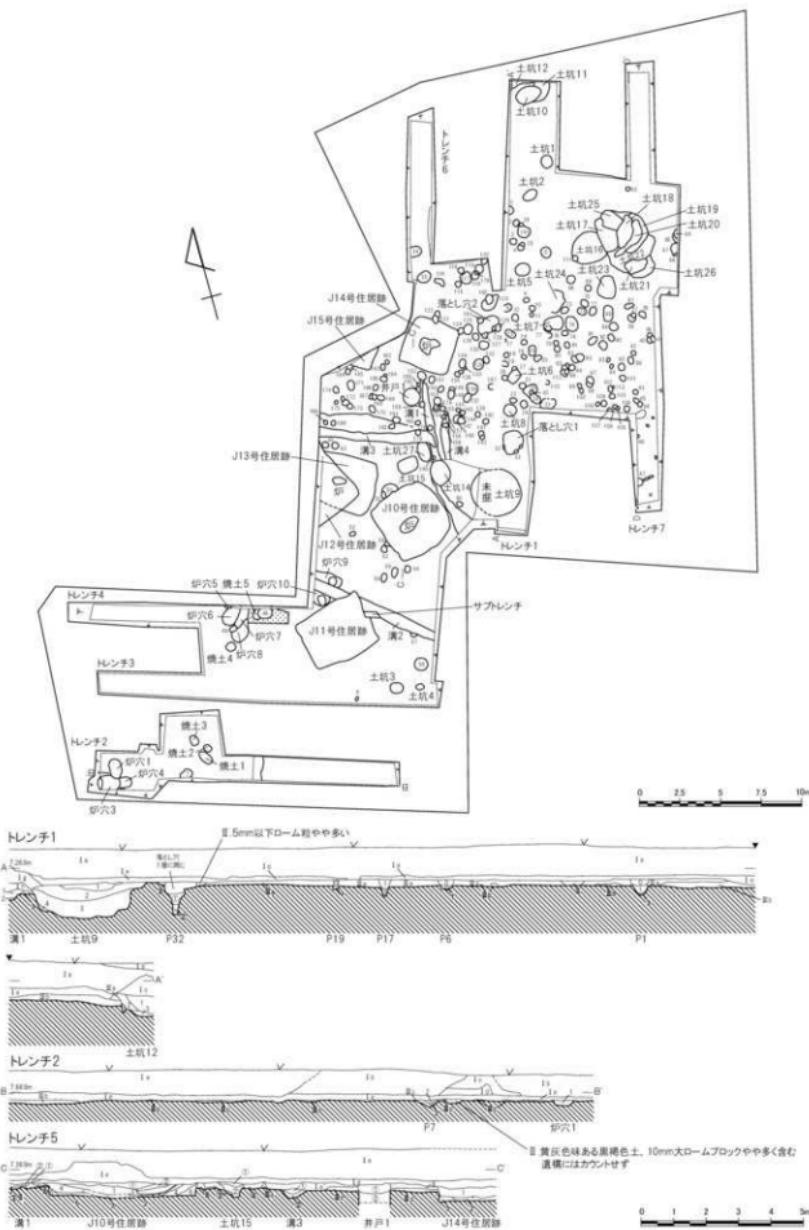
第30図 長宮遺跡遺構分布図 (1/3,000)

たため、同年5月18日付で変更増補をおこない遺跡の範囲を拡大した。

遺跡確認面までの深さは約40～80cmだが、地盤改良を行う予定で、遺跡への影響が避けられないため原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施することになった。調査費用積算のために5月1日～31日まで、再度トレーンチを2本追加で設定し確認したところ、トレーンチ6より縄文時代前期の住居跡を確認した。本調査は2012年6月11日から7月25日までを行い、縄文時代炉穴10基、縄文時代前期住居6軒、落とし穴2基、土坑27基、ピット190基、溝4条等を検出した。

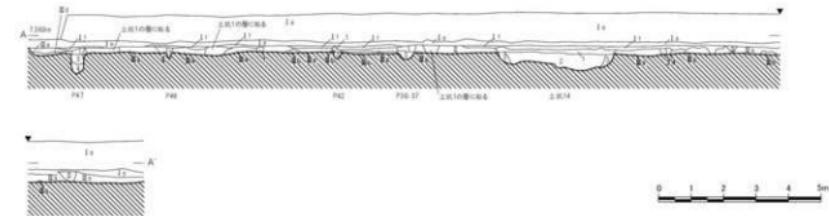
第9表 長宮遺跡住居跡一覧表 (単位cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査面積	平面形( )は暫定	規模	鉢	設置壁	カマド	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
H1	1978	4地点1号住居	1/4	(方形)	×	K	東	×	○				埋蔵文化財の調査 1
H2	1993	19地点4号住居		実面	方形	×	K	北	×				埋蔵文化財の調査 15
H3	1997	96年試掘(3)			×				×				埋蔵文化財の調査 19
H4	2002	02年試掘(1)6号住居		実面	台形	470×340	K	北	×	○	7C後半～8C初頭		埋蔵文化財の調査 25
H5	2002	02年試掘(1)7号住居		実面	真方形	530×450	K	北・東	×	○	N-15-W	8C初頭	埋蔵文化財の調査 25
H6	2002	02年試掘(2)8号住居		実面	方形	280×280	K	北	×			7C末～8C第1四半期	埋蔵文化財の調査 25
H7	2002	02年試掘(2)9号住居		1/2	方形	280×280	K	東西	×	○	7C末～8C第1四半期		埋蔵文化財の調査 25
J1	1978	5地点2号住居		長方形	600×	炉			×	○	開山期		埋蔵文化財の調査 3-N
J2	1992	18地点3号住居			×				×		開山期		埋蔵文化財の調査 15
J3	2000	00年試掘(1)1号住居		プラン		×							埋蔵文化財の調査 23
J4	2000	00年試掘(1)2号住居		プラン		×							埋蔵文化財の調査 23
J5	2000	00年試掘(1)3号住居		プラン		×							埋蔵文化財の調査 23
J6	2000	00年試掘(1)4号住居		プラン		×							埋蔵文化財の調査 23
J7	2000	00年試掘(1)5号住居		プラン		×							埋蔵文化財の調査 23
J8	2003	02年試掘(5)		プラン		×			×	○			14年施設
J9	2000	34地点J9号住居	1/4	(方形)	(395)×(330)	炉2	(1)52×68 (2)70×51				前削開山Ⅲ		市内遺跡群 11
J10	2012	41地点J10号住居		実面	方形	400×418	炉	123×78	○	N-108-W	前削開山Ⅲ		市内遺跡群 12
J11	2012	41地点J11号住居		実面	長方形	420×365	炉2	(1)67×60 (2)65×41		N-94-W	前削開山Ⅲ		市内遺跡群 12
J12	2012	41地点J12号住居	1/2	(方形)	(320)×(360)				○	N-25-W	前削開山Ⅲ		市内遺跡群 12
J13	2012	41地点J13号住居	3/4	(長方形)	(395)×(340)	炉		78×49		N-60-W	前削開山Ⅲ		市内遺跡群 12
J14	2012	41地点J14号住居		実面	方形	310×310	炉	125×98	○	N-34-E	前削開山Ⅲ		市内遺跡群 12
J15	2012	41地点J15号住居		一部	(方形)	(125)×(170)			○	N-34-E	前削開山Ⅲ		市内遺跡群 12



第31図 長宮遺跡第41地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)

トレンチ7



レンチ



3

- ① 黒褐色土。紳士有、粘性強、底面入物なし

② 黒褐色土。紳士有、粘性有、5mm以下ローム少し含む。  
レバーピート層が約5mm以下ローム少し含む

土壌13 幸いぬくばいづら

① 砂灰土色。紳士強、粘性強、底質混入物は5mm以下化物化すわらずに含むのみや砂質目立つ

② 砂灰土色。紳士強、粘性強、しみ状に灰白色土、5cm以下ブロックを上部に多く含む上層に微細化立たない

J14 住居跡

1. 黒褐色土。紳士強、粘性強、灰白色味ある黒褐色土、5mm以下ローム粒多く、5mm以下炭化物少し含む

2. 黑褐色土。紳士強、粘性強、1cm以下疊土多く、5~20mm以下灰白色土やや多く含む

3. 黑褐色土。紳士有、粘性有、1cm以下灰白色土やや多く、5mm以下焦土少し含む  
シルト質

土壌18~22

1. 黑褐色土。紳士強、粘性強、3mm以下灰白色ローム粒多く、しみ状に2cm以下灰白色土やや多く含む

2. 黑褐色土。紳士強、粘性強、3mm以下ローム粒少し、2cm以下灰白色土少し含む

3. 黄褐色土。紳士強、粘性強、暗緑、ローム分含み黄白色味ある黒褐色土、しみ状に5mm以下ローム粒少し含む

J19 住居跡

① 土灰土。紳士強、粘性強、底質土、酸化目立つ

② 黒褐色土。紳士強、粘性強、底質土、住居跡の土壁はざつたような色調で5mm以下炭化物少し含む

1. 黑褐色土。紳士強、粘性強、3mm以下ローム粒やや多く、5mm以下化物化少し含む下部に透水を多く持つ、酸化目立つ

2. 黑褐色土。紳士強、粘性強、底質土の白色(?)斑を多く、5~10mm化物化少し含む

3. 黑褐色土。紳士強、粘性強、5mm以下ローム粒、5~20mm化物化やや多く含む、黑色目立つ、5mm以下焦土少し含む、水質目立つ

4. 黑褐色土。紳士強、粘性強、やや赤色味ある黒褐色土、5mm以下ローム粒多く含む

5. 黑褐色土。紳士強、粘性強、底土を覆う、5mm以下焦土少し含む

6. 黑褐色土。紳士強、粘性強、底土を含む、5mm以下ローム粒5mm以下多く含む

7. 黑褐色土。紳士強、粘性強、灰白色味ある黒褐色土、底土の5mm以下ローム粒土砂を含むやや多く含む、4mm以下灰色味含む

J10 住居跡 ピット2

1. 黑褐色土。紳士有、粘性有、1~3mmローム粒含む、水性酸化物含む

2. 黑褐色土。紳士有、粘性有、3~3mmローム粒少し含む

J11 住居跡 ピット5

1. 黑褐色土。紳士有、粘性有、1~3mmローム粒含む、水性酸化物含む

2. 云色粘土。紳士有、粘性有、シルト質、~3mmローム粒少し含む

J11 住居跡 ピット7

1. 灰色粘土。紳士有、~5mmローム粒多く含む。

2. 灰色粘土。紳士有、粘性有、シリト質、~3mmローム粒少し含む

J11 住居跡 ピット18

1. 灰色粘土。紳士有、粘性有、シリト質、~3mmローム粒少し含む、水性酸化物含む

2. 灰色粘土。紳士有、粘性有、シリト質、~3mmローム粒少し含む

J11 住居跡 ピット25

1. 灰色粘土。紳士有、粘性有、1~3mmローム粒含む、水性酸化物含む

2. 云色粘土。紳士有、粘性有、~5mmローム粒少し含む

第32図 長宮遺跡第41地点土層図(1/150)、土層説明

### III 遺構と遺物

#### (1) 住居跡

##### ① J10号住居跡

【位置】調査区中央に位置する。0.2m北西にJ13住、1.2m北西にJ12住、3.5m西にJ11住、6.8m北東にJ14住がある。

【形状・規模】主軸方位はN-108°-W。平面形態は方形だが、主軸に対し左右壁の幅が拡がっていき、西壁から2.5mあたりで最大幅となる。また東壁は弧を描く。規模は主軸の東西方向4.0m×南北4.18m、西壁は3.7m、東壁は3.5m、確認面からの深さ30~35cmである。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い黒褐色土がレンズ状に堆積し、土器も中央に集中して出土する。

【炉】住居跡の中央から西側にかけて主軸の東西方向に長く位置する。平面形態は梢円形で123×78cm、床面からの深さ9cm、被熱による赤化範囲は96×45cm。焼土粒を多量に含む黒褐色土が堆積する。

炉の東40cmの床面が焼けて薄く赤化している。範囲は南北55cm×東西50cmである。

【柱穴・周溝】主柱穴は炉周囲のP1~P4と東壁際のP7・P9の6本柱と思われる。柱穴の中心間の距離はP1-P2が110cm、P2-P7が160cm、P7-P9が110cm、P9-P3が180cm、P3-P4が85cm、P4-P1が75cm、P3-P2が110cmである。

壁際に小柱穴が並ぶ。西壁は角から角まで6本、北壁は7本、東壁は主柱穴を含めて7本、南壁は9本で中心間の距離は最小18cm、最大120cmあるが、平均的な間隔は各壁で異なり。西壁は65~75cm、北壁は50~60cm、東壁は中央が30cm、両脇が50~60cm、南壁は中央が90cm、両脇が30~50cmである。

西壁際にのみ周溝がある。上幅15~40cm、下幅8~15cm、深さ3cmである。

【時期】出土遺物から縄文時代前期関山II式期。

##### ② J11号住居跡

【位置】調査区中央南西寄りに位置する。3.5m東にJ10住、4.5m北にJ12住・J13住がある。溝2に北東角部分を壊されるが、床面は残る。

【形状・規模】主軸方位はN-94°-W。平面形態は東西方向の長方形だが主軸に対し左右壁の幅が拡がっていき、西壁から3.0mあたりで最大幅となる。規模は主軸の東西方向4.2m×南北3.65m、西壁は

3.1m、東壁は3.35m、確認面からの深さ30~40cmである。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い黒褐色土がレンズ状に堆積し、土器も中央に集中して出土する。

【炉】2ヶ所検出した。いずれも主軸線上に位置する。炉1は主軸奥壁（西壁）寄りに位置し、平面形態は梢円形、規模は東西57×南北60cm、床面からの深さ4cm、被熱による赤化範囲は35×32cm。炉の奥側に細長い礫（26×8cm）が置かれていた。

炉2は炉1の東20cm、中心間では75cmに位置する。平面形態は卵形、規模は東西55×南北41cm、床面からの深さ4cm、被熱による赤化範囲は47×37cm。

【柱穴・周溝】主柱穴は炉周囲のP1~P4と東壁際のP10・P13の6本柱と思われる。柱穴の中心間の距離はP1-P2が165cm、P2-P10が135cm、P10-P13が105cm、P13-P3が130cm、P3-P4が170cm、P4-P1が115cm、P2-P3が95cmである。

壁際に小柱穴が並ぶ。西壁は角から角まで6本、北壁は7本、東壁は主柱穴を含めて7本、南壁は6本で中心間の距離は最小20cm、最大110cmある。

【時期】出土遺物から縄文時代前期関山II式期。

##### ③ J12号住居跡

【位置】調査区中央西に位置する。J13住と重複し、J13住の埋没後に構築しており、当住居の方が新しい。1.2m南西にJ10住、3.5m南にJ11住、5.5m北東にJ15住がある。

【形状・規模】南東部のみの検出のため、全体の規模・形態は不明だが、検出部分の東西壁長さ3.2m、南北壁長さ3.6mを測る。南北壁の方針はN-25°-W。平面形態は方形、確認面からの深さ30cmである。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い黒褐色土がレンズ状に堆積する。

【炉】炉は検出していない。

【柱穴・周溝】壁際に小柱穴が並ぶ。南壁は10本、東壁は10本で中心間の距離は25~40cmある。東壁から50cm内側にも小柱穴が7本並ぶ。中心間の距離は20~60cmある。

東壁際に周溝がある。上幅10~15cm、下幅5cm、深さ3cmである。

【時期】出土遺物から縄文時代前期関山II式期。

##### ④ J13号住居跡

【位置】調査区中央西に位置する。J12住と重複し、

J12住によって壊されており、当住居の方が古い。0.2m南西にJ10住、3.5m南にJ11住、6.5m北東にJ14住、5.5m北にJ15住がある。

【形状・規模】西側は未調査のため、全体の規模・形態は不明だが、検出部分の東西長3.55m、南北長3.4mを測る。主軸方位はN-60°-W。平面形態は東側が広く、西側が狭い台形、確認面からの深さ30cmである。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い黒褐色土がレンズ状に堆積する。

【炉】住居跡の中央から西側にかけて主軸の東西方向に長く位置する。平面形態は梢円形で被熱による赤化範囲は78×49cm、中央のくぼんだ範囲は60×35cm。床面からの深さ5cm、焼土粒を多量に含む灰色土が堆積する。炉の中央はJ12住のピットで壊される。

【柱穴・周溝】壁際に小柱穴が並ぶ。南壁は5本、北壁は5本で中心間の距離は50～100cmある。東壁は12本で中心間の距離は15～50cmある。

【時期】出土遺物から縄文時代前期関山Ⅱ式期。

#### ⑤ J14号住居跡

【位置】調査区中央北に位置する。1.4m西にJ15住、6.8m南西にJ10住、6.5m南西にJ13住がある。

【形状・規模】主軸方位はN-34°-E。平面形態は方形で北壁がやや狭くなる。規模は主軸の南北方向3.1m×東西3.1m、北壁は2.6m、確認面からの深さ30～35cmである。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い灰褐色土が黒褐色土の上にレンズ状に堆積する。黒褐色土の上は赤化した焼土層が広がる。焼土層は住居中央から南北方向に拡散している。

【炉】住居跡の中央に位置する。平面形態は不整形で125×98cm、床面からの深さ5cm、被熱による赤化範囲は114×90cm。

【柱穴・周溝】P5-P6が55cm、P1-P6とP2-P5が285cmである。

壁際に小柱穴が並ぶ。北壁はP1とP2、東壁は北角から1mの位置にP3、南壁はP4～P7の4本、西壁はP8とP9の2本である。柱穴の中心間の距離はP1-P2が72cm、P4～P7は55～95cm、P8-P9は120cmである。壁際のP1、P2、P5、P6は主軸方位に位置し主柱穴と思われる。

南壁を除き周溝が廻る。上幅8～15cm、下幅2～8cm、深さ4～8cmである。

【時期】出土遺物から縄文時代前期関山Ⅱ式期。

#### ⑥ J15号住居跡

【位置】調査区中央北に位置する。1.4m東にJ14住、7.4m南にJ10住、5.5m南にJ13住がある。

【形状・規模】南東部のみの検出のため、全体の規模・形態は不明だが、検出部分の東西壁長さ1.25m、南北壁長さ1.7mを測る。南北壁の方位はN-34°-E。確認面からの深さ40cmである。壁は垂直に立ち上がる。粘性の強い黒褐色土がレンズ状に堆積する。

【炉】炉は検出していない。

【柱穴・周溝】壁際に小柱穴を検出。南壁と東壁それぞれに1本筒である。

東壁際に幅13～18cmの段差がある。

【時期】出土遺物から縄文時代前期関山Ⅱ式期。

#### (2) 炉穴

調査区の南西部に炉穴10基と焼土跡5ヶ所を検出した。A区の炉穴は1～4が重複して検出した。炉穴3が最も古く、炉穴1と炉穴4が炉穴3を埋めた後構築している。炉穴2は炉穴4の埋没後構築され最も新しい。

B区の炉穴は5～8が重複して検出した。炉穴8が最も古く、8→7→6→5の順に新しくなる。A区の炉穴群は10m南西に位置する。5m東には炉穴9・10がある。

炉穴9・10はJ11住居跡の北に位置し、間を溝2が貫く。

#### (3) 落とし穴

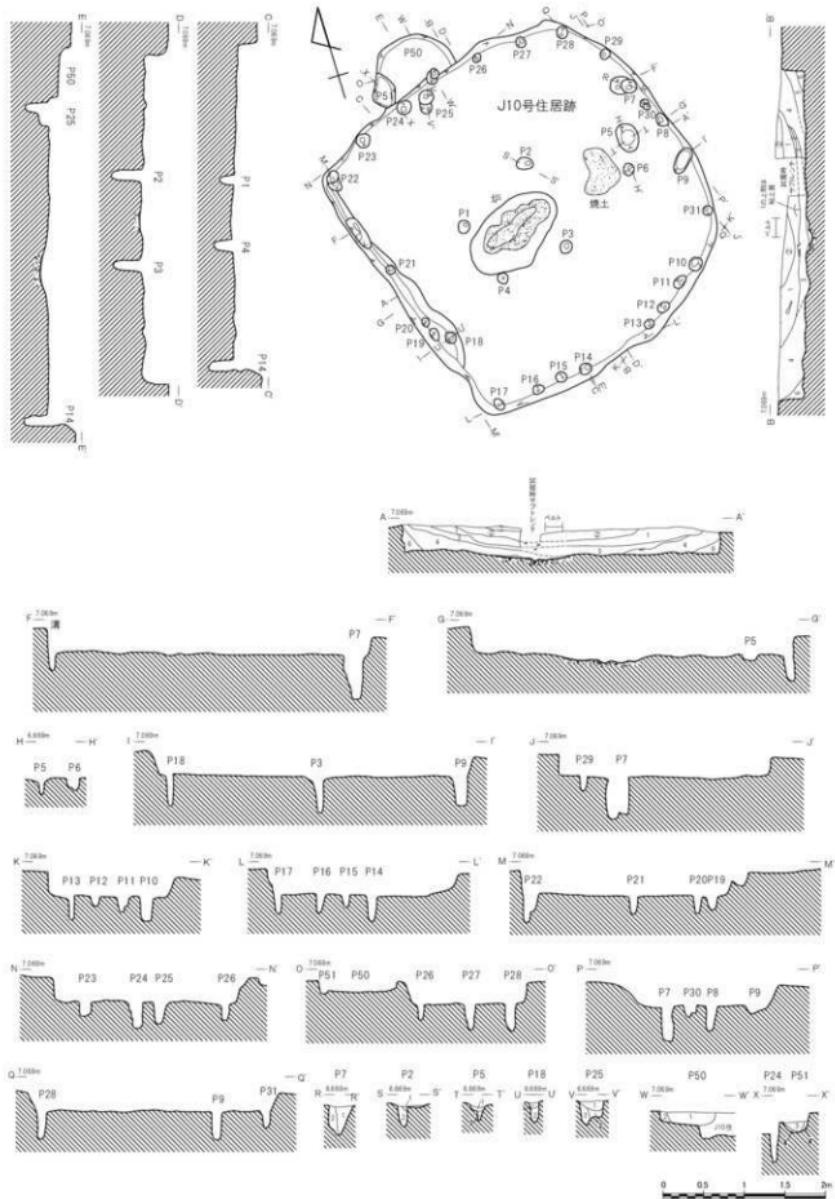
2基検出した。落とし穴1は長軸が北東から南西方へ平面梢円形、底面は平坦である。黒褐色土で埋る。

落とし穴2は長軸が東西方向で上端の平面形は梢円形だが、底面は細長い長円形、断面はV字状に狭くなる。

#### (4) 溝

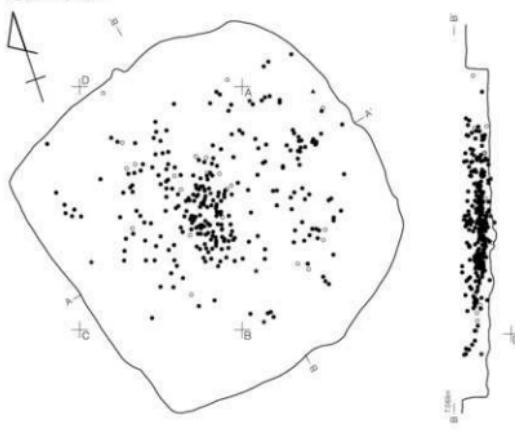
4条検出した。溝1は調査区中央、J14住居跡の南から始まり、南北方向に位置する。溝3および土坑14の埋没後に構築され、土坑14を越えてからやや南東方向へ向きを変え、そのまま調査区域外へ伸びていく。9.5m検出した。上幅30～120cm、下幅8～55cm、確認面からの深さ8～24cm。近世陶磁器が出土した。

溝2は調査区南側、北西から南東方向へ向かう溝で、炉穴9・10、J11住居跡を壊して構築される。8.2m検出した。上幅57～80cm、下幅30～58cm、確認面からの深さ17～27cm。縄文土器のほか、土師器破片が出土した。



第33図 長宮遺跡第41地点 J10号住居跡 (1/60)

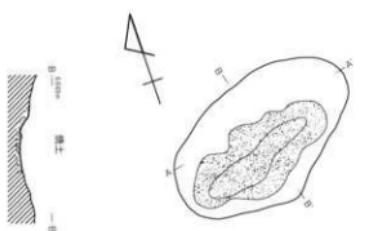
遺物出土状況図



微細図

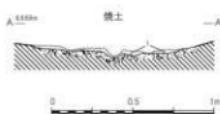


炉



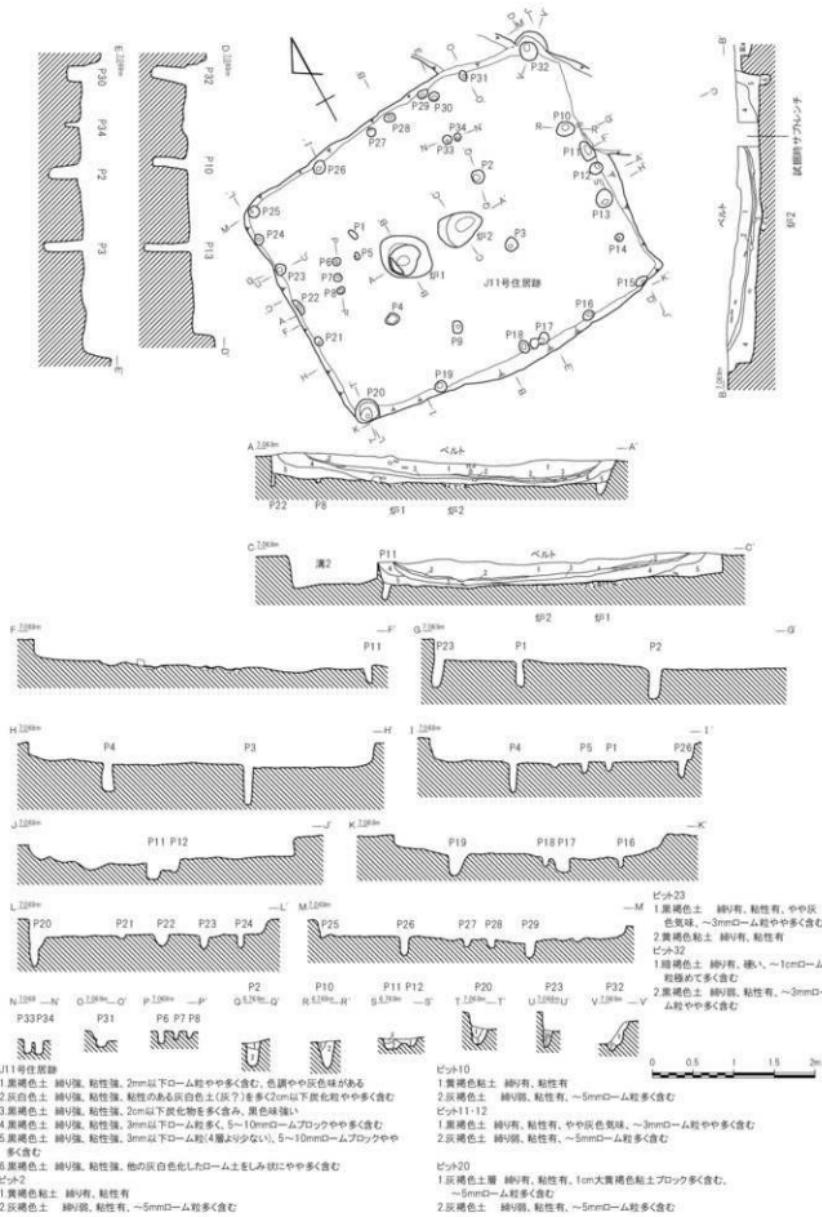
+○

0 0.5 1m



J10号住居跡 炉  
1. 黒褐色土、純粘土、粘性有、~5mm赤褐色鐵土極多量含む

第34図 長宮遺跡第41地点 J10号住居跡炉 (1/30)、遺物出土状況図 (1/30・1/60)



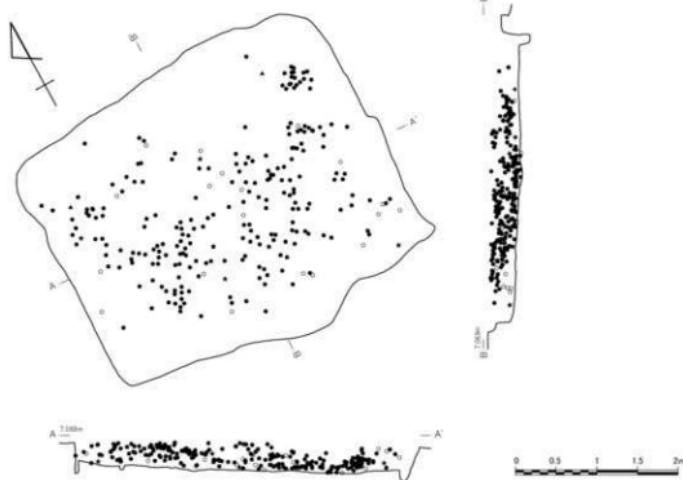
第35図 長宮遺跡第41地点 J11号住居跡 (1/60)

第 10 表 長宮遺跡第 41 地点 J10 号住居跡遺構一覧表 (単位 cm)

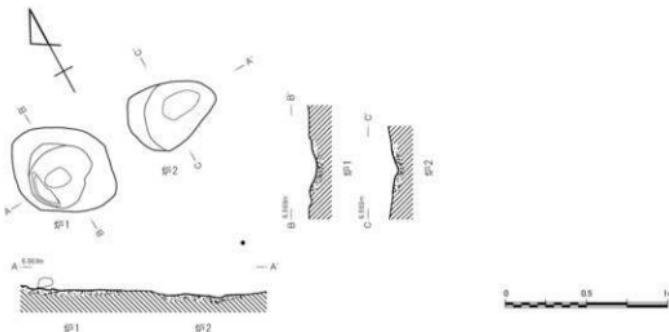
No.	平面形態	確認面積	底幅	深さ	備考
P1	円形	15 × 14	5 × 4	18	
P2	円形	21 × 14	7 × 5	40	
P3	円形	15 × 15	7 × 5	35	
P4	円形	13 × 12	3 × 3	25	
P5	円形	37 × 25	21 × 18	22	
P6	円形	15 × 12	2 × 1	16	
P7	丸形土器	23 × 21	5 × 4	32	
P8	円形	15 × 14	5 × 5	24	
P9	楕円形	24 × 16	25 × 13	41	
P10	円形	19 × 16	11 × 7	30	
P11	円形	18 × 12	8 × 4	20	
P12	円形	15 × 11	4 × 2	11	
P13	円形	11 × 11	4 × 3	20	
P14	円形	14 × 14	8 × 6	31	
P15	円形	13 × 13	2 × 2	16	
P16	円形	12 × 11	3 × 2	24	

No.	平面形態	確認面積	底幅	深さ	備考
P17	円形	15 × 10	3 × 3	25	
P18	円形	14 × 13	8 × 8	38	
P19	楕円形	17 × 8	4 × 2	17	
P20	円形	11 × 9	3 × 2	22	
P21	円形	11 × 10	5 × 4	23	
P22	丸形土器	26 × 16	7 × 5	37	
P23	円形	17 × 16	8 × 5	40	
P24	円形	17 × 16	8 × 5	29	
P25	丸形土器	29 × 17	8 × 3	31	
P26	円形	19 × 8	5 × 3	20	
P27	円形	12 × 11	8 × 4	33	
P28	円形	15 × 12	5 × 3	26	
P29	円形	13 × 10	4 × 4	18	
P30	丸形土器	14 × 10	2 × 2	30	
P31	円形	11 × 11	4 × 4	23	
計	楕円形	125 × 77	76 × 19	9	

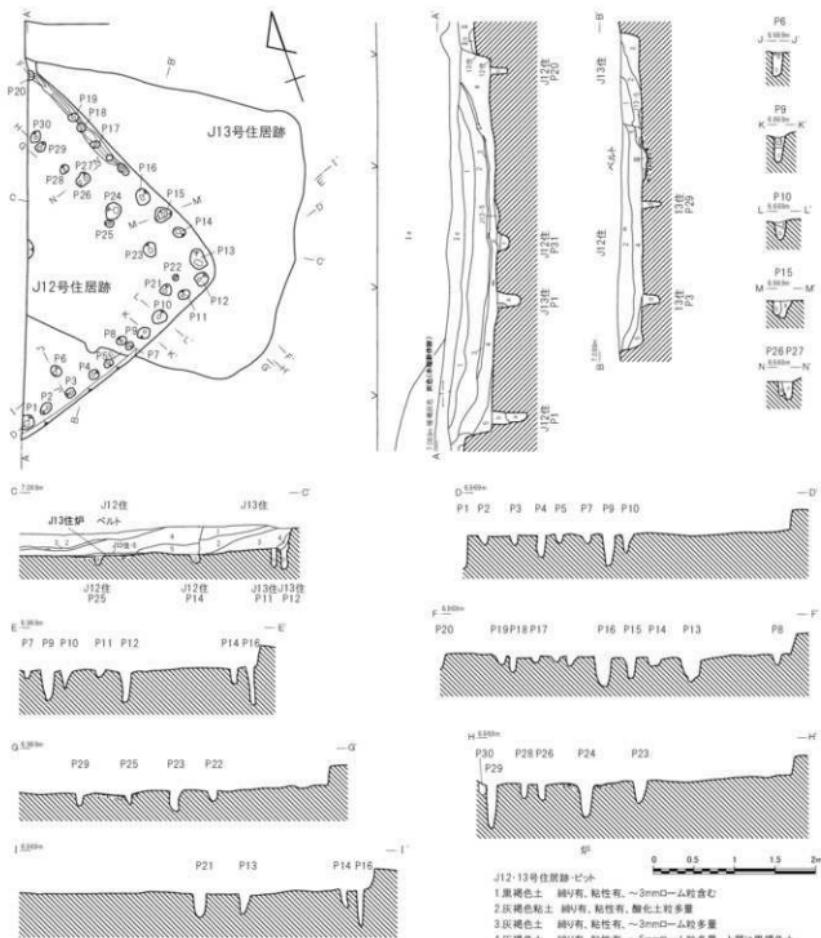
遺物出土状況図



炉



第 36 図 長宮遺跡第 41 地点 J11 号住居跡跡炉 (1/30)、遺物出土状況図 (1/60)

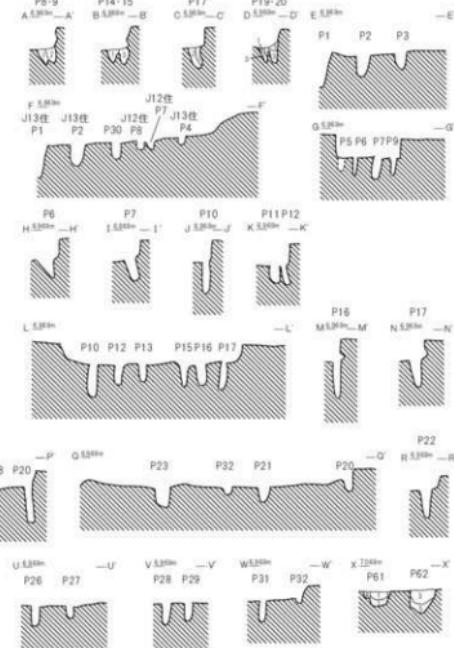


第37図 長宮遺跡第41地点 J12・J13号住居跡（1/60）

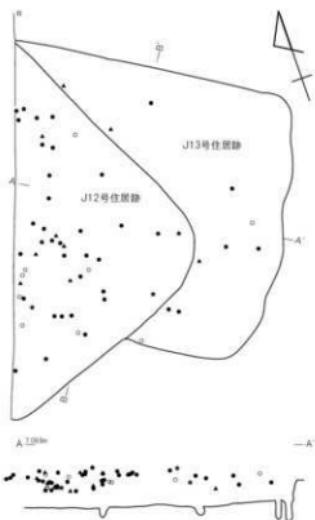
J13号住居跡



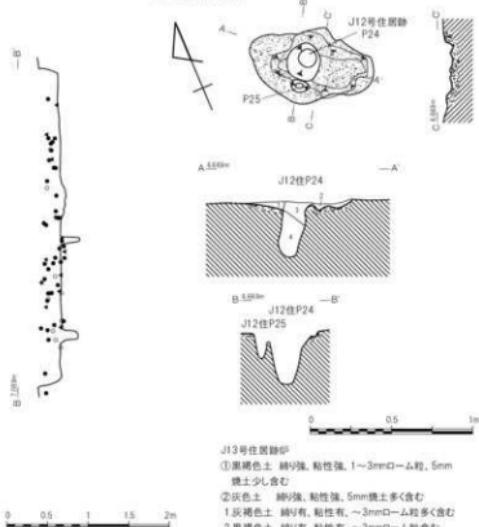
III 遺構と遺物



遺物出土状況図

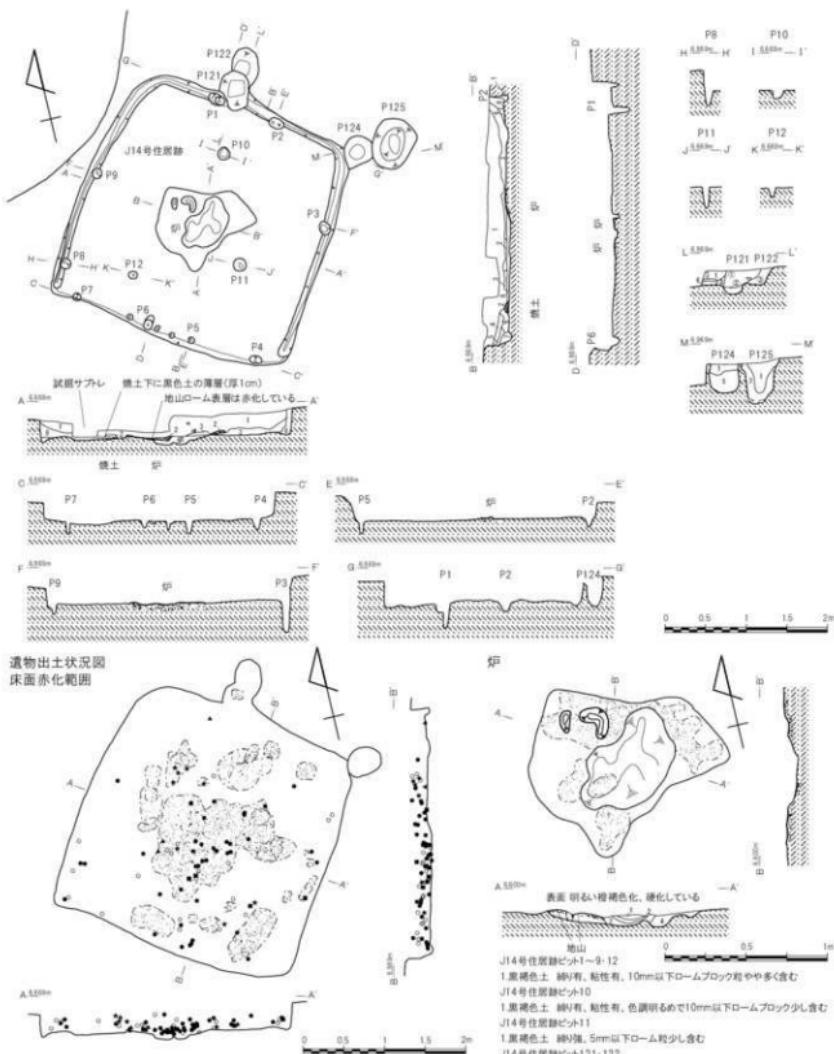


J13号住居跡炉



第38図 長宮遺跡第41地点 J12・J13号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、J13号住居跡炉 (1/30)

- J13号住居跡  
 ①黒褐色土 粘り強、粘性強、1~3mmローム粉、粉  
 粉少なしむ  
 ②灰土土 粘り強、粘性強、5mm以上多く含む  
 1.灰褐色土 粘り有、粘性有、1~3mmローム粉多く含む  
 2.黒褐色土 粘り有、粘性有、1~3mmローム粉含む

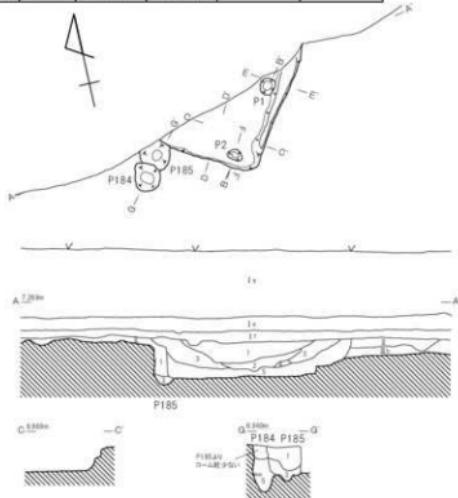


J14褐色土原群		
1 楊赤褐色 土り強、粘性強。5mm以下灰白色ローム粒多く、3~10mm風化物・5mm以下燒土少し含む。色調黒味がある	①赤褐色 土り強、粘性強。5mm以下灰白色ローム粒多く、3~10mm風化物・5mm以下灰白色土少し含む。色調黒味がある	
2 鹿褐色土 土り強、粘性有。5mm以下赤褐色風土多く含む	②褐色土 土り強、粘性有。5mm以下赤褐色燒土多く含む	
3 黑褐色土 土り強、粘性有。5mm以下ローム粒多く、5mm以下燒土やや多く含み、褐色味がある。5mm以下風化物少し含む	③(1)同じ、ロームブロック少なし	
4 楊灰褐色 土り強、粘性有。5mm以下ローム粒・3~15mm燒土やや多く、しみ状に黑色風土を少し含む	J14往住耕群	
5 楊褐色土 土り強、粘性有。灰白色ローム多く含む、3mm以下燒土・土塊風化物少し含む	1 赤褐色土 土り強、粘性有。シルト質の赤褐色燒土主体、5~10mm燒土ブロックや多く含む	
6 黑褐色土 土り強、粘性有。風化物由來と考えられる黒土主体、5mm以下ローム粒やや多く、3mm以下燒土少し含む	2 灰褐色土 土り強、粘性有。明灰褐色土の層厚、しみ状に燒土を多く含む	
7 黑褐色土 土り強、粘性有。しみ状に灰白色ロームを多く含み、灰色味がある	3 棕褐色土 土り強、粘性有。灰色あるいは黒褐色土主体、5mm以下赤褐色土・棕褐色風土多く含む	
8 黑褐色土 土り強、粘性有。5~10mmロームブロック約3mm以下で小粒少いや多く含む	4 褐褐色土 土り強、粘性有。黒褐色土を多く含む、10mm以下ロームブロック较少や多く含む	

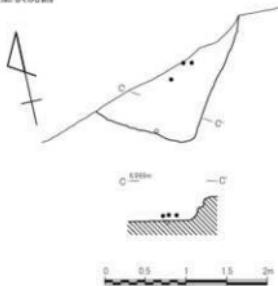
第11表 長宮遺跡第41地点 J11号住居跡遺構一覧表（単位cm）

第12表 長宮遺跡第41地点 J12号住居跡ピット一観表（単位cm）

品目	規格	単位	原価	販売価格	税率	税額	総額	備考
P1	半幅巾	75 × 175	8 × 7				41	
P2	内鉢	16 × 10	5 × 4				11	
P3	内鉢	12 × 10	4 × 3				12	
P4	内鉢	12 × 11	4 × 4				16	
P5	内鉢	12 × 8	5 × 3				15	
P6	内鉢	15 × 12	5 × 4				20	
P7	内鉢	10 × 9	4 × 4				11	
P8	内鉢	13 × 10	4 × 3				12	
P9	内鉢	15 × 13	4 × 4				16	
P10	内鉢	18 × 15	6 × 4				24	
P11	内鉢	15 × 11	5 × 3				15	
P12	内鉢	15 × 15	4 × 4				20	
P13	内鉢	25 × 18	15 × 12				30	
P14	内鉢	25 × 18	15 × 15				31	
P15	内鉢	20 × 18	5 × 4				27	
P16	内鉢	19 × 12	5 × 4				23	
P17	内鉢	12 × 8	4 × 3				8	
P18	内鉢	11 × 10	5 × 4				22	
P19	内鉢	13 × 8	4 × 3				13	
P20	半幅	11 × (7)	4 × 4				22	
P21	内鉢	14 × 14	6 × 4				3	
P22	内鉢	7 × 7	4 × 2				12	
P23	内鉢	10 × 15	6 × 5				26	
P24	内鉢	21 × 18	8 × 7				40	
P25	内鉢	11 × 8	4 × 3				13	
P26	半幅	12 × —	4 × 3				20	
P27	半幅	15 × —	5 × 5				30	
P28	内鉢	12 × 10	3 × 2				20	
P29	内鉢	13 × 11	4 × 4				24	
P30	内鉢	13 × 12	4 × 3				16	
P31	内鉢	21 × (7)	8 × 7				40	



遺物出土狀況圖



第40図 長宮遺跡第41地点 J15号住居跡遺物出土状況図（1/60）

第13表 長宮遺跡第41地点 J13号住居跡遺構一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面積	周長	深さ	備考
P1	円柱	18 × 13	13 × 8	32	
P2	円柱	19 × 12	8 × 5	29	
P3	円柱	17 × 14	4 × 2	23	
P4	円柱	9 × 9	5 × 2	19	
P5	円柱	20 × 11	2 × 2	16	
P6	三面台	19 × 11	2 × 2	14	
P7	円柱	15 × 10	5 × 3	27	
P8	円柱	13 × 10	4 × 2	22	
P9	円柱	13 × 10	2 × 2	23	
P10	円柱	12 × 9	8 × 4	30	
P11	円柱	10 × 8	2 × 2	22	
P12	円柱	7 × 7	3 × 2	23	
P13	円柱	12 × 8	3 × 2	20	
P14	方柱	13 × 9	3 × 3	21	
P15	円柱	14 × 12	3 × 2	29	
P16	円柱	13 × 12	6 × 5	44	
P17	円柱	78 × 14	10 × 5	32	
P18	円柱	17 × 10	3 × 2	26	
P19	円柱	12 × 11	6 × 2	22	
P20	円柱	15 × 11	5 × 4	43	
P21	円柱	16 × 11	3 × 3	20	
P22	円柱	18 × 16	7 × 5	33	
P23	円柱	20 × 18	9 × 4	23	
P24	方柱	11 × 9	4 × 3	21	
P25	方柱	18 × 10	4 × 4	33	
P26	円柱	13 × 12	4 × 3	25	
P27	円柱	9 × 8	5 × 3	15	
P28	円柱	15 × 11	3 × 2	29	
P29	円柱	11 × 10	5 × 2	25	
P30	円柱	18 × 10	8 × 2	29	
P31	円柱	12 × 12	3 × 2	26	
P32	円柱	11 × 10	2 × 2	8	
計	椭円柱	77 × 48	11 × 11	42	

第14表 長宮遺跡第41地点 J14号住居跡遺構一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面積	周長	深さ	備考
P1	だらん形	21 × 14	3 × 3	33	
P2	円柱	20 × 13	3 × 3	13	
P3	円柱	17 × 14	11 × 7	97	
P4	円柱	18 × 10	3 × 3	13	
P5	円柱	8 × 7	4 × 2	16	
P6	だらん形	18 × 10	3 × 2	11	
P7	円柱	9 × 9	2 × 2	15	
P8	円柱	13 × 11	3 × 3	21	
P9	円柱	12 × 11	3 × 3	7	
P10	円柱	15 × 14	11 × 9	11	
P11	円柱	15 × 15	7 × 4	26	
P12	円柱	11 × 8	2 × 2	13	
計	不規則	124 × 97	58 × 29	13	チート

溝3は調査区中央、東西方向に位置し、溝1より古い。北側が浅く、南側で一段深くなる。7.1 m検出した。上幅45~80 cm、下幅5~30 cm、確認面からの深さ24 cm。近世陶磁器が出土した。

溝4は溝1の40cm東に平行する。土坑14の付近で立ち消える。2.7 m検出した。上幅35~50 cm、下幅15~25 cm、確認面からの深さ8 cm。

### (5) 井戸

1基検出した。近代以降の井戸である。

### (6) 土坑・ビット

土坑27基、ビット190基検出した。

土坑3・7・8・13・14・17・27から繩文土器が出土した。土坑9からは近世遺物が出土した。

土坑10~12は重複しあう一群の土坑群。

土坑14・16~22・25・26も一群の土坑群で重複しあう。底面は灰色の粘土層に達し、粘土採掘坑の可能性がある。

第15表 長宮遺跡第41地点 J15号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面積	周長	深さ	備考
P1	円柱	21 × 18	12 × 10	43	
P2	円柱	19 × 13	8 × 6	37	壁

第16表 長宮遺跡第41地点遺構一覧表(単位cm)

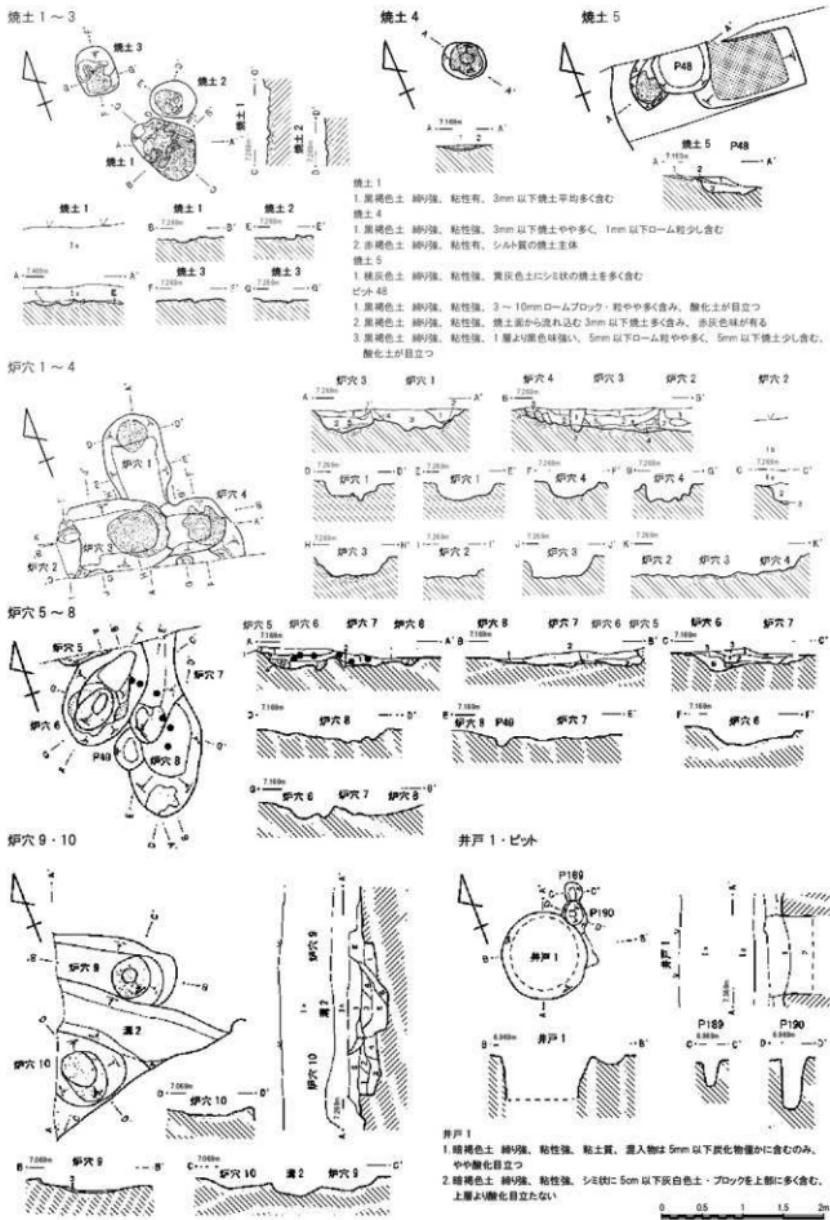
No.	平面形態	確認面積	周長	深さ	備考
HP1	円柱	120 × 74	(87) × 55	12	
HP2	円柱	(71) × (29)	(62) × (28)	10	
HP3	円柱	110 × 88	(97) × 52	29	土蔵、壁→
HP4	円柱	(72) × 65	(54) × 40	25	土蔵、壁
HP5	円柱	(67) × (32)	(40) × (8)	7	土蔵
HP6	円柱	(143) × 83	52 × 32	22	土蔵
HP7	円柱	(127) × (49)	(85) × (27)	14	土蔵、壁→
HP8	円柱	(139) × 85	(88) × 60	20	土蔵
HP9	円柱	(140) × (71)	(122) × (59)	43	土蔵
HP10	円柱	(88) × 83	45 × 38	13	
井戸1	円柱	105 × 105	90 × 65	59	土蔵、壁
井戸2	円柱	90 × 64	25 × 15	6	
井戸3	円柱	56 × 44	8 × 6	4	
井戸4	円柱	60 × 47	37 × 6	4	
井戸5	円柱	14 × 42	19 × 12	2	
井戸6	円柱	(81) × (34)	(59) × (26)	2	
井戸7	円柱	110 × 62	148	土蔵、石蔵	
井戸8	円柱	145 × 99	68 × 21	120	土蔵、石蔵、壁
井戸9	円柱	79 × 70	61 × 56	39	壁
井戸10	円柱	86 × 58	74 × 39	24	
井戸11	円柱	81 × 69	70 × 54	19	土蔵
井戸12	円柱	88 × 81	74 × 68	18	
井戸13	圓錐形柱状	91 × 60	76 × 28	25	
井戸14	不規則	125 × 88	20 × 11	92	土蔵、壁
井戸15	方柱	77 × 74	60 × 53	35	土蔵、壁
井戸16	円柱	315 × 303	150 × 155	75	土蔵、陶器庫
井戸17	円柱	134 × 70	105 × 36	50	
井戸18	円柱	(161) × 70	(70) × 28	42	
井戸19	円柱	(132) × (84)	(118) × (56)	32	
井戸20	円柱	x	x	x	
井戸21	井戸1-2変形	x	x	x	
井戸22	円柱	156 × 117	152 × 123	56	土蔵
井戸23	円柱	124 × 83	97 × 55	32	
井戸24	円柱	216 × 197	114 × 80	42	右蔵
井戸25	円柱	(245) × 215	(195) × 184	31	土蔵、壁
井戸26	圓錐形柱状	212 × 105	50 × 26	66	
井戸27	不規則	260 × 55	231 × 27	54	壁
井戸28	円柱	242 × (39)	190 × 241	51	
井戸29	円柱	141 × 81	75 × 49	31	
井戸30	円柱	300 × (170)	251 × (152)	31	
井戸31	円柱	137 × 115	48 × 15	39	
井戸32	円柱	140 × (170)	75 × 105	43	
井戸33	不規則	(132) × (15)	(105) × 44	47	
井戸34	不規則	(169) × (85)	(126) × (44)	27	
井戸35	圓錐形柱状	121 × 74	97 × 47	32	土蔵

### (7) 出土遺物

#### J10号住居出土遺物

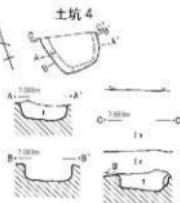
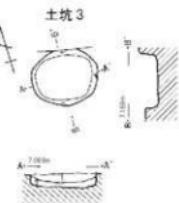
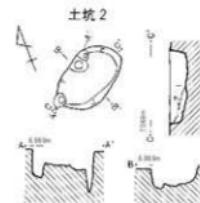
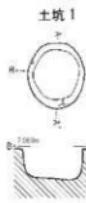
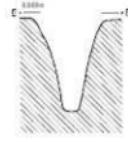
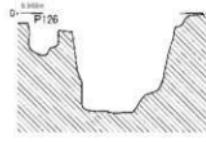
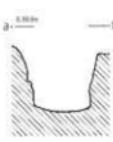
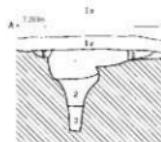
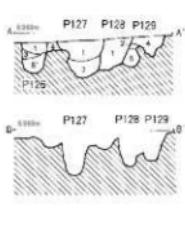
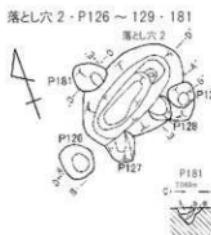
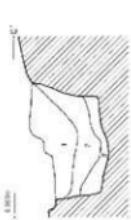
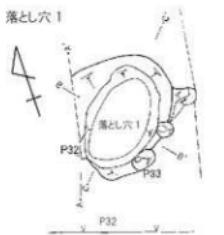
1は、口縁部は一部欠損、胴部も一部欠損するが、全周している。口径31.5 cm。器面の剥落が激しい。口縁部には幅1 cmの5・6個の貼付突起群が4力所、3個の貼付突起群が1力所、1個の貼付突起が1力所、幅3 cmの1個の貼付突起がある。地文に組紐RRLLを全面施文の後、①口縁部直下より4本単位の櫛歯工具で鋸歯文、②8本単位の櫛歯のコンバス文、③4~6本単位の櫛歯状工具による鋸歯文を施文後、右上からの刺突文を加えている。(1力所に沈線で縱に引く、また1力所に刺突で山形を加える)、④8本単位の櫛歯のコンバス文、③と④の間を組紐帶を③'すると、①②③④'は等間隔に区画されている。刺突文は、神ノ木式の影響を受けたものであろう。

2は、口縁部1/4現存。口径(推)34 cm。二股波頂を4単位で全面組紐LLRRを施したもの。器面は風

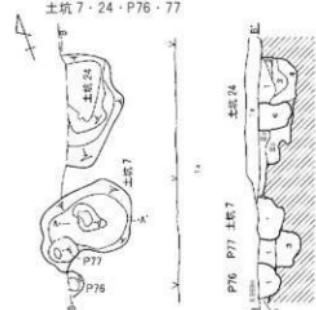


第41図 長宮遺跡第41地点焼土・炉穴・井戸・ピット (1/60)

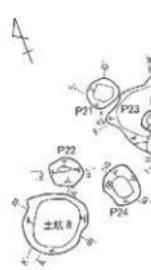
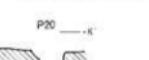
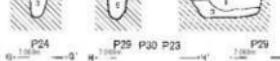
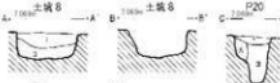
## 落とし穴 1



土坑 7・24・P76・77



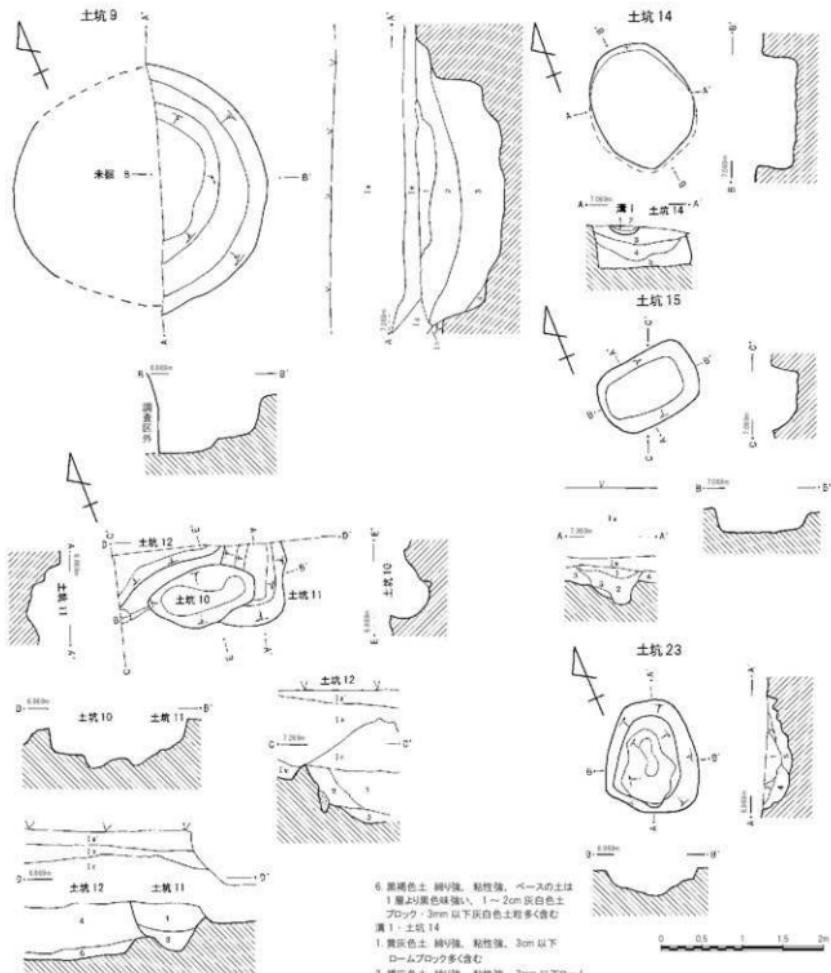
土坑 8・P20～24・29・30



土坑 8

P22 P21 P20

## 三 道構と遺物

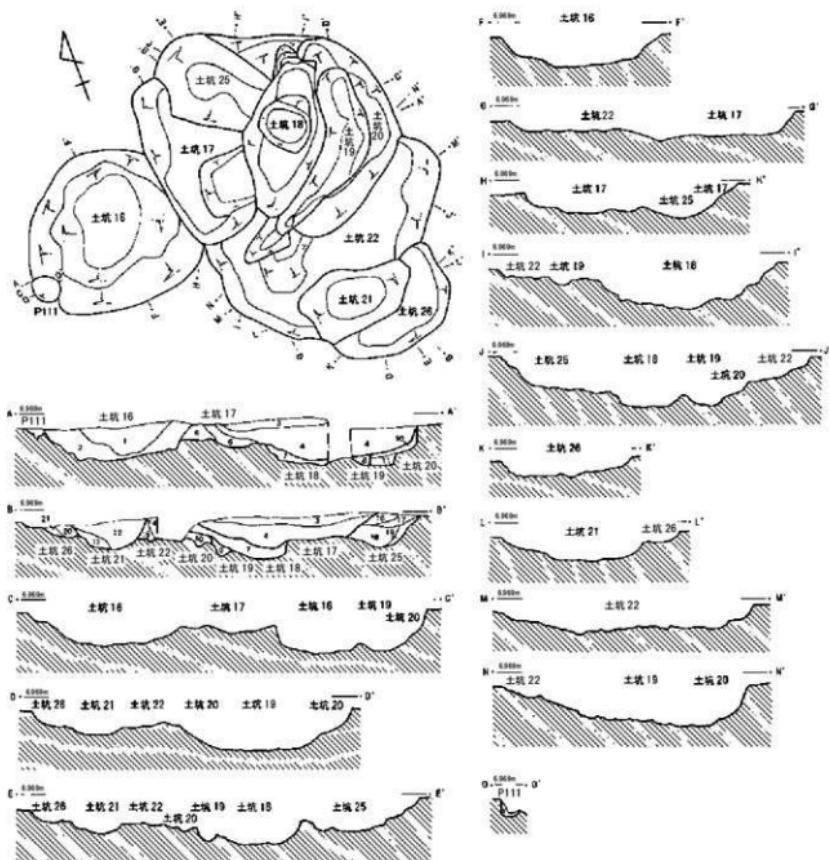


土坑 9

- 1 黒褐色土 粘り強、粘性強。シミ状に3cm以下ロームブロック多く含む
- 2 灰白色土 粘り強、塑性強。シミ状に3cm以下ロームブロックや多く含む
- 3 黒褐色土 粘り有、粘性強。1~2cmロームブロック少し。材を含む
- 4 反オリーブ色土 粘り有、粘性強。5~10mmロームブロックやや多く含む
- 5 黒褐色土 粘り強、粘性強。2mm以下ローム粒多く含む。大型の17cm大ロームブロック含む
- 6 黑褐色土 粘り強、粘性強。1~8cm灰白色土ブロック少く含む。ロームブロック・粒が少ない点でシミ状の5層に似る。(酸化土と1~2cmの大灰色土は土坑11の1層にも見立ち、動植物による擾乱と思われる)
- 7 反オリーブ色土 粘り強、粘性強。3cm以下ローム粒多く含む。大型の17cm大ロームブロック含む
- 8 黑褐色土 粘り強、粘性強。ベースの土は1層より黑色味強い。1~2cm灰白色土ブロック・粒3cm以下灰白色土粒多く含む
- 9 黑褐色土 粘り強、粘性強。1~8cm灰白色土ブロック少く含む。ロームブロック粒が少ない(酸化土と1~2cmの大灰色土は、土坑11の1層にも見立ち、動植物による擾乱と思われる)
- 10 黑褐色土 粘り強、粘性強。2mm以下ローム粒多く含む。大型の17cm大ロームブロック含む

- 6 黑褐色土 粘り強、粘性強。ベースの土は1層より黑色味強い。1~2cm灰白色土粒多く含む
- 7 黄褐色土 粘り強、粘性強。3cm以下灰白色土粒やや多く含む
- 8 黑褐色土 粘り強、粘性強。シミ状に3cm以下灰白色土・黄白色粒多く含む
- 9 黑褐色土 粘り強、粘性強。5mm以下ローム粒多く含む
- 10 黑褐色土 粘り強、粘性強。3cm以下ローム粒やや多く含む
- 11 黑褐色土 粘り強、粘性強。5mm以下ローム粒多く含む。黄白色味が有る
- 12 黑褐色土 粘り強、粘性強。1層より黑色味が有る。5mm以下ローム粒やや多く含む
- 13 黑褐色土 粘り強、粘性強。灰白色化した6cm以下ロームブロックシミ状に多く含む
- 14 黑褐色土 粘り強、粘性強。3cm以下ローム粒多く含む
- 15 黑褐色土 粘り強、粘性強。3cm以下灰白色土やや多く含む
- 16 黑褐色土 粘り強、粘性強。3cm以下灰白色土やや多く含む
- 17 黑褐色土 粘り強、粘性強。シミ状に3cm以下ローム粒多く含む
- 18 黑褐色土 粘り強、粘性強。3cm以下ローム粒多く含む
- 19 黑褐色土 粘り強、粘性強。シミ状に3cm以下ローム粒やや多く含む
- 20 黄褐色土 粘り強、粘性強。シミ状に3cm以下ローム粒やや多く含む
- 21 黄褐色土 粘り強、粘性強。3cm以下ローム粒やや多く含む
- 22 黑褐色土 粘り強、粘性強。3cm以下ローム粒やや多く含む
- 23 黑褐色土 粘り強、粘性強。3cm以下ローム粒多く含む

第43図 長宮遺跡第41地点土坑 (1/60)



土坑 16

- 黒褐色土 細り強、粘性強。2mm以下灰白色ローム粒少し含む
  - 黒褐色土 細り強、粘性強。2mm以下灰白色ローム粒や多く含む
- 土坑 17
- 黒褐色土 細り強、粘性強。3mm以下灰白色ローム粒や多く含む
  - 黒褐色土 細り強、粘性強。3mm以下灰白色ローム粒や多く含む。縄文時代の遺物を含む
  - 黒褐色土 細り強、粘性強。1cm以下灰白色ロームブロック・3mm以下灰白色ローム粒や多く含む

土坑 18

- 黒褐色土 細り強、粘性強。1cm以下灰白色ロームブロック・粒3層より多く含む

土坑 19

- 黒褐色土 細り強、粘性強。ベースの土は土坑 17より黒色味強いが、5mm以下ローム粒やや多く含み、全体の色調は土坑 17より黒色味がある

土坑 20

- 黒褐色土 細り強、粘性強。灰白色ロームをシミ状に多く、2cm以下灰白色ロームブロック少し含む

土坑 21

- 黒褐色土 細り強、粘性強。灰白色のローム主体。3cm以下ロームブロック。シミ状に黒褐色土を少し含む。1層より灰色味強い

土坑 22

- 黒褐色土 細り強、粘性強。5mm以下ローム粒少し含む

土坑 23

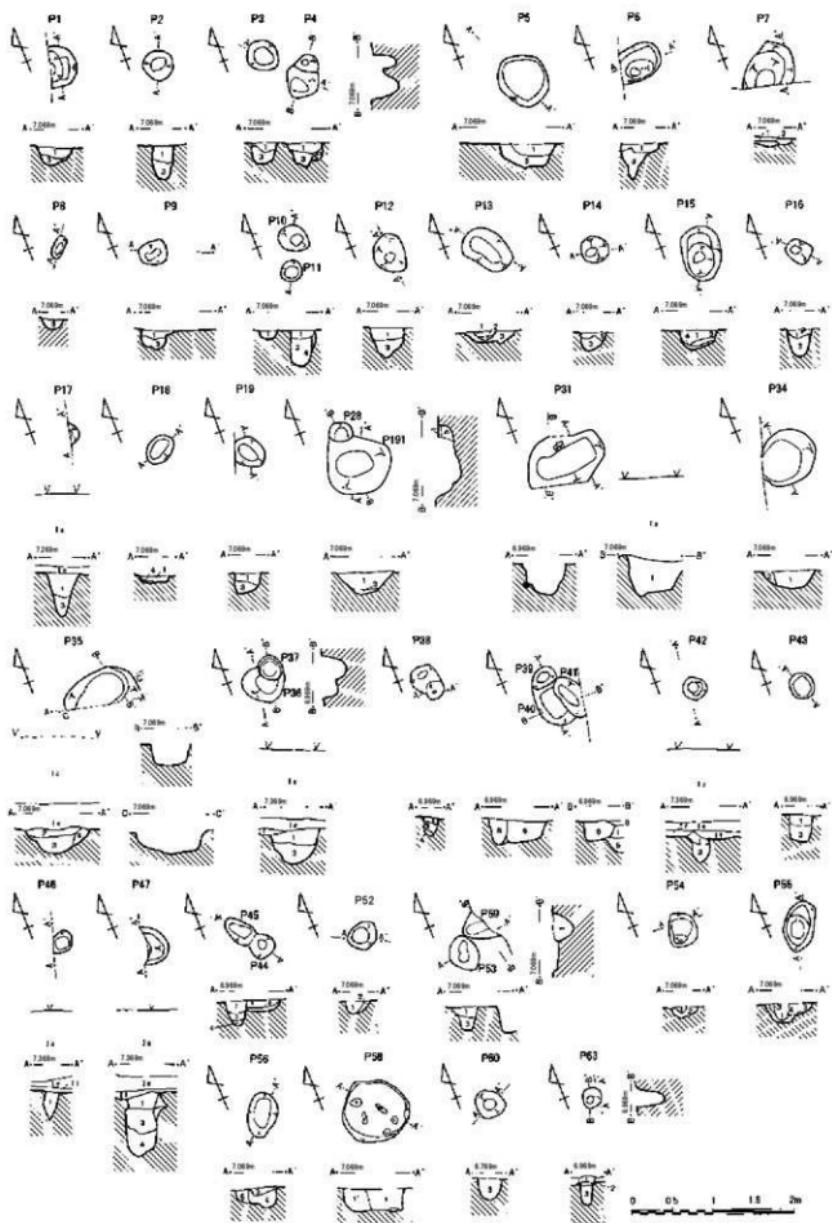
- 黒褐色土 細り強、粘性強。1cm以下ローム粒や多く含む

土坑 23

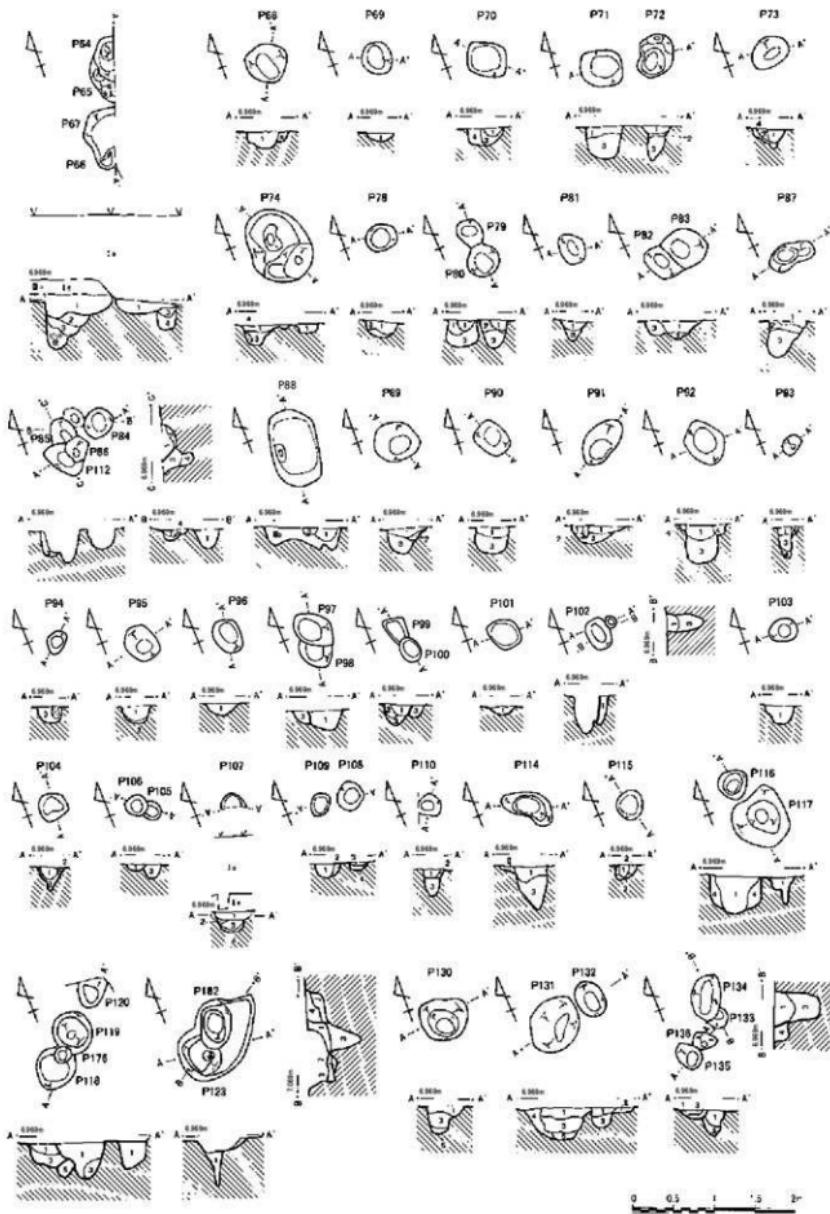
- 黒褐色土 細り強、粘性強。1cm以下灰白色ロームブロック・3mm以下灰白色ローム粒やや多く含む
- 黒褐色土 細り強、粘性強。2mm以下ローム粒多く含む
- 黒褐色土 細り強、粘性強。3mm以下灰白色ローム粒や多く含む
- 黒褐色土 細り強、粘性強。2mm以下黄白色ローム粒やや多く、2層より色調明るい
- 黒褐色土 細り強、粘性強。2mm以下黄白色ローム粒・微細なローム粒多く含む。色調暗い
- 黒褐色土 細り強、粘性強。ベースの土は黒色味強い、5mm以下灰白色ローム粒少しある
- 黒褐色土 細り強、粘性強。5mm以下黄白色ローム粒多く含む
- 黒褐色土 紆々強、粘性強。5mm以下黄白色ローム粒やや多く含む
- 黒褐色土 紆々強、粘性強。1cm以下シミ状ロームブロック・5mm以下ローム粒やや多く含む
- 黒褐色土 紆々強、粘性強。黒褐色土主体に、シミ状のローム土を多く含む



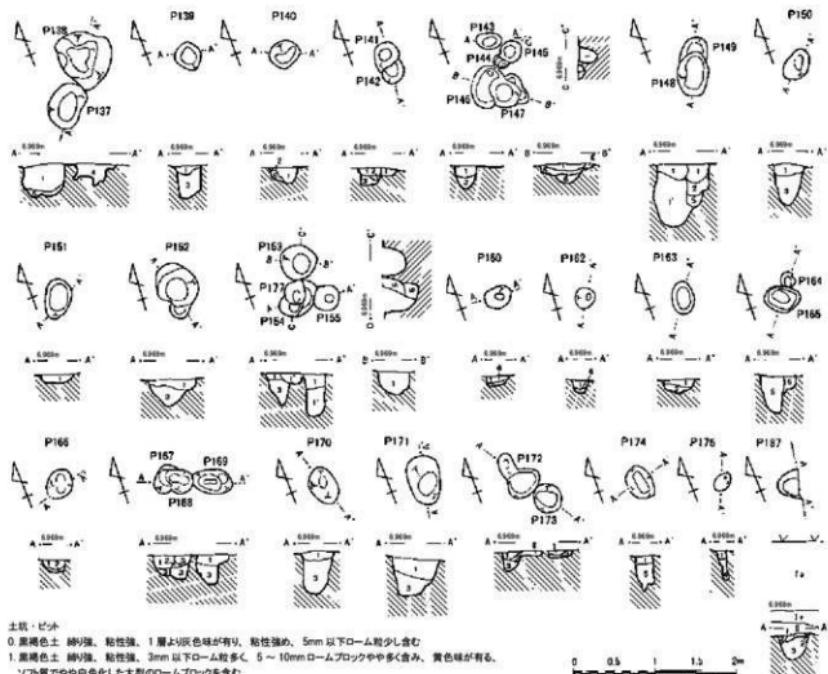
第44図 長宮遺跡第41地点土坑・ピット (1/60)



第45図 長宮遺跡第41地点ピット① (1/60)



第46図 長宮遺跡第41地点ピット② (1/60)



## 土坑・ピット

0. 黒褐色土 細り強、粘性強、1層より異色味が有り、粘性強め、5mm以下ローム粉少し含む
1. 黒褐色土 細り強、粘性強、3mm以下ローム粉多く、5~10mmロームブロックや多く含み、黄色味が有る。
- ソフト質で白色化した大型ロームブロックを含む
1. 黑褐色土 細り強、粘性強、1層に認められる2cmロームブロック、5mm以下ローム粉より多く含む
2. 黄灰色土 細り強、粘性強、(基本的に3層以上)ローム粉を多く含む、5~10mmロームブロックや多く含む
3. 黑褐色土 細り強、粘性強、色調は1層より、黒色味強い、5~30mmロームブロックや多く含む
4. 黄灰色土 細り強、粘性強、黒褐色土とローム土が混ざったような色調、5~10mmロームブロックや多く含む
5. 黑褐色土 細り強、粘性強、3mm以下ローム粉少し含む、3層よりロームブロックが少ない
5. 但し4cm以下灰褐色土多い
6. 黑褐色土主体 細り強、粘性強、5~20mmロームブロック多く含む
7. 黃い黒褐色土 細り強、粘性強、灰色味有るローム土主体、シミ状に黒褐色土を含む
8. 黑褐色土 細り強、粘性強、1層より異色味が有る、灰白色化した3mm以下ローム粉や多く含む
9. 黑色土 細り強、粘性強、1層より異色味が有る、灰白色化した3mm以下ローム粉や多く含む
10. 黄褐色土 細り強、粘性強、5mm以下ローム粉や多く含む
11. 黄灰色土 細り強、粘性強、2cmロームブロック・3mm以下ローム粉少し含む(含有物は少ない)

第47図 長宮遺跡第41地点ピット③(1/60)

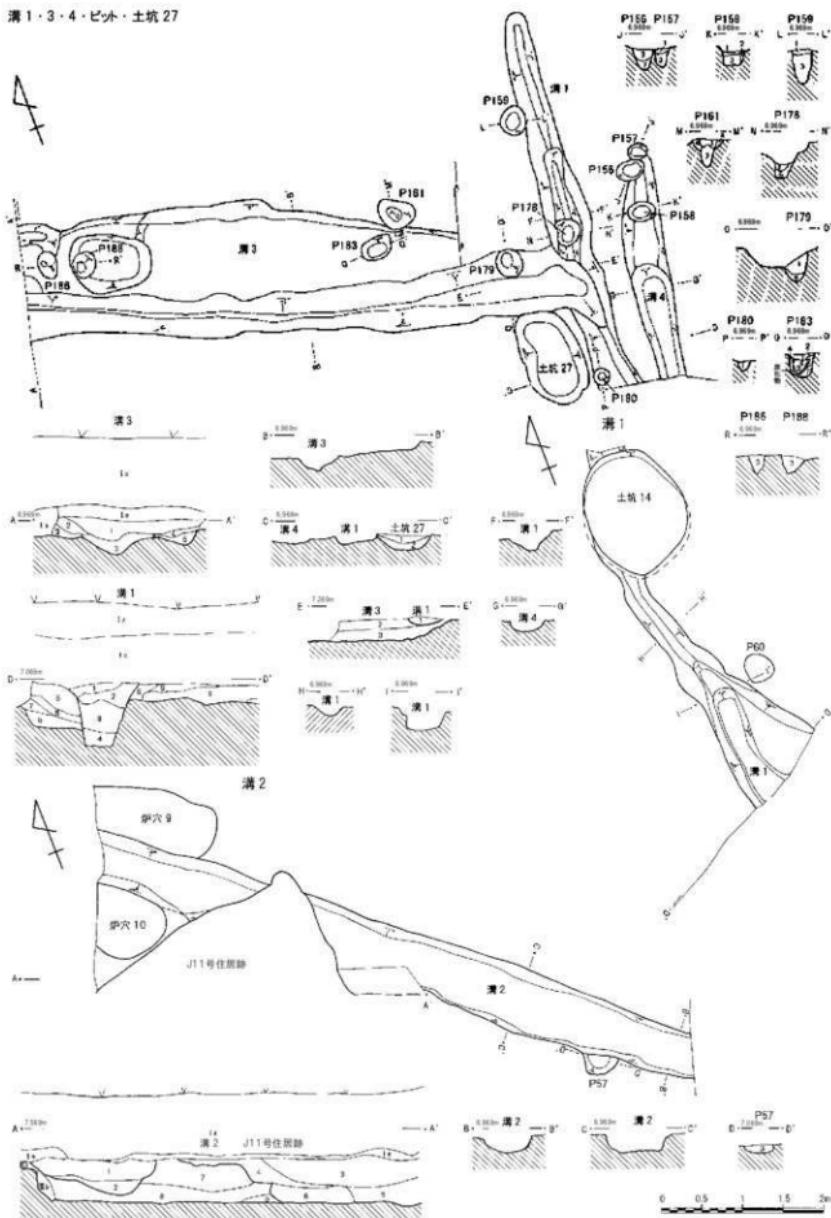
化が激しい。コンパス文等は施文されていないようである。3は、口縁部2/3現存。口径28cm。直線的な半楕円の4単位波状口縁。全面組紐LLRRを施し、口縁直下と同部最大径の箇所に4単位の櫛歯状工具によるコンパス文を施す。

4は、片口土器。口縁一部欠損するが、破片は全周する。底部はなし。口径(推)22.5cm。片口の幅は1cmで、現状では大人の指はぎりぎりで入らない。焼成により縮んだものと思われる。口唇部直下からLR単節の端末ループ文を7段ほど横位に施す。端末ループは大きめの円をなし、半裁竹管の爪形に似せているものか。その下には4段の端末ループ文で鋸

歯文をつくり、片口部直下は乱れるが全周し5単位となる。鋸歯文の間には端末ループの原体による横位にLRの単節斜縫文を密に施す。以下、横位の4段ループ文、3段のループ文による鋸歯文と施文がうかがえる。

5は、口径14.5cm。器高15cm。ほぼ全面RLとLRの単節による第1種結節による羽状縫文が施される。6は、台付き淺鉢で、内外面ともに非常に丁寧にみがかれている。文様は外面に付けられ、半裁竹管による2本単位で施文されるが、一部重ねて3本単位となる部分がある。地文には全面組紐が施文されているが擦れている。

## 溝1・3・4・ピット・土坑27



第48図 長宮遺跡第41地点土坑・ピット・溝 (1/60)

## Ⅲ 道構と遺物

炉穴 1

1. 黒褐色土 細り強。粘性有。5mm以下ローム粒・焼土多く含む。全体にローム混じりで黒色味が有る

2. 赤褐色土 細り強。粘性有。5mm 大焼土多く含む

3. 黒褐色土 細り強。粘性有。1層より黒色味が有る。2mm以下ローム粒多く含む。2mm以下焼土多く含む

4. 黑褐色土 細り強。粘性有。3mm以下ローム粒やや多く含む。3層より黒色味強い

炉穴 2

1. 黒褐色土 細り強。粘性有。3mm以下暗褐色・赤褐色焼土やや多く含む

2. 黑褐色土 細り強。粘性有。5mm以下暗褐色土多く含む

2'. 黑褐色土 細り強。粘性有。シミ状にローム土やや多く含む

3. 赤褐色土 細り強。粘性有

炉穴 3

1. 黑褐色土 細り強。粘性有。5mm以下ローム粒・焼土やや多く含む

1'. 黑褐色土 細り強。粘性有。混入物少なし。1mm以下ローム粒少し含む

2. 黑褐色土 細り強。粘性有。5mm以下ローム粒・焼土やや多く含む

3. 黑褐色土 細り強。粘性有。黒褐色土主体にシミ状ローム土・焼土を多く含む。5mm以下焼土多く含む

4. 黑褐色土 細り強。粘性有。シミ状に5mm以下ローム粒多く含み。褐色味が有る

5. 黑褐色土 細り強。粘性有。1cm以下ロームブロック・焼土多く含む

炉穴 4

1. 黑褐色土 細り強。粘性有。5mm以下ローム粒・焼土やや多く含む (炉穴 3 の 1 層より灰色調明るい)

2. 黑褐色土 細り強。粘性有。1mm以下ロームの細粒多く含み。黒色味が有る。3mm以下ローム粒・焼土やや多く含む

3. 黑褐色土 細り強。粘性有。5mm以下ローム粒多く含む。5mm以下焼土少し含む

4. 黄褐色土 細り強。粘性有。ローム土主体。シミ状に5mm以下焼土少し含む

炉穴 5

1. 黑褐色土 細り強。粘性強。3mm以下ローム粒・焼土やや多く含む

2. 黑褐色土 細り強。粘性有。3mm以下ローム粒多く含む。以下焼土少し含む

炉穴 6

1. 黑褐色土 細り強。粘性強。5mm以下ローム粒・焼土やや多く含む

2. 黑褐色土 細り強。粘性強。5mm以下ローム粒・焼土やや多く含む。1層よりロームの細粒が多く含む。黒色味強い

3. 黑褐色土 細り強。粘性強。5mm以下焼土やや多く含む。2層より黒色味強い

4. 黑褐色土 細り強。粘性強。5mm以下ローム粒多く含む

5. 桂灰土 細り強。粘性強。白色味有る焼土主体

6. 黄灰土 細り強。粘性強。シミ状に桂灰色の焼土を多く含む

炉穴 7

1. 黑褐色土 細り強。粘性強。黒色味が有る。5mm以下ローム粒多く。5mm以下焼土少し含む

2. 黑褐色土 細り強。粘性有。シミ状に1cm 大焼土少し含む

3. 黄灰土 細り強。粘性有。シミ状に3mm以下ローム粒やや多く。3mm以下焼土少し含む

含む

炉穴 8

1. 黑褐色土 細り強。粘性強。2mm以下ローム粒多く。3mm以下焼土少し含む

2. 赤褐色土 細り強。粘性強。燒土主体。黃灰色土をシミ状に少し含む

炉穴 9

1. 黑褐色土 細り強。粘性強。3mm以下ローム粒やや多く含む

2. 黑褐色土 細り強。粘性強。3mm以下ローム粒多く含む

3. 黑褐色土 細り強。粘性強。2mm以下灰白色土シミ状に。2mm以下焼土やや多く含む

炉穴 9 - 10 - 売 2

1. 黑褐色土 細り強。粘性強。乾土質、3mm以下ローム粒やや多く含む

2. 黑褐色土 細り強。粘性強。乾土質、灰白色味が有る。3mm以下ローム粒少し含む

3. 緑灰土 細り強。粘性強。乾土質、黒褐色土ベースの5mm 綠色灰土焼土ブロック主体

4. 黑褐色土 細り強。粘性強。3mm以下ローム粒・綠灰色土粒多く含む

5. 黑褐色土 細り強。粘性強。2 ~ 5cm 綠色灰土焼土ブロック。1 ~ 3cmロームブロックやや多く含む

6. 黑褐色土 細り強。粘性強。Tom 以下ロームブロック・輕・綠灰色土少し含む

炉穴 10

1. 黑褐色土 細り強。粘性強。1mm以下ロームの細粒やや多く含み。黒色味が有る

2. 黑褐色土 細り強。粘性強。1mm以下ローム粒やや多く含む

3. 黑褐色土 細り強。粘性強。5 ~ 20mm ロームブロック少し。5mm以下ローム粒やや多く含む

4. 黑褐色土 細り強。粘性強。1mm以下ローム粒少し含む

全體に植物根の酸化土が目立つ

炉穴 11

1. 黑褐色土 細り有。粘性強。5 ~ 30mm 灰白色ロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む

2. 黑褐色土+白色土 細り強。粘性強。黒褐色土主体に灰白色土したローム土を多く含む

3. 黑褐色土 細り有。粘性強。5 ~ 10mm ロームブロック少し含む

土坑 1

1. 黑褐色土 細り強。粘性有。2mm以下ローム粒やや多く。色調明るい

2. 黑褐色土 細り強。粘性有。2mm以下ローム粒少し含む。色調や灰色味が有る

3. 黑褐色土 細り強。粘性有。3mm以下ローム粒少し含む

4. 黑褐色土 細り強。粘性有。2mm以下ローム粒少し含む

5. 黑褐色土 細り強。粘性有。5mm以下ローム粒やや多く含む

6. 黑褐色土 細り強。粘性有。5mm以下ローム粒やや多く含む

7. 黑褐色土 細り強。粘性有。ソフト質ローム土や2cm以下ロームブロック多く含む

8. 黄褐色土 細り強。粘性有。ソフローム土ベースにロームブロック主体。貼土構造土の可能性がある

土坑 2

1. 黑褐色土 細り強。粘性強。1cm 大ロームブロック多く含む

2. 黑褐色土 細り強。粘性強。1層より黒色味有る。5mm以下ローム粒やや多く含む。5cm 汚オリーブロームブロック少し含む

土坑 4

1. 土坑 3 の 2 層に同じで酸化土が目立つ

土坑 27

1. 黑褐色土 細り強。粘性強。色調は灰色味が有る。シミ状に1cm 大ロームブロック。1mm以下ローム粒少し含む

2. 黄褐色土 細り強。粘性有。黒褐色土主体に2層状ローム土多く含む

溝 1 D - D'

1. 黄褐色土 細り強。粘性強。5 ~ 15mm ロームブロックやや多く含む。酸化土目立つ

2. 黄褐色土 主体 細り強。粘性有。8cm以下ロームブロック主体

3. 黑褐色土 細り強。粘性強。5 ~ 50mm ロームブロックやや多く含む。酸化土目立つ。灰褐色味有る

4. 黑褐色土 細り強。粘性強。含水しており剥り上層より弱い。5mm以下ローム粒やや多く含む

5. 黑褐色土 主体 細り強。粘性有。5 ~ 50mm ロームブロック。織かな1mm以下ローム粒多く含む

6. 黑褐色土 細り強。粘性強。5 ~ 10mm ロームブロック少し含む

7. 淡黄褐色土 細り強。粘性強。黒褐色土灰白化したローム土が混ざる

8. 黑褐色土 細り強。粘性強。3cm以下ロームブロックミミにやや多く含む

9. 黑褐色土 細り強。粘性強。5mm以下ローム粒少し含む。やや酸化土目立つ

溝 2 A - A'

1. 黑褐色土 細り強。粘性強。5mm以下ローム粒多く含む。全体の色調は褐色味が有る

2. 黑褐色土 細り強。粘性強。黒褐色土有る黒褐色土。5mm以下ローム粒多く含む

3. 黑褐色土 細り強。粘性強。5cm以下羅褐色粘土ミミにやや多く含む

4. 黑褐色土 主体 細り強。粘性強。ブロック状の褐色粘土主体

5. 黑褐色土 細り強。粘性強。粘性有。灰褐色味有る黒褐色土。粘土化した黒褐色土をやや多く含む

6. 黑褐色土 細り強。粘性強。灰褐色味有る黒褐色土主体に。粘土化した3cm以下黒褐色

ロームブロック多く含む。ややかぶれしている

7. 黑褐色土 細り強。粘性強。灰褐色味有る黒褐色土。3mm以下ローム粒多く含む

8. 黑褐色土 細り強。粘性強。3 ~ 10mm 灰化物。織物遺物やや多く含む

9. 黃褐色土 細り強。粘性有。5mm以下ローム粒多く含む。3 ~ 10mm 橙褐色土・5mm以下灰

化物少含む

溝 3 A - A'

1. 芥黄色土 細り強。粘性強。1cm以下灰白色ロームブロック多く含む

2. 黄灰土 細り強。粘性強。3mm以下ローム粒少し含む

3. 黑褐色土 細り強。粘性強。5cm以下ロームブロック少し含む

4. 黑褐色土 細り強。粘性強。シミ状に灰白色土を多く含む

5. 黑褐色土 細り強。粘性強。灰褐色味有る。5mm以下ローム粒多く含む。3 ~ 10mm 橙褐色土・5mm以下灰

化物少含む

溝 3 E - E'

1. 芥黄色土 細り強。粘性強。2mm以下ローム粒少し含む

2. 黄灰土 細り強。粘性強。3mm以下ローム粒少し含む

3. 黑褐色土 細り強。粘性強。1 ~ 3cm ロームブロック少し含む

4. 黑褐色土 細り強。粘性強。シミ状に灰白色土を多く含む

5. 黑褐色土 細り強。粘性強。色調灰白色味が弱りシート状。3mm以下ローム粒少し含む

溝 1 : 濱 3 E - E'

1. 桃紅色土 細り強。粘性強。2mm以下ローム粒少し含む

2. 桃紅色土 細り強。粘性強。5mm以下灰褐色土粒・3mm以下ローム粒やや多く含む

3. 桃紅色土 細り強。粘性強。3cm以下ローム粒やや多く含む

4. 桃紅色土 細り強。粘性強。5mm以下ローム粒やや多く含む

5. 桃紅色土 細り強。粘性強。1層より黒色味が有る。5mm以下ローム粒やや多く含む

第 49 図 長宮遺跡第 41 地点土層説明

第17表 長宮遺跡第41地点ピット一覧表(単位:cm)

No.	平面位置	標高位置	底径	第2	第3	幅
P1	平地	51×121	13×15	13		
P2	円柱	38×36	18×16	43		
P3	円柱	37×37	23×20	29		
P4	円柱	40×38	23×17	33		
P5	円柱	68×58	24×47	25	上部	
P6	円柱	52×45	11×10	42		
P7	円柱	51×45	11×10	42	上部	
P8	円柱	25×14	8×6	13	上部	
P9	円柱	34×26	20×9	74		
P10	円柱	36×33	14×13	30		
P11	円柱	27×25	17×14	14		
P12	円柱	49×43	13×10	37		
P13	長方形	64×41	44×16	25		
P14	円柱	23×32	10×10	23		
P15	円柱	36×36	14×14	30	上部	
P16	円柱	21×26	8×10	20	上部	
P17	円柱	27×131	10×14	33		
P18	円柱	40×29	20×15	11		
P19	円柱	44×26	21×15	21		
P20	圓錐形	49×37	11×9	60		
P21	円柱	36×37	11×7	54	上部	
P22	円柱	45×45	17×14	50		
P23	円柱	36×36	14×14	30	上部	
P24	円柱	47×40	20×10	47		
P25	円柱	29×22	8×6	73		
P26	平地	131×32	13×13	38		
P27	平地	30×23	8×5	20		
P28	平地	29×23	11×10	19		
P29	円柱	70×48	40×26	24		
P30	円柱	25×23	10×14	19		
P31	円柱	21×21	10×10	20	上部	
P32	円柱	17×15	8×5	20	上部	
P33	円柱	30×18	10×5	47		
P34	円柱	74×63	53×47	24		
P35	平地	90×45	83×36	31		
P36	平地	50×28	23×18	18		
P37	円柱	31×26	14×16	20		
P38	円柱	46×23	14×9	23		
P39	円柱	22×22	10×10	20	上部	
P40	平地	51×190	21×121	31		
P41	平地	16×30	23×13	20		
P42	円柱	29×27	12×12	22		
P43	円柱	57×30	23×18	33		
P44	円柱	30×29	11×10	30	上部	
P45	円柱	40×27	23×14	16		
P46	円柱	29×23	10×15	22		
P47	円柱	42×23	14×13	23	上部	
P48	平地	71×53	51×46	20	上部	
P49	円柱	50×34	20×16	20		
P50	平地	90×181	185×150	17	上部	
P51	円柱	35×27	20×21	26		
P52	円柱	37×35	23×19	19		
P53	円柱	38×37	21×11	35		
P54	円柱	42×34	14×14	31		
P55	円柱	24×24	10×10	23		
P56	圓錐形	87×52	28×18	22	上部	
P57	平地	47×123	29×114	13	上部	
P58	円柱	83×75	74×66	27	上部	
P59	平地	43×28	18×12	35		
P60	円柱	36×34	14×14	29		
P61	円柱	41×36	21×16	20	上部	
P62	円柱	28×26	10×11	26		
P63	円柱	24×24	10×10	23		
P64	平地	58×123	87×7	23		
P65	平地	129×125	44×9	34		
P66	平地	75×38	20×13	34		
P67	平地	75×37	13×13	34		
P68	円柱	50×47	23×18	20		
P69	円柱	28×36	10×16	13		
P70	円柱	40×42	21×30	25		
P71	円柱	129×129	12×7	23		
P72	円柱	32×42	23×18	42		
P73	円柱	49×36	23×10	13		
P74	円柱	50×45	23×18	23		
P75	円柱	37×34	23×15	24		
P76	平地	32×30	11×9	19		
P77	円柱	29×22	20×21	20		
P78	円柱	29×28	17×14	43		
P79	円柱	28×28	17×14	43		
P80	円柱	28×28	17×14	43		
P81	圓錐形	16×53	10×10	16		
P82	円柱	52×50	23×21	30		
P83	円柱	29×31	20×15	27		
P84	円柱	45×28	23×17	18		
P85	円柱	50×45	23×18	23		
P86	円柱	37×34	23×15	24		
P87	平地	22×22	11×7	52		
P88	円柱	29×32	11×7	52		
P89	円柱	29×32	20×21	20		
P90	円柱	29×28	17×14	43		
P91	円柱	20×21	11×14	22		
P92	円柱	47×34	23×16	24	上部	
P93	円柱	42×32	23×16	24	上部	
P94	円柱	42×34	23×17	18		
P95	円柱	50×45	23×18	23		
P96	円柱	37×34	23×15	24		
P97	円柱	28×36	10×16	13		
P98	円柱	28×36	10×16	13	上部	
P99	円柱	43×34	23×16	34		
P100	圓錐形	65×37	23×20	24		
P101	円柱	51×45	20×16	43	上部	
P102	円柱	25×18	7×5	43		
P103	円柱	20×21	11×14	22		
P104	円柱	47×34	23×16	24	上部	
P105	円柱	42×32	23×16	24	上部	
P106	円柱	50×45	23×18	23		
P107	円柱	37×34	23×15	24		
P108	円柱	28×36	10×16	13		
P109	円柱	28×36	10×16	13	上部	
P110	円柱	43×34	23×16	34		
P111	円柱	65×37	23×20	24	上部	
P112	円柱	20×21	11×14	22		
P113	円柱	47×34	23×16	24	上部	
P114	円柱	42×32	23×16	24	上部	
P115	円柱	50×45	23×18	23		
P116	円柱	37×34	23×15	24		
P117	円柱	28×36	10×16	13		
P118	円柱	28×36	10×16	13	上部	
P119	円柱	43×34	23×16	34		
P120	円柱	65×37	23×20	24	上部	
P121	円柱	20×21	11×14	22		
P122	円柱	47×34	23×16	24	上部	
P123	円柱	42×32	23×16	24	上部	
P124	円柱	50×45	23×18	23		
P125	円柱	37×34	23×15	24		
P126	円柱	28×36	10×16	13		
P127	円柱	28×36	10×16	13	上部	
P128	円柱	43×34	23×16	34		
P129	円柱	65×37	23×20	24	上部	
P130	円柱	20×21	11×14	22		
P131	円柱	47×34	23×16	24	上部	
P132	円柱	42×32	23×16	24	上部	
P133	円柱	50×45	23×18	23		
P134	圓錐形	63×50	23×14	43		
P135	円柱	36×35	13×13	43		
P136	円柱	70×70	17×15	55		
P137	円柱	49×48	34×33	29		
P138	円柱	50×48	10×8	56		
P139	円柱	35×33	21×18	36	上部	
P140	円柱	49×48	21×18	36		
P141	円柱	40×51	13×18	37		
P142	円柱	48×36	13×8	43		
P143	円柱	36×34	13×7	42		
P144	円柱	63×50	23×14	43		
P145	円柱	43×38	13×18	43		
P146	円柱	36×35	13×18	43		
P147	円柱	71×70	17×15	55		
P148	円柱	33×31	13×18	42		
P149	円柱	36×33	21×13	20		
P150	円柱	31×29	13×13	30		
P151	円柱	46×32	13×23	33		
P152	圓錐形	65×50	23×14	43		
P153	円柱	44×33	13×13	33		
P154	円柱	51×52	13×18	43		
P155	円柱	31×29	13×18	43		
P156	円柱	36×33	21×13	20		
P157	円柱	31×29	13×18	43		
P158	円柱	31×30	11×15	55	上部	
P159	円柱	36×23	13×9	29		
P160	円柱	35×18	23×15	45		
P161	円柱	41×33	23×13	43		
P162	円柱	35×29	23×11	21		
P163	円柱	36×33	21×13	20		
P164	円柱	40×37	23×17	17		
P165	円柱	40×37	23×17	17		
P166	円柱	36×33	21×13	20		
P167	円柱	41×33	23×13	43		
P168	円柱	35×29	23×11	21		
P169	円柱	36×33	21×13	20		
P170	円柱	36×33	21×13	20		
P171	円柱	43×37	23×17	17		
P172	円柱	36×33	21×13	20		
P173	円柱	41×37	23×17	17		
P174	円柱	40×37	23×17	17		
P175	円柱	36×33	21×13	20		
P176	円柱	41×33	23×13	43		
P177	円柱	36×33	21×13	20		
P178	円柱	36×33	21×13	20		
P179	円柱	36×33	21×13	20		
P180	円柱	36×33	21×13	20		
P181	円柱	40×37	23×17	17		
P182	円柱	36×33	21×13	20		
P183	円柱	41×37	23×17	17		
P184	円柱	40×37	23×17	17		
P185	円柱	36×33	21×13	20		
P186	円柱	41×33	23×13	43		
P187	円柱	36×33	21×13	20		
P188	円柱	36×33	21×13	20		
P189	円柱	36×33	21×13	20		
P190	円柱	36×33	21×13	20		
P191	円柱	36×33	21×13	20		
P192	円柱	36×33	21×13	20		
P193	円柱	36×33	21×13	20		
P194	円柱	36×33	21×13	20		
P195	円柱	36×33	21×13	20		
P196	円柱	36×33	21×13	20		
P197	円柱	36×33	21×13	20		
P198	円柱	36×33	21×13	20		
P199	円柱	36×33	21×13	20		
P200	円柱	36×33	21×13	20		
P201	円柱	36×33	21×13	20		
P202	円柱	36×33	21×13	20		
P203	円柱	36×33	21×13	20		
P204	円柱	36×33	21×13	20		
P205	円柱	36×33	21×13	20		
P206	円柱	36×33	21×13	20		
P207	円柱	36×33	21×13	20		
P208	円柱	36×33	21×13	20		
P209	円柱	36×33	21×13	20		
P210	円柱	36×33	21×13	20		
P211	円柱	36×33	21×13	20		
P212	円柱	36×33	21×13	20		
P213	円柱	36×33	21×13	20		
P214	円柱	36×33	21×13	20		
P215	円柱	36×33	21×13	20		
P216	円柱	36×33	21×13	20		
P217	円柱	36×33	21×13	20		
P218	円柱	36×33	21×13	20		
P219	円柱	36×33	21×13	20		
P220	円柱	36×33	21×13	20		
P221	円柱	36×33	21×13	20	</td	

7～10は半裁竹管で文様を施文したもの。7は片口土器。組紐 LLRR。半裁竹管でカマボコ状の沈線で重鋸歯文を構成するもの。交点に円形の押捺がある。8は組紐 RRRR。半裁竹管を重ねてカマボコ状に集合沈線4本となる。9は組紐 LLRR。半裁竹管でカマボコ状の平行線。10は半裁竹管を重ねてカマボコ状に集合沈線、ループ文を多段化して施文。11は口縁直下に2本の半裁竹管の間にコンパス文を施文したもので組紐は LLRR。12は4本単位の櫛歯で鋸歯文を描くもの。地文は LLRR。

13～17は櫛歯でコンパス文を加えたもの。13は、波状口縁。現存1/4。全面組紐 LLRR。口縁部とくびれ部に6本の櫛歯状工具でコンパス文を施文したもの。14と15は同一個体。波状口縁。器面の風化が激しく組紐は不明。くびれ部に櫛歯状工具によるコンパス文が施文。16も波状口縁でくびれ部にコンパス文を施文。LLRR。17はLRの単節でくびれ部に櫛歯状工具でコンパス文。

18～25は沈線やコンパス文がないもの。18は口縁部を1/3欠損するが底部・胴部は全周する。片口土器で0段1条による組紐。19は風化が激しい。口縁部直下は無紋。以下詳細が不明な組紐。20は0段1条による組紐。21は組紐 RRLL。22と23は同一個体。口縁1/2現存。片口土器で繩文原体が緩くなつたものか組紐は不明。23は LLRRの組紐。25は多段化したループ文。

26～38は上記の胴部破片。26～28は櫛歯状工具によるコンパス文がつくもの。いずれも組紐は LLRR。26の櫛歯は8本、27は6本、28は4本と思われる。29は半裁竹管による平行沈線の直下に全面組紐 LLRRを施したもの。30・31・32胴部下半の土器で同一個体の可能性がある。組紐 LLRRである。33・34も組紐 LLRRである。35は RRLL、36は LLRR。37は不明。38は RRLLの組紐。

39は正反の合による異状斜繩文で羽状であるが菱形を構成したものと思われる。

40～44は底部の破片。いずれも、底部は上げ底で、底部側面が横に張り出す。40の組紐は風化により不明。41・42は0段による組紐。43は RLの単節。44は、正反の合による菱形を構成する。

45は、口唇部直下に3条の刺突列が廻る特異な土器。刺突列の直下に3本の櫛歯のコンパス文、繩文 RLの単節が施されている。3条の刺突のうち最上段は、そ

れ以下の2本とは別に施されたようである。神之木式の影響があろう。刺突列について、早坂広人氏に見てもらったところ、なんらかの繩文の原体によるものという。刺突は深さ2mm、直径2mmで、竹のような工具の疑いもある。

#### J11号住居

1・2は、全面組紐で半裁竹管で文様を施文。口縁部に半裁竹管で集合沈線による鋸歯文を描く同一個体の破片。波状口縁。地文は組紐であるが、風化が著しく不明。

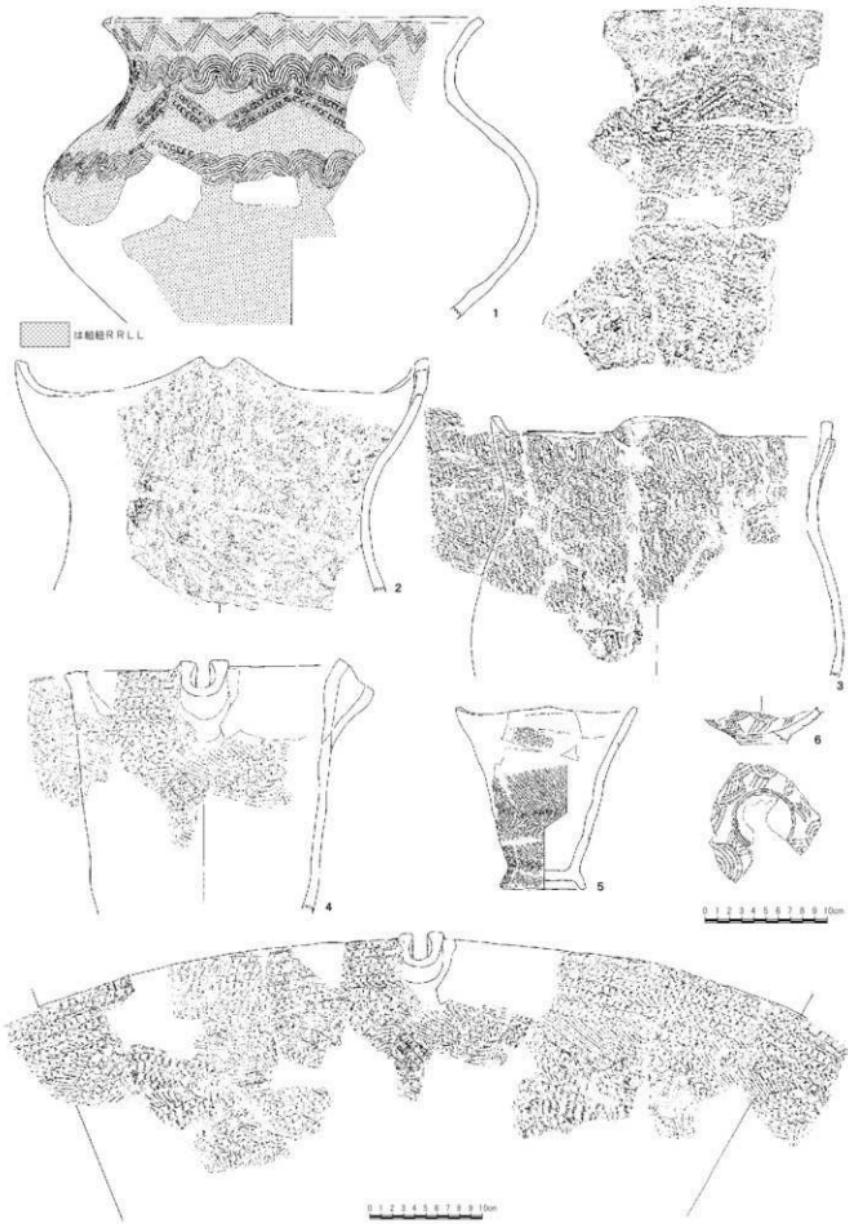
3～11は全面組紐を施文後、櫛歯で文様を施文するもの。3は、全面組紐 RRRLを施した後、口唇部に4本の櫛歯による横S状に入り組むコンパス文とその下に半裁竹管による一条の鋸歯文。4は、全面 LLRRの組紐を施文の後、4本の櫛歯によるコンパス文を口唇部から8cmの等間隔で施文。胎土に2～3mmの白色の砂粒（石英か）や黒色の砂粒を含む。5は、片口土器で、口唇部直下に6本の櫛歯のコンパス文。全面組紐を施文するが摩耗のため不明。6は、台付き淺鉢。組紐 LLRRで6本の櫛歯により、口唇部と脚の境に2段のコンパス文。コンパス文の間隔は7cmほど。7・8は二股波状口縁の同一個体。口唇部に5本の櫛歯によるコンパス文。RLの単節。9は、口唇部に半円状の突起が直立してつく。4本の櫛歯によるコンパス文であるが、半円の突起部には口縁に沿って櫛歯文を直線施文。組紐は RRLL。10は、平縁の土器で5本の櫛歯、組紐 LLRR。11は、内傾する平縁の土器。口唇部と胴部に6本の櫛歯によるコンパス文を上下7cmの間隔で施文。組紐 LLLL。

12・13・14は全面組紐で施文するもの。12・13は全面組紐 LLLLを施文。14は半円状突起に0段の組紐。

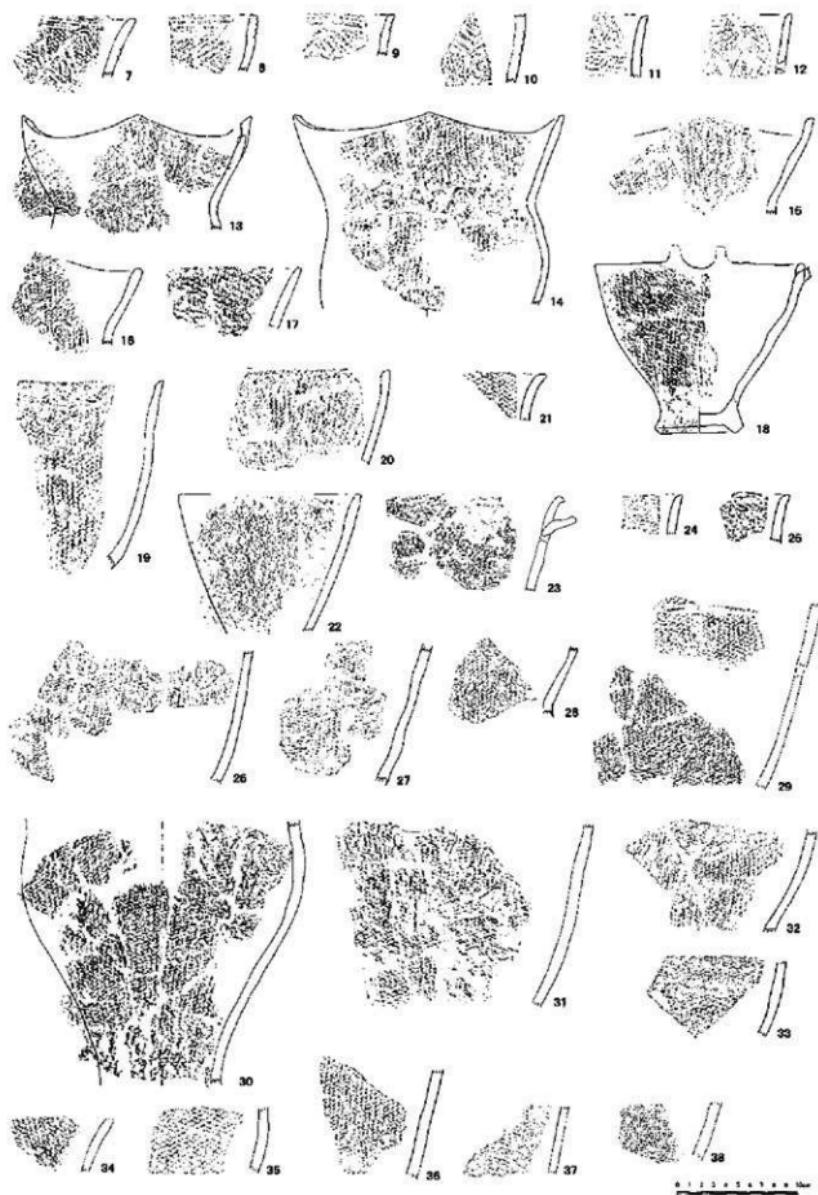
15～18は、正反の合による原体で施文し、コンパス文が施文されている。15は非常に摩耗しているが、菱形に施文構成し、くびれ部に櫛歯によるコンパス文が施文。16は片口土器で、口唇部直下と胴部に5本単位の櫛歯によるコンパス文が施文されている。17も口唇部に櫛歯ではなく半裁竹管によるコンパス文を施文。18は、口唇部より6cm下にコンパス文。

19は、1/2現存。口径14.5cm。地文 LRLの複節を施文。小形の單口縁の土器。

20～27は、上記の類の胴部破片。20は RRLL。21・22は同一個体。6単位の櫛歯によるコンパス文。



第50図 長宮遺跡第41地点 J10号住居跡出土遺物① (1/4)



第51図 長宮遺跡第41地点J10号住居跡出土遺物② (1/4)

2種の前前段合撫の原体で羽状縞文とする。幅10mmの半裁竹管によるコンパス文を施文。23は6本単位の櫛歯によるコンパス文。0段の組紐。風化が激しい。11と同一の破片かもしれない。24はLとRをR巻きにした撫り戻し。

25～27は、正反の合で、菱形に施文したものであろう。

28～32は上記の類の底部破片である。28はRLとLRの単節による菱形の縞文になったもの。29は上げ底が台のように横に張出す。底部に櫛歯によるコンパス文を施文。30は風化していて詳細は不明。31・32は、上げ底だが、横に張り出さない。31は組紐LLRR。32はLRとRLの単節による羽状縞文。

33・34はその他の破片。33は、補修孔がある。途中で止めた未完の補修孔もある。縞文はLRの原体にLを2本単位に付加したものか。器面は薄く、丁寧な磨きが施されている。

34は、土器型式不明である。地文はない。口唇部上面に、粘土を貼り付けたものか否か不明であるが、刻みを付けている。器面に幅2.4cm・厚さ3mmほどの粘土紐を貼り付けている。口唇部直下に横一条を貼り付け、円形と交点から斜め方向に貼り付けている。粘土紐の上には半裁竹管による斜め45度で右上から押し引きを3条をカマボコ状に粘土紐全面に施す。胎

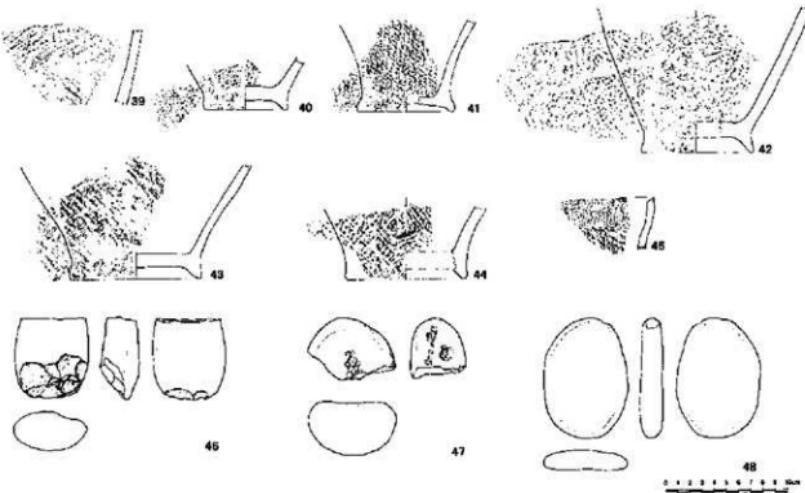
土・色調は黄がつよい褐色で、口縁断面には黒い層が厚く、以下徐々に薄く、サンドイッチ状になっている。縞文はみたところ確認できないようである。関山式とは全く異にし、インパクトの強い土器破片である。

これについては、何人かの研究者の手を煩わした。新井和之氏は、時期を除外して考える必要があるのでないか、という観点から、半裁竹管の押し引きの技法の類似から、十三菩提式の可能性を示唆された。早坂広人氏、鈴木徳男氏は、検討が付かないが同一時期を前提とし、東海系を考える必要があろう、というものでした。

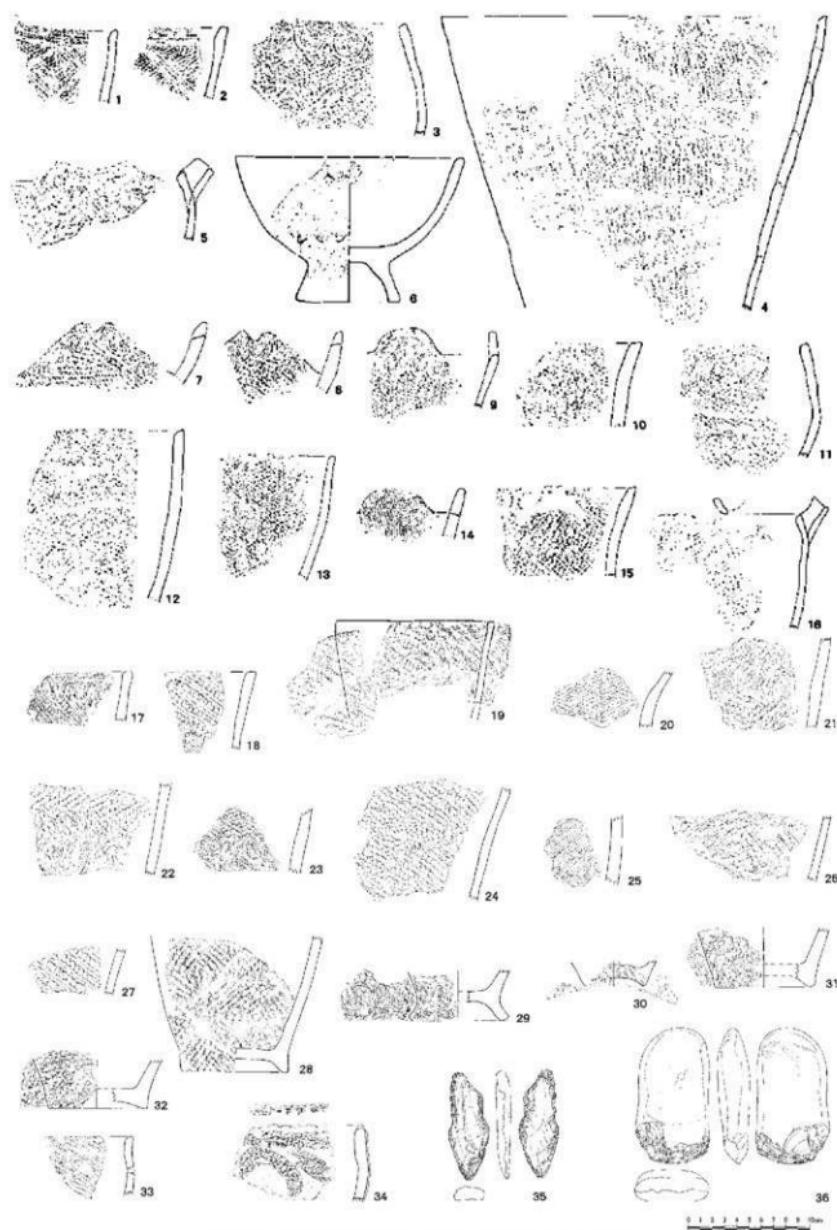
#### J12号住居出土遺物

1は、口径16cmの小型の土器。RLの単節を横位に施文。2は、全面半裁竹管による全面格子状に施したもので、口唇部直下に櫛歯状工具で縦にコンパス文が細長く施文されている。3は風化が激しいが撫り戻しか。4は0段4条を施文。5は、櫛歯のコンパス文のみ。6は正反の合による菱形文。

7～16は地文が組紐によるもの。7・8はLLRR。9はRRRR。10は0段による組紐。11はRRRR。12・13は同一個体でLLLL。14はRLRの複節。15はRLLL。16はRRL。17はRRLの撫り戻しか。18はRLの多段ループ文に櫛歯状工具で縦長のコンパス文を施文。19は開端自条結節。20は前前段合撫らし

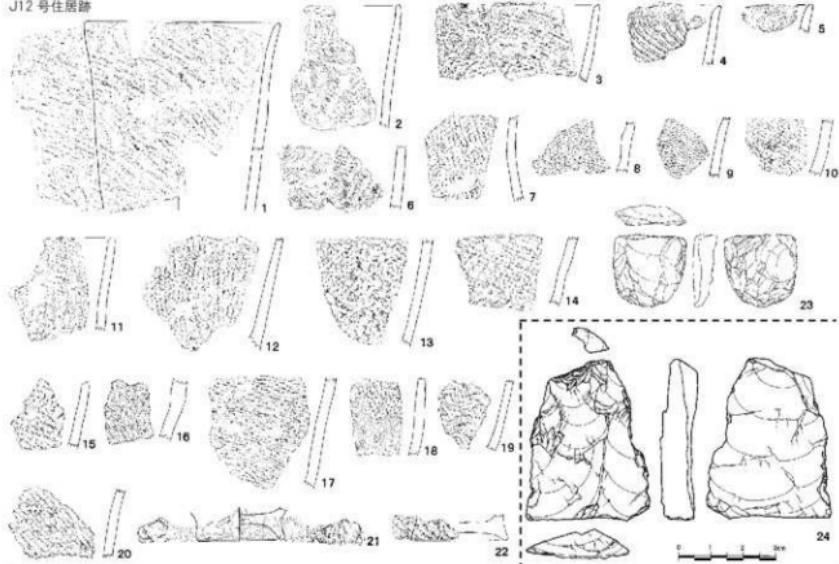


第52図 長宮遺跡第41地点 J10号住居跡出土遺物③ (1/4)

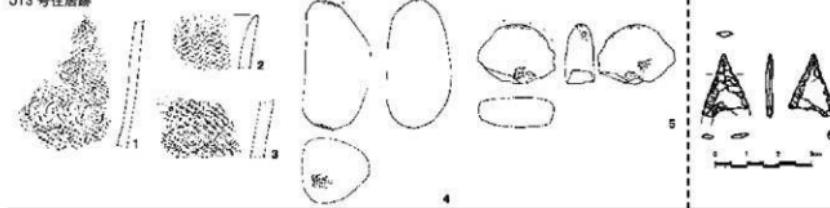


第53図 長宮遺跡第41地点J11号住居跡出土遺物 (1/4)

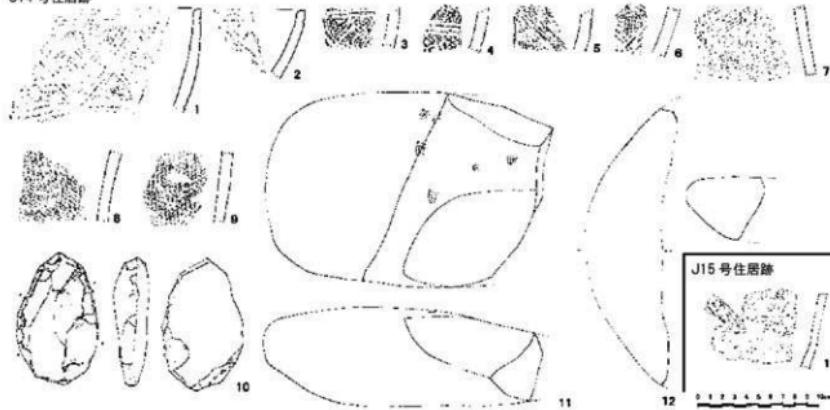
## J12号住居跡



## J13号住居跡



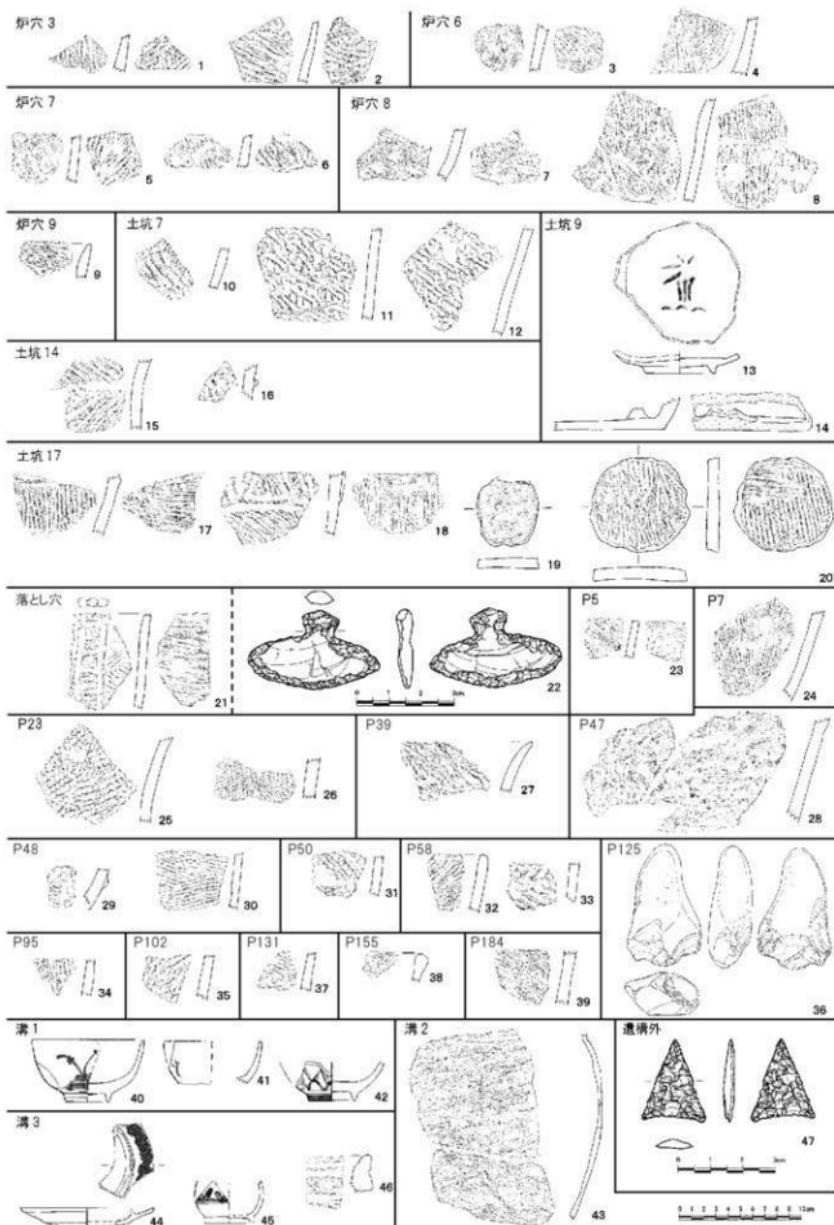
## J14号住居跡



## J15号住居跡



第54図 長宮遺跡第41地点 J12～J15号住居跡出土遺物 (1/4・2/3)



第 55 図 長宮遺跡第 41 地点炉穴・土坑・落し穴・ピット・溝・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)

い。風化して細部がみえない。21・22は底部破片。  
22はRLの単節を施す。

#### J13号住居出土遺物

1は前段合撫を地文にして4単位の櫛歯状工具によりコンバス文と鋸歯文を施す。2は、口唇部に櫛歯によるコンバス文、組紐は0段による。3はRLの単節で末端のループ文をつけ4本単位のコンバス文を施す。

#### J14号住居出土遺物

1～6は、半裁竹管による鋸歯文を構成するものである。1・2は同一個体で、風化が著しい。RRRRの組紐を地文とする。半裁竹管を重ねて集合沈線で、口唇部直下と8cm下の横位の直線の間に鋸歯文を配置したもの。3・4は半裁竹管でカマボコ状の平行沈線を一条とする文様。地文は風化により不明。5は、半裁竹管による鋸歯文であるが、浅く施している。地文は不明。6は地文組紐LLLLで半裁竹管をかさねて集合沈線としたもの。7は組紐LLLLを地文とし、櫛歯状工具でコンバス文を施す。8はくびれ部にコンバス文を施し、燃り戻しの原体らしいが風化により不明。9は組紐LLRRである。

#### J15号住居出土遺物

出土遺物は非常に少ない。1は、正反の合による燃り戻しで、コンバス文がある。

#### 炉穴出土遺物

炉穴出土の1～9はすべて早期条痕文系土器で、1～4は貝殻条痕文。4は底部近くで内面はなめらか。

雲母含む。7の表面は無文。

#### 土坑出土遺物

10～12は土坑7出土。11・12は前期闇山式で開端自条結節文。13・14は土坑9出土で、13は瀬戸・美濃の灰釉摺絵皿、18世紀中頃。14は近世ホウロクの底部破片。15・16は土坑14出土でともに前期闇山式。15は正反の合による。17～20は土坑17出土。全て早期条痕文系で、18は細隆起線区画の鶴ガ島台式。19・20は土製円盤。

#### 落とし穴出土遺物

21は早期条痕文系で、文様区画の細隆起線上に刺突をした鶴ガ島台式。22は石匙。

#### ピット出土遺物

23・24は早期条痕文系土器。25は前々段合撫、26は組紐RRRR。27・28は前期土器で織維含む。27は風化が激しく文様は不明。29は前期闇山式。30は早期条痕文系。31は異条斜繩文、33は上LR下RLのループ羽状繩文。34は早期の貝殻背压痕。35は0段4条のLR。36は打製石斧。37はRL単節繩文。38は早期撚糸文。39には石英含む。

#### 溝出土遺物

40～42は溝1出土でいずれも肥前染付碗、いわゆる「くらわんか手」18世紀。43は土師器表破片。44～46は溝3出土。44は瀬戸・美濃の鉄釉灯明受皿、18世紀後半。45は肥前の染付徳利、19世紀。46は堺産の陶器擂鉢口縁破片。

第18表 長宮遺跡第41地点出土石器一覧表（単位cm）

図版番号	掲載番号	遺構名	種別	長さ	刃部幅	厚さ	重量	技法 / その他	石材 / 推定生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
52	46	J10号住居	打製石斧	6.3	6.0	3.2	192.0g	敲打 / №.84	凝灰岩	縄文時代	基部欠
52	47	J10号住居	磨石・敲石	5.2	7.2	4.5	169.4g	敲打 / №.15	凝灰岩	縄文時代	1/2以下
52	48	J10号住居	磨石	9.8	6.9	1.8	196.9g	№.72	凝灰岩	縄文時代	完形
53	35	J11号住居	打製石斧	8.9	3.3	1.1	38.3g	両極敲打技法 / №.8	頁岩	縄文時代	基部欠
53	36	J11号住居	打製石斧	11.1	6.0	2.6	306.5g	両極敲打技法 / №.182	砂岩	縄文時代	完形
54	23	J12号住居	打製石斧	5.8	5.9	1.8	84.3g	両極敲打技法 / №.47	ホルンブェルス	縄文時代	基部欠
54	24	J12号住居	剥片	4.8	3.6	0.9	19.3g	概長剥片の側辺を不規則に剥離 / №.36	チャート	縄文時代	破折
54	4	J13号住居	磨石・敲石	10.6	5.5	5.3	458.8g	敲打 / №.1	閃緑岩	縄文時代	完形
54	5	J13号住居	敲石	4.8	6.0	2.4	87.2g	敲打 / №.7	砂岩	縄文時代	1/2
54	6	J13号住居	石燃	2.9	1.4	0.2	0.4g	押圧剥離技法 / №.13	頁岩	縄文時代	基部欠
54	10	J14号住居	打製石斧	10.6	6.7	3.0	187.1g	両極敲打技法 / №.10	片岩	縄文時代	完形
54	11	J14号住居	台石	15.9	22.6	8.0	3,900g	№.35+34	砂岩	縄文時代	一部欠
54	12	J14号住居	台石	27.7	6.4	5.1	766.9g	№.12	閃緑岩	縄文時代	一部のみ
55	22	落とし穴	石匙	2.4	4.0	0.4	3.4g	押圧剥離技法	チャート	縄文時代	完形
55	36	P125	敲石	10.0	6.0	3.5	263.0g	敲打	凝灰岩	縄文時代	完形
55	47	遺構外	石燃	3.5	1.9	0.3	1.2g	押圧剥離技法	チャート	縄文時代	完形

## 第5章 松山遺跡第62地点の本調査

### I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9~10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期~後期、飛鳥時代および中・近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

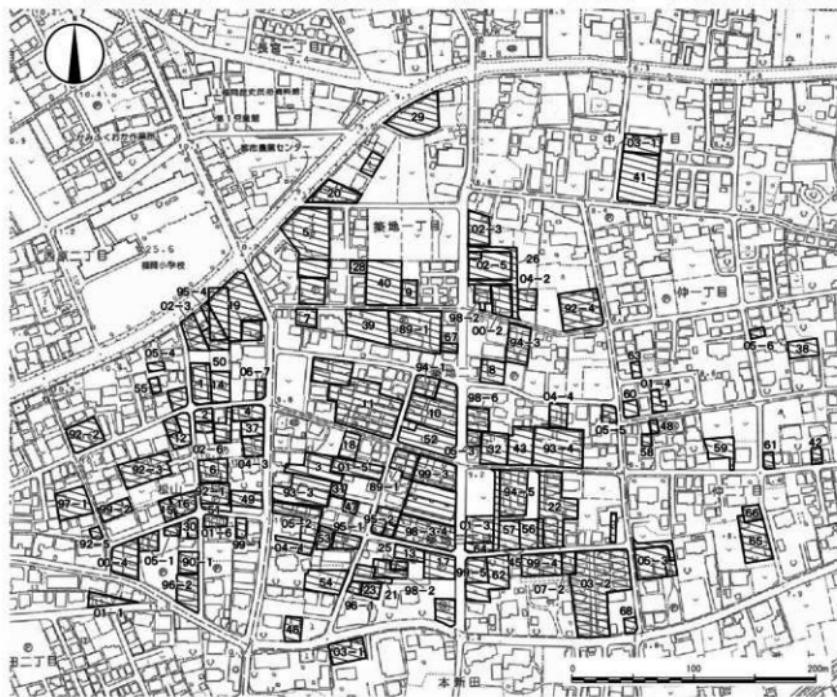
1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構

は、遺跡の南側に縄文時代中期の住居跡、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中・近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝・井戸等の中、近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

### II 本調査に至る経緯と調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2012年5月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構等の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年6月11日から21日まで行った。幅約1~1.5mのトレンチ8本を設定し、重機で表土



第56図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第19表 松山道路調査一覧表

地点	所在地	調査期間			面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所蔵報告書
		( )	は試験調査	( )				
1次	松山2-5-4	1979.10.14 - 11.6	479	白居跡1・軒	理(1)			
2次	松山2-6-7	1979.4.26 - 5.1	161	白居跡1・土器器	理(日)			
3次	篠地3-1-20	1979.8.7 - 16	733	白居跡1・土器	理(日)			
4次	松山2-丁6-9	1980.9.23 - 24	277	遺構なし・平安土器	理(日)			
5次	篠地1-丁5	1983.4.20 - 28	1,461	住宅建設	なし	理(VI)		
6次	松山2-6-16	1984.8.13 - 28	330	住宅建設	漢1・土坑5	理(確)		
7次	篠地2-3-19	1986.1.13 - 21	237	個人住宅	理(確)			
8次	篠地2-4-12	1986.6.7. - 8	319	個人住戸 裏塀	平安土器敷石地	理(DX)		
9次	篠地1-3-50	1987.10.1. - 3	288	個人住宅	なし	理(X)		
88既	篠地1-3-4	(1989.9.10.)	370	住宅建設	なし	理(1)		
89既	篠地2-3-11	(1989.6.27. - 30)	1,342	共同住宅	なし	理(12)		
90既	松山2-2-9	(1990.9.7. - 12)	304	個人住宅	なし	理(13)		
10次	篠地2-2-6	1991.10.14 - 18	450	個人住宅	平安住居跡(段分 部)、漢1	理(14)		
11次	篠地2-1-10	1991.10.18 - 21	2,029	宅地造成	平安住居跡(段分 部)、漢1・土坑2	理(14)		
92既(1)	松山2-6-23	(1990.4.17. - 24)	567	駐車場	なし	理(15)		
92既(2)	松山2-4-7	(1990.5.26. - 11)	571	駐車場	なし	理(15)		
12次	篠地2-3-11	1992.5.12. - 20	393	宅地造成	平安井戸跡1	理(15)		
13次	篠地3-2-18	1992.5.18. - 30	234	宅地造成	平安住居跡1	理(15)		
14次	篠地2-5-17	(1992.5.21. - 30)	412	宅地造成	中世井戸跡2	理(15)		
92既(3)	篠地2-3-11	(1992.5.21. - 18)	412	宅地造成	中世井戸跡2	理(15)		
93既(1)	篠地1-3-17	(1992.6.1. - 11)	98	共同住宅	未確認	理(15)		
92既(4)	松山2-1-43	(1992.6.10. - 30)	784	共同住宅	未確認・井戸付遺構	理(15)		
15次	松山2-3-1	1993.4.19. - 28	148	個人住宅	平安住居跡1	理(16)		
17次	篠地3-2-19	1993.5.10. - 24	597	駐車場	古墳未開拓埋蔵1	理(16)		
16次	松山2-3-43-44	1993.5.12. - 15	156	個人住宅	平安住居跡1	理(16)		
93既(2)	篠地3-1-17.1	(1993.5.10. - 20)	994	共同住宅	なし	理(16)		
93既(4)	篠地2-5-2の一部	(1993.10.22. - 24)	1,246	共同住宅	なし	理(16)		
18次	篠地3-1-16	1993.12.1. - 7	299	駐車場	堺末平・平安住居跡 1・5年敷地			
19次	松山2-5-6	1994.1.17. - 2.3	1,531	酒店	平安住居跡2・溝跡 1・松山遺跡 調査19次 調査報告	理(17)		
94既(1)	篠地2-2-3	(1994.5.30.)	310	併設住宅	なし	理(17)		
20次	篠地1-2-4	1994.6.24. - 7.1	559	共同住宅		古墳未開拓6個柱跡 1・土坑群・漆器類 調査5集	理(17)	
94既(2)	篠地2-4-7	(1994.8.3. - 12)	532	宅地造成	なし	理(17)		
95既(1)	篠地1-5-10	(1995.5.15. - 19)	1,030	宅地造成	なし	理(18)		
95既(2)	篠地2-3-10	(1995.5.23. - 6.7)	542	宅地造成	未確認未開拓1	理(18)		
95既(3)	篠地1-2-23	(1995.5.27. - 26)	153	個人住宅	なし	理(18)		
21次	篠地3-2-23	1995.6.17. - 20	378	宅地造成	古墳未開拓1	理(18)		
95既(4)	篠地2-5-6	(1995.7.23.)	613	共同住宅	なし	理(18)		
96既(2)	松山2-2-3	(1996.7.22. - 24)	489	宅地造成	遠1(時刻不明)	理(19)		
97既(1)	松山1-4-17	(1997.5.11. - 18)	591	個人住宅	なし	理(19)		
22次	篠地3-4-15.23	1997.12.15. - 24	419	個人住宅	3、鉢文施石土7.1	理(20)		
98既(1)	篠地3-2-13.24	(1998.4.16.)	240	宅地造成	未確認調査明	理(21)		
98既(2)	篠地3-2-23の一部	(1998.4.17. - 5.20 - 22)	450	宅地造成	なし	理(21)		
98既(3)	篠地3-3-1	(1998.4.20. - 5.20 - 22)	922	宅地造成	中近世遺1ほか	理(21)		
98既(4)	篠地3-3-1	(1998.4.20. - 5.20 - 22)	922	宅地造成	中近世遺1ほか	理(21)		
23次	篠地3-2-24の一部	1998.5.31. - 14	120	個人住宅	堺末平・平安住居跡1	理(21)		
98既(5)	篠地1-3-18	(1998.7.7.)	167	個人住宅	なし	理(21)		
24次	篠地3-2-4の一部	1998.9.3. - 21	50	宅地造成	飛鳥住居跡1	理(21)		
98既(6)	篠地2-5-6	(1998.9.3. - 4)	363	個人住宅	なし	理(21)		
25次	篠地3-2-23の一部	1999.3.3. - 12	240	個人住宅	奈良初期住居跡2	理(21)		
99既(1)	松山2-1-10	(1999.4.18.)	166	個人住宅	なし	理(22)		
99既(2)	篠地2-3-3	(1999.5.6. - 12)	340	宅地造成	遠1(時刻不明)	理(22)		
99既(3)	篠地3-1-14.15	(1999.6.22. - 24)	278	宅地造成	なし	理(22)		
99既(4)	篠地3-3-5.15	(1999.6.2. - 6)	745	宅地造成	ピット5(平安?)	理(22)		
99既(5)	篠地3-5-28	(1999.8.24. - 9.1)	331	個人住宅	遠1(時刻不明)	理(22)		
26次	篠地1-3-21	(2000.4.27. - 5.22)	627	宅地造成	1・土坑群・漆器類 陶器群	理(23)		
00既(2)	篠地	(2000.5.17. - 25)	687	共同住宅	土坑1	理(23)		
27次	仲2-1-10の一部	2000.6.12. - 7.3	912	共同住宅	奈良晩期住居跡1 土坑群・漆器類・陶器群	理(23)		
		(2000.5.22. - 6.8)						
地点	所在地	調査期間		面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所蔵報告書	
00既(4)	松山2-5	(2000.3.30.)	592	共同住宅	なし	理(23)		
28次	篠地1-2.8	(2001.2.8. - 21)	165	個人住宅	奈良住居跡1	理(23)		
00既(5)	篠地3-1.28	(2001.2.2. - 13)	614	宅地造成	飛鳥・奈良住居跡	理(23)		
00既(6)	篠地1-2.17	(2001.3.21.)	174	個人住宅	なし	12年割置		
01既(1)	篠地2-4.50	(2001.4.12. - 13)	204	個人住宅	なし	理(24)		
01既(2)	篠地2-1.10	(2001.5. - 18)	168	地区計画 道路	古代以降溝3	理(24)		
01既(3)	篠地3-4.10	(2001.5.10. - 15)	434	共同住宅	なし	理(24)		
01既(4)	仲1-1.2.14	(2001.9.12.)	694	個人住宅	なし	理(24)		
02既(1)	篠地1-2.8	(2002.5.20. - 23)	978	篠地所在	笠6住居跡1	理(25)		
02既(2)	篠地3-5.35	(2002.9.7.11.)	248	宅地造成	なし	理(25)		
29次	篠地1-2.8の一部	2002.7.2. - 8.9	34	個人住宅	鶴穴住居跡1	理(25)		
02既(3)	松山2-5.7	(2002.8.5.)	358	宅地造成	なし	理(25)		
02既(4)	篠地1-3.28	(2002.8.20. - 21)	479	共同住宅	保存	理(25)		
02既(5)	篠地	(2002.8.22. - 28)	640	篠地所在	鶴穴住居跡1(土器)	理(25)		
02既(6)	篠地2-6.5	(2002.9.9.)	147	個人住宅	なし	理(25)		
03既(1)	赤山1-2.3	(2003.4.16. - 31)	1,080	共同住宅	なし	理(26)		
03既(2)	篠地3-5.6	(2003.4.19. - 6)	2,578	宅地造成	飛鳥鶴穴住居跡2 (土器・保存)	理(26)		
30次	松山2-2.3	2003.10.3. - 10	1,427	個人住宅	奈良鶴穴住居跡1 (土器・実施)	理(26)		
04既(1)	篠地3-6.33	(2004.4.22. - 23)	976	宅地造成	なし	理(27)		
04既(2)	篠地3-1.13	(2004.4.27.)	165	個人住宅	なし	理(27)		
04既(3)	篠地1-3.07	(2004.4.26.)	1,046	個人住宅	なし	理(27)		
04既(4)	篠地2-6.1	(2004.6.16.)	309	宅地造成	なし	理(27)		
04既(5)	篠地2-5.27	(2004.8.5.)	280	個人住宅	なし	理(27)		
05既(1)	篠地2-4の一部	(2005.4.6. - 7)	313	土地付譲	なし	専内1		
05既(2)	篠地	(2005.6.19. - 21)	549	土地付譲	なし	専内1		
05既(3)	篠地2-5.2	(2005.6.28.)	132	個人住宅	なし	専内1		
31次	篠地3-1.49	(2005.6.14. - 23)	120	個人住宅	古墳住居跡1	専内1		
05既(5)	篠地2-5.3	(2005.6.30. - 9.13)	567	宅地造成	平安住居跡1	専内1		
32次	篠地2-5の一部	(2005.9.8. - 13)	132	個人住宅	平安住居跡2	専内1		
05既(6)	篠地2-5.36	(2005.9.3.0.1.)	125	個人住宅	平安住居跡2	専内1		
05既(7)	篠地2-4.23	(2005.6.20. - 21)	161	個人住宅	なし	専内1		
05既(8)	篠地2-4.26	(2005.6.21.14.)	108	個人住宅	なし	専内1		
05既(9)	篠地2-5.23	(2006.2.28.)	100	個人住宅	なし	専内2		
37	松山2-6.10.3.13	(2006.4.13.)	228	個人住宅	なし	専内3		
38	仲4-3.12.13.24	(2006.6.29.)	2,176	宅地造成	なし	専内3		
39	篠地3-2.10	(2007.1.30. - 20)	937	宅地造成	なし	専内3		
40	篠地1-5.5	(2007.2.21. - 3.9)	1,047	宅地造成	奈良住居跡1、牛 糞堆跡	専内3		
41	牛山1-2.5	(2007.2.21. - 3.5)	1,281	宅地造成	中世遺物出	専内3		
42	仲2-3.15	(2007.2.13.)	108	個人住宅	なし	専内3		
43	篠地2-1.2.5	(2007.4.11. - 24)	668	分譲住宅	飛鳥1、土坑1、漆 器1	専内4		
44	篠地3-2.10.2.14	(2008.6.8. - 11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	専内6		
45	篠地3-4.7の一部	2008.10.1. - 23	390		奈良・平安代紀盤 瓦1・立柱2・軒	専内6		
46	篠地3-1.35.10	(2009.2.17.)	309	個人住宅	遺構遺物なし	専内6		
47	篠地3-1.5.2	(2009.5.11.12.)	121	個人住宅	ビット	専内6		
48	仲2-2.34	(2009.7.3.)	67	個人住宅	遺構遺物なし	専内6		
49	篠地2-6.1.4.2.2の一部	(2009.10.27. - 11.8)	449	宅地造成	平安代紀盤・穴立 器出1、土坑1、漆 器1	専内8		
50	篠地2-5.3.27	(2009.1.27. - 12.1)	791	分譲住宅	ビット1	専内8		
51	松山2-6.22.3.28	(2010.5.10. - 13.)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	専内10		
52	篠地2-2.1	(2010.8.26. - 9.3.)	694	分譲住宅	飛鳥1、土坑1、漆 器1	専内10		
53	篠地3-1.11	(2010.9.10. - 21.)	205	個人住宅	奈良代紀盤 瓦1・漆器1	専内10		

## I 遺跡の立地と環境

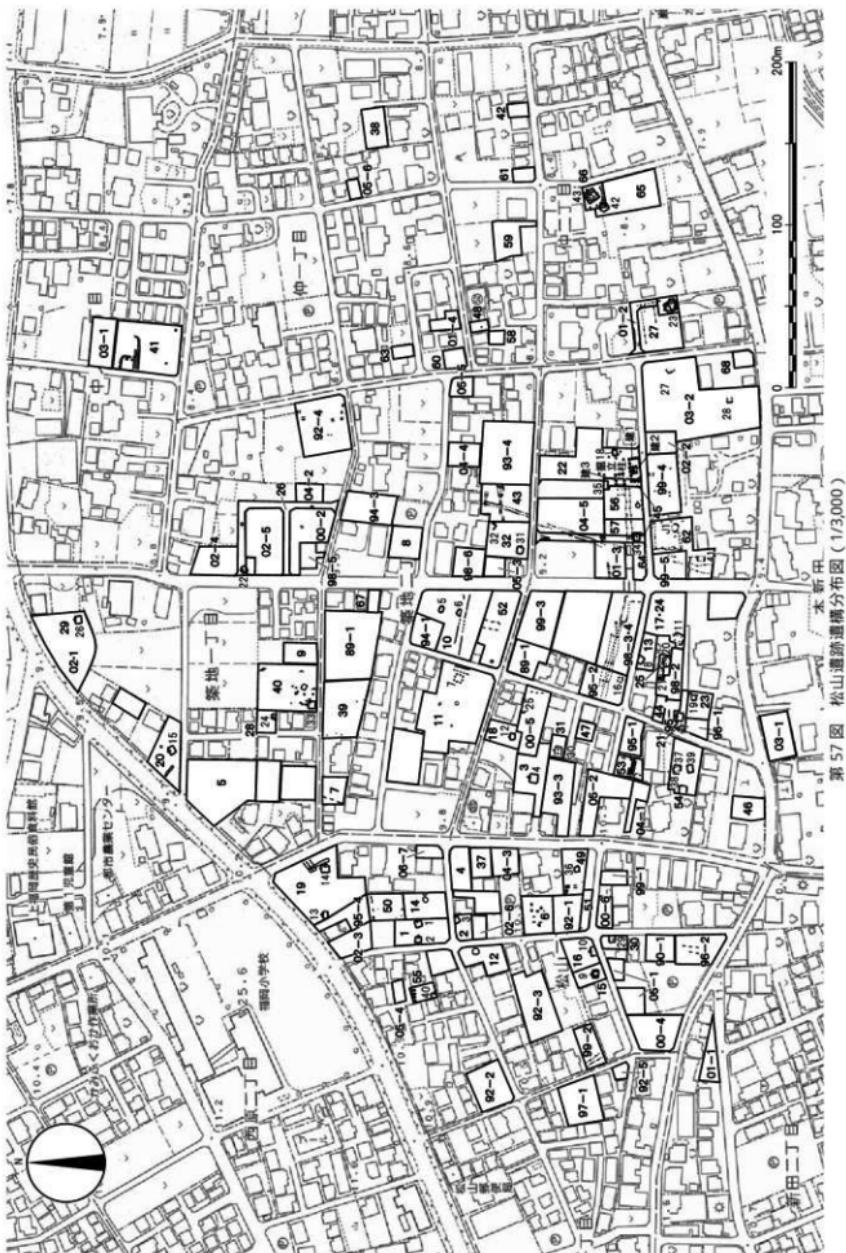
地点	所在地	調査期間 ( )	調査測量 面積 (m <sup>2</sup> ) ( )は鉛直面積)	調査原因	確認された遺跡と遺物 の性質は記載する。	所収報告書
54	墓地3-1-6,7- -83	10/4 ~ 11/5(39/21 - 10/1)	540	宅地造成	李平 - 平安源流第3 石碑群、西村1村 の住居は塗壁保存。 柱2本は本調査	市内 9
55	松山2-2-42の 一部	0/011.1.17(1.18 ~ 1.31)	226	個人住宅	奈良時代の住居 跡1軒。独立柱建 物跡半軒。本調査	市内 10
56	墓地3丁目 4-7, 4-8の 一部	(2011.4.4 ~ 14.6.11 - 15)	482	共同住宅	奈良平安時代の建 物跡2軒。本調査 +一部(工事立合)	市内 11

地点	所在地	調査測量 ( )は鉛直面積)	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺跡と遺物 の性質は記載する。	所収報告書
57	墓地3丁目4 番47	(2011.4.4 ~ 15)	241	分譲住宅	塗壁遺物なし。傾倒 未報告	
58	中2丁目2-33	(2011.6.8 ~ 9) 6.14	114	個人住宅	井戸跡1、本調査	未報告
59	中2丁目3番6, 3番5	(2011.8.8 ~ 11) 6.11	555	個人住宅	土坑 2 個。本調査	未報告
60	中1丁目1番 15	(2012.3.26 ~ 27)	165	個人住宅	掘跡1、工事立合	未報告
61	中2丁目3-3		113	個人住宅		未報告
62	墓地3丁目5 番11.14.19	2012.8.10 ~ 12.29	842	宅地造成		市内 12

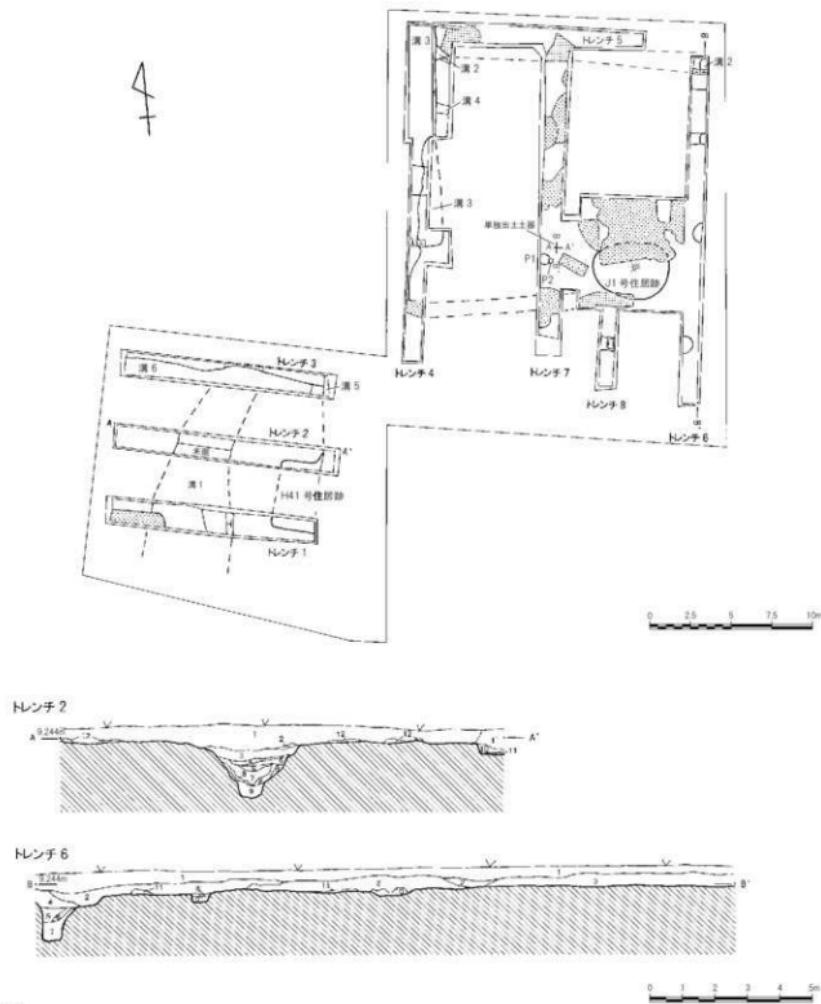
\* 墓 : 上福岡市都市基盤委員会埋蔵文化財の調査報告書。上塗跡 : 上福岡市遺跡調査会報告書。未要 : 上福岡市  
資料要旨。市内 : ふじみ野市市内遺跡群報告書

第 20 表 松山遺跡住居一覧表 (単位 cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査 率 ( ) は 推定	平面形 ( ) は 推定	規格	炉 カマド K	設置壁	カマド 規格 cm	周溝	主軸方位	時期	備考	文献	
								規格 cm						
1	1978	第1次 1号住居	完掘	正方形	390 × 380	K	東	110 × 75	○		国分前半		埋蔵文化財の調査Ⅰ	
2	#	第1次 2号住居	完掘	台形	360 × 320	K	東	120 × 85	○		国分前半		#	
3	1979	第2次 3号住居	2/3	(方形)	350 × 10	K	東	一部			国分後半		埋蔵文化財の調査Ⅱ	
4	#	第3次 4号住居	完掘	方形	530 × 475	K	北	200 × 100	○	N-14-E	国分後半		#	
5	1991	第10次 5号住居	完掘	喪方形	230 × 350	K	北→東		○		9C 2 半期		埋蔵文化財の調査14	
6	#	第10次 6号住居	2/3	方形	340 × 300	K	東		○		9C 2 半期		#	
7	#	第11次 7号住居	完掘	正方形	400 × 400			遺存状態悪い	○		8C 4 半期		#	
8	1992	第13次 8号住居	3/4	(方形)	400						N-10-E	8C 3 半期	埋蔵文化財の調査15	
9	1993	第15次 9号住居	完掘		A440 × 350, B420 × 310, C260 × 300	K	東→北	A210 × 210, B210 × 210, C80 × 65	○		9C 1 半期	鉄鉢型須恵器 出土	埋蔵文化財の調査16	
10	#	第16次 10号住居	1/3	正方形	560 × 560	K	北	130 × 80	○		8C 4 半期		#	
11	#	第17次 11号住居	完掘	方形	600 × 600	K	北		○	最大住居	7C 4 半期	黒色土師器出土	#	
12	#	第18次 12号住居	完掘	方形	400 × 320	K	北	(○)			8C 4 半期	# と市史		
13	1994	第19次 13号住居	完掘	喪方形	450 × 300	K	北		○	N-5-E	9C 1 半期	松山遺跡第19次調査委 員会		
14	#	第19次 14号住居	完掘	喪方形	450 × 500	K	東→北		○	N-5-E	9C 1 半期	土築出土	#	
15	#	第20次 15号住居	完掘	喪方形	370 × 470	K	北西	70 × 70	○		7C 4 半期	松山遺跡第20次調査		
16	1995	7年試掘(2)16号住	完掘	喪方形	480 × 400	K	北		○		N-20-W	6C	未報告	
17	#	第21次 17号住	完掘	喪方形	480 × 400	K	北		○		7C 4 半期	埋蔵文化財の調査19		
18	1997	第22次 18号住	完掘	喪方形	240 × 460	K	東	90 × 60	○	N-50-E	8C 末	埋蔵文化財の調査20		
	#	第22次 1号竪立	部分	喪方形	東西×1間 南北×1間						8C 末 ~ 9C 初		#	
	#	第22次 2号竪立	部分	喪方形	東西×1間 南北×2間						8C 末 ~ 9C 初		#	
	#	第22次 3号竪立	部分	喪方形	(東西×1間) 南北×3間						8C 末 ~ 9C 初		#	
19	1998	第23次 19号住	4/5	喪方形	260 × 290				○	N-30-W	8C 後半	土築 6 点出土	埋蔵文化財の調査21	
20	1999	第25次 20号住									8C 初頭	壙紋土師器	市史通史編	
21	#	第25次 21号住									8C 初頭		未報告	
22	2000	第26次 22号住	完掘		360 ×	K	北		○		7C 後半	14年度 売却 焼失住居	埋蔵文化財の調査23	
23	#	第27次 23号住	完掘	台形	600 × 720	K	北		○		8C 半ば		#	
24	2001	第28次 24号住	1/2		340 ×	K	北西		○		8C 中葉		埋蔵文化財の調査24	
25	2000	12年度試掘5	2/3					遺存状態悪い					埋蔵文化財の調査23	
26	2002	第29次 26号住	完掘	喪方形	420 × 360	K	北		○		7C 後半		埋蔵文化財の調査25	
27	2003	15年度試掘27号 住	一部	(盛土保存)								プランのみ確 認	埋蔵文化財の調査26	
28	#	15年度試掘28号 住	1/2	(盛土保存)								プランのみ確 認	#	
29	#	第30次 29号住	完掘	喪方形	360 × 420	K	東		○		9C 前半		#	
30	2005	第31次 30号住	完掘	喪方形	360 × 600	K	北		○			土築出土	市内遺跡群1	
31	#	第32次 31号住	完掘	喪方形	380 × 330	K	東		○	S-65-E	9C 中葉		#	
32	#	第32次 32号住	1/2	喪方形 南北×4 m× 南北3 m以上		K	東		○	S-85-E			#	
33	2006	40地点 H33号住	完掘	方形	455 × 420	K	北	98 × 154	○	N-5-E	8C 後半		市内遺跡群3	
34	2008	45地点 H34号住	完掘	方形	364 × 361	K	東	122 × 125	○	N-9-E			市内遺跡群6	
35	2008	45地点 H35号住	1/2	(方形)	504 × (222)				○				市内遺跡群6	
36	2009	49地点 H36号住	完掘	方形	280 × 290	K	東	105 × 100	○	N-9-E	8C 後半	鏡合付1	市内遺跡群7	
37	2010	54地点 H37号住	完掘	方形	434 × 524	K	北	70 × 86	○	N-13-E	8C1 四半期		市内遺跡群9	
38	2010	54地点 H38号住	一部	方形	(440) × 468	K	東	95	○	N-10-E	8C1 四半期	プラン確認	市内遺跡群9	
39	2010	54地点 H39号住	完掘	方形	336 × 459	K	北	79 × 101	○	N-4-E	8C1 四半期		市内遺跡群9	
40	2011	55地点 H40号住	3/4	(方形)	(300) × (320)	K	東	95 × 123	○	N-9-E	9C 前半		市内遺跡群10	
41	2012	62地点 H41号住	3/4	(方形)	410 × (300)	K	北				N-18-E		市内遺跡群12	
42	2012	65地点 H42号住	完掘	方形	448 × 444	K	東	112 × 125	○	N-68-E		未報告		
43	2012	66地点 H43号住	完掘	方形	704 × 700	K	東	105 × 150	○	N-68-E		未報告		

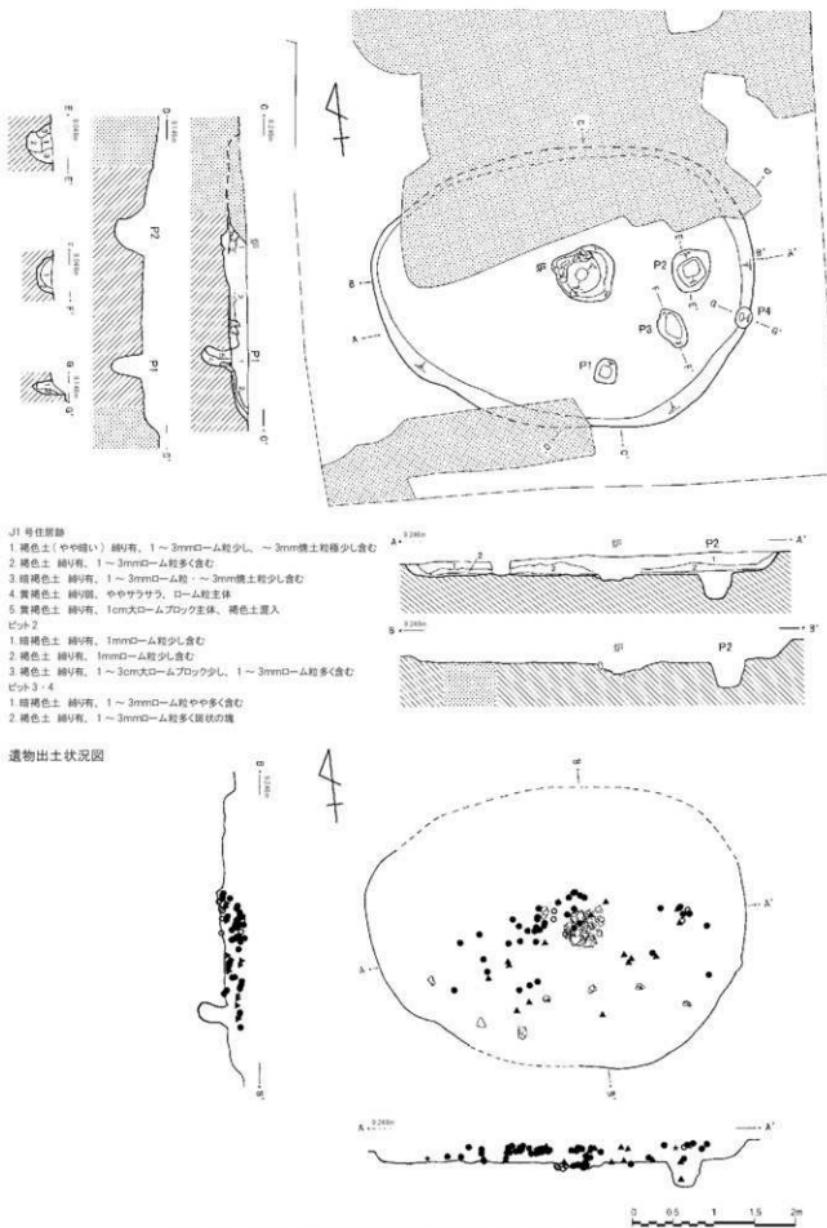


第57図 松山道路第62地点の本調査 (1/3,000)



- A-A'
1. 基土 黒褐色土 細り有。～3mmローム粒少く含む
  2. 黒褐色土 細り有。～5mmローム粒多く含む
  3. 黑褐色土 細り有。～5mmローム粒多く含む
  4. 黑褐色土 細り有。～3cm大ロームブロック多く含む
  5. 黑褐色土 細りやや有。～3mmローム粒少し含む
  6. 黑褐色土 細りやや有。～5mmローム粒多く含む
  7. 黑褐色土 細り有。～3mmローム粒少く含む
  8. 黑褐色土 細り有。硬い。ローム粒主体で1cm大ロームブロック少く含む。黒褐色土少量混入
  9. 黄褐色土 細り有。ロームブロック主体
  10. 黑褐色土 細り有。～3cm大ロームブロック少く。～5mmローム粒多く含む
  11. 黑褐色土 細り有。～5mmローム粒少く含む
  12. 地山ローム
- B-B'
1. 砂利、道路面
  2. 黑褐色土 非常に硬く細る。道路面。ロームブロック粒多く含む
  3. 黑褐色土 非常に硬く細る。道路面。1～5mmローム粒多く含む
  4. 黑褐色土 細り有。硬い。ローム粒多く含む
  5. 黑褐色土 細り有。ロームブロック少く含む
  6. 黑褐色土 細り有。ローム粒多く含む
  7. 黄褐色土 細り有。ロームブロック 粒主体
  8. 黑褐色土 細り有。1mmローム粒少く含む。溝かいモビツ
  9. 黑褐色土 細り有。1～5mmローム粒やや多く含む。溝かいモビツ
  10. 黑褐色土 細り有。1mmローム粒。焼粒少く含む。縄文土器出土。縄文時代のシミ

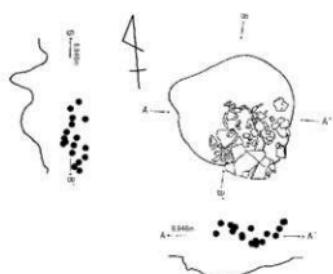
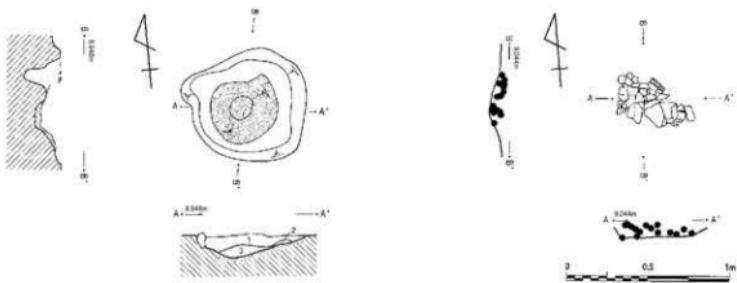
第58図 松山遺跡第62地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)



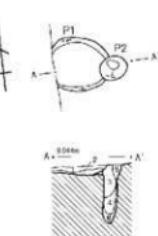
第59図 松山遺跡第62地点J1号住居跡遺物出土状況図 (1/60)

炉・掘方

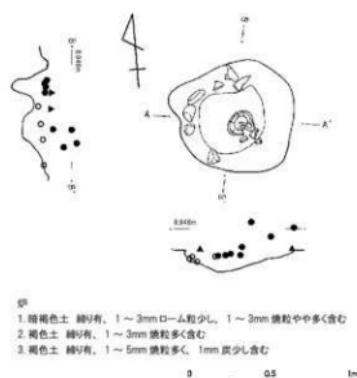
トレンチ 7 中央部単独出土土器



ピット 1・2

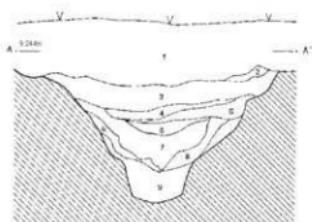
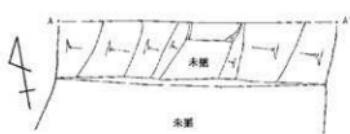


- ピット 1・2
1. 黒褐色土 繊り有、1mm ローム粒少し含む
  2. 開け土 繊り有、地山ロームに黒褐色土混入
  3. 細褐色土 繊り有、3~10mm ローム粒極多く含む
  4. 細褐色土 繊り無、1~3mm ローム粒極多く含む
  5. 開け土 繊り有、1mm ローム粒少し含む
  6. 黄褐色土 繊り無、ローム粒主体



第 60 図 松山遺跡第 62 地点炉・掘方・トレンチ 7 中央部単独出土土器遺物出土状況図 (1/30)、ピット (1/60)

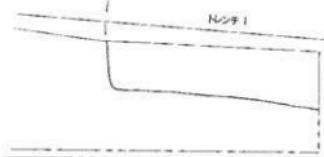
溝1



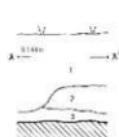
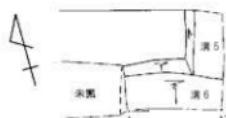
トレンチ 1・2



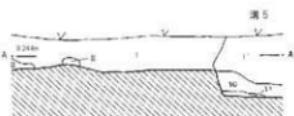
41号住居跡



溝5・6



0 0.5 1 1.5 2m



溝1

1. 表土 黒褐色土 細り弱。 ~ 3mm ローム粒少く含む
2. 黒褐色土 細り弱。 ~ 5cm 大ロームブロックとの混合土
3. 塔褐色土 細り有。 ~ 5mm ローム粒多く含む
4. 塔褐色土 細り弱。 ~ 3cm 大ロームブロック多く含む
5. 黑褐色土 細りや有。 ~ 3mm ローム粒少く含む
6. 塔褐色土 細りや有。 ~ 5mm ローム粒多く含む
7. 黑褐色土 細り有。 ~ 3mm ローム粒少く含む
8. 黑褐色土 細り有。 線状、ローム粒主体で 1cm ロームブロック少く含む。 黑褐色土少量混入
9. 黑褐色土 細り有。 ロームブロック主体

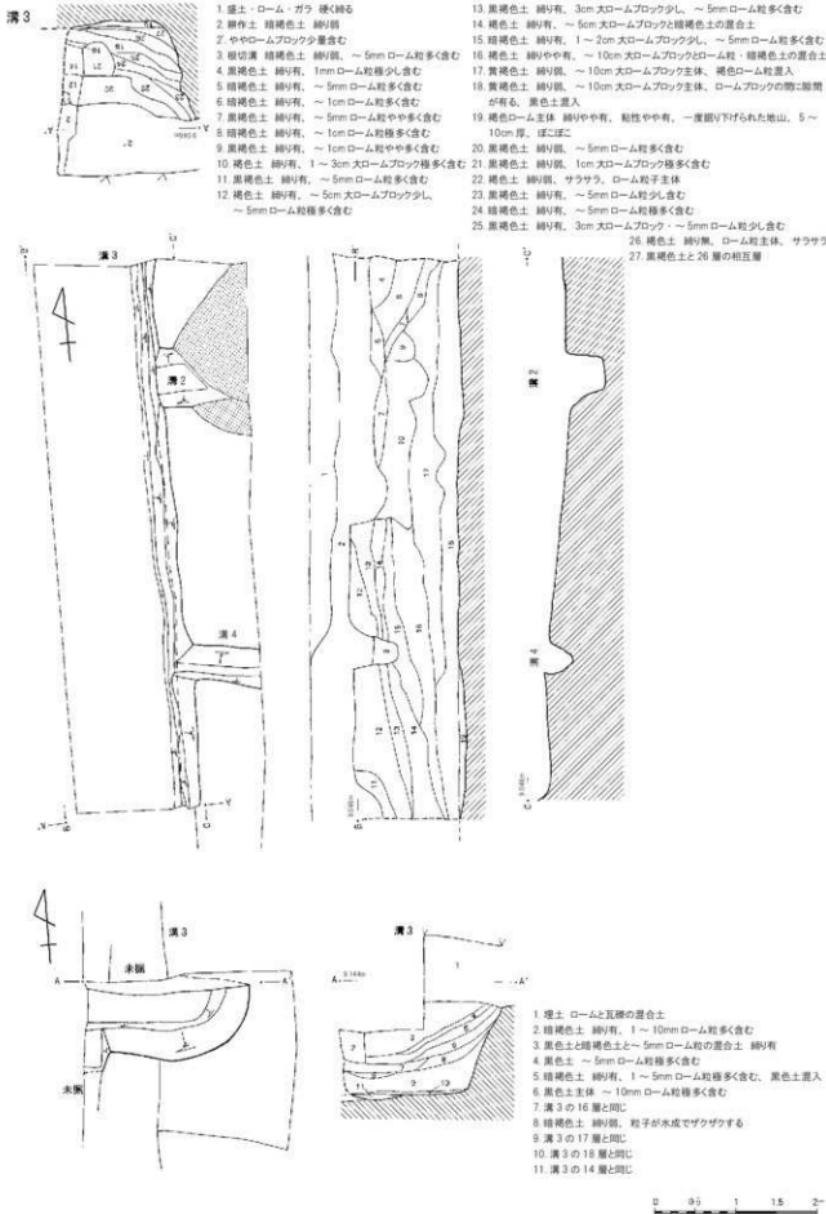
溝5・6

1. 表土 黒褐色土 細り弱。 ~ 10mm ローム粒多く含む
2. 塔褐色土 細り有。 ~ 10mm ローム粒多く含む
3. 塔褐色土 細り有。 ~ 3cm 大ロームブロック少し。 ~ 10mm ローム粒多く含む

溝5

1. 表土 黒褐色土 細り弱。 ~ 3mm ローム粒少く含む
- 1'. 燐土粒多く含む
10. 黑褐色土 細り有。 ~ 3cm 大ロームブロック少し。 ~ 5mm ローム粒多く含む
11. 黑褐色土 細り有。 ~ 5mm ローム粒少く含む
12. ソフト地山ローム

第61図 松山遺跡第62地点溝1・5・6(1/60)



第62図 松山遺跡第62地点溝2・3(1/60)

除去後、人力による表面精査を行い、縄文時代中期の住居跡1軒、奈良・平安時代の住居跡1軒、古代の溝1条、中世以降の溝5条等を確認した。遺跡確認面までの深さは約60cmで、盛土により遺構の保存が可能であったが、一部地盤調査の結果地盤改良を行うことになった宅地と道路部分については、遺構への影響が避けられないため申請者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。本調査は2012年7月23日から8月1日まで行い、縄文時代中期の住居跡1軒、中世溝1条を調査した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

### III 遺構と遺物

#### ① J 1号住居跡

【位置・形状・規模】北側調査区の中央西側に位置する。主軸方位は東である。北側は抜根により壌されている。平面形は楕円形で、規模は長軸が東西4.15m、南北推定3.5mである。深さは確認面から25cmである。

【炉】中央のやや東寄りに位置し、炉の西半分が石で囲われる。上端東西78×南北68cm、下端東西65×南北58cm、深さ23cm、焼土面の範囲41×36cm、石囲いの範囲は径60cmである。炉の上面に深鉢土器一個体分の土器が出土した。

【ピット】4基検出し、P 1、P 2が主柱穴と思われる。西側の柱穴は未検出である。

【時期】出土遺物から縄文時代中期加曾利EⅡ期。

#### ② 中央部単独出土土器・ピット

北側調査区中央、J1号住居跡の西2.5mに1個体分の土器がつぶれた状態で出土した。土器は猪沢式。ピットは2基検出した。

第21表 松山遺跡第62地点J1号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	円形	29×27	15×13	40	土器
P2	円形	56×48	20×18	35	
P3	楕円形	51×32	33×20	23	
P4	円形	26×18	10×5	24	

第22表 松山遺跡第62地点遺構一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	不明(円形)	135×133	(127)×108	14	
P2	円形	68×57	28×23	75	

#### ③ 溝

6条検出した。

溝1は他の調査区でも検出している南北方向の溝で、時期は古代である。保護層を確保できるため保存の措置を執ったが、確認のため一部試掘した。上幅335cm、下幅55cm、深さ165cm。断面は急峻なV字形で底が更に一段深くなる。出土遺物はない。

溝2は東西方向の溝で調査区北側に位置する。17m検出した。上幅75cm、下幅35cm、確認面からの深さ50cm。

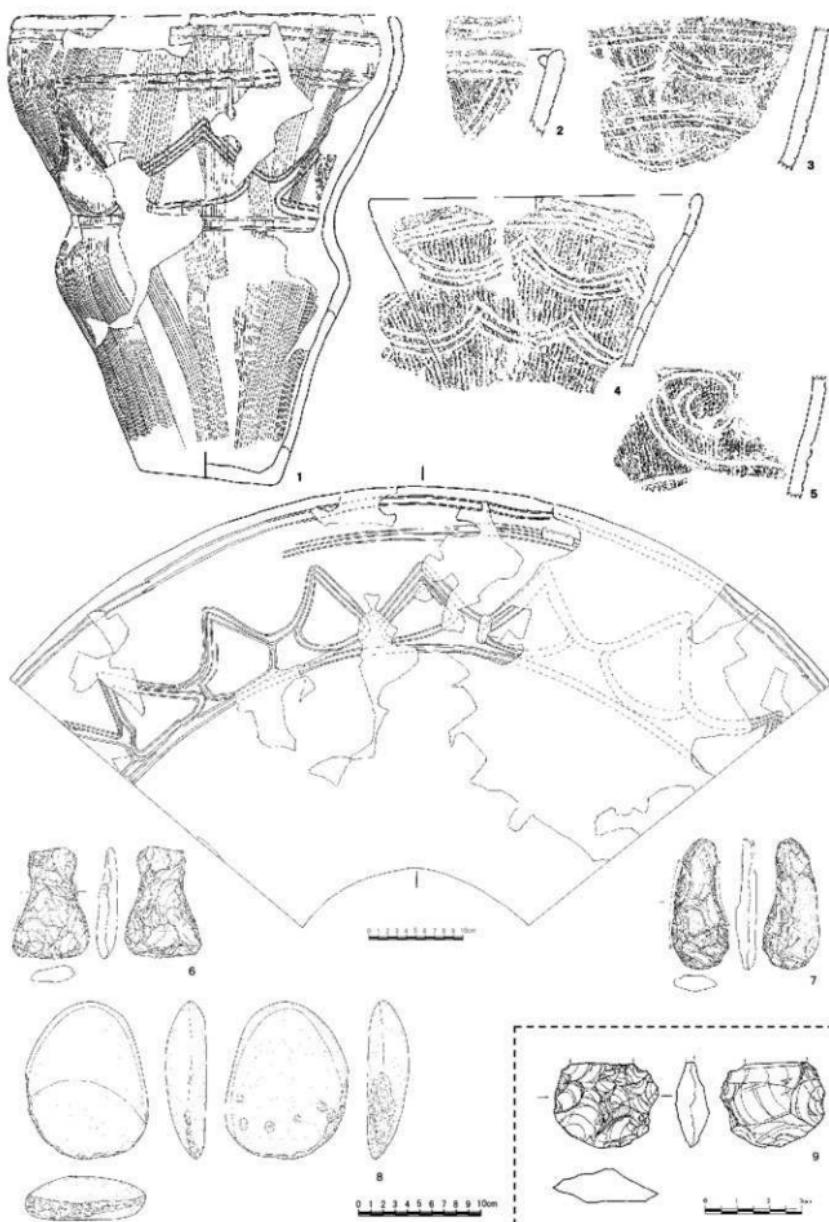
溝3は南北方向の溝で、北側の64地点で検出した溝4と同一の溝と思われる。西側は隣地の境界まで調査できなかったため、正確な断面形状や幅は不明である。底はほぼ平坦で、垂直に近い急傾斜で立ち上がる。北側から9.5m南で西側へ曲がるもしくは、溝が終わる。底の方には水分によって酸化したロームが堆積する。14m検出した。上幅210cm~、下幅150cm~、確認面からの深さ115cm。

溝4は東西方向の溝で溝2の3m南に位置する。溝3より新しい。1m検出した。上幅45cm、下幅10cm、確認面からの深さ30cm。溝5は南北方向の溝で調査区南側に位置する。H 41号住居跡、溝6より新しい。10m検出した。上幅90cm~、下幅70cm~、確認面からの深さ30cm。溝6は東西方向の溝で調査区南側に位置する。12.5m検出した。溝1より新しく、溝5より古い。上幅60cm~、下幅35cm~、確認面からの深さ25cm。

#### ④ 出土遺物

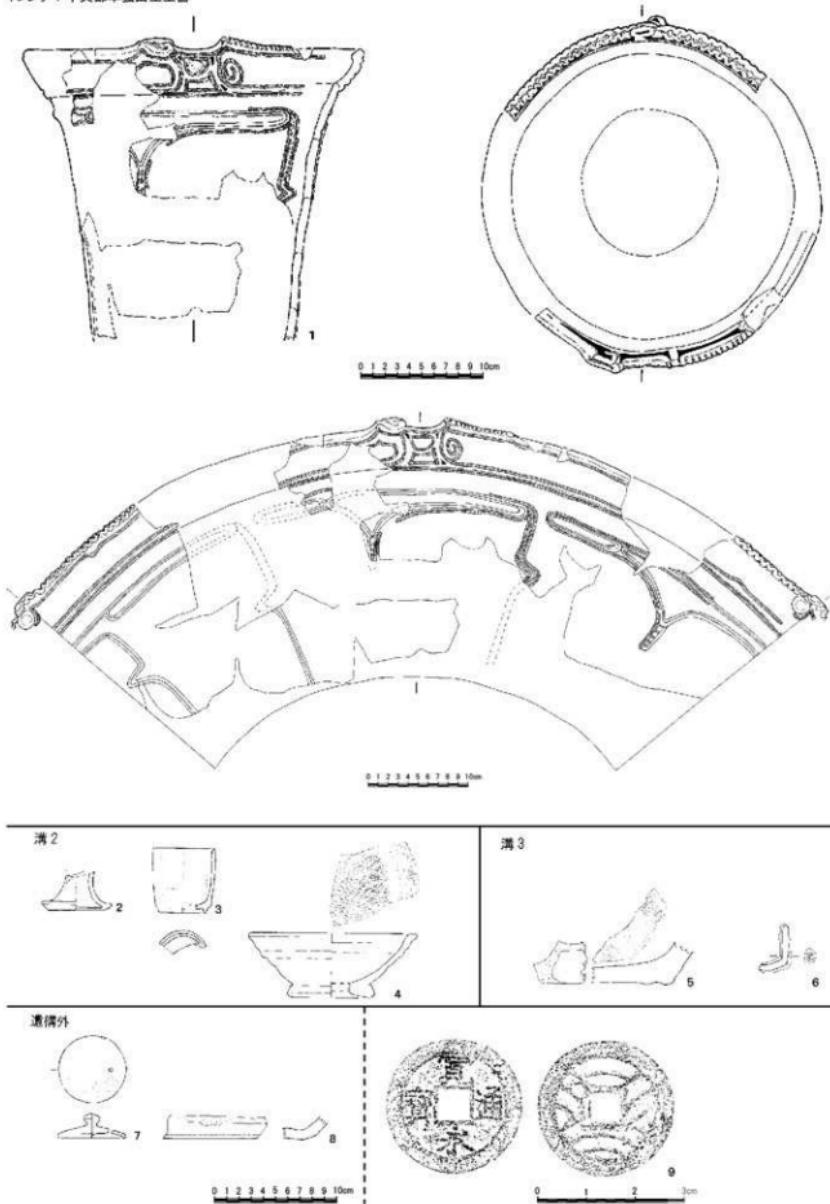
##### J 1号住居跡出土遺物

J 1号住居出土の土器は全てがいわゆる蓮弧文の土器である。1は、口縁部を1/3程度欠損するが、器形・文様のほぼ全形をうかがえる。器厚は全体的に分厚く、底部からの立ち上がりが、石膏による復元を修正しても大きく傾いている。地文は8から10本単位の櫛刃状工具による条線が施文。文様は口唇部直下の横位2本の沈線と頸部の横位2本の沈線は、先端が角張った工具で、1本ずつ引いて描いたものである。それ以外の弧線は半截竹管の工具により2本単位で、引かれたもので、一本を重ね引きをして見た目3本単位となる。重なった部分は深くなっている。弧線は、展開図に示したように7単位となろう。2・3は、地文が条線である。2は、口唇部内側に粘土紐を貼り付けた「フ」の字口縁で、直上に沈線が加えられ、口



第 63 図 松山遺跡第 62 地点 J 1号住居跡出土遺物 (1/4・2/3)

トレンチ7中央部単独出土土器



第64図 松山遺跡第62地点トレンチ7中央部単独出土土器・満・遺構外出土遺物(1/4・1/1)

脣部直下には3本の沈線が描かれている。3は、胴部破片である。2・3の沈線を引いた工具は、先端が角張ったヘラ状工具である。4・5は、地文が燃糸文で、4は、現存1/4で（推）直径27cm。5は胴部破片である。4・5ともに、沈線を引く工具は、上記2・3と違い先端が緩く丸い工具である。4は、口唇直下が3本、弧線が4本で描かれている。5は渦巻きが描かれている。色調・胎土・沈線の描き方は、4に似ている。同一個体の可能性がある。これらの連弧文土器には、沈線間の磨り消しはみられない。

6・7は打製石斧である。6は先端部が一部欠損しており、長さ9.1cm、刃部幅6.25cm、厚さ1.5cm、重さ94.9g、ホルンフェルス製。7は完形で、長さ10.6cm、刃部幅4.6cm、厚さ1.7cm、重さ88.2g、凝灰岩製。8は、磨り石で図示した、下端側面全面に敲打痕がある。石質閃綠岩で加熱を受け、脆くなっている。長さ12.8cm、幅10.05cm、厚さ3.65cm、重さ653.4g、閃綠岩製。9はスクレイバーで基部が欠ける。長さ2.6cm、幅3.3cm、厚さ1.05cm、重さ9.4g、チャート製。

#### トレンチ7中央部単独出土土器

いわゆる阿玉台1a式であろう。口縁部は1/2程度が現存。胴部は部分的に欠落し、底部は見つかっていない。色調黒褐色。胎土には雲母の混入はないがよく精錬されている。口縁部は口縁部文様帶に一致し、内面に稜がついて内湾する。胴部文様帶の境には頸部無文帶がある。

口縁部文様は、団正面に又状波頂部を作出し、その直下に連續し密な爪形文で（角押し文ではない）「横D字状」区画を上に「台形文様」を下にして対向し、右に渦巻き、左に楕円形を描いている。その間に三角沈刻文が三カ所に施されてる。

口唇部に団正面右側には縦に刻みを加え、反対側には粘土紐を波状に二重に並んで乗せている。内面は又状波頂部を中心、玉抱き三叉文と三角沈刻文を連結して一直線となった沈刻が2個並んでいる。

胴部文様は断面三角形の隆帶で、横位の幅1cm（隆帶頂部間）と狭い枠状文を施し、枠の境から5本の懸垂文が付けられている。その懸垂文の2本は、胴部中央に刻みが付いた隆帶から上方にゆるく二股に分かれている。他の3本の懸垂文は途中に強い「つの字状文」に施されるが、1本は向きが反対になっている。こうした懸垂文は阿玉台の要素である。内面の磨

きは非常に丁寧で、阿玉台式土器特有の磨きで、勝坂式等に見られる密な磨き痕が見られない。阿玉台式土器の内面処理は指でおこなったものか。筆者にはよく分からぬ。

以上、胴部文様を表出した断面三角形の隆帶、隆帶に刻みの施し方、幅の狭い枠状文、口唇部内面の三角沈刻文等から、また、内面の処理の仕方から阿玉台1a式（西村正衛1970<sup>7</sup>千葉県小見川町阿玉台貝塚『学術研究』19<sup>a</sup>早稲田大学教育学部、塙本師也2008<sup>8</sup>「阿玉台式」『総覽織文土器』アム・プロモーション）と考えてみた。

次に胴部文様の懸垂文で文様構造に若干ふれておきたい。懸垂文の5本は略等間隔にほどこしているが、団正面に対して、左に「隆帶刻み文」(A)、右に「つの字状文」(B)を置いている。これをA+Bとする、団正面の裏には、「つの字状文」は反対向きに付けられたB\*とAが組み合わさせて、A+B\*を構成している。しかも、もう一つB\*があって、全体を、A+B+A+B\*+B\*となり、5単位文様となる。この5単位は、あくまでA+Bの2項対立を基本にして、Bに対する対立をB\*+B\*として表現し、全体の二重の2項対立として具現した結果、5単位の文様構造が成立したと想定できるのである。<sup>9</sup>Bに対する対立をB\*+B\*として想定した。こうした構造は、単純な2種の文様のみで、5単位の文様を生成することにあるのである。中期土器の文様の基本配列構造にはいくつか存在し、上記例でも型式をこえて長く維持されていることが分かる。きせずして5単位文様の典型についてふれた。それでも口縁部文様が欠落していたのは残念である。いずれにしろ阿玉台1a式期に5単位文様が既に確立している例である。（ 笹森健一）

#### 溝2出土遺物

2は灰釉陶器灯明脚付受皿、信濃産、19世紀。3は染付磁器猪口、瀬戸・美濃産19世紀後半。4は鉄釉陶器擂鉢、瀬戸・美濃産。

#### 溝3出土遺物

5は陶器擂鉢底部、堺産、18世紀後半～19世紀。6は鉄製鋤。

#### 遺構外出土遺物

7は染付磁器急須蓋、肥前産、19世紀後半。8は透明釉土器。9は寛永通宝四文銭、(11波)径2.8cm、方孔径0.6cm、厚さ0.13cm。

## 第6章 苗間東久保遺跡第26地点の本調査

### I 遺跡の立地と環境

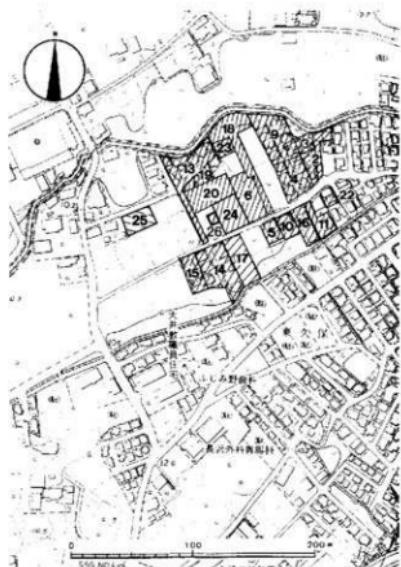
苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、さかい川の谷頭部から約1,800m下った右岸、さかい川と淨禪寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高10～11m、現谷底との比高差は1～1.5mを測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、淨禪寺川対岸には淨禪寺跡遺跡がある。

遺跡周辺は畑が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1979年に開発に伴う緊急調査として行われた。2013年1月現在30ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期中葉の住居跡、落とし穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。

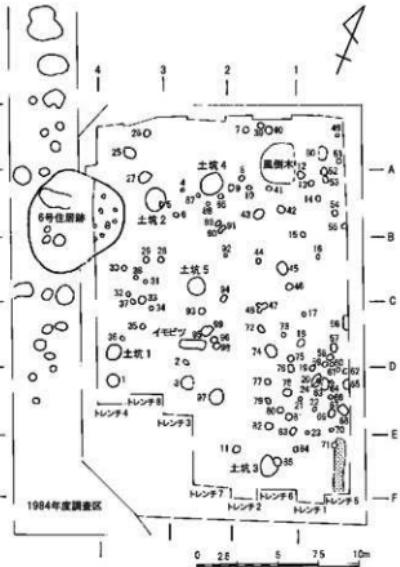


第65図 苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)

### II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2010年5月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構等の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年6月1日から11日まで行った。幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、縄文時代後期の住居跡他、土坑、ピット多数を確認した。遺跡確認面までの深さは約50cmで、遺構への影響が避けられないと申告者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。本調査は2010年7月2日から7月23日まで行い、縄文時代後期の住居跡1軒、土坑5基、ピット99基、風倒木痕、溝状土坑(イモビツ)等を調査した。旧石器時代の確認調査は行っていない。



第66図 苗間東久保遺跡第26地点遺構配置図(1/300)

第23表 苗間東久保遺跡調査一覧表

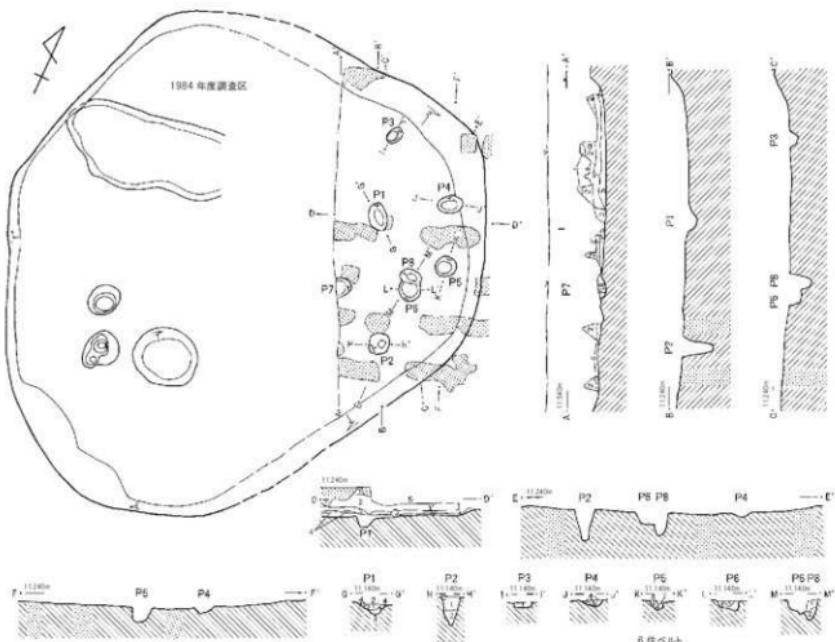
地点	調査年	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	1979	605	共同住宅	炉穴 10、土坑 14、加曾利 E II 式土器・石器	東部遺跡群 I
2	1979	530	共同住宅	住居 1、縄文中期後半土器	東部遺跡群 I
3	1980	200	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群 II
4	1980	750	共同住宅	住居 2、土坑 6、縄文中期後半土器 他	東部遺跡群 II
5	1980	106	共同住宅	炉穴 2、集石 1、土坑 3、柱穴 32、ピット 6、縄文早期・後期土器	東部遺跡群 II
6	1980	577		住居 2、炉穴 4、土坑 23、柱穴群、縄文中期後半・称名寺式土器	東部遺跡群 II
7	1982	396	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群 III
8	1982	360	共同住宅	遺構なし、遺物無し	東部遺跡群 IV
9	1983	660	共同住宅	池状遺構、土坑 1、縄文中・後期土器・石器	東部遺跡群 V
10	1984	340		土坑 5、ピット 45、縄文後期堀之内式土器	未報告
11	1984	560		遺構なし、縄文中期勝坂式土器 他	未報告
12	1984	320	共同住宅	遺構なし、縄文中期加曾利 E 式土器 他	未報告
13	1984	900		住居 2、土坑 88、ピット 10、縄文堀之内式・加曾利 B 式土器	大井町史資料 I
14	1987	923		土坑 7、ピット 92、平安以降ピット 6、縄文後期土器	東部遺跡群 IX
15	1988	447	共同住宅	土坑 7、ピット 21、縄文後期称名寺式・堀之内式土器	東部遺跡群 IX
16	1989	390	共同住宅	住居 1、土坑 2、縄文中期後半・後期前半土器	東部遺跡群 X I
17	1990	583	駐車場	土坑 1、縄文前期・後期土器	町内遺跡群 I
18	1992	906	分譲住宅	住居 3、落とし穴 5、土坑 11、ピット 14、縄文前期・後期土器	調査会報告 5 集
19	1994	350	宅地開発	落とし穴 1、住居 1、土坑 5、ピット 39、縄文早期後半・後期土器・石器・土製円盤	調査会報告 12 集
20	1998	664	個人住宅	土坑 28、集石土坑 5、ピット 128、縄文後期土器・旧石器・泥面子	調査会報告 12 集
21	1999	350	個人住宅	土坑 2、縄文土器・石鐵	町内遺跡群 IX
22	2001	99	個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内遺跡群 X I
23	2004	104	個人住宅	遺構・遺物なし、	町内遺跡群 X II
24	2006	561	分譲住宅	土坑 5、ピット 45、縄文早期前半～後期中葉土器・石器	市内遺跡群 2
25	2007	414	分譲住宅	ピット 3	市内遺跡群 4
26	2010	429	分譲住宅	縄文後期住居 1、土坑 5、ピット 99、楓倒木痕 1	市内遺跡群 12

第24表 苗間東久保遺跡調査住居一覧表 (単位cm)

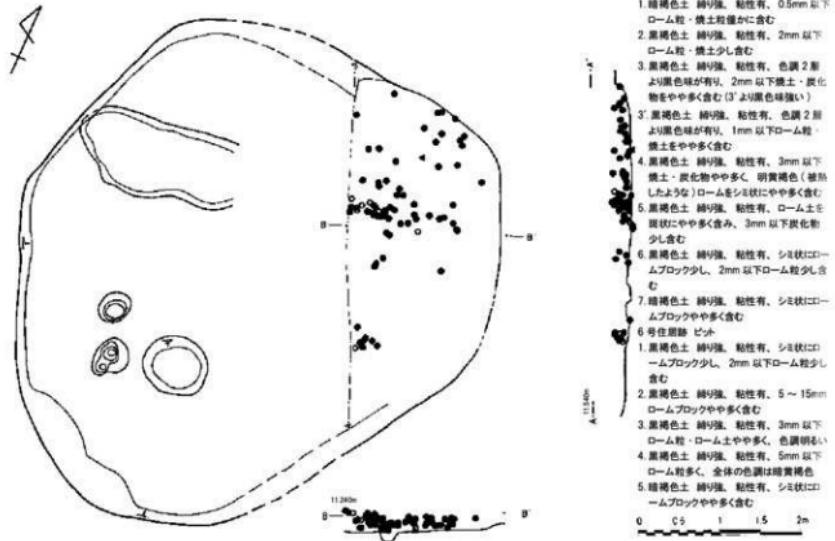
住居番号	調査率 ( )は 推定	平面形	規模	炉		埋 石 床 設 置 張	壁溝	備考	時期	文献
				地 床	理 石 周 囲					
1	75%	円形	440 × 380 × 20	○					加曾利 E I 新	東部遺跡群 I
2	完掘	楕円形	535 × 470 × 15	○				床面直上	加曾利 E I 新	東部遺跡群 II
3	完掘	柄鏡形	400 × 380 × 10	○		有			称名寺 I	東部遺跡群 II
4	完掘	隅丸方形	520 × 490 × 25	○		有			加曾利 E I 新	調査会報告 5 集
5	50%	円形	240 × 220	○				床面直上	堀之内 II	大井町史資料編 I
6	完掘	円形	635 × 590 × 18					床面直上	加曾利 B I	大井町史資料編 I 市内遺跡群 12
7	完掘	楕円形	470 × 400 × 10		○			床面攢乱	加曾利 E I 新	東部遺跡群 II
8	60%	楕円形	500 × 450	○			○		(加曾利 E)	調査会報告 5 集
9	完掘	柄鏡形	540 × 400	○		②		低い張出部	加曾利 E IV	調査会報告 5 集
10	完掘	柄鏡形	460 × 442 × 42	○					称名寺 I	調査会報告 12 集



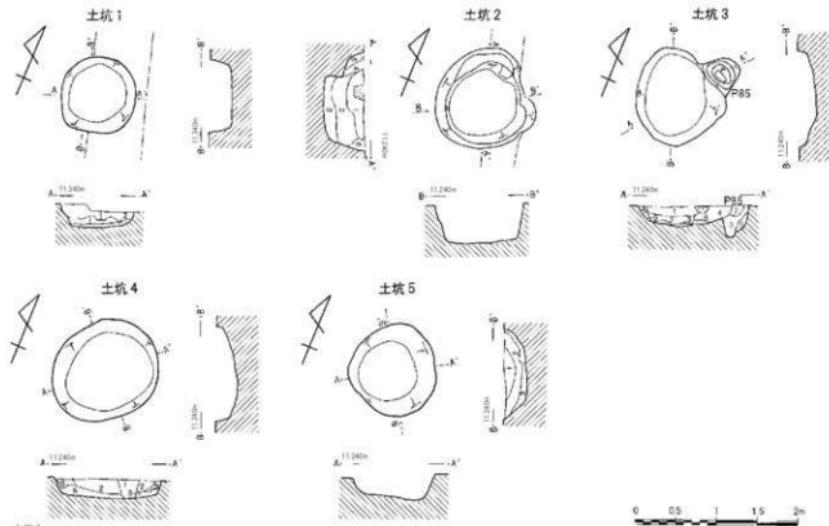
第67図 苗間東久保遺跡遺構分布図 (1/1,000)



遺物出土状況図



第 68 図 苗間東久保遺跡第 26 地点 6 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)



## 土坑 1

- 1.耕作土 細り強、2mm以下ローム粒や多く、2mm以下炭化物少し含む
- 2.稍褐色土 細り弱、5mm以下ローム粒多く含む

## 土坑 2

- 1.稍褐色土 細り強、5mm以下ローム粒や多く含む
- 2.素褐色土(色調は明るい) 細り強、粘性有、1~5cmロームブロックや多く、3mm以下ローム粒少し含む
- 3.素褐色土 細り弱、粘性有、2層より下調節し、1~3cmロームブロックや多く、3mm以下ローム粒少し含む
- 4.素褐色土 細り強、粘性有、1cmロームブロック・1mm以下ローム粒少し含む
- 5.素褐色土 細り強、粘性有、ローム主体でシミ状に黒褐色土が混ざる
- 6.稍褐色土 細り弱、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む

## 土坑 3

- 1.素褐色土 細り弱、色調は明るい、2mm以下ローム粒少し、2mm以下炭化物やや多く含む
- 2.素褐色土 細り強、1cm以下ロームブロック・3mm以下ローム粒や多く、2mm以下燒土・炭化物少し含む

## 3.素褐色土 細り強、ハードロームブロック主体

- 4.素褐色土 細り強、3mm以下ローム粒やや多く含む
- 5.素褐色土 細り強、ロームブロックやや多く、2mm以下ローム粒多く含む

## 土坑 4

- 1.素褐色土 細り強、粘性有、2mm以下ローム粒・燒土少し含む
- 2.素褐色土 粘性有、3mm以下ローム粒少しだけやや多く含む
- 3.素褐色土 細り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む
- 4.素褐色土 細り強、粘性有、2cm以下ハードロームブロックやや多く含む
- 5.素褐色土 細り強、粘性有、洪く窪状にローム土をやや多く含む
- 6.素褐色土 細り強、粘性有、2mm以下ローム粒多し含む、色調明るい
- 7.素褐色土 細り強、粘性有、洪く窪状にローム土をやや多く含む
- 8.素褐色土 細り強、粘性有、ローム土主体で、黒褐色土が少し混ざる

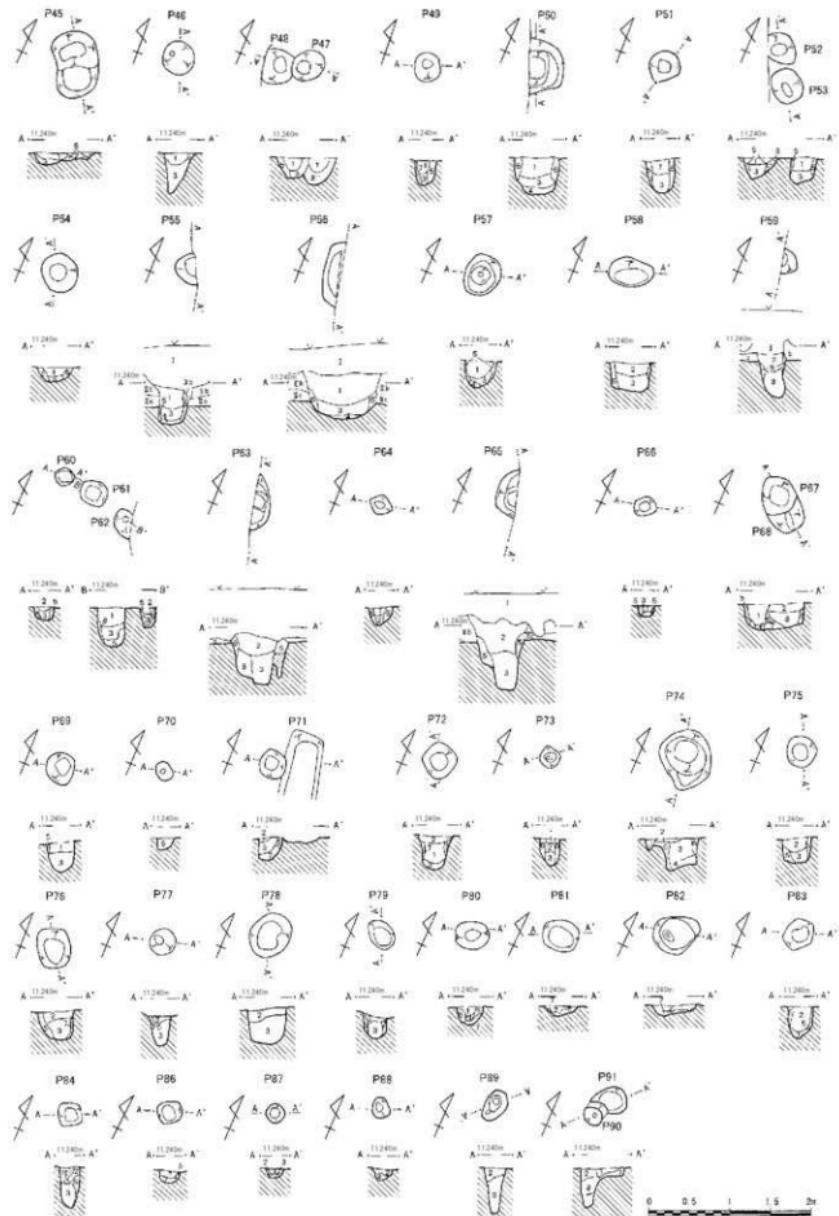
## 土坑 5

- 1.素褐色土 細り強、1cm以下ロームブロック少し含む
- 2.素褐色土 細り強、2mm以下ローム粒少し含む
- 3.黑褐色土 細り強、シミ状にロームブロック多く含む

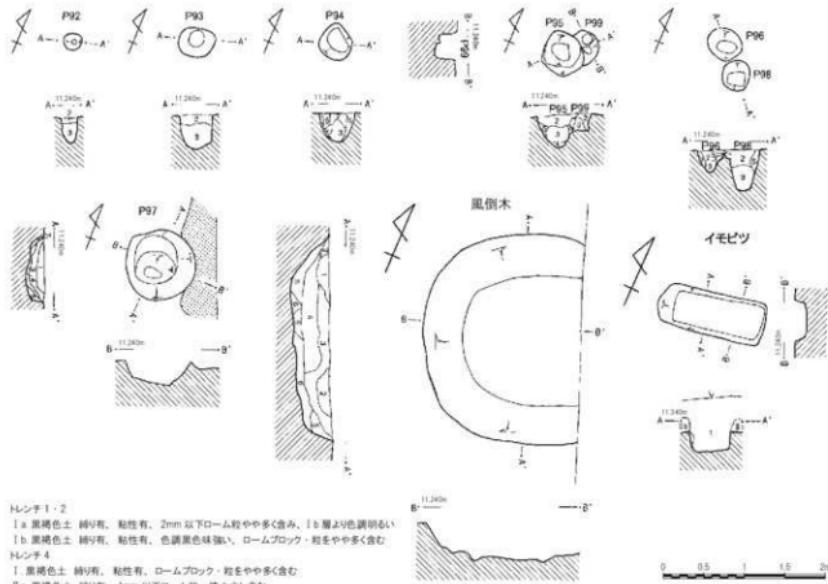
第69図 苗間東久保遺跡第26地点土坑 (1/60)



第70図 苗間東久保遺跡第26地点ピット① (1/60)



第71図 苗間東久保遺跡第26地点ピット② (1/60)



## トレシチ 1・2

- I a 黒褐色土 細り有。粘性有。2mm以下ローム粒や多く含む。I b 色調より色調明るい  
I b 黑褐色土 細り有。粘性有。色調より色味強い。ロームブロック・粗さや多く含む

## トレシチ 4

- I 黒褐色土 細り有。粘性有。ロームブロック・粒をやや多く含む

II a 黑褐色土 細り有。1mm以下ローム粒・鐵土少し含む

II b 黑褐色土 細り有。色調より褐色味が有り明るい。2mm以下ローム粒・鐵土少し含む

II c 黑褐色土 細り有。(II bにロームがうっすら斑状に混ざったような色調)

## II d

## III 地山一ーム

## ピット 1～99

0

1 黑褐色土 細り強。2mm以下ローム粒・鐵土少し含む

2 結構色土 細り強。3mm以下ローム粒少しやや多く含む

2' 2mm以下鐵土少し含む

3 黑褐色土 細り強。1cm以下ロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む  
(6レンジでは細り強く、ロームブロックが深い斑状を呈するものも含めた)

3' ロームブロックは無し。

3" 黑褐色土 細り強。ローム粒多量に含む

4 黑褐色土 細り強。2cm以下ハードロームブロックやや多く含む

5 結構色土 細り強。淡く斑状にローム土をやや多く含む

6 結構色土 細り強。2mm以下ローム粒多く含み、色調明るい

7 黑褐色土 細り強。淡く斑状ローム土をやや多く含む

8 黄褐色土 細り強。ローム土主体で黒褐色土が少し混ざる

黒倒木

1 黑褐色土 細り強。粘性有。色調は明るめ、2mm以下ローム粒や多く含む

2 黑褐色土 細り強。粘性有。5～10mmロームブロック少し。3mm以下ローム粒やや多く含む

3 結構色土 細り強。粘性有。1～2cmロームブロック少し。3mm以下ローム粒やや多く含む

4 結構色土 細り強。粘性有。1cm大ロームブロックや多く、ローム土多く含み。黃色味が有る

5 結構色土 細り強。粘性有。2cm以下ハードロームブロック少しある。ソフローム土主体

6 結構色土 細り強。粘性有。3cm以下ハードロームブロック多く含む。ソフローム土主体

イモビツ

1 黑褐色土 黑褐色味強い。5mm以下ローム粒やや多く含む

第72図 苗間東久保遺跡第26地点ピット③・風倒木・イモビツ (1/60)

### Ⅲ 遺構と遺物

#### ① 6号住居跡

【位置・形状・規模】調査区の北西端に位置する。1984年度に調査した6号住居跡の東側半分にあたる。平面形は梢円形で、規模は東西6.35m、南北5.9mである。深さは確認面から18cmである。住居跡のほぼ中央の南北部分は、調査区域の境界のため未調査となってしまった。炉跡は確認できなかった。

【ピット】今回の調査で8基、1984年度の調査で4基、計12基検出した。

【時期】出土遺物から縄文時代後期。

#### ② 土坑

5基検出した。いずれも縄文時代の遺構と思われる。

#### ③ ピット

99基検出した。いずれも縄文時代の遺構と思われる。P7、11、19、28、50、72、85、94からは縄文土器片・石器を検出した。

#### ④ 風倒木痕

1基検出した。縄文遺構より古い。

#### ⑤ 出土遺物

##### 6号住居跡出土遺物

1は沈線区画内をRL縄文で充填する。2は口縁直下に浮文付の微隆帯と横位の平行沈線を巡らし、区画内を沈線による格子文で充填する。口縁内側も沈線を巡らす。3～5は刻みを入れた微凹帯と横位の沈線で構成された口縁破片。地文は横位のLR縄文。6は口縁内側に沈線。7～9・11・12は平行沈線を巡らし、横位のLR縄文と無文部分で横帶文を作り出す類。7はクランク状の縦沈線と円形刺突で区画し、11は「L」字沈線でクランク状に区画する。7・8は口縁直下は斜位の刻目。8は口唇部も刻む。10は内側に突帯が巡り、内外に横位沈線、口唇部を刻む。13は横位のLR縄文施文後に平行沈線。14は平行沈線を巡らし、刻目と無文部分で横帶文を作り出す。15は口縁が屈曲する浅鉢。16は注口土器破片で沈線による渦巻文を施文。17は沈線区画内を無節L縄文で充填。18・19は口縁突起。20～22は沈線による格子文。23はRL縄文に斜位の平行沈線。24はLR縄文を斜位に施文。25は無文の粗製深鉢。26は口縁直下を「>」形に削った工具による刻目を巡らし、平行沈線で文様を描く。27～29は底部破片で網代圧痕がある。27は2本越え1本潜り1本送りの網代編み。いずれも加曾利B1式。

#### ピット出土遺物

30はP7出土の底部破片で1本越え1本潜り1本送りの網代圧痕。31・32はP11出土で31は口縁突起、32は礎石。33はP19出土の無文粗製土器。34はP28出土、縦位のLR縄文に刻目の有る隆帯と沈線。35はP50出土で6号住居跡3～6と同類。36はP72出土で打製石斧。37はP85出土で、口縁直下には刻目のある微隆帯とLR縄文で充填した平行沈線文様で横帶文と渦巻文を配置する。いずれも加曾利B1式。

#### 遺構外出土遺物

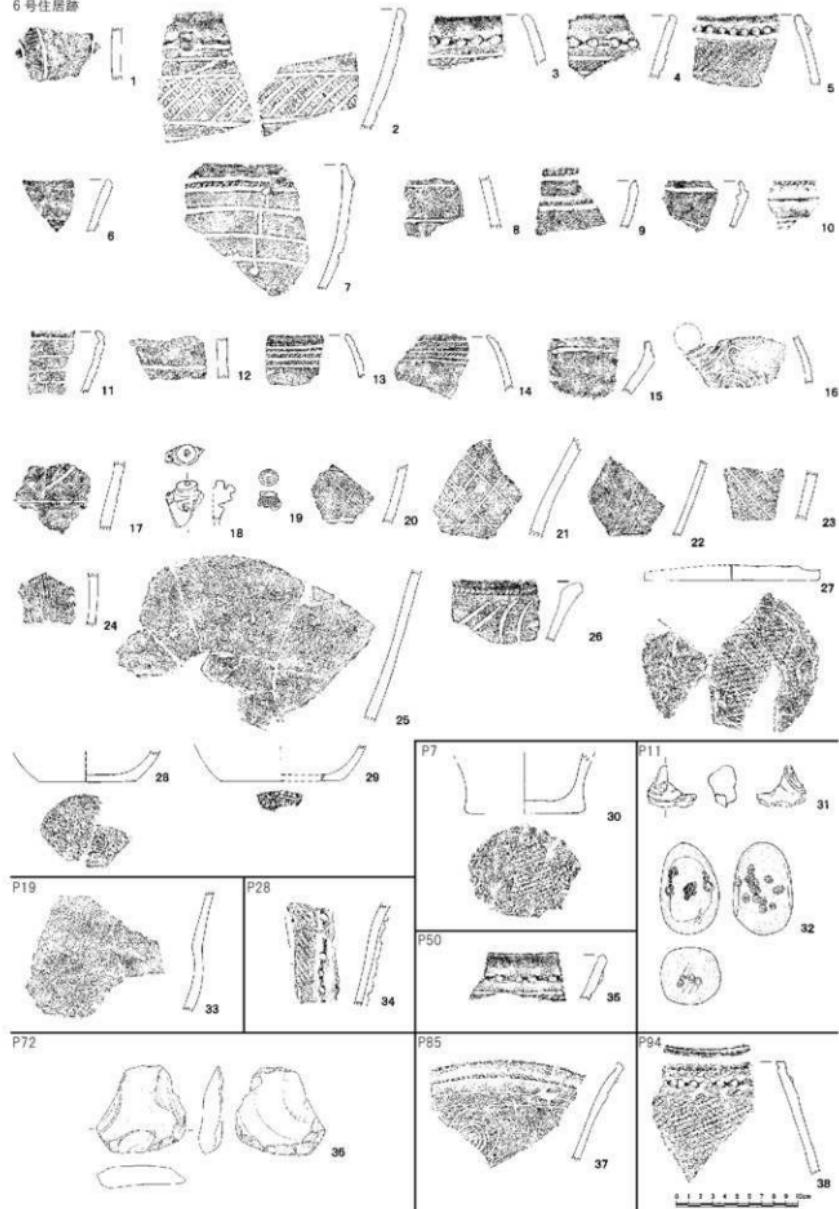
39は波状口縁破片で口縁直下に刻目のある微隆帯と「8」字状浮文、脣部は平行沈線による三角文。40～46は口縁直下に刻目のある微隆帯で、45・46は横位のLR縄文を地文とする。47は横位のLR縄文で横帶文を作り出し「L」字沈線でクランク状に区画する。48～52は外面横位平行沈線、内面は横位平行沈線を巡らし、口唇直下は棒状工具による刺突文。口唇部も丁寧な刻目を施す。49～52は外面に地文LR縄文で、50・51は同一個体でクランク状の縦沈線の区画がある。53は内面平行沈線で斜位の刻目と無文帯を交互に配する。突起部分からは縦にLR縄文を施した微隆帯が伸びる。口縁は小さな波状をなす。54・55は平行沈線を巡らし、横位のLR縄文と無文部分で横帶文を作り出す類。56～59は口縁突起。39～43までは堀之内2式、44～59は加曾利B1式。60は注口部分。61はRL縄文、62は外面指撫で、63はLR縄文、64～73は底部破片で網代圧痕がある。74は土器片利用の土製円盤。縦位のLR縄文を地文。75・76は近世の泥面（芥子面）。77～88は石器一覧表を参照。

第25表 苗間東久保遺跡第26地点遺構一覧表(単位cm)

No.	平面形	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	72×65	28×25	40	
P2	長方形	41×29	6×3	40	
P3	不明	94×(45)	23×14	32	
P4	楕円形	42×31	19×12	22	
P5	不明	43×(21)	11×(5)	41	
P6	方形	40×31	12×11	59	
P7	楕円形	60×41	30×18	19	縄文土器出土
P8	円形	34×30	5×5	27	
P9	不明	53×(37)	14×8	27	
P10	円形	32×30	6×3	34	
P11	円形	44×44	26×19	101	縄文土器・磨石出土
P12	円形	56×55	33×31	17	
P13	円形	36×32	17×13	41	
P14	不明	45×(18)	24×(11)	27	
P15	円形	33×28	13×11	20	
P16	不明	41×(24)	34×(17)	20	
P17	円形	46×35	18×14	31	
P18	円形	48×40	14×13	87	
P19	円形	43×40	20×16	40	縄文土器出土
P20	不明	65×(48)	19×(15)	48	
P21	円形	41×38	16×16	37	
P22	円形	32×28	19×15	32	
P23	円形	27×22	11×9	28	
P24	不明	38×(24)	25×(18)	97	
P25	円形	74×65	59×42	14	
P26	円形	33×30	6×4	43	
P27	楕円形	71×57	9×6	22	
P28	円形	43×41	23×22	27	縄文土器出土
P29	楕円形	47×36	14×11	28	
P30	円形	44×42	18×11	17	
P31	円形	29×24	13×10	27	
P32	円形	32×30	16×10	28	
P33	円形	37×34	5×3	46	
P34	方形	29×22	15×13	29	
P35	円形	31×28	7×4	55	
P36	円形	26×22	12×7	44	
P37	楕円形	39×25	18×10	22	
P38	円形	26×22	4×3	36	
P39	円形	49×44	25×18	23	
P40	円形	57×47	36×23	36	
P41	円形	28×22	14×12	55	
P42	円形	57×44	8×7	30	
P43	円形	57×55	39×32	27	
P44	円形	33×30	6×6	24	
P45	楕円形	84×54	33×19	17	
P46	円形	41×38	6×5	52	
P47	円形	43×35	17×16	28	
P48	不明	43×(35)	21×16	35	
P49	円形	35×31	12×12	32	
P50	不明	73×(42)	25×(19)	46	縄文土器出土
P51	円形	36×36	15×15	40	
P52	不明	48×(33)	18×15	31	
P53	円形	42×35	18×9	32	

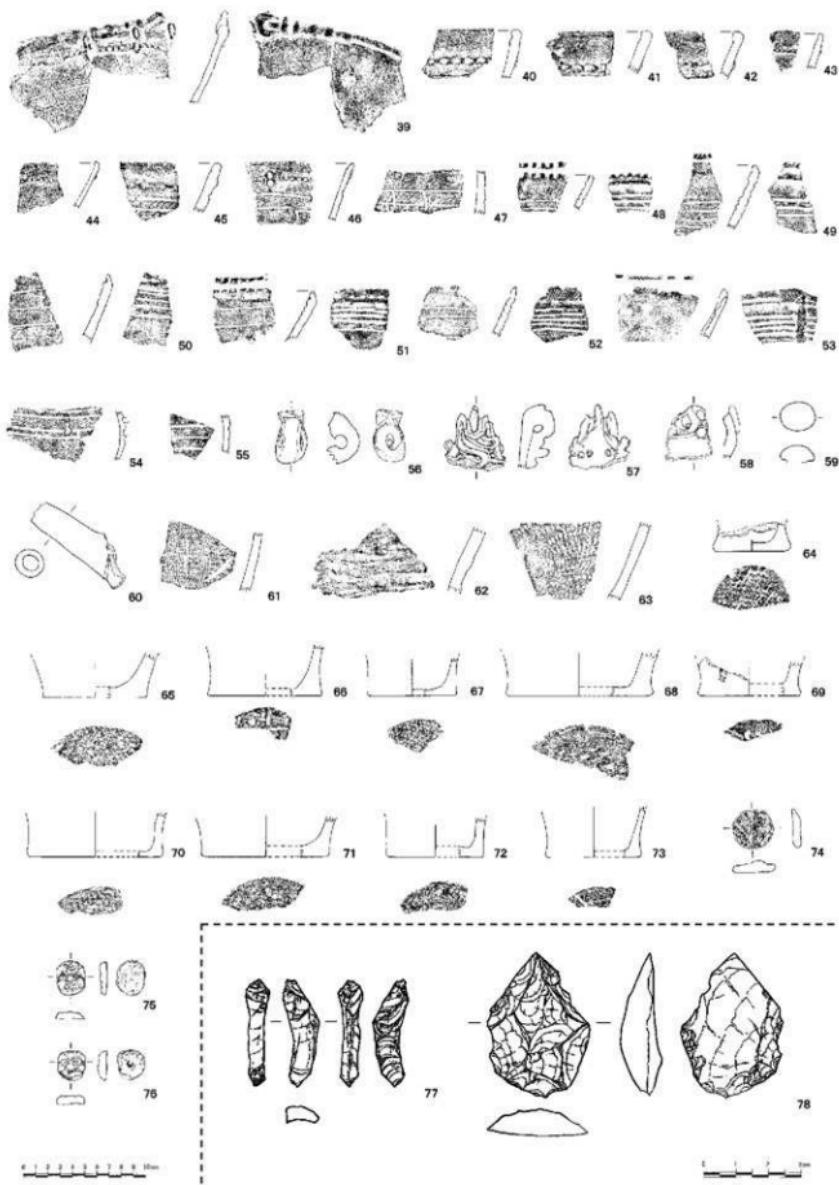
No.	平面形	確認面	底面	深さ	備考
P54	円形	48×43	20×19	18	
P55	不明	39×(26)	25×(12)	23	
P56	不明	81×(22)	59×13	21	
P57	円形	51×44	7×5	32	
P58	楕円形	55×36	43×20	37	
P59	不明	31×(18)	17×5	44	
P60	円形	24×23	17×15	17	
P61	円形	33×30	18×17	46	
P62	不明	32×(21)	7×6	25	
P63	不明	70×(20)	16×(13)	52	
P64	方形	24×22	13×8	26	
P65	不明	60×(26)	20×(11)	62	
P66	円形	27×22	12×12	20	
P67	円形	47×41	24×23	31	
P68	不明	44×(25)	23×7	34	
P69	円形	37×34	18×18	42	
P70	円形	23×19	7×5	18	
P71	円形	34×34	16×16	31	
P72	円形	40×39	21×20	45	石匙出土
P73	円形	24×23	8×5	35	
P74	円形	69×60	28×27	38	
P75	円形	39×37	21×19	33	
P76	方形	49×39	30×23	39	
P77	円形	33×32	12×10	43	
P78	円形	57×48	38×28	45	
P79	円形	40×28	26×19	36	
P80	円形	40×36	19×13	25	
P81	円形	44×39	32×23	17	
P82	円形	55×50	6×3	16	
P83	円形	41×34	22×16	37	
P84	方形	28×28	17×15	48	
P85	方形	46×37	16×8	46	縄文土器出土
P86	方形	29×26	18×14	16	
P87	円形	24×24	13×11	15	
P88	円形	25×22	13×9	18	
P89	楕円形	40×26	9×7	64	
P90	円形	30×26	5×4	53	
P91	不明	36×(30)	23×(23)	13	
P92	円形	23×21	6×6	36	
P93	円形	45×37	20×18	34	
P94	円形	53×51	21×20	39	縄文土器出土
P95	円形	39×39	30×21	45	
P96	円形	43×38	25×15	25	
P97	円形	85×85	23×12	36	
P98	円形	38×33	21×18	51	
P99	不明	41×(21)	14×13	31	
土坑1	円形	93×91	72×70	28	
土坑2	円形	127×122	83×79	51	
土坑3	円形	120×112	100×75	24	
土坑4	円形	133×117	110×90	26	
土坑5	円形	113×107	71×71	31	
イモビ	長方形	133×54	108×40	24	
風倒木	不明	259×(193)	158×(145)	51	

## 6号住居跡

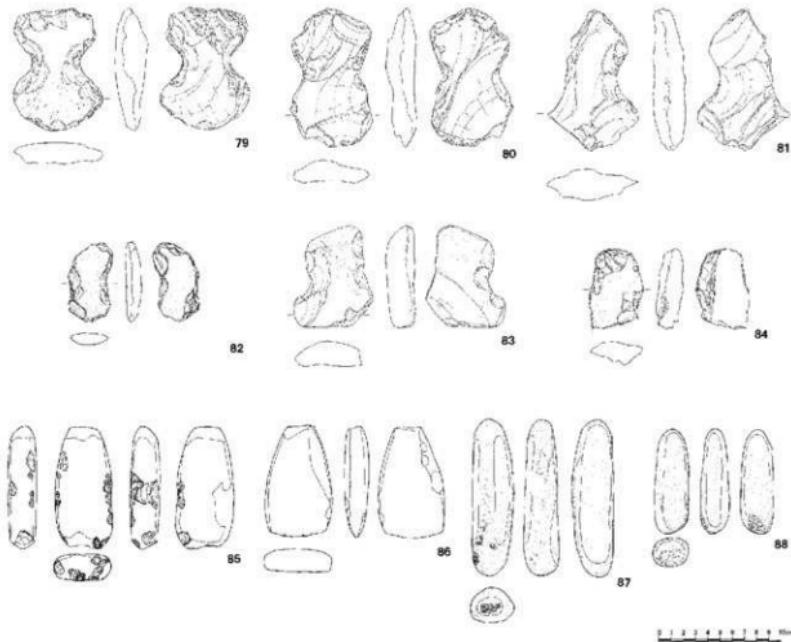


第73図 苗間東久保遺跡第26地点出土遺物① (1/4)

遺構外



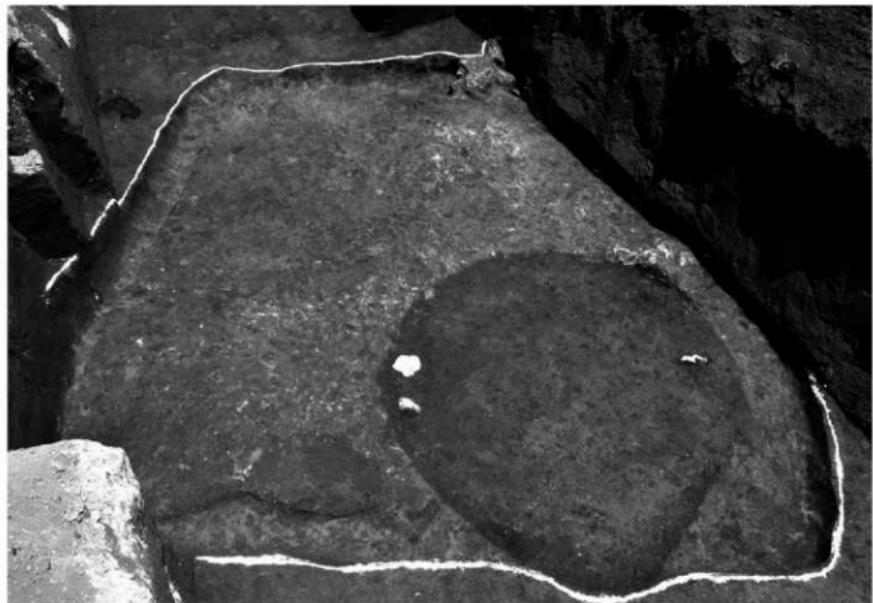
第74図 苗間東久保遺跡第26地点出土遺物② (1/4・2/3)



第75図 苗間東久保遺跡第26地点出土遺物③(1/4)

第26表 苗間東久保遺跡第26地点出土石器一覧表 (単位cm)

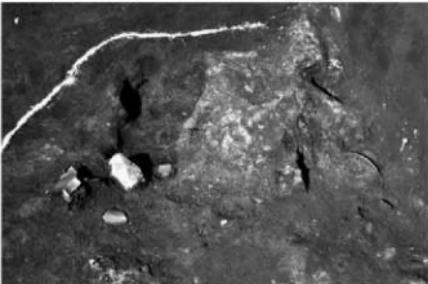
図版番号	掲載番号	遺構名	種別	長さ	刃部幅	厚さ	重量	技法 / その他	石材 / 推定生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
73	32	P11	磨石・敲石	7.4	5.1	5.0	234.1g	敲打	安山岩	縄文時代	完形
	36	P72	打製石斧 (石匙)	6.8	6.5	1.6	99.7g	両極敲打技法	フォルンフェルス	縄文時代	完形
74	77	遺構外	剥片石器	3.3	1.0	0.5	1.7g	打面調整剥片/C区2	黒曜石	旧石器	完形
	78	遺構外	尖頭器	4.4	3.1	0.9	13.7g	横長剥片の線部調整 / ドレン チ6	チャート	旧石器	完形
75	79	遺構外	打製石斧	9.8	7.2	2.5	202.8g	両極敲打技法 / ドレンチ6	フォルンフェルス	縄文時代	完形
	80	遺構外	打製石斧	11.3	6.7	2.3	169.3g	両極敲打技法 / ドレンチ5	フォルンフェルス	縄文時代	完形
	81	遺構外	打製石斧	11.6	7.5	2.6	192.2g	両極敲打技法 / B区1	フォルンフェルス	縄文時代	完形
	82	遺構外	打製石斧	6.7	3.2	1.1	37.1g	両極敲打技法 / H4	チャート	縄文時代	完形
	83	遺構外	打製石斧	8.2	6.5	2.3	151.1g	両極敲打技法 / ドレンチ5	砂岩	縄文時代	完形
	84	遺構外	打製石斧	6.4	-	2.0	62.7g	両極敲打技法 / A区1	頁岩	縄文時代	刃部欠
	85	遺構外	磨製石斧・ 敲石	9.8	-	2.5	231.8g	磨製成形後敲打し敲き石とし て使用か / H7	頁岩	縄文時代	完形
	86	遺構外	磨製石斧	9.0	4.6	2.0	185.9g	磨製成形 / ドレンチ3No2	緑色岩	縄文時代	完形
	87	遺構外	敲石	12.9	-	2.6	226.6g	敲打 / F区1	硬質砂岩	縄文時代	完形
	88	遺構外	敲石	8.5	-	2.2	98.0g	敲打 / F区2	硬質砂岩	縄文時代	完形



H30 号住居跡 全景(西から)



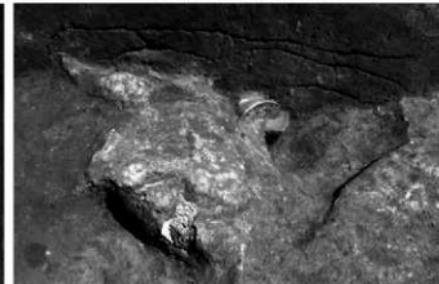
H30 号住居跡 挖方



H30 号住居跡 遺物出土状況



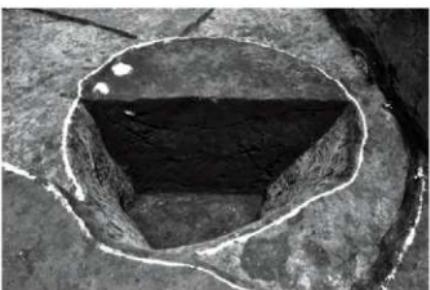
H30 号住居跡 刀子出土状況



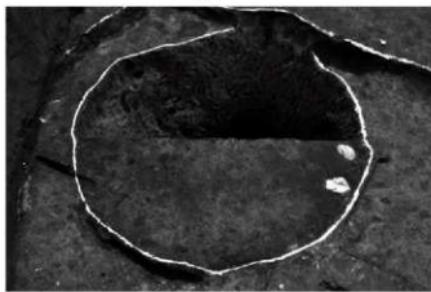
H30 号住居跡 瓶



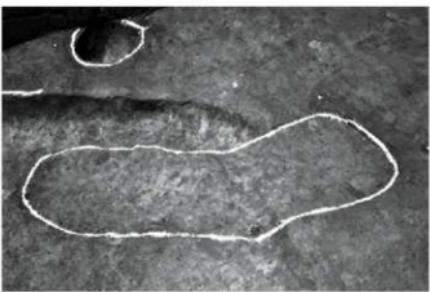
井戸 1



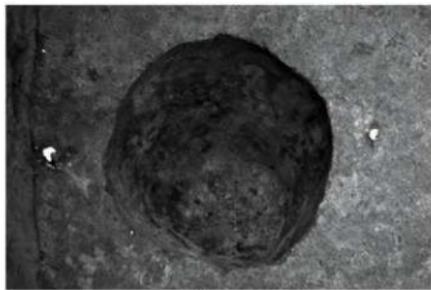
井戸 2



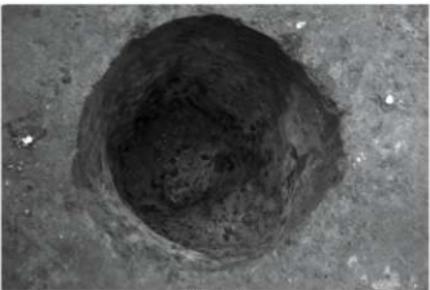
井戸 2



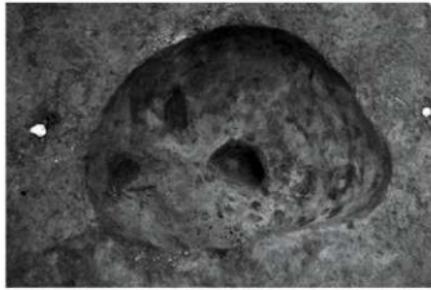
土坑 1



ピット 1



ピット 2



ピット 6



調査風景



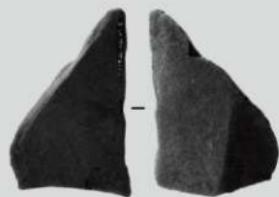
H30 号住居跡 出土遺物 No.12 坩



H30 号住居跡 出土遺物 No.15 支脚



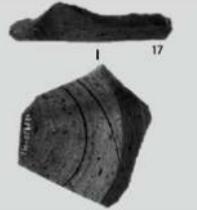
H30 号住居跡 出土遺物 No.14 刀子



H30 号住居跡 出土遺物 No.16



H30 号住居跡 出土遺物 No.1 ~ 11 + 13



遺構外 出土遺物 No.17 ~ 19



H31A 号住居跡 全景(南から)



H31 号住居跡 刀子出土状況



H31A 号住居跡 竈 1 遺物出土状況



H32 号住居跡 全景(南から)



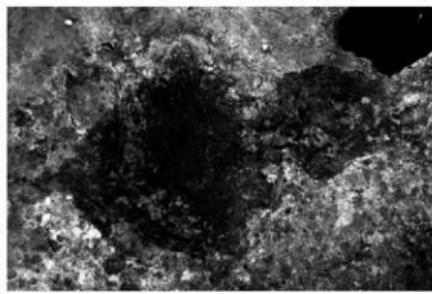
H31A 号住居跡 完掘



H31B 号住居跡 鋳冶関連遺構



H31B 号住居跡 全景



H31B 号住居跡 鋳冶関連遺構



H31B 号住居跡 窯



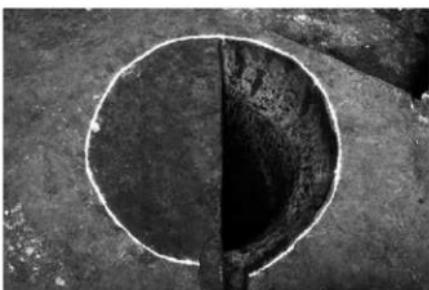
掘立柱建物跡 全景(南から)



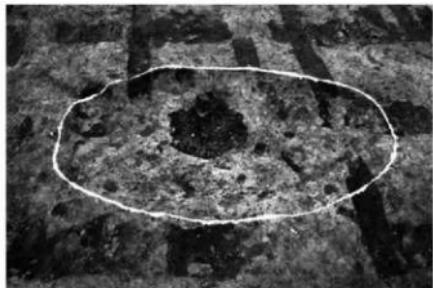
ピット群 全景(南から)



井戸 1



井戸 2



土坑 1



土坑 2



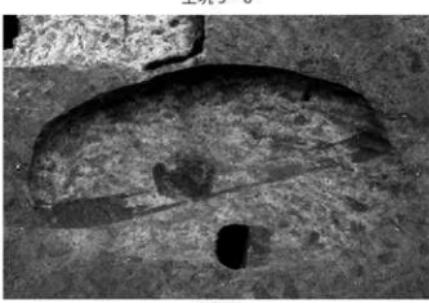
土坑 3・4



土坑 5・6



土坑 7



土坑 8



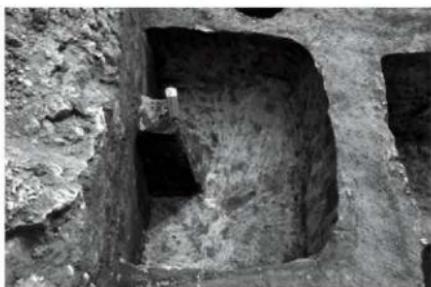
土坑 9・10



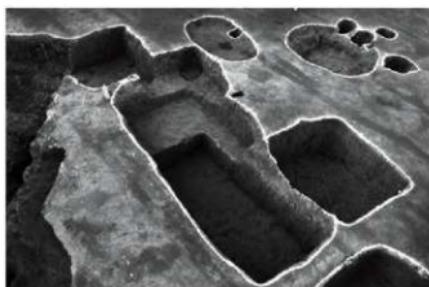
土坑 12～14



土坑 14



土坑 15



土坑 3・4・11～16



土坑 17



土坑 18



土坑 19・20



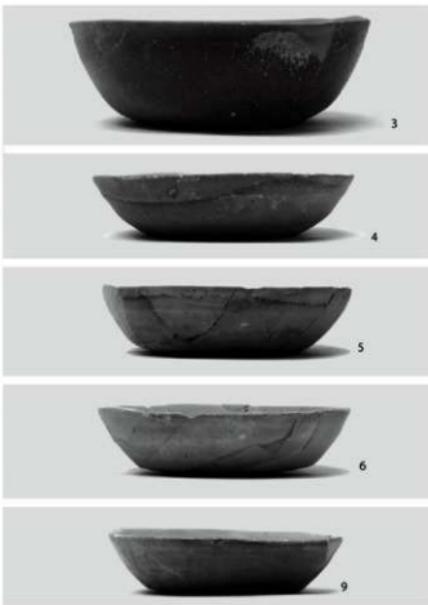
溝 1 ~ 3



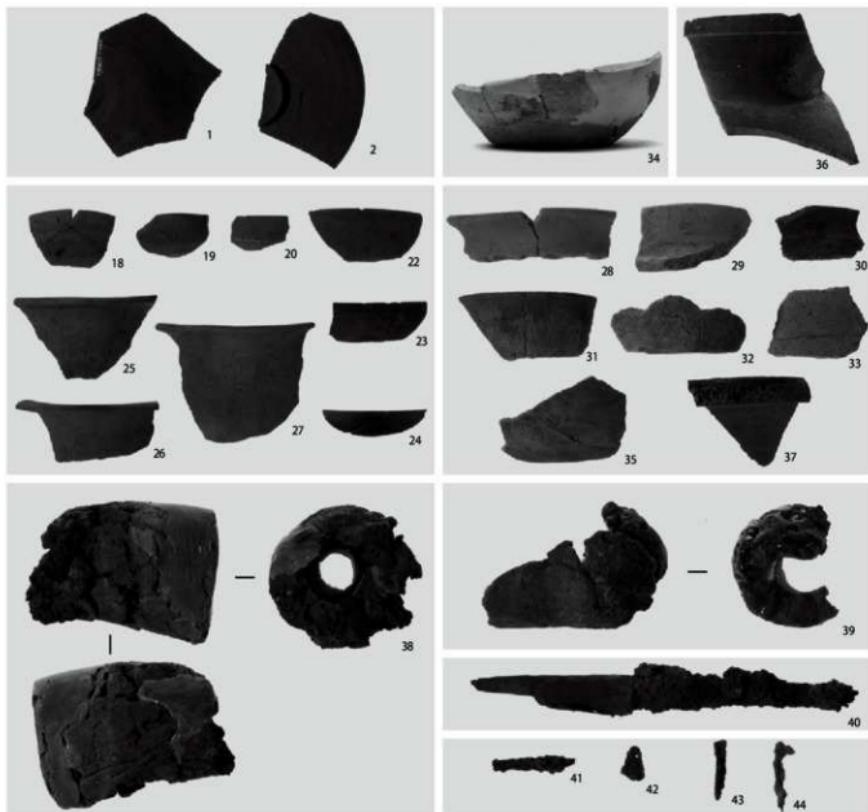
溝 4



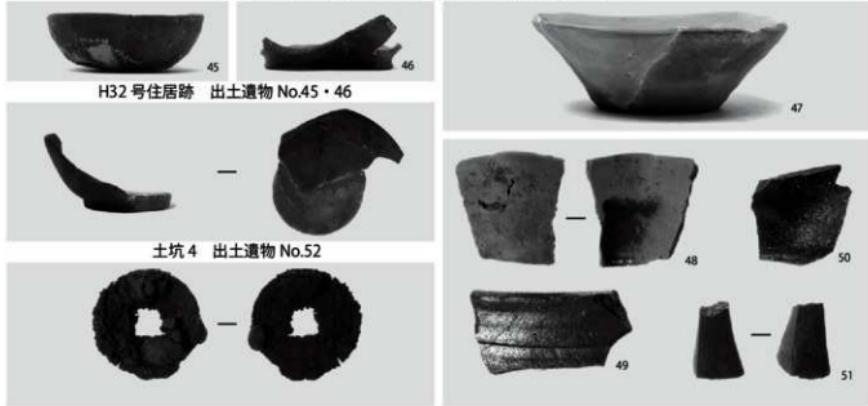
調査風景



H31号住居跡 出土遺物 No.3 ~ 10・17・21



H31 号住居跡出土遺物 No.1・2・18～20・22～44



H32 号住居跡 出土遺物 No.45・46

土坑 4 出土遺物 No.52

溝 4 出土遺物 No.53

井戸 1 出土遺物 No.47～51



トレンチ2中央部（南から）



トレンチ3・4中央部（南から）

トレンチ7南側（北から）



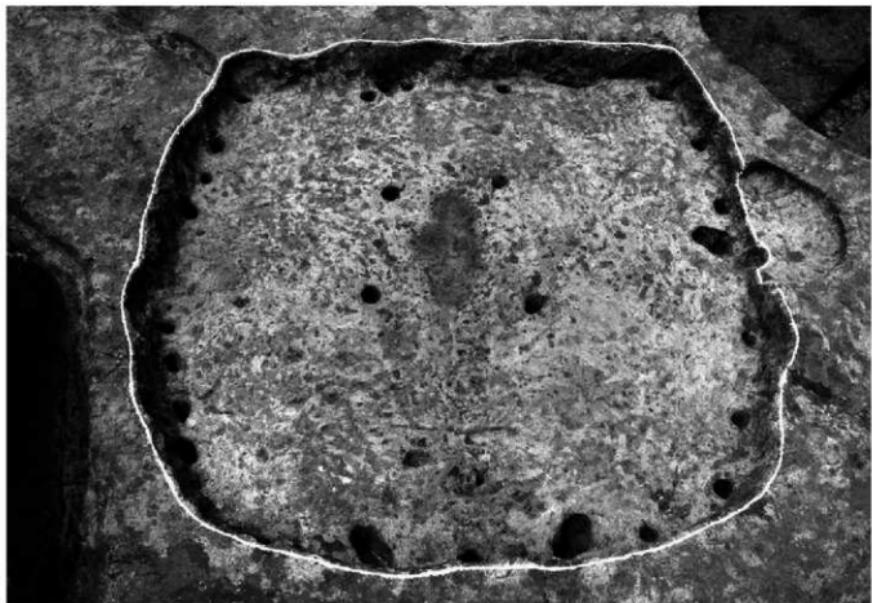
J10～13号住居跡（南から）



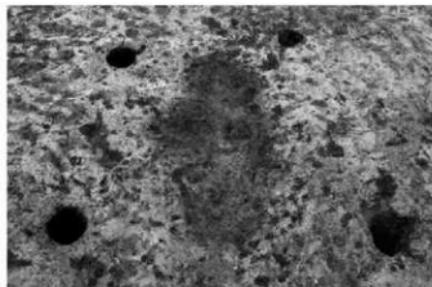
土坑・ビット群（北から）



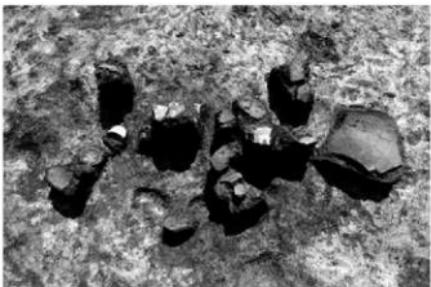
J14・15号住居跡（南から）



J10号住居跡 全景(東から)



J10号住居跡 炉



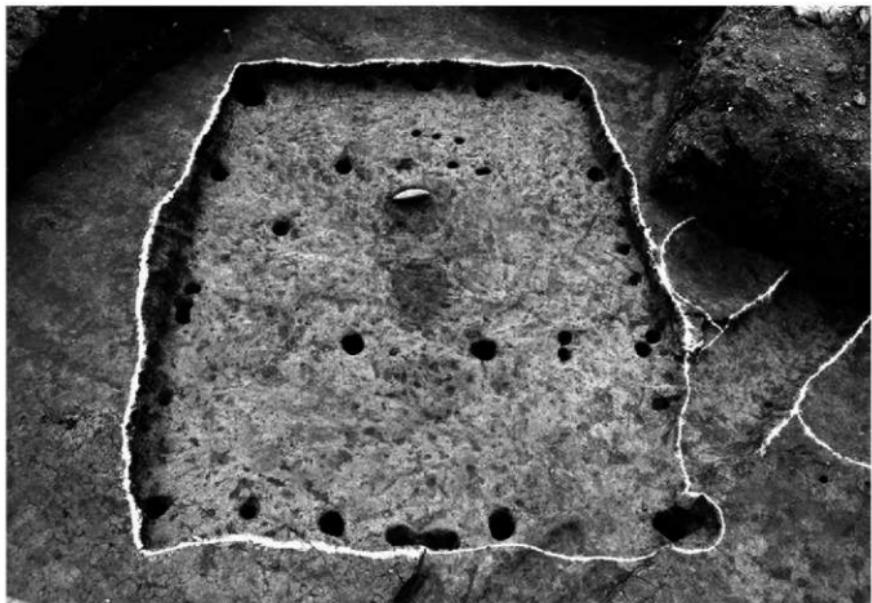
J10号住居跡 遺物出土状況



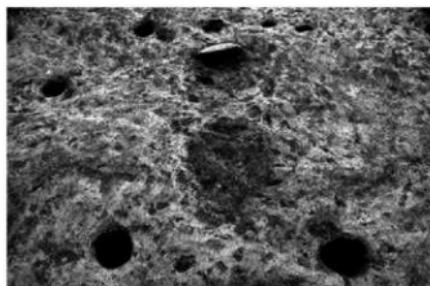
J10号住居跡 遺物出土状況



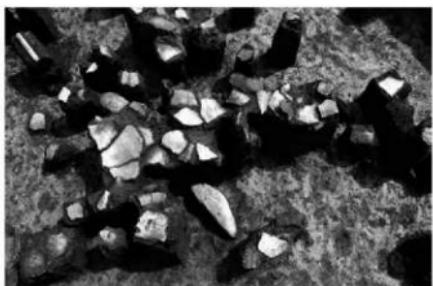
J10号住居跡 ピット完掘



J11号住居跡 全景(東から)



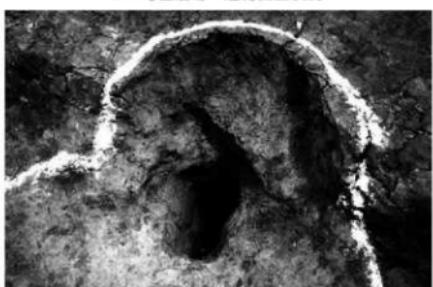
J11号住居跡 炉



J11号住居跡 遺物出土状況



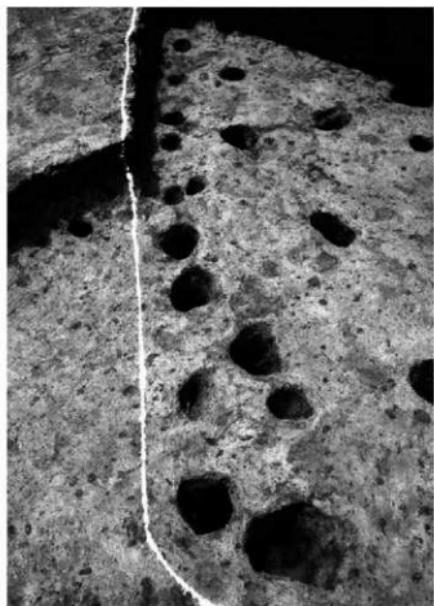
J11号住居跡 遺物出土状況



J11号住居跡ピット 32



J12号住居跡 全景(東から)



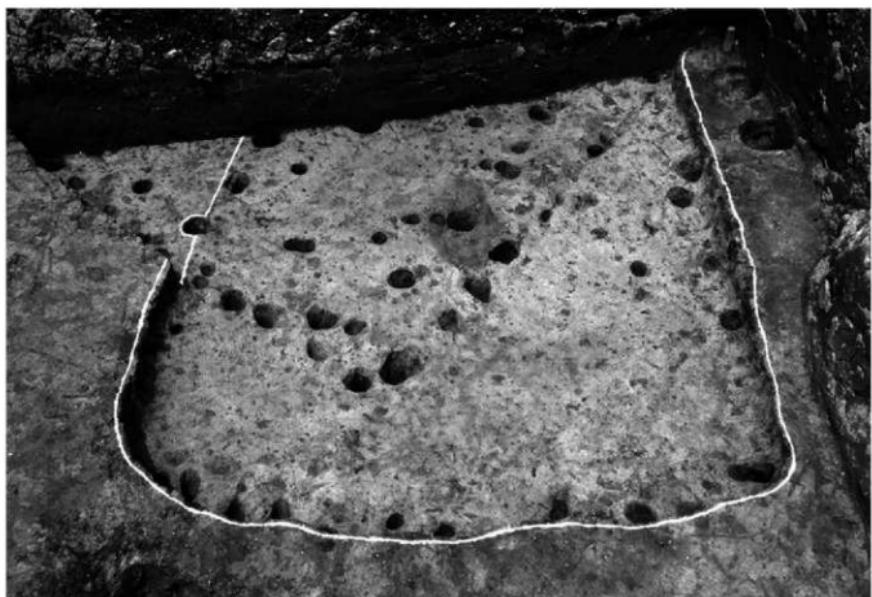
J12号住居跡ピット 完掘



J12号住居跡 遺物出土状況



J12号住居跡 調査風景



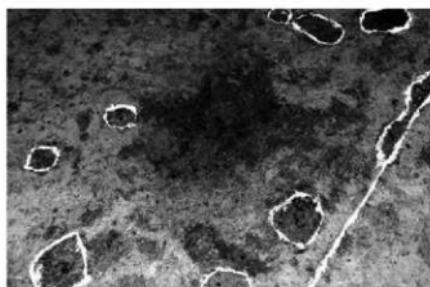
J13 号住居跡 全景(東から)



J13 号住居跡 遺物出土状況



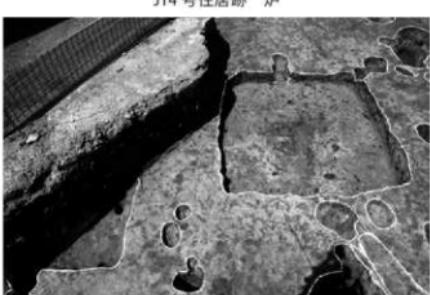
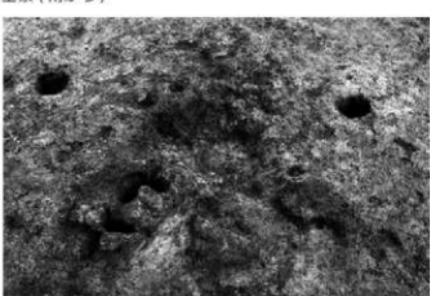
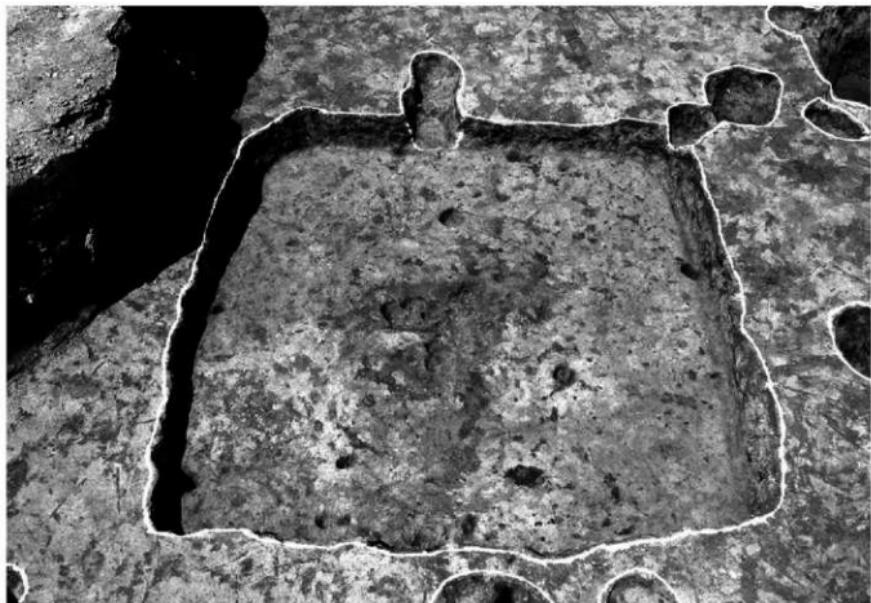
J13 号住居跡 遺物出土状況

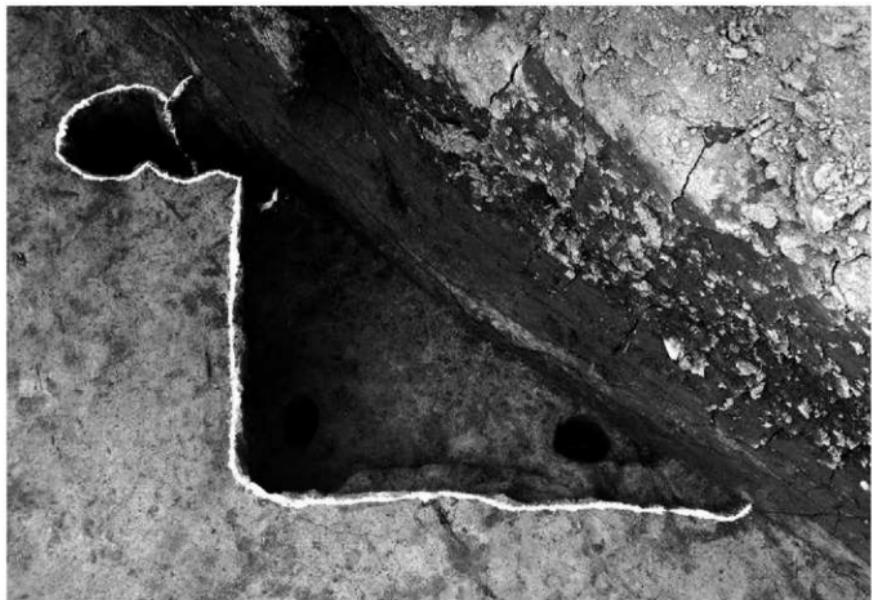


J13 号住居跡 炉



J12・13 号住居跡 全景





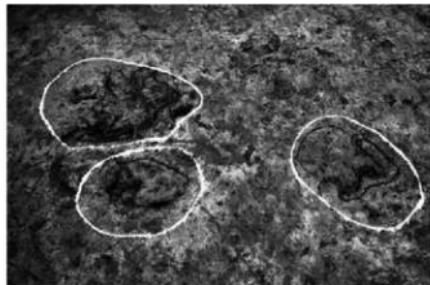
J15 号住居跡 全景(東から)



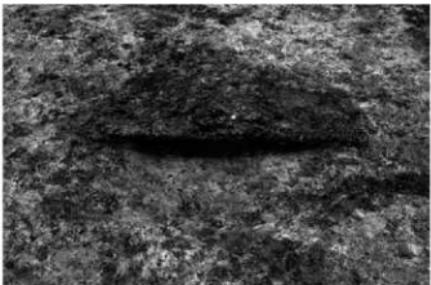
溝 1・3・4



溝 2



焼土面 1～3



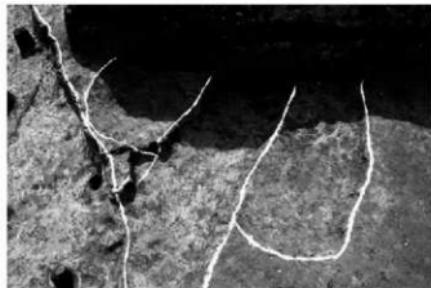
焼土面 4



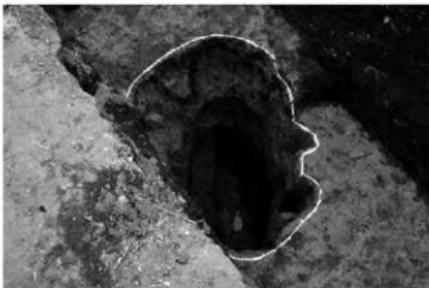
炉穴 1~4



炉穴 5~8



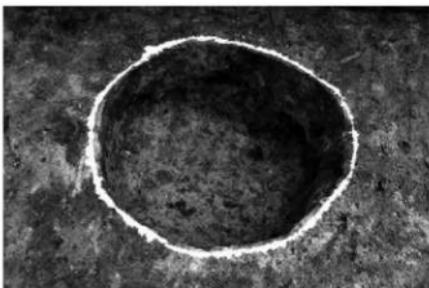
炉穴 9・10



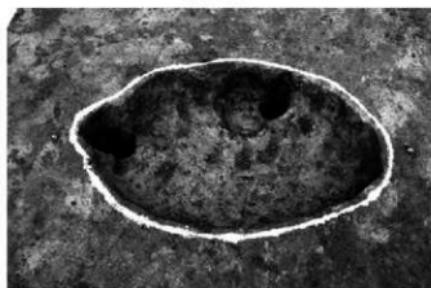
落とし穴 1



落とし穴 2



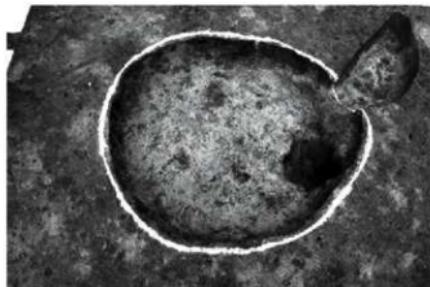
土坑 1



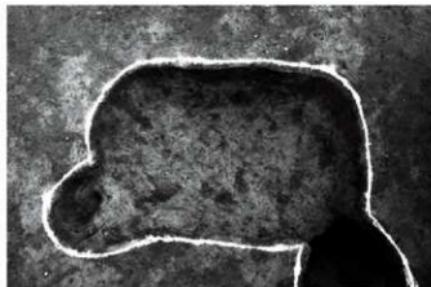
土坑 2



土坑 3・4



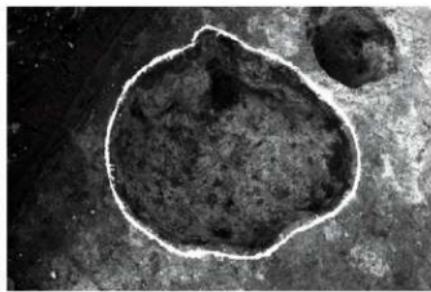
土坑 5



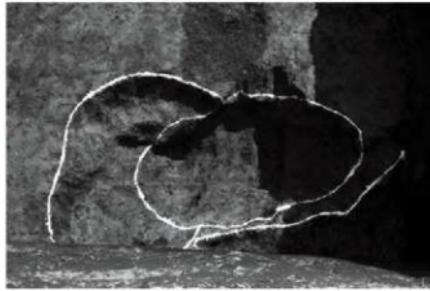
土坑 6



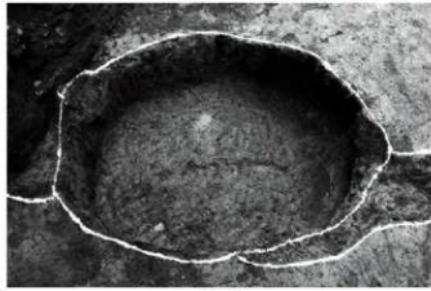
土坑 7



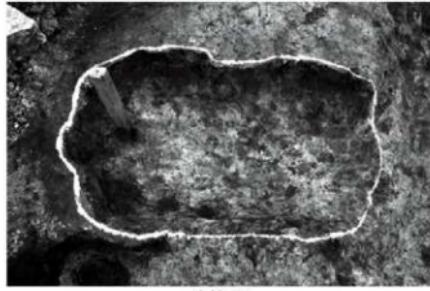
土坑 8



土坑 10 ~ 12



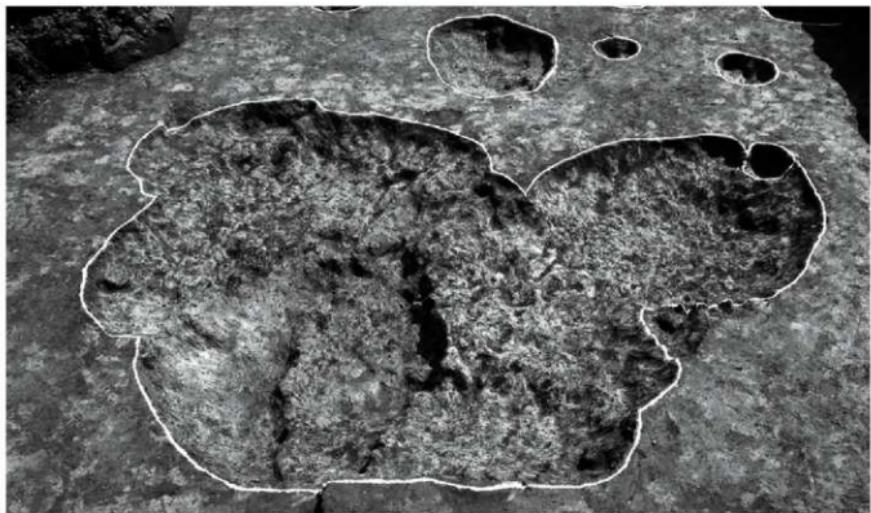
土坑 14



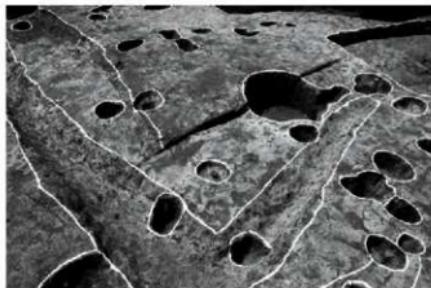
土坑 27



トレンチ 1 土坑 6・8、ピット群



土坑 16～22、25・26



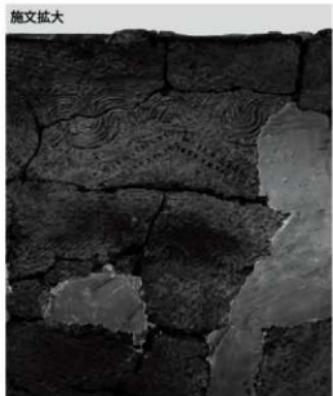
ビット群



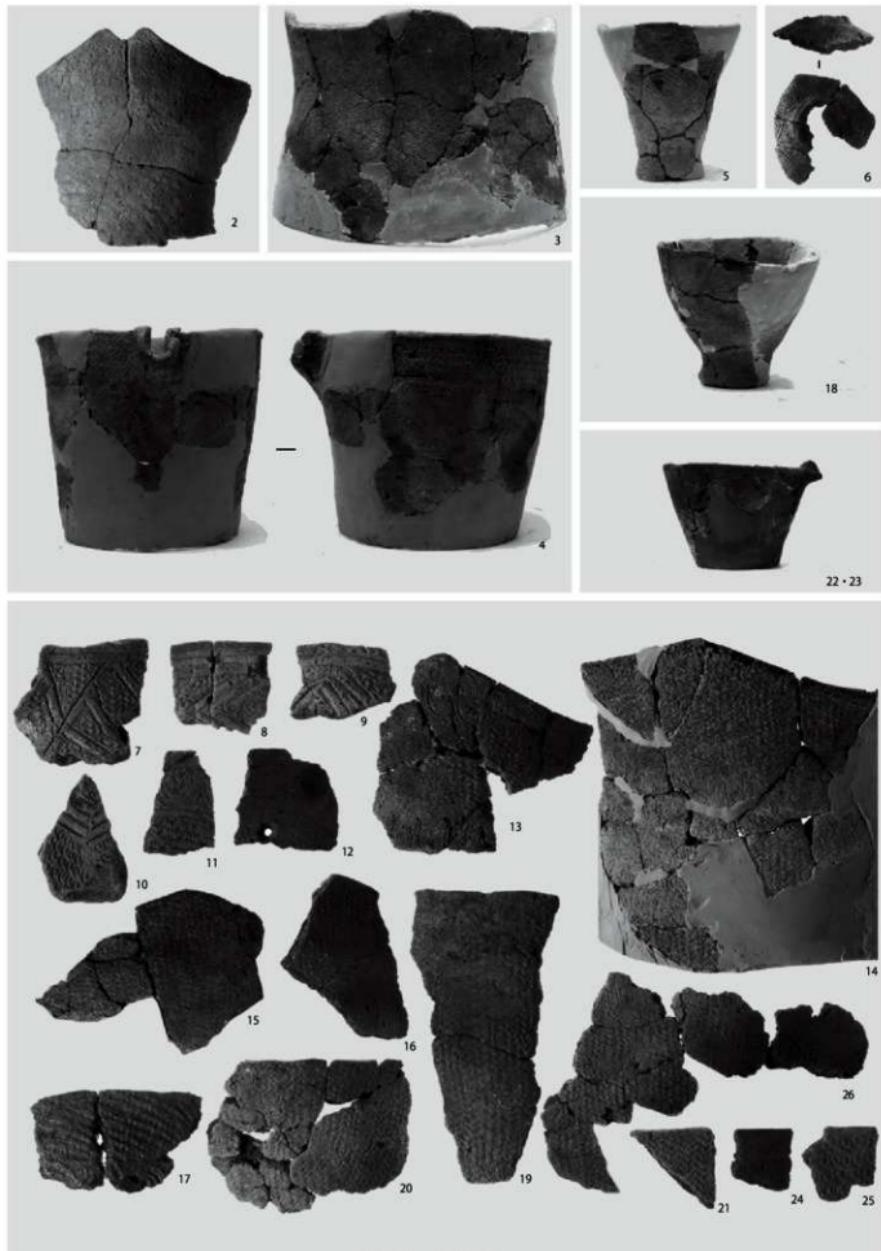
調査風景



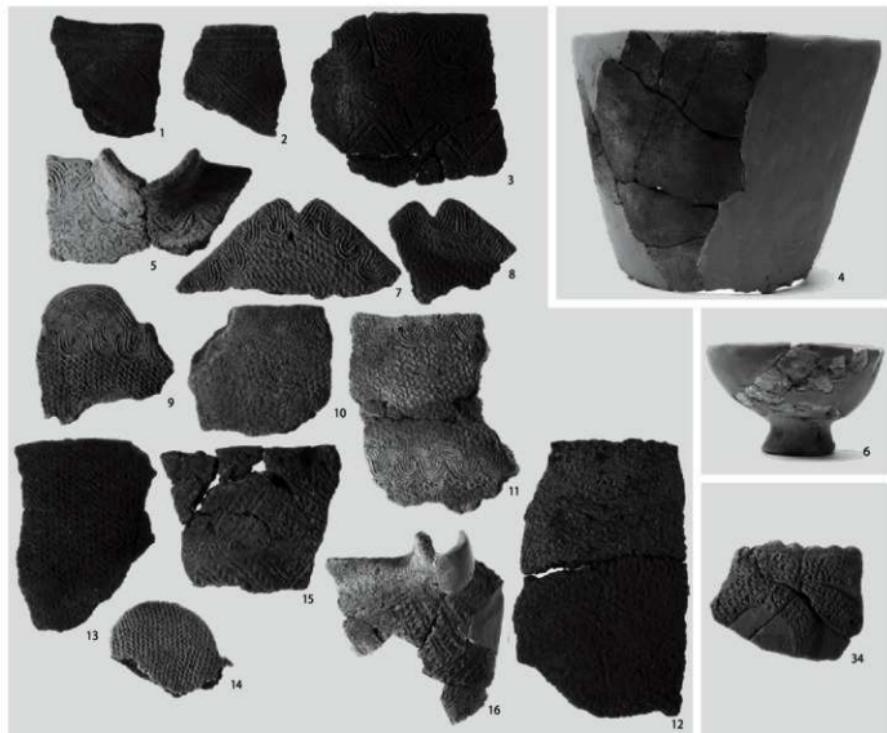
J10号住居跡出土遺物 No.1



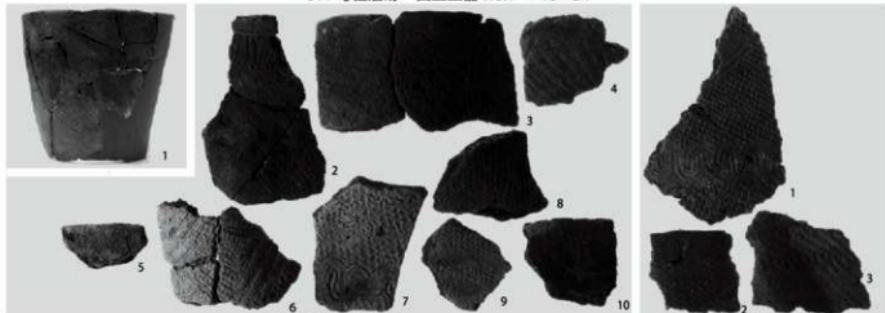
施文拡大



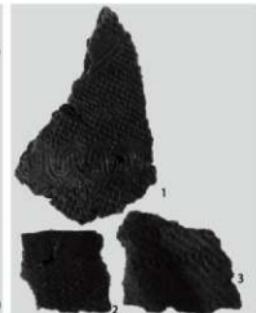
10号住居跡 出土土器 No.2 ~ 29・32・33



J11号住居跡 出土土器 No.1 ~ 16・34



J12号住居跡 出土遺物 No.1 ~ 10

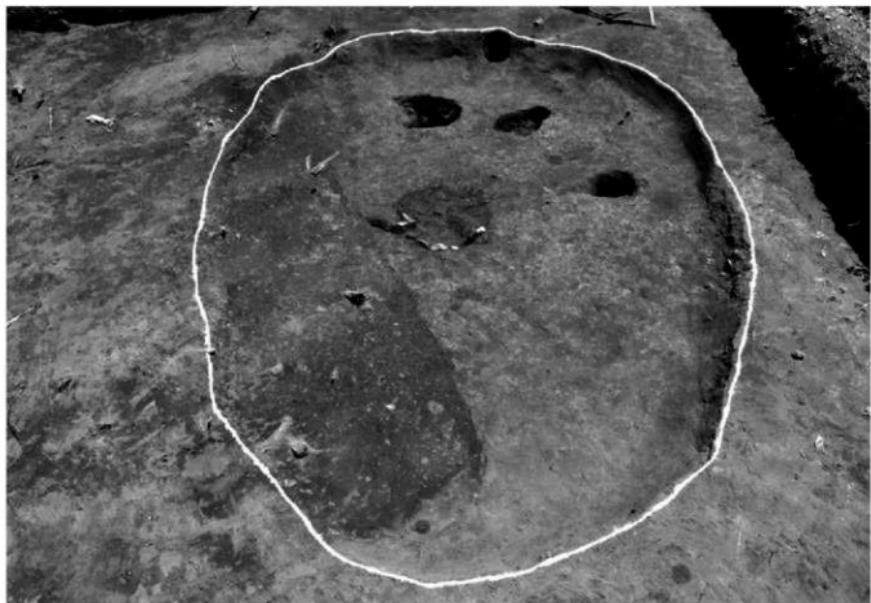


J13号住居跡 出土遺物 No.1 ~ 3



J14号住居跡 出土遺物 No.1 ~ 9

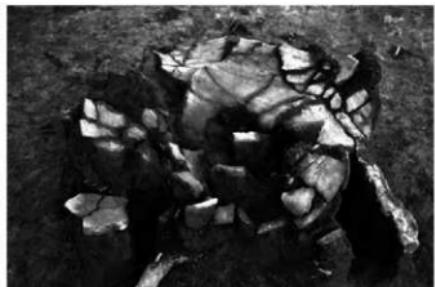
J15号住居跡  
出土遺物 No.1



J1号住居跡 全景(西から)



J1号住居跡 遺物出土状況



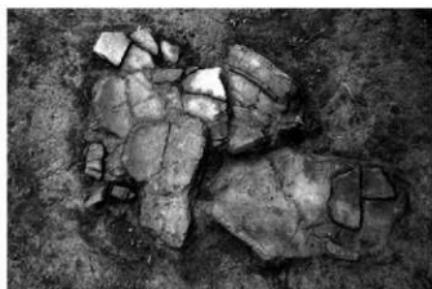
J1号住居跡炉 遺物出土状況



H30号住居跡鉄器出土状況



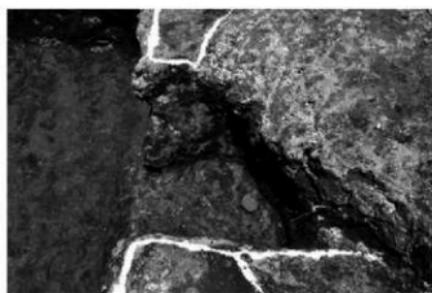
J1号住居跡炉



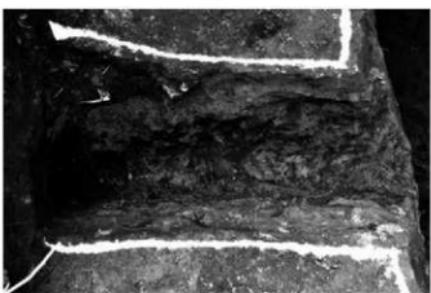
トレンチ 7 中央部 単独出土土器



溝 3



溝 2



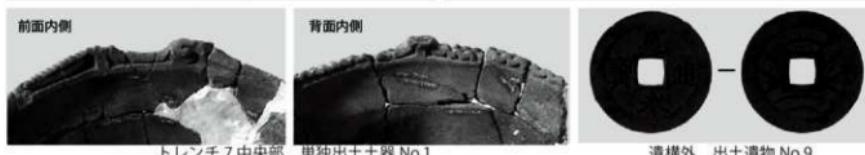
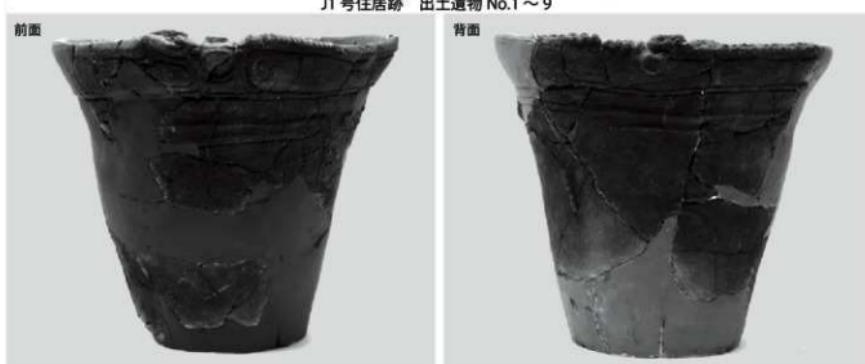
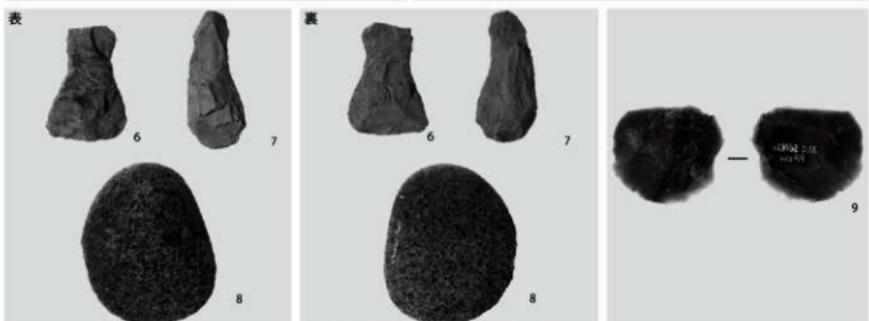
溝 4



溝 5・6



調査風景





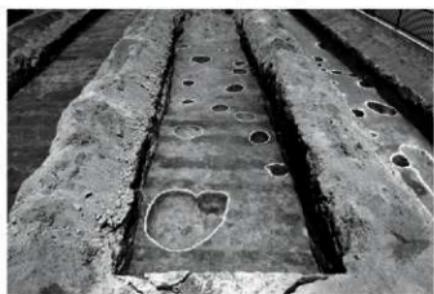
トレンチ5（南から）



トレンチ6・8(南から)



トレンチ6 北半



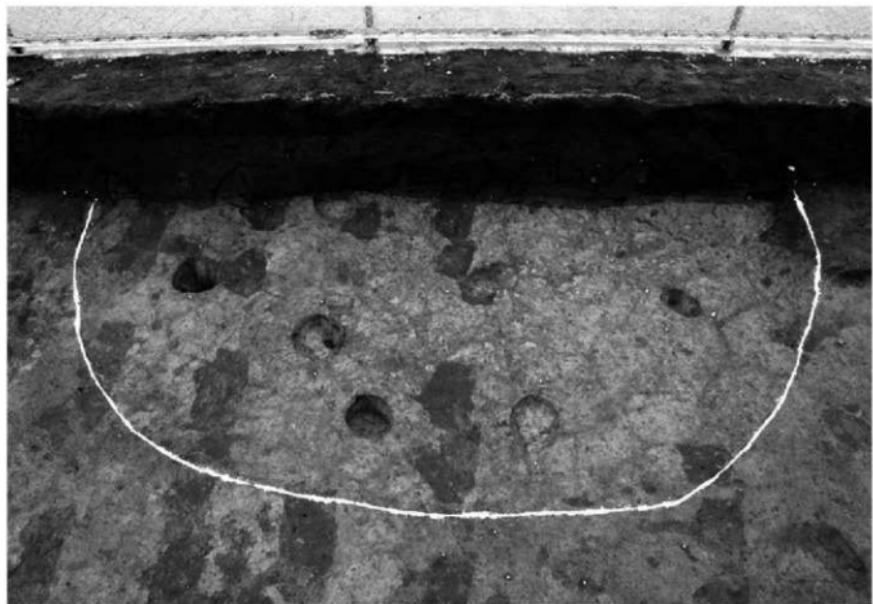
トレンチ6 南側(南から)



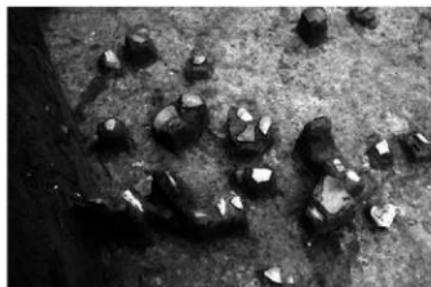
トレンチ7（北から）



トレンチ8（南から）



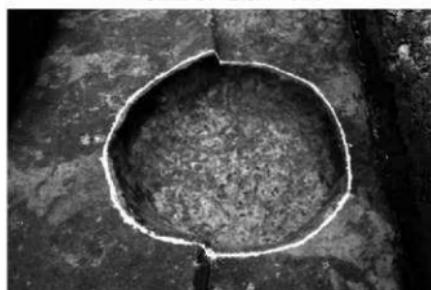
J6 号住居跡 完掘(東から)



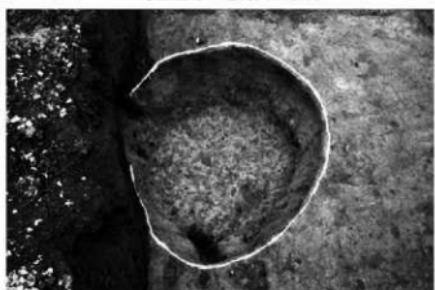
J6 号住居跡 遺物出土状況



J6 号住居跡 遺物出土状況



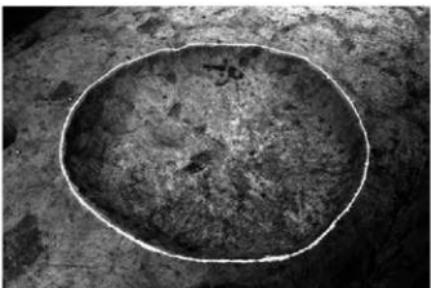
土坑 1



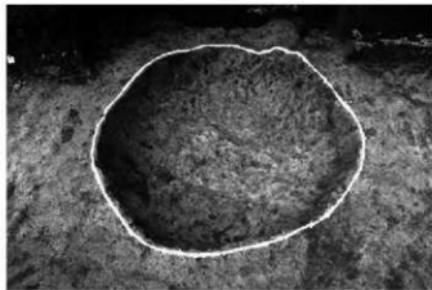
土坑 2



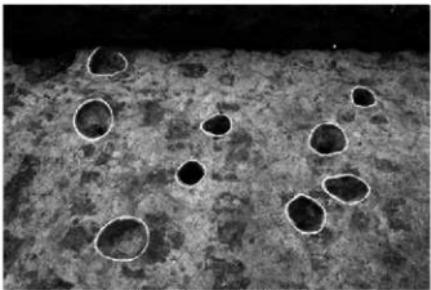
土坑 3



土坑 4



土坑 5



ピット 28 ~ 34・37・38



ピット 72 ~ 79



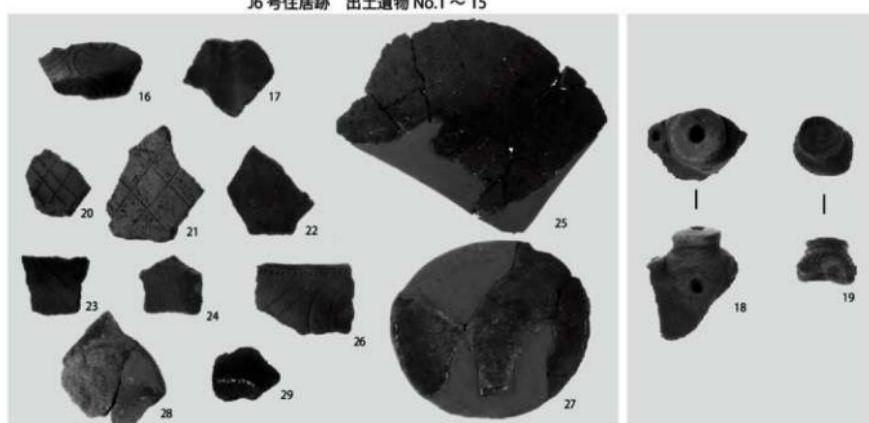
風倒木



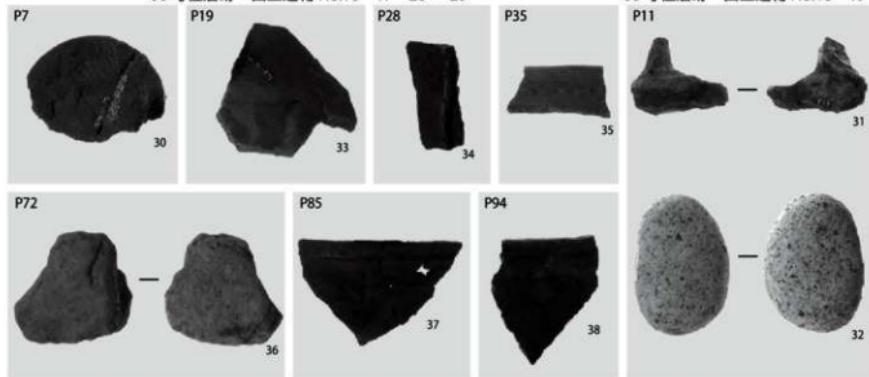
全景

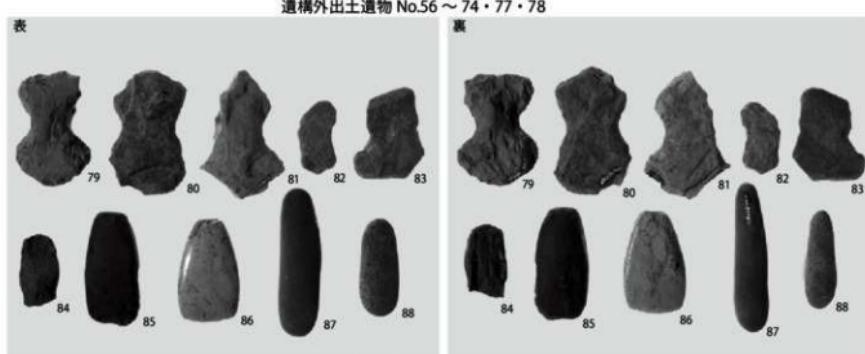
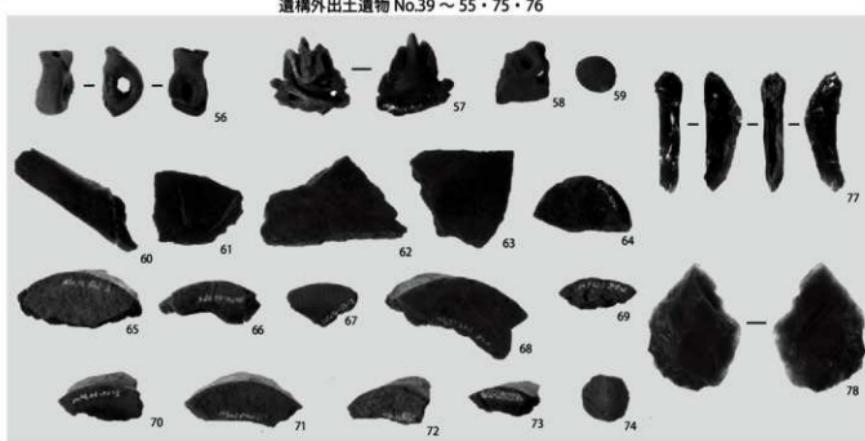
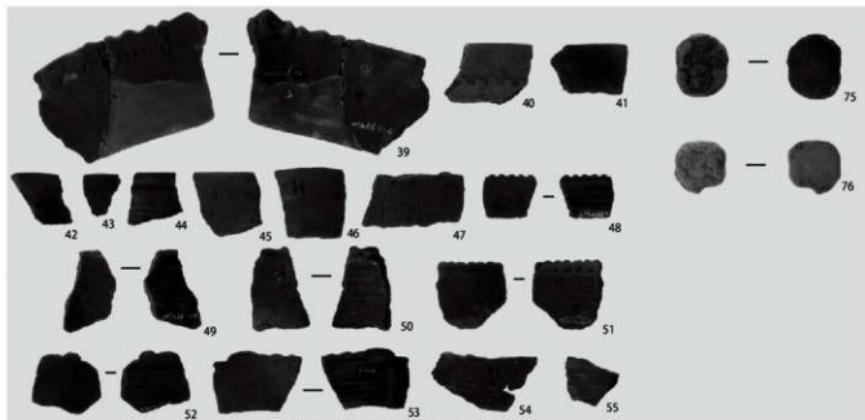


調査風景



J6号住居跡 出土遺物 No.18・19





## 報告書抄録

書名	市内遺跡群 12	シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 13 集							
編集者	高崎直成	著者	笛森健一・高崎直成							
編集機関	ふじみ野市教育委員会	所在地	〒 356-8501 ふじみ野市福岡一丁目 1 番 1 号 TEL 049 (261)2611							
発行日	2014 年(平成 26 年)3 月 31 日									
所取遺跡地点名										
第 20 地点	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因				
		遺跡コード	東經	調査終了	m <sup>2</sup>	調査担当者				
種別 // 主な時代・主な遺構・主な遺物										
特記事項										
第 21 地点	埼玉県ふじみ野市滝 1 丁目 1-8 の一部、1-9 の一部	112453 25-008	35° 52' 44" 139° 31' 35"	20120517 20120524	65	道路築造 高崎直成				
	集落跡 // 奈良時代・住居跡 1 軒・須恵器、土師器、鉄器刀子、砥石 / 時期不明・井戸 2 基、土坑 2 基、ピット 7 基 遺跡範囲では最も西寄りで住居跡を検出した。古代の集落構成を見極める上で貴重である。									
第 22 地点	埼玉県ふじみ野市滝 1 丁目 1-7、1-31 の各一部、1-26	112453 25-008	35° 52' 44" 139° 31' 35"	20120717 20120825	340	共同住宅建設 越村篤・高崎直成				
	集落跡 // 奈良・平安時代・住居跡 3 軒 (1 軒本調査、2 軒確認のみ)、掘立柱建物跡 1 棟、井戸 1 基、土坑 2 基、ピット・須恵器、土師器、羽口、刀子鉄器、鉄釘 / 中世・井戸 1 基、溝 4 条、土坑 18 基、ピット・瓦質鉢、焼締陶器、砥石 奈良時代の堅穴住居跡は 8 × 8 ㍍ の大型住居跡であり、住居からは鍛冶炉も検出している。また、掘立柱建物跡は 3 間 × 5 間 (6 × 9.5 ㍍) の規模があり、本調査地点が古代集落内において重要な場所であったことを示唆する。									
第 23 地点	埼玉県ふじみ野市福岡字丸橋 988-1 ~ 3、989-2 ~ 5、990-3	112453 25-009	35° 52' 41" 139° 31' 53"	20120611 20120725	370	分譲住宅建設 越村篤・高崎直成				
	集落跡 // 繩文時代・前期住居跡 6 軒、焼土 5 基、炉穴 10 基、落とし穴 2 基・繩文前期山Ⅱ式土器、石籠、打製石斧、敲石 / 古代以降・溝 4 条、井戸 1 基、土坑 27 基、ピット 190 基・土師器、近世陶磁器 試掘調査により遺跡の範囲が拡大し、沖積低地の元水田面にまで繩文時代閑山期の集落が広がっていることが確認出来た。また、中世の遺構・遺物が確認されており、長宮遺跡の集落の起源とその広がり・配置があらためて確認された。									
第 24 地点	埼玉県ふじみ野市築地 3 丁目 5-11・14・19	112453 25-010	35° 52' 19" 139° 31' 51"	20120723 20120801	173	分譲住宅建設 高崎直成				
	集落跡 // 繩文時代中期・住居跡 1 軒・ピット 2 基・繩文中期前半土器、中期後半土器、打製石斧、磨り石、スクレーバー / 古代・住居跡 1 軒 (確認のみ)、溝 1 条・須恵器、土師器 / 中世以降・溝 5 条・陶器 本遺跡では初の繩文時代住居跡を検出した。繩文時代中期の集落分布を研究する上で重要な発見となった。また、南北方向の溝跡は、隣接地区でも検出する古代の溝跡であり、奈良・平安時代の住居跡の検出と合わせて、古代集落の配置を知る上で貴重な発見である。									
第 25 地点	埼玉県ふじみ野市苗間字東久保 637-3.34	112453 30-020	35° 52' 19" 139° 31' 51"	20100702 20100723	429	分譲住宅建設 越村篤				
	集落跡 // 繩文時代後期・住居跡 1 軒・土坑 5 基・ピット 98 基・風倒木痕 1 基・繩文後期土器、中期後半土器、磨製石斧、打製石斧、敲石、スクレーバー 遺跡範囲では最も西寄りで住居跡を検出した。繩文時代中期から後期集落の集落構成を見極める上で貴重である。									

---

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第13集

## 埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群12

2014年3月20日印刷

2014年3月25日発行

発 行 ふじみ野市教育委員会

〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡1丁目1番1号

TEL 049-220-2088

FAX 049-266-6271

印 刷 関 東 図 書 株 式 会 社

---

